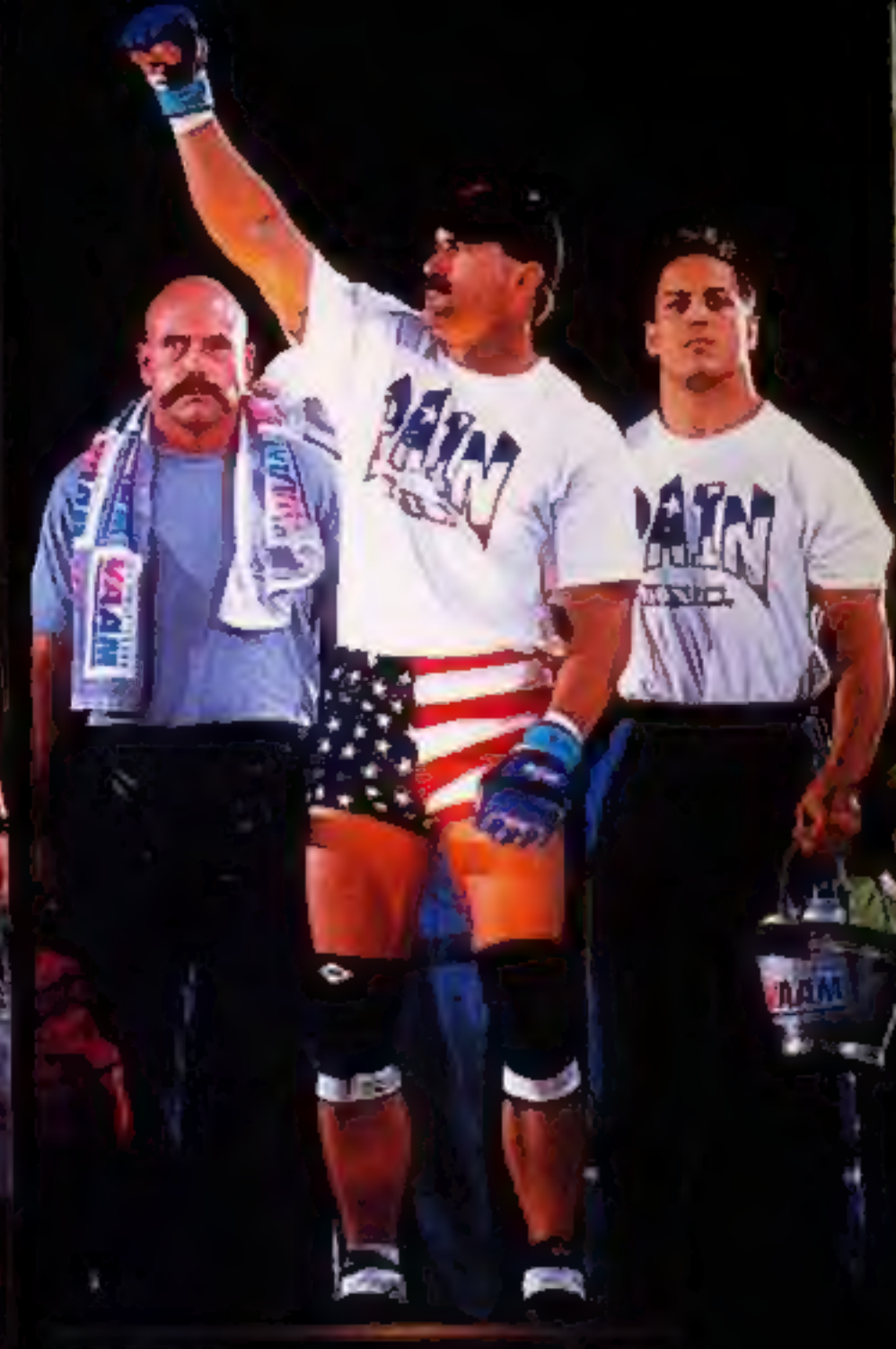
スカパー!のプロレス・格闘技専門チャンネル「FIGHTING TV サムライ」24時間放送中!!
"狼"復活!
プロフェッショナル修斗
6.29大阪・堺市金岡公園体育館
●ON AIR…7/9(火) 19:00〜21:00ほか
ウエルター級チャンピオンシップ宇野 薫 vs 佐藤ルミナ('00.12.17NKホール)
●ON AIR…7/24(水) 5:00〜7:00
※7月「バトステ・アンコール!」で修斗特集。
最新情報&海外公式戦『O REI DO SHOOTO』(オ・ヘイ・ド・シュート)
●ON AIR…毎週(月) 19:00〜20:00ほか
7.28後楽園ホールの昼夜興行を2夜連続中継!
「PANCRASE2002 SPIRIT TOUR DAY& NIGHT」
●ON AIR…8/21(水)22(木) 19:00〜21:00ほか
『船木誠勝スペシャル〜新日本時代からヒクソン戦まで〜』
●ON AIR…7/13(土) 14:00〜16:00ほか
『船木が語るパンクラス・ストーリー!』('93.9.21NK&10.14愛知)
●ON AIR…8/24(土) 14:00〜16:00ほか
極真会館(緑代表)
「第19回オープントーナメント全日本空手道選手権大会」6.29&30大阪府立体育会館
●ON AIR…8/1(木) 19:00〜21:00ほか
夏休みSP「第8回全日本ジュニア空手道選手権」8.4とどろきアリーナ
●ON AIR…8/18・25(日) 13:00〜16:00 ☆永久保存版180分中継!
『バトルステーション』(中継番組)
●ON AIR… 毎週(火〜金) 19:00〜21:00ほか
7/3 WK Network「ORG 3rd」6.16 TOKYO FMホール
7/10 日本キックボクシング連盟 6.29後楽園ホール
7/16 MA日本キックボクシング連盟 6.30後楽園ホール
7/24 WK Network「CONTENDERS 7」7.7横浜・赤レンガ倉庫
8/13 プロフェッショナル修斗 7.27北沢タウンホール
8/20 新日本キックボクシング協会 7.27後楽園ホール
『プライド侍!』
●ON AIR…毎月(日) 19:00〜21:00ほか
『PRIDE王』
●ON AIR…毎週(土) 20:30〜21:00ほか
キックの情報バラエティ『キックの星』
●ON AIR…毎週(木) 22:30〜23:30ほか
出演:大江 慎、片岡未来
この他にも、様々な団体/番組を放送しています。
番組内容は予告なく変更する場合がありますので、予めご了承下さい。
サムライTV FIGHTING TV
月額視聴料 ¥2,500の特別リングサイド
見ればわかるさ!
www.samurai-tv.co.jp
FIGHTING TV サムライは スカパー!(Ch.301)、スカパー!2(Ch.204)でご視聴いただけます。

PRIDE.21
6.23 さいたまスーパーアリーナ
私は声を大にして言いたい！
「これ（高山VSフライ戦）は、プロレス心の大勝利だ」と！
（By ターザン山本）

# 凡戦『プライド21』を救ったのは、当代随一の2人のプロレスラーだった

▲両者がリング中央で睨み合っただけで、「この二人はやってくれる。きっと凄い試合を見せてくれる」そんな空気が会場に流れた

▲高山のセコンドには金原弘光、宮戸優光が。高山も穏やかとも思える表情で入場した

▲フライの入場はとにかくカッコイイ。両腕を突き上げ声援に応えながらゆっくりとリングに向かった

## マット界ニュースステーション

### 「6・23『プライド21』大会を読む」

6月18日、つまり今日の日刊スポーツのバトル面を見たら、新日本プロレスの株主総会で蝶野が取締役になったことが、でかでかと見出しになっていた。

UFOの川村社長も同じく取締役に就任した。べつに変わったことといえば、これぐらいのことか。坂口会長と藤波社長が再任され、倍賞さんが専務から副社長に昇格した。

それより私が注目したのはバトル面の下に全5段の広告である。6・23さいたまスーパーアリーナの「プライド21」の広告が載っていた。

コピーは「いよいよ、日本の決戦だ！！」となっている。これは明らかにW杯を意識したものである。4人の日本人レスラーの顔が、大きくアップで強調されている。

大山峻護、高山善廣、田村潔司、杉浦貴の4人のファイターたち。果たしてこの4人の日本人選手は、どんな結果を残すのだろうか？

このところの「プライド」の流れを見ると、誰かひとり勝てばいいほうである。4戦全敗という予想も成り立つ。

というのは「プライド」の技術的レベルが、どんどん上がっているからだ。それに対する適応能力は、外国人選手のほうが、明らかに日本人選手より上。

それはシュートボクセの選手を見たらすでに歴然としている。ヴァンダレイ・シウバなんかその典型的選手。

ああいった変貌が日本人にはできない。そのポイントは打撃で激しい打ち合いが、できるかどうかにすべてかかっている。

この壁を突破しないことには、日本人選手は「プライド」についていけなくなってしまう。大山、高山、田村、杉浦にその打撃の技術と、それを打ち合い根性、覚悟があるかといえば疑問である。

私はそれを当日、見に行くつもり。なんといってもキーワードは打撃なのだ。

ターザン山本のwebマガジン
「マイナーパワー」より
★6月18日（火）発信

やること、なすことがみんな空回り。滑るは、こけるは、ずれるはでもう最悪状態。こんなだめな『プライド』は見たことがない。少なくとも第7試合まではそうだった。プレスルームでも会う人ごとに「今日はどうなっちゃってるの？」と首を傾げていた。

もちろん、私も不満たらたらでぶうたれていた。友人のひとりは私に向かって「こんな入れ替え戦（？）みたいなカード（試合）見せるなよ」と本気で怒っていた。

全てはW杯が悪い。あれで日本という国の磁場とリズムが全て狂ってしまった。なぜ、そのことにみんな気が付かないのか？

おかしいよ。私なんか早く6月が終わってほしいと、それしか考えていない。周りがW杯一色に染まっていくことで、私の半径5メートルの生活圏が、ずたずたに汚されていった。サッカーにはなんの罪もない。恨むつもりもないが、私にはW杯は台風、津波、雪崩にしか思えなかった。

容赦なく私を呑み込んでしまう巨大な力に見えたからだ。私はといえば大海に浮かぶ一つの小さな木の葉みたいなものだった。

当然、私はアンチW杯になっていく。これが日本で開催されていなかったら話は別なのだ。

6・23『プライド21』の大会も、W杯の強い影響下のもとにあった。ファンの気持ちが『プライド』にいかない。よって会場にいつもの〝熱〟がない。

『プライド』はどんな時でもファンの〝熱〟によって支えられてきた。それが今日、なぜかなかった。DSE（ドリームステージエンタ

# いきなりのノーガード互いに高速15連打!

◀▲開始早々、いきなり壮絶な殴り合いが始まった。左腕でフライの頭を固定してパンチをブチ当てる高山。フライも真っ正面からド突き合いを挑む。なんと、その数は双方15連打。この信じられない光景に会場は大興奮

ーテインメント）は『プライド』を主催し、プロモーションする側として、この点を深く反省する必要がある。

彼らは真の意味で『プライド』のファンを作っていなかった。ほかに興味のあるものがあったらお客はそっちに行ってしまう。

この事実は決定的だ。〝お客〟とはそういうもの。〝ファン〟は違う。つまり『プライド』はまだ〝お客〟しかいなくて〝ファン〟までは、いっていなかったのだ。

つまり歴史の浅さがモロに出たということである。これはいい薬になったと思う。DSEにとってはW杯は〝蒙古襲来〟みたいなものである。さすがにあれだけは防ぎようがなかった。

悪夢である。観客の〝熱〟が乏しかった時、果たしてどういう現象が起きたのか？　そこには観客が無意識のうちに選手に与えるプレッシャーがなかった。

いうなればこれが全てである。もっというなら観客の〝熱〟を誘発するカードを『プライド』は今大会に限って、提供することができなかった。

主催者、カード、観客、熱、プレッシャー、選手、好試合という流れ、運動、連鎖反応が『プライド』の生命線なのだ。それがすなわち『プライド』の生命態というか、ベストな環境なのだ。

『プライド』がディズニーランドやユニバーサルスタジオなどのテーマパークなどや、プロ野球やサッカーなどのスポーツイベントの興行などのエンターテインメントと違うところは、観客が試合をする選手に目に見えないプレッシャ

意地と意地、魂と魂のぶつかり合い。高山はフライと互角に渡り合った

# これがプロレスラーのVTだっ!

ーを与えていることだ。

ディズニーやプロ野球のエンターテインメントは、お客の期待感はあっても、選手にプレッシャーを与えていく構造にはなっていない。その意味で『プライド』は特異な世界と言える。

このことでプロモーションの原則、キーワードがどこにあるのか、DSEもはっきり分かったはずである。私はそれをまず言いたい。

観客に〝熱〟がなかったら選手は〝やる側〟としての論理だけで試合をしてしまう。自分の存在が他者によって評価されるという視点が、残念ながら欠落していく。

観客不在の試合。リングの中の試合が限りなく観客席から遠く離れていき遊離してしまうのだ。

選手が〝熱とプレッシャー〟を感じなかったら、彼らは自分勝手な試合をする。グッドリッジVSアフメッド戦、アイブルVSホーン戦、ヘンゾVS大山戦、シュルトVSヒョードル戦がまさにそう。

彼らがそれを自覚していないところが問題なのだ。熱とプレッシャーがないのだから、誰も文句は言えない。しかしお金を出してチケットを買ったファンは、文句と不満を言う権利はある。

なんといっても一番ひどかったのは大山。彼は何も分かっていない。勘違いの典型。あれで試合に勝ったと思ったら今後『プライド』に上がる資格はない。

大山は格闘技の試合をした。それは「負けないようにして勝つ」という思想である。それが自分のためだと思っているからだ。

ＯＫ！ 『プライド』が格闘技の空間ならそれは〝あり〟だ。で

パンチで押され気味になった高山は、逃げるのではなく、ヒザを打ち込んでいった。何発かはフライのボディに突き刺さったがフライも怯まない

▲高山が強引にフライを投げ放つ

▲四つん這いになったフライの頭部を高山のキックが襲う。しかし、フライが一瞬速く動いたためキックは肩口にヒット

も、違うんだよな。『プライド』の理念は「初めにファンありき」なのだ。しかるのちに自分の存在がある。格闘家にはこの理屈はなかなか理解されない。

その一線を超えるんだよ。大山峻護、君は何も超えなかった。君の勝利は不毛である。『プライド21』の大会は、W杯のテーマに相乗りして「がんばれニッポン！」というコピーが躍っていた。

それは単に〝勝て〟という意味ではないのだ。〝勝つ〟こと以上のものを〝見せろ〟と言っているのだ。『プライド』は純粋な勝負論を大前提にしながら、実は勝ち負け以上の何かを、ファンは求めて会場に足を運んでいる。

その部分で『プライド』は形を変えた新しいプロレスなのだ。広い意味でプロレスというのではなく、明らかにプロレス的世界そのもの。私はそう見ている。

嬉しかったのはここまで私が書いてきたことを、間一髪、第8試合に登場した高山とフライが熟知していたことである。この2人こそまさしくプロレスラーの中のプロレスラーだった。

プロレスラーに最も必要とされるセンス（感性）は、場の雰囲気を読む力である。格闘技の世界にいる人たちには、そういった余計なものは初めから求められていない。高山とフライはプロレスラーの本能として〝場〟を読んだ。

第7試合までのだめさ加減がびしびしと体に伝わっていたはず。その瞬間、自分たちがどんなファイトをしなければいけないのか直感的に理解していた。

私はそれがプロレスラーだと言

高山をテイクダウンしたフライは、そのままマウントポジションを取り、容赦なく鉄槌28発を落としていった。フライの合計パンチ数はなんと150発！

▲コーナーに詰められた高山。高山の顔面はわずか5分ほどの攻防でこんなに腫れ上がっていた

▲顔の腫れがあまりにひどく、ドクターチェックが入る。高山は「大丈夫、やらせてくれ」と一言。男だ！　高山！

▲ついにレフェリーが試合をストップ。死闘に決着がついた

★第8試合・メインイベント（1R10分、2・3R5分）
○ドン・フライ（1R6分10秒、レフェリーストップ）高山善廣●
〈アメリカ/フリー〉　〈日本/フリー〉
※マウントパンチ

っているのだ。その時、2人は試合に勝つという願望を、自然な形で共に捨て去っていた。

自分が勝つことよりも〝場〟を救うことのほうを選んでいたのだ。そうでなかったらあんな無茶なファイトは絶対にできない。

あれはプロレスラーが〝あうんの呼吸〟でやったこと。「オレはプロレスラーなんだー」という自意識がなかったら、ああいうファイトにはなっていない。

友人のひとりが思わず私の横で叫んだ。「なぜ、あのファイト（高山VSフライ戦）を新日本プロレスはやらないんだよ。プロレスラーがしないんだよ……」と。

もっともな意見だ。そこにはプロレスファンとしての悔しさが表現されている。プレスルームは高山VSフライ戦を見て全員、その心にスイッチが入っていた。

最後の最後に着火した。点火した。やっとのところで救われた気分になっていた。吉田豪ちゃんが近付いてきて「久しぶりに山本さんの予想が、どんぴしゃり当たりましたね」と言ってきた。

私はなんのことか分からなかった。あ、そうか、私がwebマガジン（有料、月500円）の「マイナーパワー」で6・23『プライド21』の見所を書いていたのだ。それは6月18日の火曜日にアップされた。表紙はなんと高山。

そこに何が書いてあるかは、P4を見てほしい。豪ちゃんに言われるまで私はもう、自分が書いていたことを忘れていたのだ。

これはよくあることである。それにしても高山とフライは、なんと素敵な男たちだろう。彼らは「実」（ジツ）を取らなかった。

# 「言葉にしたら、この闘いが汚れてしまう」（髙田延彦）

あまりのダメージにしばらく立ち上がれなかった高山。負けた高山にも惜しみない拍手と大声援が送られた

## 島田レフェリーも涙

▲島田レフェリーも思わず涙。「素に戻ったら、涙が出てきちゃって……」。本当に歴史に残る名勝負だと言っていいだろう

# 「最後にふさわしい試合」（ドン・フライ）

フライは試合後、『プライド』撤退、新日本に専念するというニュアンスのコメントをした

◀奥さんとともに会場を去るフライ。ダンディだ

©Essei Hara

「実」（ジツ）を取らなかった。

実とは〝虚実〟といった時の実のことである。試合でいうと実とは勝利という結果のことを言う。

実よりも〝虚〟（キョ）のほうを取った。虚とはフィクションのことをさす。グッドリッジ、ホーン、大山、ヒョードルは実を取った。

アフメッド、アイブル、ヘンゾにシュルトは、実を取ることに失敗した。そうした実は選手の独占物に近いもので、もしそれを共有できるとしたら家族や友人、特別な支援者に限られる。

普通のファンには実はあまり共有できないのだ。その代わり虚（フィクション）だとファンは、選手と一緒になって、それを共有することができる。

ここも大きなポイントの一つでもある。ボコボコになってまたしても敗れ去った高山。ほとんど玉砕に近い敗北である。『プライド』ではこれで3戦全敗。

「がんばれニッポン！」のキャッチフレーズが、勝利という実を強制していることに対して、高山はそれに〝答〟は出せなかった。

だが、彼はそれ以上のものを我々に見せてくれた。そこには実を超えたフィクションがあったからだ。我々からするとそれこそが美しいフィクションに見えた。

これを私は「プロレス心の勝利」と呼びたい。プロレス的な心を持ったものにしかできなかった凄いファイト、凄いスピリット。

やられた。やられました。よくやってくれた。まいりました。ありがとう。高山とフライにはそう言いたい。プロレスは捨てたものじゃないのだ。（ターザン山本）

## 今日の試合は、これまでの試合を終わらせるのにふさわしい試合だったと思う

### フライのコメント

—試合の感想を。

**フライ**　タカヤマは本当にタフな選手だった。これまで闘った中で最もタフな選手だと思う。素晴らしい戦争だった。

—序盤から激しい殴り合いでしたが、そうなることは予想してましたか？

**フライ**　地獄の中から這い上がってくるように向かってくるだろうと思っていたよ。でも、予想していたよりも凄く強くて、しかもスピードも速かった。

—高山選手の攻撃で効いたものは？

**フライ**　何回か星が見えたようなパンチもあったし、おそらく向こうのヒザでアバラに青アザができていると思う。歯も凄く痛いしね。

—最後は、マウント状態からのパンチでレフェリーストップとなりましたが、打撃で決着をつけるつもりでしたか？

**フライ**　ああいう状態になったら、そのままいくしかないと思っていた。レフェリーストップが入った時は本当にホッとしたよ。

—試合前に描いていた展開と比べて、実際はどうでしたか？

**フライ**　どんな試合も予想どおりにはいかないものだからね。タフな選手だと思っていたけど、あれほどタフだとは思っていなかったよ。

—どのくらい高山選手を知ってましたか？

**フライ**　新日本プロレスの東京ドーム大会で会ったのと、『プライド』で2試合したのを見たことがあっただけで、ほとんど知らなかった。

—対戦してみてどうでしたか？

**フライ**　タカヤマはコールマンと同じくらいタフだった。もしかしたらそれ以上かもしれないね。

—今でもコールマンとの対戦を望みますか？

**フライ**　実は、これから試合を続けるかどうか分からないんだ。

—『プライド』からオファーがあっても断るかもしれないと？

**フライ**　国に帰って、妻や子供と相談してそれから決めたい。

—もともと今回の試合を最後にしようと？

**フライ**　その可能性が高いね。

—それは『プライド』だけでなく、全てのファイトからですか？

**フライ**　新日本プロレスに戻るだろうと思う。

—バーリ・トゥードから撤退しようと思った理由は？

**フライ**　もう年だからね（笑）。やはりバーリ・トゥードは、プロレスをやっているより家族と過ごす時間が失われてしまうんだ。

—奥さんから「やめてくれ」と？

**フライ**　そういうことは言ってはいたんだけど、彼女を責めると怒るんでね。妻がとても怖いんだ（笑）。

—バーリ・トゥードからの撤退の前に闘ってみたい相手は？

**フライ**　今となっては分からないし、自分では決断を下せないんだが、ずっとコールマンと闘いたかったということと、ヘビー級チャンピオンのノゲイラ、この2人に興味があるね。

—では、今までのベストバウトは？

**フライ**　今夜だと思うよ。今日の試合は、これまでの試合を終わらせるのにふさわしい試合だったと思う。この試合を期に新しい人生に向けての再出発ができるのではないかと思うね。■

## 今度会う時は、もっとキレイな顔で記者会見したいね（笑）

### 高山のコメント

—試合の率直な感想を。

**高山**　藤田選手とやったあとに近い感覚があるね。でも、あれより悔しい。確かに顔はボコボコなんだけど、あのレスリングの強豪と差し合ってもそんなに負けてなかったしね。控室に戻って、試合をテープで見たんだけど、最大のチャンスもあって、それを生かせてなかったし。いい意味でも悪い意味でもお客さんの「高山コール」が凄い聞こえてきて、乗っちゃったなって感じですね。悔しいという気持ちは過去2戦以上にある。でも、この試合に対する準備期間は少なかったけど、対応というのはだいぶできていたのかなぁという気はする。

—フライ選手が「もう『プライド』のリングには上がらないかもしれない」と言っていましたが、それについては？

**高山**　それは人のことだし、それはそれで彼はもうアルティメットの金網の中でずっとやってきて、実績を残してるし、彼の人生だから。そういう意味では、その前に闘えてよかったなぁと思うね。またプロレスのリングに上がるんだったら、そこで向かい合ってもいいし。藤田選手と一緒に、ドン・フライを本当にドンにして、3人で新日本で暴れ回るのも面白いね（笑）。そうなるかは分からないけど（笑）。

—最大のチャンスというのは？

**高山**　1回目にフライを転がした時、結構ヒザ蹴りが入ってたみたいなんですよね。やってる時は入ってないと思ってたんだけど、テープで見たら入ってて、額が切れてて。そのあとグラッとして、パンチ入れたら、マウスピースがすっ飛んでたんで、あそこで冷静にいけたらなぁっていうのは、控室に戻ってから思ったね。

—やっている時はマウスピースが飛んでることには気が付きませんでした？

**高山**　分からなかったですね。あとからレフェリーが「マウスピース」って言ってたんで、飛んでたんだぁって。

—最初から殴り合おうと？

**高山**　いや、あんまり殴り合わないで、ヒザをちょこちょこっていう風に考えてたんだけど。やっぱり考えることと体とバランスがとれてないから負けちゃうんですね（笑）。不思議と、殴って殴られてってやってると体が乗ってくるんですよ。それに、乗っちゃいましたね。

—相手の打撃をガードするとかは考えませんでした？

**高山**　今回は、体格が僕のほうが上なんで、そういうことを考えるより、押していったほうがいいんじゃないかという気持ちがあったんで。でも、もうちょっと冷静にヒザ蹴りとかのコンビネーションを入れたほうがよかったかなぁというのはあるね。

—殴りながら手応えとかはありました？

**高山**　ありましたよ。自分の指とかが痛かったですからね。それはあったし、ヒザ蹴りも手応えあったし。フライの息づかいが凄い「ハーハー」言ってたし。だから、殴られながらも「よしよし」っていうのはありましたね。

—スタミナはどうでしたか？

**高山**　最後、馬乗りになられてボコボコにやられて、止められてしまって。終わったあと、脳はフラフラしてたんですけど、息は全然上がってなかったんで、コンディションは本当によかったんだなぁって。過去2戦とは比べものにならないぐらい、準備期間があんまりなかったのに、コンディションは最高だったんで、そういう意味でも悔しい気持ちがありますね。

—今日は、テイクダウンにはこだわっていなかった？

**高山**　投げちゃいたいなっていう色気があって。最後はその色気で墓穴を掘ってしまったんだけど。やっぱり、立って殴り合うのもそうだけど、レスリングのうまい選手を倒して、馬乗りになって何かするという動きを、格闘技の経験がないプロレスラーでもできるというのを見せたかったし、それをもうちょっとこれから勉強しなきゃいけないですね。

—これから7月はプロレスのスケジュールがびっしり入っていますが、ダメージ的に大丈夫ですか？

**高山**　目がなんともなければ大丈夫でしょう。もちろんやるつもりで組んでもらってるし、気持ちを新たにいきたいと思います。

—今後『プライド』に関しては？

**高山**　まだまだ。なんか、今日また欲が出ましたね。12月のシュルト戦は絶望感があったんで。でも、絶望感はあったけど、このままじゃ逃げられないっていう気持ちがあって、今日は確かに負けたんだけど、どんどん自分が上がっているような気はしたんで、欲が出てます。今度会う時は、もっとキレイな顔で記者会見したいね（笑）。■

# プロレスとは実に奥が深い そのヒントは高山の試合にあり！

# 杉浦はPRIDEのリングで何を見せるべきだったのか？

試合が終わると同時にヒザをつく杉浦。バンザイをして勝利をアピールしていたダニエルとは対照的だった

# こんなカードを想像できたか？ NOAH VS グレイシー！

ダニエル・グレイシーには、松井大二郎に勝ったホドリゴ・グレイシーと、前の試合で大山峻護に負けたばかりのヘンゾ・グレイシーが付いた。着ている衣は、カーウソンからもらったもの。ダニエルはモデルを生業とするイケメン・グレイシーだ！

遂に、あの三沢光晴率いるノアの所属選手・杉浦貴が『プライド』のリングに上がる。杉浦のセコンドに付いたのはノアの池田大輔、鈴木鼓太郎、そして田村のセコンドにも付いていた高阪剛。杉浦はノアのTシャツを着ていた

今まで、『プライド』に上がってきたプロレスラーは新日本プロレス、そしてUWF系出身の選手ばかりだった。今回、出場した田村はもちろん、高山にしてもノアを主戦場にしているが、出身はUインター。そういった意味では、純然たるノア所属選手の『プライド』登場は初めてとなる。まさに『プライド』にとって、ノアは最後の秘境だったのだ。

今回、ノアから『プライド』に上がったのが杉浦貴だ。デビューしてわずか1年半のキャリアの選手だが、自衛隊時代のアマレスの実績と年齢からいっても、ほかの新人とはやはり何かが違う佇まいをもっている。それを見せてくれたのが、昨年、4・18ZERO－ONE日本武道館大会でのアレクサンダー大塚戦。わずかキャリア4カ月の杉浦は、アレクを相手にアマレスの技術で圧倒してみせ、その勝負度胸を強く観客に印象付けてくれた。

元々、杉浦は全日本プロレスに入門し、ノアでデビューというジャイアント馬場系のレスラーの中にあって、『プライド』などの総合格闘技指向が強かった選手。実は『プライド』への興味はプロレス界に入る前から持っていたのだ。そもそもが、初代タイガーマスクのファンで、猪木ファン、UWFファンだったりもするのだから、ノアの選手だったと言っても『プライド』へ出ようという意志が湧いたとしても、自然のことだったのかもしれない。

ところが、現在のマット界の流れは実に早い。もう、ただプロレスラーが『プライド』に上がれば

いいという時代ではなくなってき

▼1R、パンチの打ち合いで、ダニエルを倒した杉浦は、そこからグラウンド状態でガンガンと打撃を出してダニエルに攻め込んでいく。会場も杉浦の攻勢にヒートアップ

バーリ・トゥード初体験の2人だが、試合開始からガンガンとパンチを出していった

# アレク戦で見せた勝負度胸はここでも発揮！幻に終わったグレイシーKO！

ガードポジションで杉浦の猛攻を凌いだダニエルは、今度は逆にマウントポジションを奪い攻め立て、さらにバックマウントで杉浦の後頭部にパンチを打ち込んでいく

このスリーパーには杉浦も大ピンチ。よくこれを凌いだ

いいという時代ではなくなってきているのが実状だ。昨年は「プライド17」に小原道由、「イノキ・ボンバイエ」には永田裕志が出場。その2人の敗戦は、プロレス界に大きな負のインパクトを残した。ターザン山本氏の言葉を借りれば、引き潮現象だ。プロレス界は、完全に格闘技から手を引いてしまったのである。武藤のみならず、カシンまでもが全日本に移籍。永田や安田もまったくバーリ・トゥードに出る気配はない。猪木軍は今年に入ってから完全に崩壊状態なのだ、寂しいことながら。

格闘技界は格闘技界でプロレスを完全に閉め出す展開になっている。「プライド」VS「K—1」がマット界の中心的話題になっている今となっては、あえてプロレスラーが「プライド」やK—1に出場したりする必要などない。ミルコVSシウバであれだけの観客動員をしてしまうのだから、本当にプロレスラーが出てくるのは難しいという状況なのだ。

このプロレス界にとって非常時とも言うべき状況で、「プライド」初陣となった杉浦。ノアというこれまで、「プライド」とは対極に位置していた団体からの出陣だけあって、注目度も高まるだろうと思われたのだが、キャリア1年半という短さによって、知名度がなく、話題性もイマイチ。杉浦にとっては、より一層、試合でのプロレスラーとしての見せ方が問われることになった。

たしかに試合を見る限り、杉浦は今の段階でも強いし、これからもまだまだ強くなるだろう。相手のダニエル・グレイシーもバー

# これはプロレスラーとしての意地か？ アマレス全日本王者としての意地か？

# 痛快!! グレイシーにスープレックス炸裂!

©Essei Hara

2R、杉浦はダニエルをロープに押し込むと一気にスープレックス！　これが95年アマレス・グレコローマンの全日本王者の実力だ！

リ・トゥード初参戦とはいえ、グレイシー一族。もちろん、柔術の技術も天下一品で、並の相手ではない。初めて対峙する格闘技界の高級ブランド相手に、KOを思わせるようなパンチを打ち込んでからの序盤戦の猛攻、一転してマウントポジションを取られてからのダニエルの攻撃に対するプロレスラーならではのタフさ。並の選手だったら、KOされていてもおかしくはなかっただろう。グレイシーの関節技もよく凌ぎきった。初参戦でグレイシーと判定勝負をやってのけたのだからこれはこれで立派だ。しかし、これで杉浦は凄かったとならないのが、今の「プライド」なのだ。まさか、その後にあんな試合をする男がいるとは……。

高山という男を、この日ほど恐ろしいと思ったことはない。今まで、何人ものプロレスラーが「プライド」に上がってきたが、あれほどまでに強烈にプロレスラーという存在を感じさせた男がいただろうか？　あの試合こそ、プロレスラーが行うバーリ・トゥードの見本だろう。

これはあまりにも強烈すぎた。高山はフライとお互いに顔面をムチャを承知で殴り合うことで、プロレスラーというものを強烈にアピールして見せた。杉浦に足らなかったのは、高山のような意識の持ち方だ。杉浦は今回、いったい何を見せたかったのか？　これが、ダニエルとの闘いを通して、イマイチ伝わってこなかったのだ。

杉浦が最も比較されやすいのは藤田だろう。同じようにゴッツイ体格の持ち主で、恐い顔、そして

何よりもアマレスで実績を残し、

PRIDE.21
6.23 さいたまスーパーアリーナ

# イケメンの技術がノアの怪物を翻弄

# 杉浦、凌ぐので精一杯か？

スープレックスは繰り出したものの、なかなか優位に立てない杉浦。ダニエルはガードポジションをしっかりとって、杉浦に決定打を許さない

©Essei Hara

▶◀ダニエルは腕ひしぎ、三角絞めと杉浦をピンチに追い込むが、杉浦も必死に凌いでいく

長い足と手を掴むという技術で、杉浦を攻めこませないダニエル。やはり、グレイシーの名前は伊達じゃない

何よりもアマレスで実績を残し、オリンピックを目指していたというのも同じだ。藤田が「プライド」に上がった時は、〝猪木イズム最後の継承者〟というキャッチフレーズで上がった。藤田は猪木イズムを「プライド」で見せることを、テーマとしてリングに上がり続けたのだ。

では杉浦が「プライド」で見せたかったのはなんなのか？　自分の所属団体であるノアの強さを見せようとしたのか？　それとも、自分がオリンピックまで目指したアマレスの強さを見せようとしたのか？　または、杉浦自身も直接触れたことがない馬場イズムなのか？　何を見せたいのかがハッキリとファンに伝わるようになれば、杉浦はもっともっとプロレスラーとして大きな存在になるだろう。

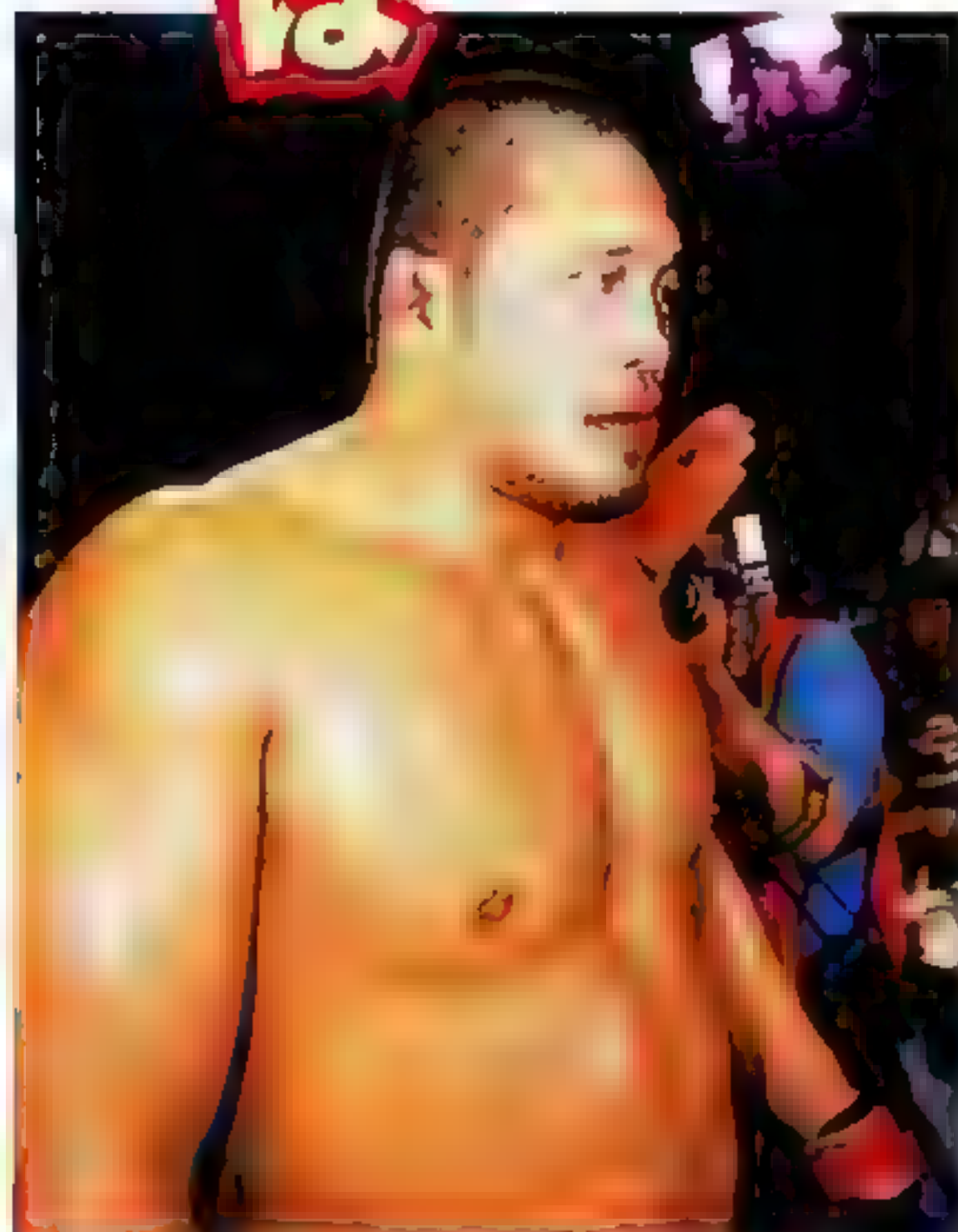
高山は、杉浦にとって最も身近にいる先輩レスラーだ。杉浦が「プライド」参戦に本気になって取り組もうとしたのも、高山と藤田の闘いを見たのがきっかけとなっているのだ。その闘いからおよそ1年で、高山はプロレスラーとしてさらにグレードアップした。そのうえ、今回緊急出陣で見せたのがあの壮絶な試合である。これは杉浦にとって、いいお手本になるだろう。高山の試合にはプロレスラーが何を見せるべきということのヒントが必ずあるはずだ。

杉浦は、今回の試合を見ても、これからドンドン良くなっていく選手だ。あの物怖じしない性格と、勝負度胸は一級品だし、インタビューなどでよく公言している目立ちたがり屋の性格も、『プライド』向きの性格と言えるだろう。杉浦

# 杉浦よ、PRIDE登場は本当にこれが最後か？

3Rもダニエルのグラウンド引き込み作戦に苦戦した杉浦は結局判定負け。1人のジャッジは杉浦にポイントをつけたが、試合後ヘンゾは自分が負けたこともあって、この判定にも不満を漏らしていた

▼初めてのバーリ・トゥードは黒星となってしまった杉浦だが、まだまだ「プライド」で大きくなる可能性を感じさせた闘いだった

★第6試合（1R10分、2・3R5分）
○ダニエル・グレイシー（3R判定2−1）杉浦貴●
〈ブラジル/ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉　〈日本/プロレスリングNOAH〉

勝利したダニエルはなぜか猪木と抱擁。これも意外な組み合わせだ

## ダニエルのコメント

「杉浦選手は最初から強いと思っていました。ただ、今日は自分のほうが良かったので勝てました。自分は今回が初めてのバーリ・トゥードで、相手も初めてだったみたいなので、お互い経験不足のところがあったと思います。でも、2人ともKOを狙って前にドンドン出たのが良かったです。ナーバスになって、自分の柔術を完全に見せることができませんでした。次はヘンゾともっと練習をして出たいと思います。私は、「プライド」にデビューする機会を待っていました。今日の勝利をヘンゾと、そして彼と同じ名前の私の息子・ヘンゾに捧げたいです。（顔が傷つくとモデル業に支障をきたすのでは？）今回は特に傷も付いていないから問題ないと思います。何かあったら、ブラジルの整形外科に通います（笑）」

## 杉浦貴のコメント

「悔しいですね。思いのほか息が上がってしまいました。パンチはなかなか当たらないなと思っていましたけど当たってビックリしましたね（笑）。タックルをがぶって、ヒザを入れたかったんですけど、思うようにできませんでしたね。（足を冷やしていますが）ケガは練習中に。骨にちょっと。（相手の印象は？）焦りは見えたんですけど、ちょっともつれてマウントを取られてしまって。パンチは食らいましたけど、平気でした。（緊張しました？）入場の時は緊張しましたけど、向き合った時は緊張してないつもりだったんですけど。（今後は？）会社のほうもあることだし、出られるかどうかは分からないですけど、このままじゃ終われないという気持ちがあります。もっと弱いヤツをお願いします（笑）」

は、「プライド」に上がれば上がるほど、良くなっていく。それにつれて、プロレスラーとしてのグレードもドンドン上がっていくタイプだろう。

　そうなってくると、やはり試合で何かを見せるというのは重要だ。特に、現在の「プライド」は技術的にもハードルが高くなっている。「プライド21」にはリングスで無敵を誇ったヒョードルが上がり、期待どおりシュルトを完封してみせた。こういうヒョードルのような怪物が続々と上がってくるリングには、これを迎え撃ち、生き様をファンに伝えられる日本人選手が必要だ。杉浦はその可能性を大いに秘めている。

　高山と杉浦は、ノアの真性ノーフィアーと言っていい怪物コンビだ。肉体的にもそうだが、精神的にも杉浦は怪物とならなければならない。プロレスファンというものは、常に常軌を逸した存在を求めている。高山は、それを今回の試合ではストレートに答えてみせた。杉浦が何を見せたいのかは分からないが、会社の事情もあって、今回1回限りとなってしまう可能性もある。ただ、本人がこのままでは終われないと言っている以上は引き下がらないだろう。ここは三沢社長のご英断を待ちたい。

　高山の試合を見ていると、つくづくプロレスラーとは因果な商売だと思う。杉浦も一歩でもこの道に足を踏み入れたら、もう一生抜け出せないと思って、精進してほしい。高山が見せた闘いは、プロレスが本当に底なし沼だと、改めて思い知らされるほど、強烈だった。（小松）

勝ったヒョードルの背中にはコピィロフの持つ国旗がはためく。ロシアの強さの象徴だ

マウントを奪ったヒョードルは鬼の形相でシュルトに襲いかかる!

# ついにこの瞬間が訪れた！ 『プライド』のリングにロシア勢見参!!

国歌が流れる中コピィロフらとともに入場してきたヒョードル。いよいよ「プライド」のリングにロシア勢が上がる

旗持ち役のコピィロフはこのとおり、かなりご機嫌。次は選手として試合に出てほしいものだ

ここで負けたらノゲイラへの挑戦権を逃してしまう。シュルトの気合いも高かった

## もちろんシュルトも気合い十分！ 身長差は30センチ！

▼毎回思うがシュルトはデカい。デカ過ぎる。ヒョードルはこんな巨人に勝てるのか？

◀シュルトの顔が痛みでゆがむ。こんな苦しそうな顔を見せるのは「プライド」では初めて

凄ェ強いぞ、ヒョードル！

あのシュルトにほとんど何もさせずに勝ってしまったのだからやはりバケモノだ。

とはいえ、正直なところ試合前は本当に不安だった。ヒョードルならシュルトに勝てるとは思っていながらも、この時点で既にラバザノフが負けており、一抹の不安はぬぐい去れない。

それに加えて、ヒョードルは結構打撃好き。調子に乗って打撃勝負を仕掛けたら、相当危ないと思っていたわけだ。

そんな中、ロシア国歌が流れだし、アンドレイ・コピィロフがロシア国旗をバサバサ振って、まるでロシアそのものを代表するかのようにヒョードルは入場してきた。

どうやら落ち着いているようだ。胸の内にはリングス・ロシアやらなにやらいろんな思いが交錯しつつ、かなり心が高鳴っていく。頼むからやってくれ、ロシア勢！

だが、リング上で向き合った2人を見たら、やはり一抹の不安がぶり返す。なにしろ、あの身長差。やっぱりデカい……。

不安と期待が入り交じる中、第1Rのゴングが鳴った。すると、ヒョードルはいきなり胴タックルを仕掛け、シュルトをあっさりテイクダウン。しかも、倒した時点でもうサイドポジションを奪っているのだ。

え！　もしかして秒殺！

そんなことすら思ったほど、動きがいいヒョードル。その後、上四方に一瞬なったかと思うともう一度サイドに戻り、この時ハーフガードの態勢にされてしまうが、数分後にはマウントを奪取だ！

ここから腕十字を狙うが、足の

# 圧倒的な強さだ！ 驚愕！ あのシュルトの顔が歪みっぱなしに!!

◀シュルトの顔が痛みでゆがむ。こんな苦しそうな顔を見せるのは「プライド」では初めて

シュルトはほとんど何もさせてもらえなかった。常に上に乗られ、ボブチャンチンばりのマウントパンチを何度も浴びる

ここから腕十字を狙うが、足のフックが不完全なまま（わりとこれをよくやると思うのだが……）倒れ込んだため返される。しかし、身体を回転させて気がつけばやっぱりサイドポジションを奪っているヒョードル。凄すぎる！

この後、再び、マウントを取ったヒョードルは顔面パンチを落とし始めるのだが、その音がこれまたハンパじゃない。まるでボブチャンチンばりにガツンガツンと響くから相当凶悪なパンチだろう。

ともかく、好きなようにポジションを取りまくり、痛そうなパンチを振るうヒョードルに場内は驚嘆の声をあげるのみ。その圧倒的な強さには、ブラジル人の応援に来ていた様子の外人女性たちまでが、なぜか立ち上がって熱い声援を送りだすほど。

そして第2R。ヒョードルは第1Rと同様、胴タックルからリフトしてシュルトを倒し、マウントパンチを振り下ろす。

だが、ここでシュルトも石の拳ぶりを発揮した。下からコツコツ殴っているだけなのにヒョードルは左まぶたをカットされてしまったのだ。

しかし、常に上を制し続けたヒョードルの強さは別格。第3Rでも完璧にシュルトを抑えきって文句なしの判定勝ちをもぎ取ったのであった。

試合後、ヒョードルはマイクを掴み、「私にノゲイラと闘うチャンスを与えてください。彼のベルトを奪いたいと思います」とアピール。いよいよ頂上決戦が目の前に見えてきたわけだ。

だがだ。ノゲイラは、マーク・

# ロシアの強さは底なしか!?

◀シュルトはヒョードルを蹴り放し、なんとかスタンドの展開に持っていこうとしていたのだが

3R20分の間、シュルトが攻めた場面はほとんどなかった。ヒョードルは好きなようにポジションを奪い、技を仕掛けていった

▶第3R、シュルトのガードの固さにじれたヒョードルは満身の力で首を極めにいく

袈裟固めて絞りあげるヒョードル

▼胴タックルも的確。こんな形でシュルトは何度も投げられていた

途中、シュルトの下からのパンチで出血。それでもヒョードルの攻撃はやまない

コールマンを筆頭に芸術的に素晴らしい関節技で次々と一本を奪ってきた男。ヒョードルのこの日の闘いぶりを見る限り、課題となる点はいくつかあると思う。っていうか、ヒョードルはまだまだこのルールには慣れていないらしいのだ。

例えば、第2Rと第3R、マウントを奪った時点で、ヒョードルの動きが止まったように見えたのは、いつブレークをかけられるかが気でなかったかららしい。つまり、早めにブレークがかかるKOKルールの感覚で闘っていた模様なのだ。パスガードを狙いにいかなかったのはそのため。

それに「プライド」には顔面パンチだけでなく、4ポイントのヒザもある。このヒザの攻撃などは1Rと2Rは完全に忘れていたとしか思えない場面が多々あった。サイドを取ってる時にヒザを入れていけば、かなり展開が楽になると思われる場面で極めることだけに集中し、ヒザ蹴りを使い始めたのは3Rに入ってからだったのだ。

実際、試合後の会見では「ノゲイラとやるにはもう少し時間がほしい」と言っていたヒョードル。自分でも課題点は自覚している。

だが、KOKトーナメントでもたった半年習っただけのボクシング技術で他を圧倒したほど天才的な彼だ。このルールに慣れてしまえば、その怪物性は大爆発するだろう。そして、そのあかつきにはヴォルク・ハンゆずりのコマンド・サンボの妙技も堪能できるのではないかと思うのだ。

そう。やはりヒョードルの闘いで見たいのはこの技術だろう。そ

# 問題もあり！コマンド・サンボを見せないでどうする！

問題点もあった。関節技が素人目にもずさんに感じられたのだ。最初に仕掛けた腕十字などはあまりにもバカ正直に入っていた上、足のフックも甘く、シュルトに返されるのは当然だと思われた

第2R、第3Rでヒョードルの動きが止まったのはブレークが気になったのともう一つ、シュルトが執拗にまぶたのキズ口を攻めたてたから。シュルトは勝つための努力を最大限に行っていた

## キラー・シュルトの片鱗は見えた！

◀シュルトがスタンドで攻撃できたのはこの前蹴りぐらいだったのが残念。勝ちに徹してヒョードルはシュルトの持ち味を完璧に殺した

もそもコマンド・サンボとは戦場で武器を持った相手を素手で倒す殺人術。これをバーリ・トゥード用に改良し、レスリング技術やボクシング技術を加えたのがヴォルク・ハン格闘術と言われるものなのだ。ヒョードルはそのヴォルク・ハン格闘術の最強にして最高の弟子。

つまり、ノゲイラVSヒョードルの試合ではブラジリアン柔術VSコマンド・サンボの華麗かつこれまで見たこともないような関節技の応酬。ファンとしたら、サンボ独特の足関節がノゲイラに通用するのかというはやはり見てみたいだろう。

今回、ヒョードルのセコンドについていたコピィロフは1999年12月、KOKトーナメントに出場、当時現役柔術世界王者のカステロ・ブランコを相手にヒザ十字を仕掛け、わずか16秒でタップを奪っている。これでブランコのヒザは破壊され、長期休養に追い込むという凄味ある闘いを見せつけた。当時、35歳という決して若くない彼が見せた、サンボ幻想の再現をヒョードルには望みたいのである。

サンボ幻想、そのサンボをさらに殺人術として高めたコマンド・サンボ幻想をリング上で見せることこそがヒョードルの使命。

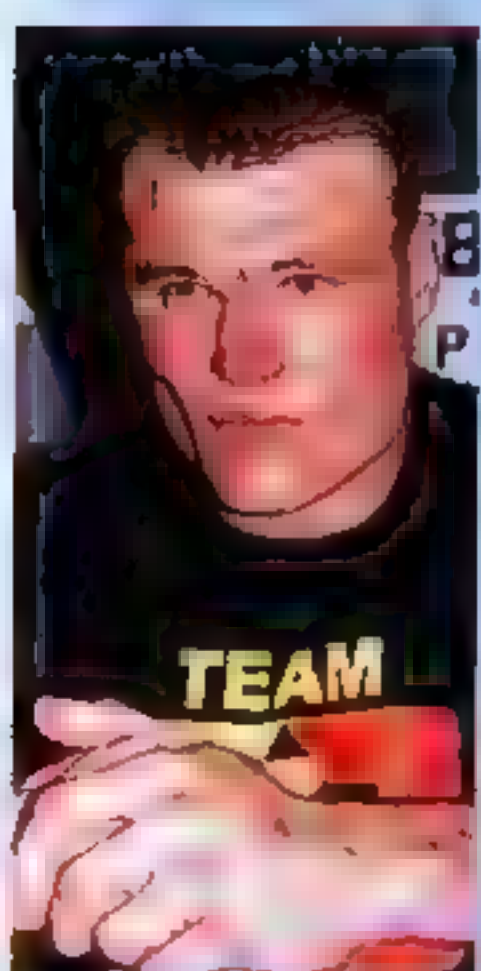
初のバーリ・トゥードでありながら、シュルトを圧倒的に封じ込めたヒョードルならば、この幻想を体現してほしいと心底望みたいのである。

いや、確かに無茶なことを言ってるのは分かる。だが、ファンが期待する、魂と技術が詰まった闘

# 『ノゲイラのベルトを奪いたいと思います！』

試合後、マイクを握ったヒョードルは「ノゲイラと闘わせてください」とアピールした。この試合が決まれば「プライド」頂上決戦の名にふさわしい闘いが展開されるだろう

## ヒョードルのコメント

「今日は目の上が切れてしまい、やろうと思っていた技が出せませんでした。また、シュルト選手はこれまで全てKOで勝っているので、リスクを犯すのも控えました。とてもやりにくい相手でした。また、ノゲイラとはやってみたいです。ただ、今日の試合で自分はまだこのルールに慣れていないことも分かりました。もっと慣れてからのほうが良いかもしれません」

## シュルトのコメント

「打撃では躊躇しすぎて、寝技では相手が強すぎた。返すことができなかったのが残念です。（リングス王者とパンクラス王者の対決については）いや、それは違うよ。これは『プライド』の試合であって、リングスもパンクラスも関係ない。それにチャンピオンもいつかは負ける時が来ます。今回は負けてしまいましたが、次からはこんなことはないと思います」

▲猪木さんとも握手。考えてみれば猪木さんもロシアのサルマン・ハシミコフには苦しめられた

◀判定はもちろんヒョードルの勝ち。うなだれるシュルトには次に期待だ

★第7試合（1R10分、2・3R5分）

**○エメリヤーエンコ・ヒョードル（3R判定3—0）セーム・シュルト●**

〈ロシア/ロシアン・トップチーム〉　〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉

いはファイターのレベルが高ければ可能になると思えてならない。例えば、この日のメインで見せたドン・フライと高山善廣の闘いは技術と魂がともに兼ね備わっていた試合だったからだ。

まず、この試合が決まった時点で、『プライド』を見慣れたファンなら、2人がかなりの殴り合いをすることは容易に想像がついただろう。だが、彼らはその想像を超えた殴り合いをリング上に出現させた。

その上、フライは肩で高山のパンチをキチンとガードしており、技術的に見ても完成度の高い試合を展開していたのだ。

打撃戦における最高の完成度と言えるのがこの試合であったのならば、ノゲイラとヒョードルの試合はグラウンド戦で最高の完成度を見せつけてくれるものになってほしいと願うのである。

ただ勝つだけではない、自分自身のバックボーンを、生きてきた軌跡を見せつける闘いを、この『プライド』のリングではしてほしい。

少なくともノゲイラはこれまでそういう闘いを見せてきた。コールマンから一本を取る華麗なファイトを展開することもあれば、ヒース・ヒーリング戦ではドロドロの熱闘もこなしているからだ。だからこそ彼はグレート・チャンプなのだ。

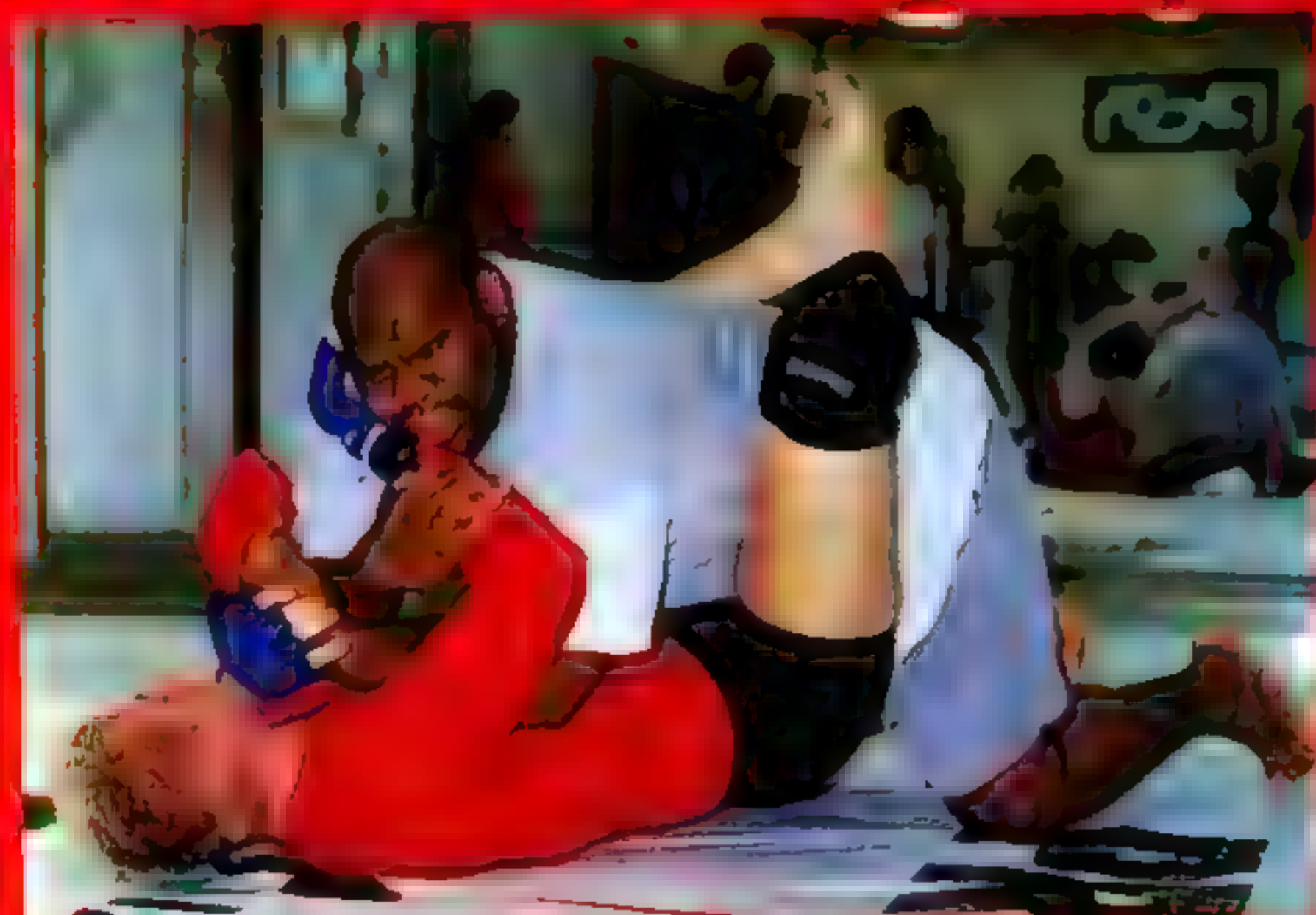
ヒョードルはそんな男の牙城に迫り、それに取って変わろうという世界でただ一人の逸材。より高いハードルを超えるべく、ヴォルク・ハン格闘術=コマンド・サンボの枠を磨いてほしい。（ブチ）

「体重差倍以上」ということで話題となった第1試合の田村VSサップ戦。しかし、結果は田村の完敗だった

ⒸEssei Hara

# 『プライド』嫌いの田村が、『プライド』を救うために再び……

▲他に類なきキャラクターで今年一番の新人となったボブ・サップ。その実力はいまだ計り知れない

## なんとUFC王者がニー・オン・ザ・ベリーで動けない！サップの怪物ぶり恐るべし！

▲サップは連日[illegible]モーリス・スミス[illegible]マット[illegible]ヒューム、ジョシ[illegible]米国一流のファイターとスパーリングをしているが、なんとUFC王者の[illegible]がサ[illegible]ニー・オン・ザ・ベリー[illegible]をやられるだけで全然動けなくな[illegible]ていた。この男、本当に[illegible]チャクチャ強いのでは？

▲「プライド19」のヴァンダレイ・シウバ戦以来、再び田村が「プライド」に帰ってきた。対戦相手は体重差80キロ以上のボブ・サップだ

プロレスラーとは、つくづく強さを求めるだけでなく、人とは違った見せ方を追求していく人種である。それが、プロレスラーにとってのプロの証だ。

それを見事に体現したのが、メインの高山VSフライ戦。この一戦は勝負論や技術論を無視しながら、観客にとてつもなく凄いものを見せつけた。この命を削った試合は、ある意味、グレイシー柔術が提示したバーリ・トゥードの芸術的な技術論を唯一超えられる闘いと言えるだろう。

高山とフライというプロレスラーは、そうやって人とは違う闘いを見せることで、観客を熱くしようと勝負に出た。おそらく、リングサイドで見ていたファイターの多くは、こんな闘いが「プライド」のリングでは求められているのかと、意識改革を迫られただろう。高山とフライの殴り合いにア然とし、脳天に雷が落ちたに違いない。

しかし、だからと言って、他のファイターが高山VSフライのような試合をすればいいってもんじゃない。やはり、真のプロファイターだったら、人とは違った見せ方を考えるものである。それを今回、意識的にやった、もう一人のプロレスラーが、田村潔司だった。

田村の場合、どういうやり方で人とは違った見せ方をしようかと考えたかというと、ボブ・サップという体重倍以上の怪物を対戦相手に選んだことだ。

ただでさえ、最近は総合格闘技のジャンルにおいても体重差のハンデが取りざたされている。田村もまた、「体重差のある人間とはやりたくない」と言っていたクチだ。



では、なぜ田村がよりによって

▼ボブ・サップの強さは、まさにアメフト流の攻撃法にある。まるでアメフトの試合でランニング・バックというボールを持って走る人を追い詰めるようにサップは突進。田村がローを蹴ろうとも、パンチを打とうとも、おかまいなしで間合いを詰めていくのだ。この追い込み方はアメフトの選手だったら得意とするところ。だから、サップにはフットワークは使えないのである。特に❻の田村の首に手を当てているところに注目！ これだけでサップは田村を逃がさない。この方法も、アメフトっぽいところだ

# この怪物にフットワークは通用しない！ボブ・サップの戦法はまさにアメフトだ！

では、なぜ田村がよりによって倍以上の体重差のある相手を選んだのか。それを一言で言えば、それが田村流の人とは違った見せ方だとしか言いようがない。

田村はサップ戦を受けた理由について「人のせい」という。田村にとっては「なぜそんなマッチメイクを受けたのか？」と言うんなら、「なぜそんなマッチメイクがオファーされたのか？ そこを考えてほしい」と言うわけだ。

そのことをＤＳＥ側に確認してみると、当初田村にはホドリゴ・グレイシーやニーノ・エルビス・シェンブリのようなテクニシャンタイプの相手をオファーしたそうだ。これはつまり、田村がこれまでＵインターやリングスで見せてきた寝技で回転体のような攻防を期待してのものだった。しかし、これらのオファーは、全て田村にピンとこなかった。「それならば……」と次にＤＳＥがオファーしたのが、サップだったのである。

普通に考えると、田村が体重差倍以上のサップ戦を受けるはずがない。しかし、ＤＳＥは田村の〝偏屈さ〟に賭けてみた。田村以外の普通の選手だったらサップ戦は一笑に付されるかもしれないが、偏屈な田村なら逆に受けるんじゃないか、と。そういう発想のもとでオファーしたのである。

これは見事に田村のツボを突いた。今回の「プライド」は正直、ウルトラＣ級のカードはなかなか出てこなかった。ましで今はＷ杯真っ最中。しかも田村は前回、旬のシウバに完敗を喫している。だったら、ホドリゴやニーノのような当たり前のカードよりも、田村

# 田村が死ぬっ！ マジで危ない！

▲さらにサップは倒れている田村の顔面に体重の乗ったパンチを３発ほど叩き込んだ。危ない！　すかさず島田レフェリーがストップ！

▲左手で田村の首を押さえながら固定しておいて、サップの強烈な右フックが炸裂！　これで田村はフッ飛んだ！

にとっては、びっくりするような相手のほうがいいに決まっている。田村が「人のせい」と言うのなら、ＤＳＥはそんな田村のプロレス心をくすぐったのだ。

田村の感性では、等身大のカードで勝ったり負けたりしたとしても意味がないと考えている。だからこそ、シウバであり、サップを選ぶ。それが田村流の人と違った見せ方なのだ。

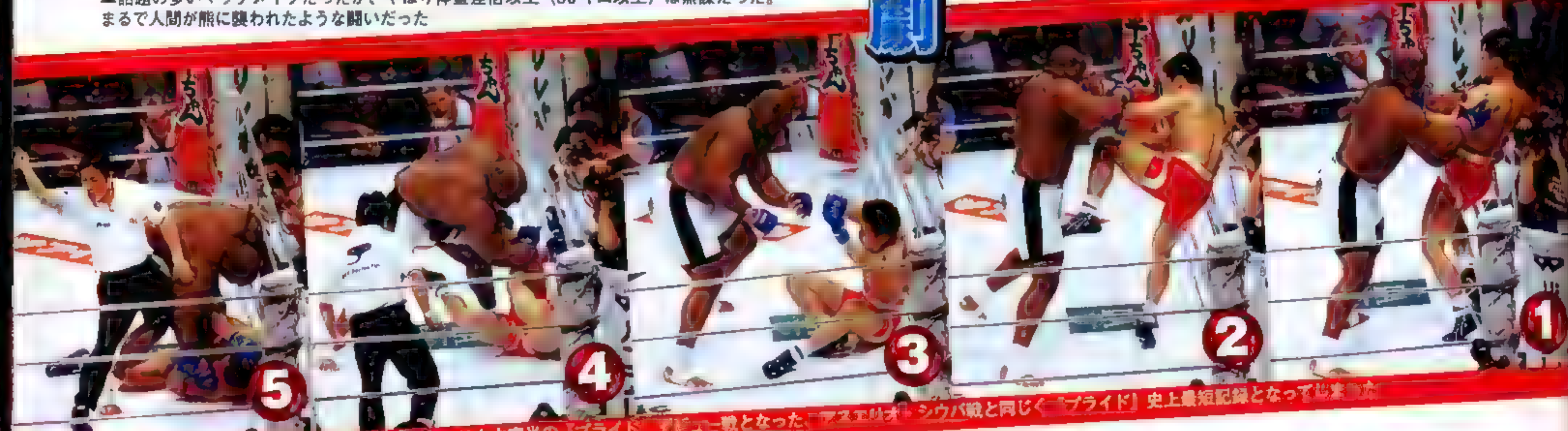
田村がサップ戦をなぜ受けたか？　あるいはＤＳＥはなぜ田村にサップ戦をオファーしたのか？を追及するとこういう結論に達する。田村VSサップ戦は、組まれた時点で幻想が湧く。つまり、この一戦はカードが決まった時点で、「人とは違った見せ方」という点において〝完結〟しているのである。

真っ向殴り合いをしてプロレス心を見せたのが高山ならば、偏屈が売りものの田村はマッチメイクでプロレス心を存分にアピールした。そういう意味での第１試合だったのではないだろうか。

たしかに、『プライド21』のカードが並んだ時点で、引きの強さはメインの高山VSフライ戦以上に田村VSサップ戦のほうが上だった。しかし、田村のプロレス心がマッチメイクが決まった時点で完結していたとしたら、試合内容で何かを見せられるはずがない。

田村はサップ戦を迎えるにあたって〝秘策〟を用意しているという情報も入った。しかし、私はそこまでのものはないと思った。もしあったとしたら、田村は恐ろしい男である。もちろん、負けるつもりでリングに上がっているわけではないので、いくつかの作戦は

©Essei Hara

▲話題の多いマッチメイクだったが、やはり体重差倍以上（80キロ以上）は無謀だった。まるで人間が熊に襲われたような闘いだった

▲[illegible]KOシーン。これは山本憲尚の『プライド』[illegible]戦となった、[illegible]シウバ戦と同じく『プライド』史上最短記録となって[illegible]

あっただろう。

けれども、田村のプロレス心はサップに勝ちにいくことよりも、サップと試合をすることに意識の比重が傾いていたのだ。サップに本気で勝ちにいこうとしたら、おそらくサップ戦なんて受けていなかっただろう。

プロレスラーは、等身大での勝負論や技術論を嫌がり、幻想を売り物にしようとする。しかし、そういう人種がいることが「プライド」を単なる競技にしていないところなのだ。

それにしても、サップの怪物ぶりには田村も想像以上に驚いただろう。田村の「さて、どうしたものか」というモードを、一気にふっ飛ばしたパワー。それほどの規格外がサップだった。

もしかしたら、サップは田村に苦戦するかもしれない。いくら怪物的な身体能力を持っているとはいえ、格闘技に関してはまだまだ経験不足のド素人。どれほどの穴があるのか、まだ誰も実体を掴めていない。

そのため、田村ほどの格闘センスがあれば、フットワークで翻弄したり、グラウンドでもたついて足関節などを極められるかもしれない。そんな淡い期待がなかったと言えば嘘になる。山本憲尚や中迫剛戦では、サップの実力測定が見えていなかったからだ。

しかし、そんな期待をモロくも崩したのが、前日の公開スパーリングだった。なんとサップはUFC王者のジョシュ・バーネットをニー・オン・ザ・ベリーで固定するだけで、まったく動けなくさせてしまっていたのである。

# 田村とボブ・サップ――この2人も「勝負論」以上に「幻想」を売る男たちだ

## サップのコメント

「凄く早かったんだけど、いい試合だと思ったね。ルールがちょっと変わって、向こうは早いペースで向かってくると思ったけど、それが予想どおりになった。ローキックのダメージは全然なかったけど、クールな気持ちからスイッチが入って、戦闘態勢に入ったよ。オレのレベル？　もちろん『プライド』をやってる限りは誰でも世界チャンピオンになりたいと思っているんで、モーリスが「1年以内にノゲイラのレベルに達する」と言うんだったら、オレもそうなりたいし、ならなければいけないと思う。まあ、対戦相手にはこだわらないよ。常に安定した試合をすることに集中して、マスター、巨匠と言われるようになりたい」

## 田村のコメント

「う～ん、まぁ選手としては（レフェリーストップは）納得してないけど、レフェリーは選手のことを思ってのストップだと思うんで。意識は全然、大丈夫です。だから、終わった瞬間は「なんでやろうかな？」ってのはあったんですけどね。攻略は、まず一発、ローかミドルにしようか、それともタックルにしようか悩んだんですけど、開き直って言えば体重差がどうにもなんなかったです。言い訳じゃないんですけど。前回は完全燃焼したんですけど、今回は不思議な……まだやれるような、一瞬悔しい思いもしたし、ファンには凄い申し訳ないです。まあ、オファーがあった時点で悩んだんですけど、やると決まった以上、開き直ってやりましたね、今回は」

★第1試合（1R10分、2・3R5分）
○ボブ・サップ（1R0分11秒、TKO勝ち）田村潔司●
〈アメリカ/モーリス・スミス・キックボクシング・センター〉　〈日本/U-FILE CAMP〉
※セコンドのタオル投入

▲次はどんなマッチメイクが組まれるのか？　個性があるだけに、相手次第で田村もサップもどんどん話題となり、輝きを増すだろう

こいつは想像以上のレベルに、もはや達しているんではないだろうか？　ＵＦＣのヘビー級王者が体力だけで封じられてしまうんだから、半分以下の体重の田村が勝てるわけがない。それどころか、田村が本当に壊されてしまうんじゃないかという恐怖すら覚えた。

普通あれだけの大男となると、どうしてもフットワークに欠けたりする。しかし、サップの追い込みは意外と速い。これはどういうことかというと、サップはアメフトのタックルをやっていたこともあり、リングぐらいの広さならいくらでも相手の動きについていけるほどのフットワークを持っているということなのだ。山本、中迫、田村に突進していったのは、まさにアメフトの動きそのもの。極論すれば、サップはアメフトの動きにパンチを足して闘っている、と言っても過言ではないのだ。

試合前、サップは「タムラ～！　お前が聞くのはこの3つの音だ！　〝ボキッ、バキッ、ベキッ〟」と宣言していたが、田村にしてみれば、熊に襲われたような闘いになってしまった。

考えてみれば、サップもまた誰と組まれても、引きの強いカードとなり、幻想が湧く選手である。〝次は誰と闘うか？〟が楽しみなファイターになってきた。

一方、シウバ、サップと闘ってきて、田村の次も非常に難しくなりつつある。サップ戦がイメージダウンになっているという意味ではない。シウバ、サップ戦以上のプロレス心を田村がどう働かせるのか？　次も、そこが注目されるからである。（谷川）

『プライド21』に出場した日本人選手の中でも注目を浴びたのが、ノアの所属選手として初めて『プライド』に上がった杉浦貴と、コールマンの欠場に伴って急遽ドン・フライと対戦した高山善廣。ここでは、その2人が出場を表明した記者会見の模様をお伝えする。

# 何を語っていたのか？

# 杉浦

**森下** なんかお久しぶりだなっていう感じがしますが、本日は本当にお忙しい中、お集まりいただきまして、まだこんな状態かという感じですね。本当に発表が遅くなりまして、ご迷惑をおかけしてますが、本日「プライド21」追加カードを発表させていただきます。まず今日は、プロレスリング・ノアの三沢社長に多大なご協力をいただきまして、今日ここにいらっしゃいます、杉浦貴選手に「プライド」に参戦していただくことになりました。三沢社長には大変に感謝していることを申しあげたいと思います。あと、ノアのスタッフの方、「プライド」に出場しようと最終的に決断してくださいました杉浦選手にも感謝を述べさせていただきたいと思います。まあ、ノアサイドのスタッフの方々にもご協力をいただきまして、交渉は大変スムーズに進みました。今日の正式な発表に至ったことに大変感謝をしているんですけれども、私どもの気持ちとしては、かなり前から「プライド」に参戦していただきたいなと思っていた貴重な日本人ファイターの1人として注目しておりまして、今回、こういう形で参戦に至ったということであります。杉浦選手のプロフィールに関しては皆さんもご存知かと思いますが、「プライド」でどういう闘いができるかは未知ではありますが、かなり私自身は期待している部分がありまして、素晴らしい試合をしていただけるという確信をもっております。

**杉浦** ええ、プロレスリング・ノアの杉浦と申します。「プライド」のリングは前々から興味がありまして、今この場におります。この場を借りまして、ドリームステージエンターテインメントさん、送り出していただいたプロレスリング・ノアに感謝を申しあげます。どうもありがとうございました。

――これまで総合格闘技のトレーニングですとか、これから大会に向けて具体的にどのようにやっていくのか考えていらっしゃいますか？

**杉浦** 今はノアの道場で基本的な練習をしていまして、対戦相手が決まったので柔術対策ということで、高田道場さんに行ったりとかして、技術のほうを練習しています。

――大会までにプロレスの大会に出場する予定とかは？

**杉浦** 今月の12日に[illegible]大会がありますので、それに出場します。それ以降は23日に向けて、練習、調整します。

――グレイシー柔術についてどう思いますか？

**杉浦** まあ、肌を合わしたことがないんで、分からないんですけど、ねちっこく寝技で引き込んでくる相手だなぁって。

――前々から興味をもっているとおっしゃっていましたけど、きっかけは？

**杉浦** まああのう、日程がノアの試合がちょうどありませんで、はい。会社に迷惑もかかんないということで、23日に決まりました。

――今回1回限りというよりも、これからも続けていきたいとお考えでしょうか？

**杉浦** やってみないと分からないです。やってみてまだ欲が出れば挑戦するし、会社との話し合いもありますんで、分かりません。

## プロレスでもいつも負けてばかりなので、べつに恐いとかそういうのはないです

――杉浦選手、バーリ・トゥードの闘いで対戦したい相手はいますか？

**杉浦** 具体的にはないんですけど、名前があって、ちょっと強そうな選手がいいです（笑）。

――バーリ・トゥードに出ることはリスキーだと思うんですけど。

**杉浦** まあ、凄い大きな大会なので緊張はしますけど、負けることに関してはプロレスでもいつも負けてばかりなので、べつに恐いとかそういうのはないです。

◎会見後の森下社長

**森下** （杉浦選手は）大きな大会も出ていますし、プロレスラーとしての打たれ強さっていうのも養っている部分もありますから、そういう部分では基本がしっかりしていますんで、「プライド」ルールであってもかなり粘りのあるいい試合ができるんじゃないかと思いますね。ただ、打撃をどこまで練習できているかということになると思うんで、そこのところがそこそこフォローできていれば、かなりいいレベルの試合になると思いますし、日本人選手としてはレベルの高い選手の部類に入ってくると思いますね。そういう意味では前から期待、注目をしていますね。なんとかチャンスがあれば出てもらいたいと、凄い前から三沢さんのほうに声を掛けていたんですよ。全日本時代とノアを作るか作らないかっていう時と、作った時と、それからも継続的にことあることに、三沢さんには連絡を取らせていただいていましたね。

――今回だけじゃなくて、勝敗関係なく今後もオファーしていくと。

**森下** そうですね。ノアの所属選手なんで、ノアのイベントにマイナス影響を与えてはいけないという部分は当然彼も考えていることですし、僕もそう思ってますので。お互いのイベントのスケジュールの問題と、ウチで大きなケガでもしてしまうとまずいと思いますし、あとは本人の姿勢の問題ですよね。やる気、モチベーションを上げてくるかっていうのもあると思うんですけども、それが兼ね備わってうまくいけば、継続的な参戦をお願いしたいと思っていますけどね。今度の試合に関しては、勝ち負けは分からないですけども、試合の中身としてはいいものになると思いますし、そういう意味では継続的に出ていただけるような感じでできれば、いいなと思うんですけどね。

今回は1回限りの契約ですので

――超大会場のイベントにも出てほしいら

**森下** それはそういうことに限ったことではないですけれども、今後もお付き合いをしていただいて、ウチのリングを活用してもらえればなということですね。それが僕はノアに対する、三沢さんに対する一番の恩返しだと思っていますので。■

**ノア 三沢光晴社長のコメント**
（会見で配られたリリースより）

「[illegible]本人の意思を尊重することは、プロレスリング・ノアの方針のひとつでもあり、また信念をもって闘うのであれば貴重な経験につながると判断し、今回の決定に至りました。この出場に際し、ご理解・ご尽力を賜った関係各位におかれましては、この場をお借りして心より御礼申し上げます」

PRIDE.21
6.23 さいたまスーパーアリーナ

# 決戦前、2人は

高山

**高山** 大先輩の杉浦貴に習って、今日はTシャツで来ました（笑）。意気込みというか、ハッキリ言って、ドン・フライは凄い興味ある選手でした。でも、万全な[illegible]レンジしたいと思っていた[illegible]先にこういうオファーが来まして。ハッキリ言って、僕もフライVSコールマンを凄い楽しみにしていたファンの1人であ[illegible]たまスーパーアリーナに来たお客さんが「あれ？　コールマンじゃなくて、高山なのかよ！」なんて言わないように、皆さんちゃんと報道をしっかりしてください[illegible]「[illegible]よ」って言われるのは嫌だから。それは皆さんにお任せしますんで、頑張ってく[illegible]。

――あのう、フライ選手に興味があったということなんですけども、どういったイメージがありますか？

**高山** そうですね、アルティメットのチャンピオンでもあるし、「プライド」参戦してからも理屈抜きで精神力で闘って、絶対に屈しないっていうファイターだって感じますね。特にシャムロックとの闘いをリングサイドで見させてもらって、こういう人と闘えたらと思ってたんで。

――急なオファーということで、万全の準備からはちょっとっていうのがあるんですか？

**高山** どうでしょう？　どれを指して万全かは分からないんで。突然のあれ（オファー）で、気持ちが万全じゃないだけで、あとは前に出た時と変わらないから。それ以上のコンディションかもしれないし。それは本当にどうなんでしょう。ただ、絶対無理っていう酷いコンディションでないことは確かなんで。

――ノアのシリーズにも出ていたので、「プライド」に向けたトレーニングができてないっていう不安はありますか？

**高山** そうですね、「プライド」があると詰めた練習は変わるんですけど、普段の練習からスパーリングやったりとか、キ[illegible]ているんで。今回たまたま、杉浦貴大先生がやるんで、巡業中も彼とスパーリングやってたんで。僕の中では凄いリラックスしてスパーやってたんですけど。そういうのもあったんで、普段よりはそっち（バーリ・トゥード）よりな練習をしてたという感じです[illegible]。

――フライ戦ではどこがポイントになるんですか？　やっぱり気持ちになるんですか？

**高山** そうでしょうね。改めて、いろんなテープを見たんですけど、本当なんか口が利けないんじゃないのっていうぐらい「ギブアップ」って言葉を吐きそうもないですよね、あの人は。もう、精神力の闘いだと思います。

――高山さんもギブアップしない？

**高山** どうでしょう、分かんないですね、ワハハハハ。

――自分が得意としているところと、相手より苦手にしているところはありますか？

**高山** 上回っているのは、単純に言えばリーチですね。あと彼よりはたぶん、蹴り技は上手いと思うんですけど。でも、彼もボクシングやってたみたいだし。レスリングは一級品ですからね。どうでしょう、足し算引き算すると、どっちが上なのかって感じですね。

## フライは口が利けないんじゃないのっていうぐらい「ギブアップ」って言葉を吐きそうもない

――足関節取っても、ギブアップさせられないっていう思いはあるんですか？

**高山** どうですかね？　でも、ギブアップしないで壊しちゃったら終わりじゃないですか？　単純に、まあこの間のシャ[illegible]ど、テープで見直すと、やっぱり完全に[illegible]ですね。シャムロックもたぶんスタミナが切れて、しぼり切れてなかったような気がするし。だから、完全に極まった時はやっぱりギブアップしなくても壊れて[illegible]。

――シュ[illegible]的に敗れてしまったんですけど、フライ戦は？

**高山** もうちょっと冷静にやらなくちゃなと（笑）。こだわりじゃなくて、頭に来てただけなんですよ（笑）。なんとかして[illegible]かったんで。サクもよく言いますけど、冷静にやらなくちゃ。

――フライ戦に対してはシュルト戦以上に思い入れみたいなのが強いんじゃないですか？

**高山** う〜ん、どうでしょう？　それは凄く気持ちを整えて出れば思い入れもあるんですけど、そういうことを言ってい[illegible]もあって、ガーッて突き詰めて、気持ちを整えて、チャレンジしたい相手ですね。でも、やっぱりこうやってドン・フライみたいな選手と組んでもらえるってことで、「ノー」って言うのは簡単ですけど、そこでいかないと、ああだこうだ言っているノーフィアーの高山としては収まりがつかないんで。自分のバックギアを壊して、前進するのみです。

――今のところ、勝算はどうですか？

**高山** どうですかね？　まったく分から[illegible]。

――どういう勝ち方を描いているんです[illegible]？

**高山** あのう、過去2戦イメージを作りすぎたから、自由にノビノビやろうと思っています。リラックスして。結構、過去2戦こうじゃなくちゃっていうふうに思い込みすぎたっていうのもあるんですよね。でも、毎回毎回、おかげさまで凄い強い相手なんで、そう思わざるを得ないんですけどね、必勝パターンっていうのを考えなくちゃっていうのは（笑）。でも、今回は準備もそんなないし、その場その場で反応して詰めていくっていう闘いを。

――荒っぽいケンカマッチになることも？

**高山** うん、そうなることもあるし。なんとも言えないです。

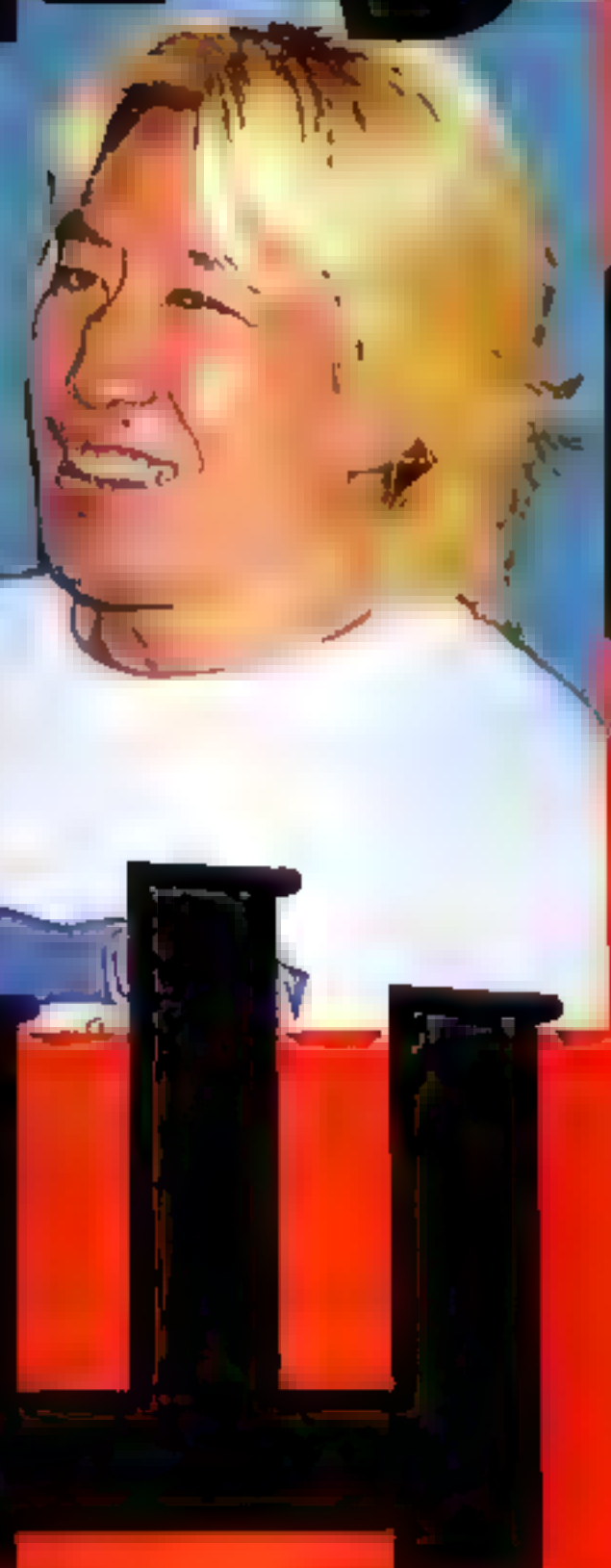
――セコンドは誰を連れていきますか？

**高山** いつもの先輩たちにお願いします、ワハハハハ。

――森下社長からの急遽の参戦の要望だったんですが、具体的にどんなエントリーをして、条件等はどうなんでしょうか？

**高山** う〜ん、条件というか、簡単に言うと、「お願いだから、今後も可愛がってね」とそんな感じのことを、ワハハハハ。■

# PRIDEに<br>コマンド・サンボ軍団がやってきた！

# グレイシー柔術幻想を越えるか？<br>コマンド・サンボ幻想を徹底分析！

この号が出る時には既に『プライド21』が終わっているのだが、ヒョードルは、アフメッドは勝ってるだろうか。基本的には勝ってると思うのだが（特にヒョードルの勝利は個人的に確信しているのだが）、これぱっかりはフタを開けてみないと分からない。いずれにせよ、元リングス・ロシア勢の活躍に期待しつつ、彼らの義理と人情の男っぷりを紹介していきたい。

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

昨年の12・21リングス横浜大会で行われたアブソリュート級トーナメントの準決勝、ヒョードルVSハスデルの試合。ヒョードルはハスデルが悲鳴を上げるほど、思いっきり腕を絞り上げた

いよいよ「プライド」に元リングス・ロシア勢が襲来！である。個人的には、非常に嬉しいわけだが、その理由は彼らが強いだけの男たちじゃないからだ。

残念ながら今年初めに活動を休止してしまったリングス。だが、ロシア勢はリングスマットに愛着を持ち、最後の最後までそこで闘うことにこだわった。プロファイターとして育ててくれたリングスに対して義理を感じ、筋を通す生き方を彼らは選択した。その無骨さがたまらなくいいのである。

しかも「我々は前田（日明）の兵隊だ！将軍が闘えと言ったら闘うのが兵隊だ！」と言う泣かせるセリフを残してKOKトーナメントに参戦したヴォルク・ハンは、現「プライド」ヘビー級王者のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとも対戦。40度の高熱を発しながらフルラウンドを闘い抜くという化け物ぶりを発揮した。しかも当時、39歳という年齢でありながら。また、アンドレイ・コピィロフも35歳という年齢ながら、現役柔術世界王者のヒザをわずか16秒で破壊するという化け物ぶりを発揮！

全盛期とは決して言えない彼らが、いざとなったら、こんなとんでもないことができる、頼りがいのある男たちであるということがファンを引きつけてやまない理由。つまり、ロシアン・トップチームとは、そういう男たちが作り上げた男惚れのする集団なのだということを、まずは頭に入れていただきたい。

## まさに化け物！ 鉄の棒をねじ曲げるアキレス腱固め！

さて、そんな彼らの強さのベースとなっているのがコマンド・サンボ。まず、サンボについてだが、グレイシー柔術と同じく、柔道が源流の格闘技で、その歴史は100年とも言われるほどのもの。今やすっかりポピュラーな関節技となっているアキレス腱固めや、飛びつき十字などは、もともとサンボの技であり、日本だけでなく世界の格闘技に大きな影響を与えている。

また、練習方法はチューブやロープ登りといったナチュラルトレーニングが基本であり、驚くべきことにアキレス腱固めを鍛える際には太い鉄の棒をグイグイ絞め上げるというから、柔術王者のヒザも16秒で破壊されるのも当然だろう。

その後、サンボは軍隊で採用され、コマンド・サンボとして80年の歴史の中で白兵戦用格闘術として進化していった。同じ柔道を起源としながら、グレイシー柔術とコマンド・サンボが大きく違う点は、グレイシー柔術が護身が目的であったのに対し、コマンド・サンボは殺人が目的であったということなのである。べつに大げさに言ってるわけではなく、これはまぎれもない事実。軍隊で教える格闘技が、相手からギブアップを奪うことのためにあるわけがない。

そして、ヴォルク・ハンは、このコマンド・サンボの使い手というだけでなく、ロシア警察軍の格闘技教官という立場で本物の兵士たちを育て上げてきた強者。そもそもハンやコピィロフらの師匠格にあたる"伝説のサンビスト"アレクサンドル・ヒョードロフは51歳で初めてバーリ・トゥードに出陣したこともある豪傑。来日時には素手で鯉を捕まえたという噂まで広がってしまうほど、見た目だけで相当怖い男だったわけだから、ロシアの凄さこそ底なし。しかも彼らは本国に帰れば正真正銘のエリート。コピィロフは石油会社を経営するなど、ビジネスマンとしても成功者で、ロシア勢を束ねるパコージン氏に至っては、スポーツ省の元大臣クラス。彼らの仲間には元KGBや警察署長などがおり、その一方で時にはロシアンマフィアと対峙するようなことまで経験している。彼らがバーリ・トゥードだろうとなんだろうと、躊躇なく上がっていくのは、そういった修羅場をくぐり抜けているからに他ならない。

ロシア軍に入隊経験もあるラバザノフ・アフメッドは「コマンド・サンボというのはサンボのようなスポーツではなく、戦場など生きるか死ぬかの局面で、武器を持った相手に素手で対抗する手段で、その本質は相手のノドを突き刺したり、急所を突いたりして殺すための技術です」と、かつて「紙プロ」の取材で語っていた。また、日露スポーツ交流協会専務理事の堀米幸文氏も、「コマンド・サンボは競技じゃないよ。練習なんかも

◀99年10・28リングスKOKトーナメント1回戦でハスデルと対戦したアフメッドは、アキレス腱固めばかりを狙っていた。アフメッドはヴァレンタイン・オーフレイムから、この強烈なアキレス腱固めで一本を奪ったこともある

## コマンド・サンボがPRIDEを真の戦場に変える！

本物の短刀を使ってやってるからね。真剣を使う競技なんかないよ」と語るほど。

これほど恐ろしげなコマンド・サンボを、ハンがバーリ・トゥード用の格闘技として練り上げ、その技術の粋を徹底的に叩き込んで満を持して放った2人の男が今回のエメリヤエンコ・ヒョードルとラバザノフ・アフメッドだったのだ。

この原稿を書いてる時点では結果はまだ分からないが、この2人ならきっとイイ結果を出していてくれるはず。特にヒョードルはリングス無差別級&ヘビー級王者であり、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに勝つ選手がいるならヒョードルだと関係者や選手たちが口を揃えるほどの逸材。元リングス・レフェリーの和田良覚氏は「彼は強いだけでなく、頭もいいですね。なんか哲学者みたいなオーラが出てるんですよ。ハンとかコピィロフたちはイタズラばっかりしてるんですけど、その横で本を読んだりしていて、ボクなんかと違って落ち着いてるなぁと思うんですよねぇ」と語る。たとえ、シュルトが相手でも勝っていると思うのだが。

▲今年の2・15リングスラストマッチで、ハンとコピィロフは旧リングスルールで対戦。サンボの達人同士の華麗なる関節技の攻防を披露してくれた！

◀2000年2・26リングスKOKトーナメント準々決勝で、コピィロフはあのノゲイラと対戦。サンボの技術で、ノゲイラと寝技で互角にわたり合った。ただし、その後にスタミナ切れ……。

その一方、ラバザノフのほうは相当問題がある。ラバザノフが来日中、世話してあげていた滑川康仁はこう語る。「アフメッドは、KOKトーナメントに出場する2カ月ぐらい前から来日して前田道場で練習してたんですよ。だけど、食事が合わなかったりとか、言葉が喋れないとかあって、すっかりホームシックにかかってみるみる痩せちゃって。だから、KOKは負けちゃったと思うんですけどね。実力はあると思いますよ。力強いですからね。特にアキレス腱が得意というか、それしか狙わないところがあって、凄い強烈なんですよ。だけど、アキレスに徹底するところがあったんで、当時よりは闘い方の幅が広がっていると思うんですけど、もし変わってなかったら危ないかもしれないですね」

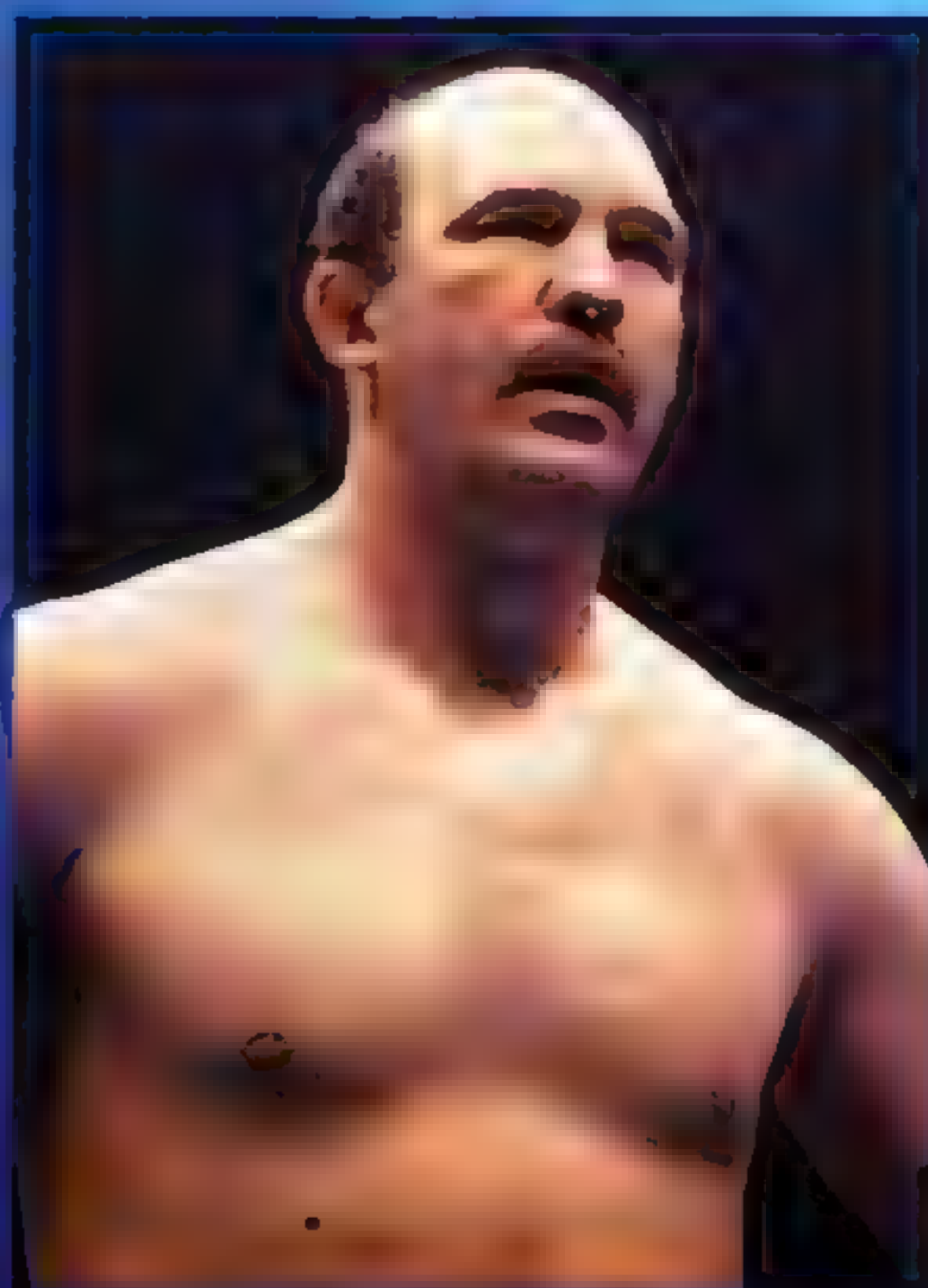
また、リトアニアの興行で一緒になった横井宏考は、「一言目、いや、一言目ですね。必ず、女の話なんですよ（笑）。リトアニアのレストランで注文する時に、『イディナホイって言ってみろ』と言われて、ウエイトレスに言ったんですよ。そしたら凄い嫌な顔をされましたよ。イディナホイってロシア語で、お●●このことだったんですね（笑）」と。強い弱いの前に性格に難ありだ。結局、KOKでは2度闘って1度目はホームシックで敗退、2度目はノゲイラだったために秒殺負けと、その実力のほどは現時点でまったく分からないのがラバザノフ。話を聞いているとかなり面白いのは分かるので見事に勝って、「プライド」に明るい話題を振りまいてほしいものである。

ハンより、「ヴォルク（狼）」の名前を授けられたアターエフは、散打出身の男。昨年12・21リングス横浜大会で高阪相手にもその殺人的な打撃により勝利をもぎ取った。この男が、ハンの元でコマンド・サンボの技術を身に付けたらどうなってしまうのか楽しみ

もちろん、このほかにもトップチーム第3の実力者イリューヒン・ミーシャ、対戦相手の頭蓋骨を砕いた右のパンチを持つ男ヴォルク・アターエフなど人材は豊富。また、ハンにしても、コピィロフにしても「選手を引退したわけじゃない」と明言しているところが嬉しい限り。2人ともノゲイラと闘った経験はあるものの、ハンは40度の高熱時、コピィロフは明らかな練習不足で1R中盤でガス欠（それまではノゲイラと互角にグラウンドの攻防を展開）という形で敗退。それでも結局、2人とも極められもせず、判定まで持ち込んでいるのだから、ぜひとも万全な体調で「プライド」のリングに上がってほしいのである。■

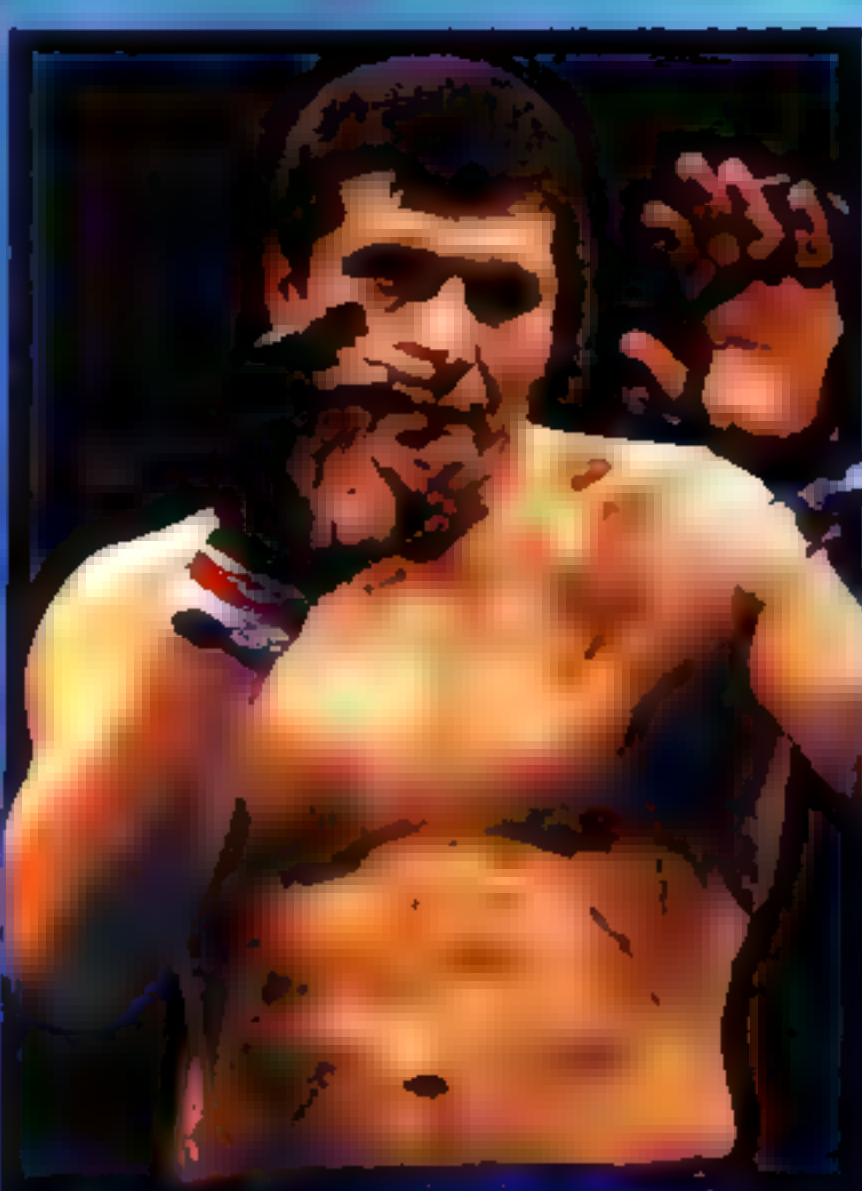
# コマンド・サンボ精鋭軍団 ロシアン・トップチーム選手名鑑

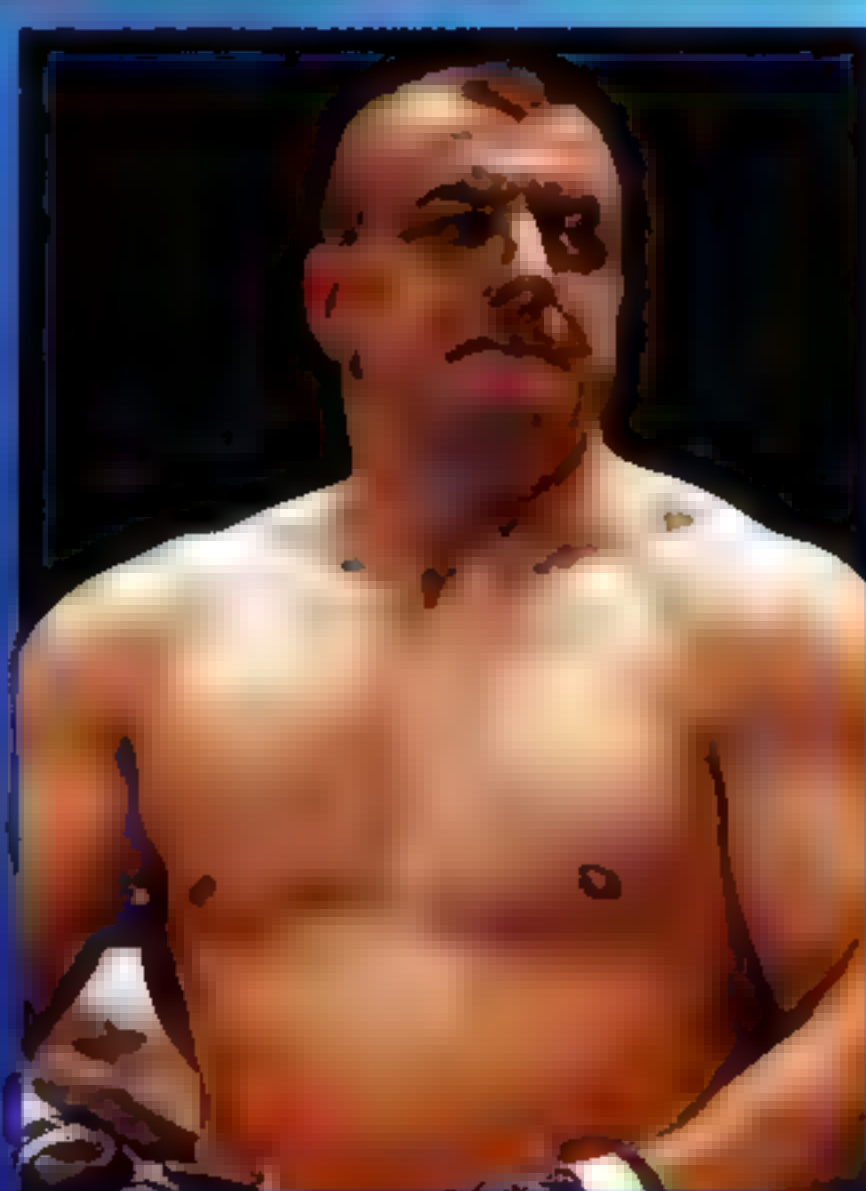
## エメリヤエンコ・ヒョードル

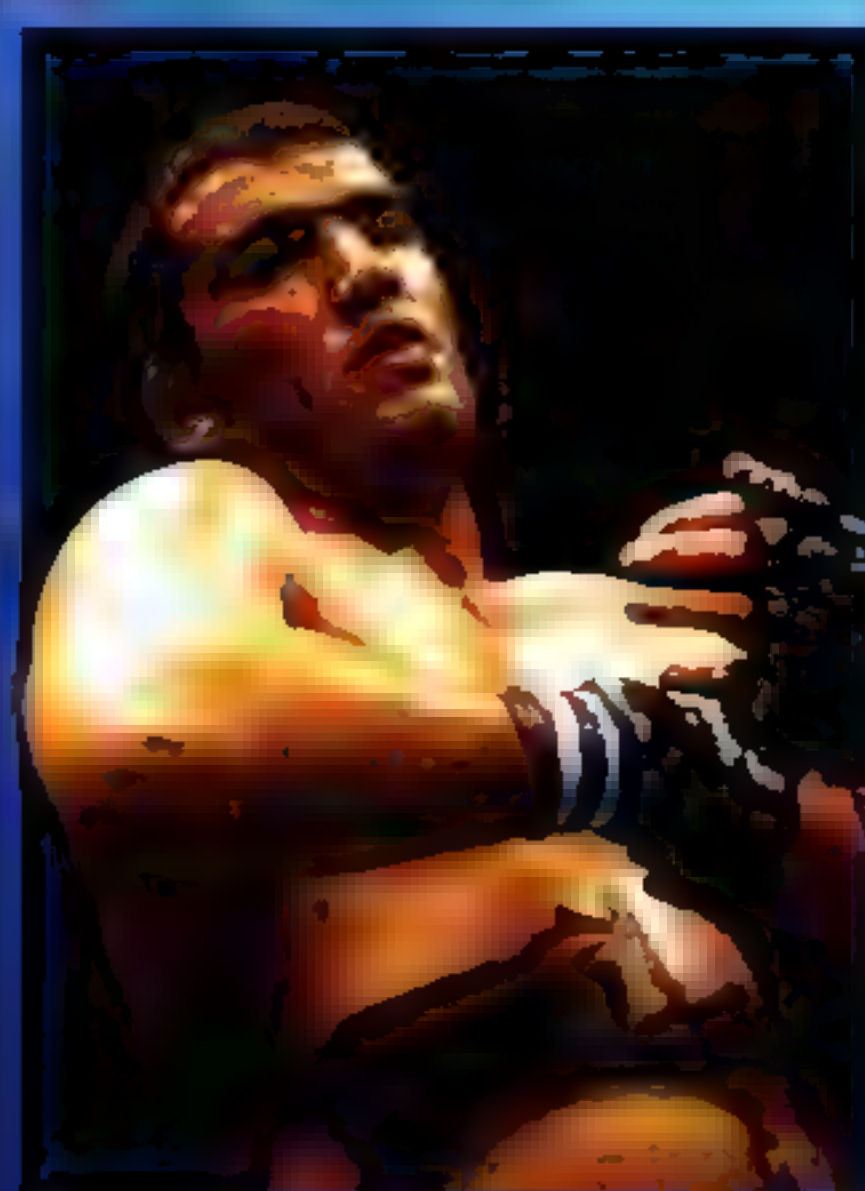
そのヌボーッとした風貌からは想像できないほど、凄まじいパワーをもつリングス最後の怪物。昨年、リングスにおいて行われたヘビー級トーナメントでは、レナート・ババルを圧倒。続いて行われたアブソリュート級トーナメントでもブッちぎりの強さを見せて優勝し2冠王に輝いた。

## アンドレイ・コピィロフ

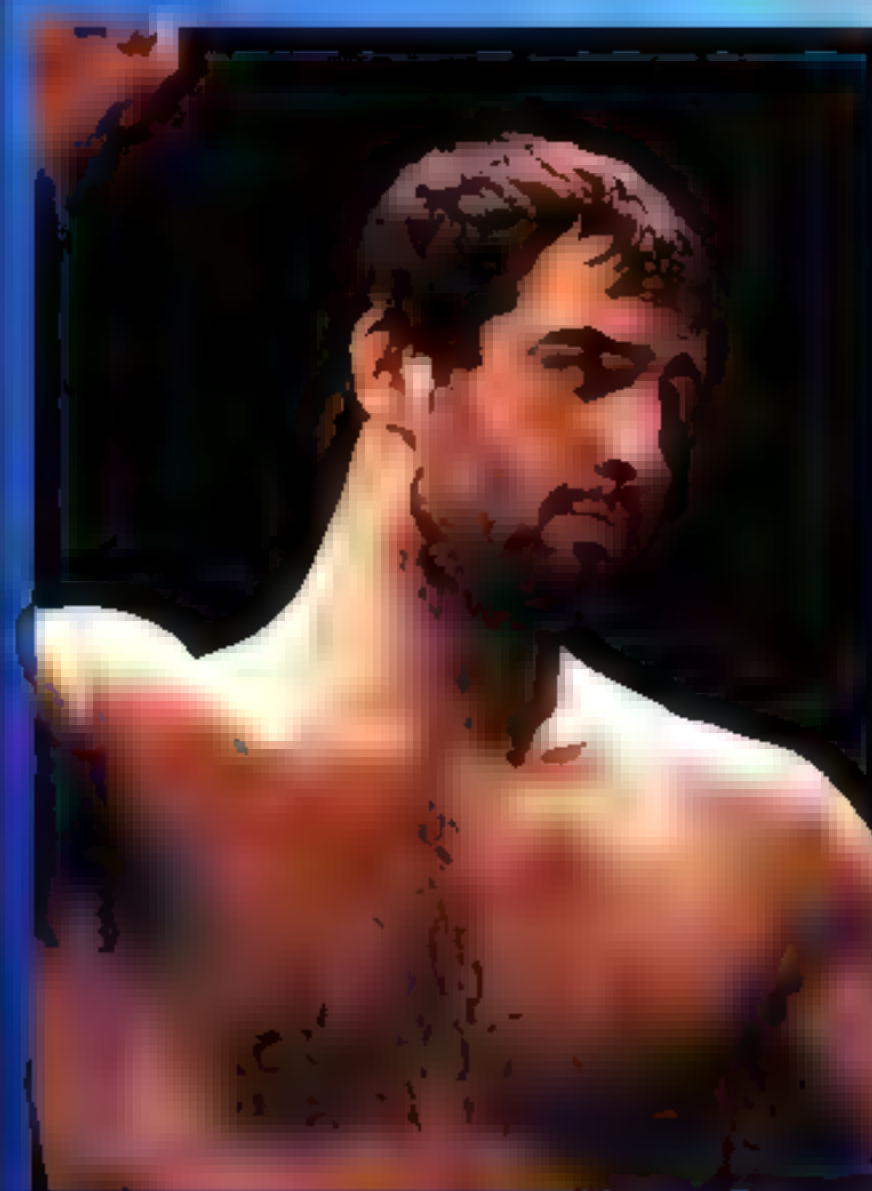
第1回KOKトーナメントでは、柔術世界王者のカステロ・ブランコをわずか16秒で秒殺してみせた、ロシア軍団の実力者。KOKトーナメント準々決勝でのノゲイラ戦では、寝技で互角の攻防を演じスタミナが切れながらも最後まで闘い抜いた。

## ヴォルク・ハン

旧ソ連時代からコマンド・サンボの教官を務め、91年、リングスに初来日。その華麗なる関節技でファンを魅了し続けた。現在も現役ながら、「ヴォルク・ハン格闘術」を主宰し、ヒョードル、アターエフらの怪物を次々と生み出している、ロシア軍団の総帥だ。

## コーチキン・ユーリ

第6回極真世界大会に出場経験をもちながら、柔道でも欧州王者というとんでもない実力者。96年に、柔術怪獣のヒカルド・モラエス相手にパンチを耐え抜き、ドローに持ち込む殊勲を見せた。

## イリューヒン・ミーシャ

ヴォルク・ハンの弟弟子で、岩のような肉体を持つコマンド・サンボの使い手。98年にはUFCで活躍するランディ・クートゥアーから一本勝ちを収めたほどの実力者だ。

## ヴォルク・アターエフ

その繰り出す打撃は対戦相手の骨を砕いてしまうほど強烈。ハンから"ヴォルク"の名前を授けられたロシア軍団の次世代エース候補だ。昨年の世界散打選手権では8連続KOで優勝した。

## ラバザノフ・アフメッド

ロシア白兵戦王者という肩書きを引っ提げて、99年に初来日。ハンの「ヴォルク・ハン格闘術」から日本にやってきた、第1号の選手でもある。どんな体勢からでも狙うはアキレス腱固めただ一つ！

# 7・13『UFC38』出場決定!
# 須藤元気、世界制覇宣言

取材&文◎橋本宗洋

**かねてから噂のあった、須藤元気のUFC参戦がついに決定した。7月13日、イギリス・ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールで開催される「UFC38」で地元イギリスのレイ・レメディオスと対戦する。K-1で小比類巻貴之からダウンを奪う大活躍が記憶に新しい元気。今度はいよいよ本職の総合で新たな一歩を踏み出す。狙うは世界制覇だ!**

須藤元気にとって、UFCのオクタゴンは憧れの場所だった。

「格闘技を始めたきっかけが初期のUFCなんですよ。もの凄いインパクトだったじゃないですか。それだけに、今回出場が決まったのは嬉しいですね」

7月13日、ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールで行われる「UFC38」で、元気はついに世界デビューを果たすことになる。対戦相手はレイ・レメディオス。地元イギリスの選手で、戦績は11勝2敗1分。

「フックンシュートなんかにも出てるらしいんですけど……。正直、イギリスのレベルも分かんないですしね。だから余計、今回はキッチリ勝っておかなきゃいけないなって思うんですけど」

元気といえば、2月のK－1ミドル級大会の小比類巻戦で名を上げた。その後は今秋公開の映画「凶気の桜」の撮影。窪塚洋介と共演したこの作品で、また知名度がアップするのは間違いない。

「デビューした頃は、凄く芸能界に色気があったんですよね。格闘技をやるのもそのためだ、とか言って。でもなんか違うなって思って。去年あたりから、ひたすら〝強くなりたい〟って格闘技に打ち込んでたら、出演の話が来た(笑)。そういうもんなんですかね。一つのことに集中してると、他の道も見えてくるというか。だから最近思うのは、何ごとも一流か三流で通そうと。三流っていうのは……手を出さないこと(笑)。二流で半端にやるならそのほうがいいですよ」

というわけで今の元気の本業は格闘技に他ならない。UFCに向けての練習漬けの生活も、まったく苦ではないという。

「もう、今年から来年にかけてが勝負ですからね。自分の中で穴がなくなってきたというか、闘い方がだんだん分かってきたんですよ。ベルトも巻いて、自分の階級では世界一って言われるようになりたいです」

ケビン・ヤマザキ氏の「トータルワークアウト」やRJWでのトレーニングに加え、このところは金網オクタゴンが設置されているチャンバーズ、さらに母校・拓殖大のレスリング部でも練習を行うという。

「現役バリバリのレスラーに投げられてこようかなと(笑)。大学のレスリング部の練習ってホントきついですよ。プロの倍くらいやってますからね。久々にそういうところでやって、ベースというか、地力を磨いておきたいんですよ。ティトとかがそうですけど、負けない選手って、まずテイクダウンされない、下にならないじゃないですか。常に一本は狙いますけど、やっぱり狙ってる相手がパルヴァーとかB・J・ペンなんで。最悪、判定でも勝てるようにしておかないと」

とはいえ、今回はUFCデビュー戦。先へ進むためにも、インパクトのある勝利がほしいところだ。

「圧倒的に勝たないといけないですね、今回は。〝須藤元気ここにあり!〟ってところを見せて」

実際、元気の超変則ファイトを見たらUFCのファンもビックリするだろう。

「ビックリさせてくるつもりです(笑)。入場(パフォーマンス)は和風でいこうかなと。それと試合で狙ってるのは、飛びつき系の技。あとは竜巻旋風足首固め(ジャイアント・スイングからのアキレス腱固め)しかないですよね、やっぱり(笑)。技が決まる要因って、スピードか、その技を知らないかなんですよ。知らないから対応できない。向こうはジャイアント・スイングなんてやると思ってないでしょうしね。だから、相手がガードになったら狙いますよ」

もし極まったら、一気にMMA界のトップスター。7月13日、世界中のファンがGENKI SUDOの強さと面白さに驚嘆するに違いない。■

## 「UFC38」メインで因縁のリマッチ ヒューズvsニュートン決定!

《決定対戦カード》

〈UFCウェルター級タイトルマッチ〉
マット・ヒューズvsカーロス・ニュートン
イアン・フリーマンvsフランク・ミアー
ユージン・ジャクソンvsマーク・ウェア
レナート・ババルvsエルヴィス・シノシック
レイ・レメディオスvs須藤元気

▶ロンドン大会のメインは、ウェルター級タイト[illegible]イギリス勢が大量参戦を果たす

フランス「KARATE・BUSHIDO」誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・サイド
No.73 7・11号

# CONTENTS

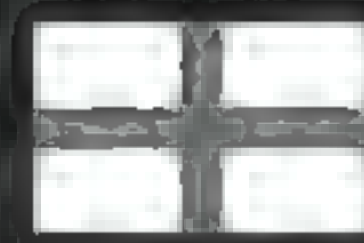


※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

# ワールドカップ台風の後にいったい何が来るのか!?

ワールドカップの盛り上がりに負けていいのか 座談会

出席者◎ターザン山本（イエローカード累積100枚）
サダハルンバ谷川（本誌"テディ・ベッカム"編集長）
小松魔裟夫（本誌"サウジアラビア代表"編集部員）
司　会◎柳沢忠之（本誌"バイロム社"発行人）

ワールドカップ写真◎日刊スポーツ

**山本**　おい、谷川ぁ！　俺様はちゃんと来てやったぞぉ！　俺が今日、ここに約束どおりに来てやったことの意味は、ちゃんと分かってんだろうなぁ！

**谷川**　は？　今日はいつもの座談会ですからねえ。豪華な食事も用意してますし、山本さんが来るのは当たり前のことじゃないですか。

**山本**　クウッ〜！　今日は俺が前振りをしますよぉ！　座談会は前振りがないと話が面白くならないからなぁ。

――ダハハハッ！　今日は山本さんが自分から（笑）。

**山本**　これだけは言っておかなくちゃいかん！

**小松**　あ、また「パリ置いてきぼり事件」の続きですか？

**山本**　違うよぉ。またも俺は谷川に辛酸をナメさせられたんだよぉ！

**谷川**　えぇーっ！　パリ事件以降は何もしてませんよお。

**山本**　いや、おまえはまた俺をどん底に突き落としたんだよぉ。この世の中で谷川を信用したらロクなことがないよぉ！

**谷川**　は？　なんですか（笑）。

**山本**　コイツはホントに仁義を欠くというか、情に薄いというか、何かを任せたらロクなことはないよぉ。

**小松**　今さら何を言ってるんですか、さんざん痛い目を見てきたのに。

――ダハハハッ！

**山本**　いや、今回はパリの一件よりも腹が立ったよぉ！

**小松**　いったい何があったんですか？

**山本**　俺と吉田豪ちゃんとで2カ月に1回トークショーをやってるわけ、新宿の「ロフトプラス1」で。で、これまでずっと豪華メンバーが来てたわけですよぉ。で、この前は6月6日にあって、谷川にゲストで出てくれと前の日に頼んだんだけどさぁ。

**谷川**　前の日じゃないですよ。違いますよお、あれは当日ですよお。

**山本**　そんな細かいことはどうでもいいんだよぉ。前の日に『週刊ゴング』の金沢編集長に頼んだら新日本プロレスの大阪大会に行ってたんだよねぇ、出張で。で、金沢に怒られたわけよぉ「そういうことは2週間前に言ってくれ」って。

**谷川**　山本さん、それで当日の昼過ぎに僕に電話してきたんですかあ。

――ダハハハハッ！

**山本**　よ〜するに俺は谷川の師弟愛というか、友情を試したわけですよぉ、その電話で。

――当日の昼に電話してイベントに出て来るかどうか（笑）。

**山本**　つまり窮地に立ったところを助けに来るかどうかというさぁ。

――山本さんの危機にサダハルンバが「いざ鎌倉！」で駆けつけるか（笑）。

**山本**　そうでしょ。プロレス界的には長州が退団をして藤波の悪口を言った後だったし。お客としては、金沢編集長が来るか谷川が来るか、もうガチガチだったわけだよぉ。で、GKは出張でダメで。俺としては最後の望み、命綱は谷川しかいなかったわけよぉ。

――ダハハッ！　無自覚な命綱（笑）。

## あのイベントで俺は信用失墜、価値大暴落ですよぉ

**山本**　俺は出て来ると思ったけどなぁ。ところが谷川はコイツ（小松）をよこしたんだよぉ。

**小松**　はい、名代として行かせていただきました。

**山本**　俺の立場はどうなるんだぁ！　あのイベントで俺は信用失墜、価値大暴落ですよぉ。

――それは明らかに確信犯ですね（笑）。モグを行かせた時点で核ミサイル発射ボタンを確実に押してますよ。

**谷川**　ちょっと聞いてよお。僕だって仕事が入ってたのに山本さんの代わりの人が電話で「無理だってことは分かってるんですけども、山本さんが『絶対来い！』って言ってます」って、それしか言わないんだもん。

――ダハハハッ！　すれ違いだけど絶妙の師弟関係だなあ（笑）。

**山本**　俺は人生に奇跡しか求めないんだよぉ。で、谷川が来なくて、ついに奇跡が起こらなかった、しょぼいイベントだったよなぁ。

**小松**　ええ、見事にしょぼいイベントでした。

**谷川**　き、キミを行かせたのになんともならなかったのぉ？

**山本**　こんなヤツが来てどうなるっていうんだぁ？　まあ、来たことだけは谷川よりも評価できるけどなぁ。

**谷川**　……すいません。いや、でもホントにせめて前の日に言ってくれれば……。

**山本**　よ〜するに小松モグタンをよこして、お茶を濁そうとするね、その発想がもうなんと言うかさ、長年の付き合いを無視してるというかなぁ。谷川の魂胆が分かったよぉ。

――魂胆？（笑）。

**山本**　つまり「寄らば大樹の陰」の思想で、俺みたいな小さき者、小さな魂を無視してるわけよぉ。

――明らかにサダハルンバの人間性というか、根底の部分が見えますね（笑）。

**山本**　もう谷川は俺の手の届かないところに行ってしまったよぉ。

**谷川**　そんなことないですよ。

**山本**　知らない間に手の届かないところに行ってしまったよ。階級の違いをしみじみと感じたねぇ。上流階級になって、谷川の存在そのものが俺にはもうコントロールできないんだよ、師匠であっても。

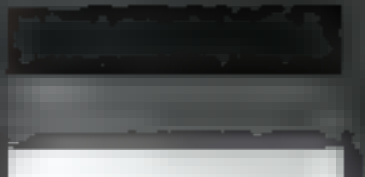
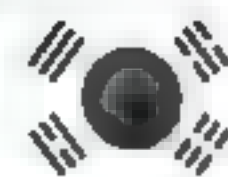
**谷川**　本当に申し訳ございませんでした。

**山本**　こうやってすぐに謝るから、こっちもつい信用してしまうんだよぉ。もう、騙されないぞぉ！

――で、おまえが行ってどうだったの、イベントの客の反応は？

**小松**　シーンとしてました。完全にしらけてましたよ（笑）。

**山本**　そんなの当たり前だろぉ！　こいつが俺の横に座ってるんだからぁ。モグタンが座ってるんだよぉ。

――想像するだけでも悲惨な光景だなぁ（笑）。

谷川　ホントにすいませんでした、山本さん。で、前回のフランス事件に続いてさらにショックな話なんですけど、僕と社長はですね、ワールドカップを見に行っちゃったんですよ。それもプレミア・チケットの日本VSベルギー戦。

――それも超VIP招待で（笑）。

山本　俺のイベントには来ないけど、ワールドカップには行くんかぁ。

谷川　それは前の日の夜中に急に話がきたんですが、なんとか都合をつけました。

山本　……………。

――「いざ鎌倉！」で（笑）。

山本　俺はワールドカップは1試合も見てないから。まったく無関心だからぁ。

谷川　は？　どうしてですか？

山本　ワールドカップはほんとにもう、なんと言うかさ、若い人たちがにわかファンになってさ、なんの意味もなく騒いでいるだけでしょ？　今もさ、駅から歩いて来たら青い日本のユニフォームを着てるんだよね、しばきたくなるもんなぁ。新宿の駅を降りたらさ、それを着たヤツが「ニッポン！　ニッポン！」って叫んでるんだよねぇ。「何が、ニッポンだよ、この野郎」と思ってさ。ふざけんなよと、蹴り加えてやろうかと思ったよ。日頃なんにもしてないヤツがさぁ……。俺は「精神のイッキ飲み病」って言ってるんだよぉ。精神のイッキ飲みをやってるわけよぉ、彼らはみんな。

谷川　「精神のイッキ飲み」！

――なるほどね。

山本　面白くないでしょ、あんなもの見たって。

谷川　一応、VIP待遇で見ましたけど、弁当はおいしかったなあ（笑）。

山本　べ、弁当……。それでみんなはどうなの？　サッカー面白いの？　好きなヤツ多いよなぁ。

――俺はサッカーなんか全然知らないですもん。触ったこともねえし。

谷川　みんなサッカーが好きなんじゃなくて、ワールドカップが好きなんですよね。

山本　ワールドカップが日本から物凄く遠い国でやってるんだったら、俺は見るんだよね。日本でやってるから見ないんだ、俺は。

谷川　それはなんでですか？

山本　日本という国がワールドという概念にまったく適してないもん。ド田舎の風土だもん、これは。

谷川　でも、ド田舎の風土だからみんなここまで騒いでいるんですよね。

山本　ワールドカップで騒いでるヤツなんか、俺から言わせたら、オ～ルすべてぜーんぶ田舎者ですよぉー

――いよぉ！　待ってました（笑）。

谷川　プロレスファンはほとんどワールドカップは嫌いなんじゃないですか？

山本　要するに問題なのは、ここから話を展開させるとしたらワールドカップと今度の「プライド21」を考えた場合、テーマは2つしかないわけ。

小松　あ、2つー

山本　「日本人とは何か？」ということは絶対に重要なんだよぉ。それを「プライド21」で直接見るのか、それともワールドカップの日本人チームとダブらして見るのか、その違いはあるのかないのかということだよねぇ。もう1つは、格闘技。「プライド」とK―1って稼げるんだよね、でも本質的にプロレスに比べたら、「プライド」もK―1も稼げる時しか稼げないんだよね。K―1が成功したのは、負けにも意味があるということを初めてやったんだよね。明らかにアンディ・フグとかいろんな形で見せていくんだよね。リベンジという名でね。そうすると、日本人とは何かということ、格闘技における敗北とは何か、敗者とは何かというこの2つがポイントだと俺は思うんだよ。どう思う？

## 俺はワールドカップはまったく無関心だからぁ

――おっしゃるとおり（笑）。

山本　これを選手と我々とマスコミとファンがどう考えるかというかなぁ。

谷川　たとえば、日本人とは何かっていうので、ワールドカップのベルギー戦で稲本がゴールしたけど。その次の日の「笑っていいとも」の中の、テレフォンショッキングで会場のお客さん100人にアンケートを取ってたんですよ。で、「これまで稲本を知ってた人は？」って聞いたら2人だった。それぐらいの選手なんですよ。それが今、稲本っていったら、メチャメチャ経済効果が上がる男になってるじゃないですか？　「プライド」やなんかでも大山選手とか杉浦選手とかはそういう可能性はありますよね。

山本　ワールドカップはもともと二人のスーパー選手とか偶然的にラッキーボーイを生む土壌がある。それが今の日本では稲本なんだよ。それでみんなが知るというかさぁ、マラドーナもそうしてバーンときたわけだから。「プライド」にはそういうことがあるのかないのか、あんまり俺はないような気がするんだけどね。うん。

――やっぱり、プロモーションなんですよ。日本で言えばサッカーの「ドーハの悲劇」とか、すっごい長い溜めの中でのプロモーションっていうのが、日本では効くんですよね。

山本　そう！　あの「ドーハの悲劇」があるから、今のこの浮かれた状況が全部あるんだよな。あのマイナスの、デメリットというかさ、ネガティブな大事件、大スキャンダルだよ。

谷川　あれ見たら、日本は勝てるような気がしないですもんね。

――だから、敗北に意味があるとかそういうのは日本人の気質の中で絶対にあって、さらにサッカーみたいに90分で1点

しか取らないようなチマチマしたスポーツが日本人に合うのか合わないのかって言ったら、たぶん合うんだと思うんですよ。

**山本**　合うの、あれぇ？

——要はストレスを溜め込んで溜め込んで、入らない入らないって言って、ゴールした瞬間に抑圧を解放するみたいなことが、たぶん結局合うんだろうなって気がするんですよね、日本人って。ヨーロッパも当然そういう風土じゃないですか。でもアメリカは大嫌いじゃないですか、そういう溜め込むっていうことがない国だから。アメリカっていうのは野球にしろアメフトにしろバスケットにしろ、バンバン点が入っていくものが好きなわけじゃないですか。

**山本**　サッカーの試合っていうのは俺はさ、ボールが獲物にしか見えないわけですよ。集団で獲物をやっと一匹捕まえる喜びっていう。そこへの歓声しか聞こえないんだよ。でも、それは狩猟民族のやることだからね。それが日本人に合っているのかというと、たった一匹の獲物をみんなで何日もかけて取るようなさ、それで食いつなげたみたいな、そういうイメージがあるんだよね。辛気臭いな、それ（笑）。

——ゲームの根本的なシステムからすれば、まさに狩猟民族の日本には関係のないゲームなんだけど。プロモーションというスタンスから考えると、メチャクチャ合ってるんですよね。

**山本**　合ってるよなぁ。

**谷川**　ホントに関節技の攻防みたいなもんですよ。

——関節技って狩猟民族みたいなもんですからね。ネチネチネチっとやって、ガブッと食いつくわけだから。

**谷川**　サッカーのあの視聴率の高さってあるじゃないですか。あれはなぜかっていうと、最大の原因は、前半が0—0っていうのがいいんですよね。あれが、もうたまんなく視聴率をどんどんどんどん上げていくんですよ。

——だから、それが抑圧を解放するっていうことですよね、ポイントは。「間合い地獄」的な武道的要素を堪能する資質が日本人の遺伝子にはあるんじゃない？

**山本**　今、言ったことで言うとこのサッカーの大浮かれ状態、集団的な浮かれ状態というのは、あの「ドーハの悲劇」の記憶ですよぉ。記憶がなかったらこうならないよ。あれの裏返しだよね。あの記憶に対する復讐というか反乱というかさ、それを怒ってるんだよね。それを回収したいと、そのネガティブな記憶を取り返したいというのが、今爆発してるんだよなぁ。

## 集団的な浮かれ状態は、「ドーハの悲劇」の記憶ですよぉ

**谷川**　でも、たいした話じゃないですよね、「ドーハの悲劇」って。

**山本**　……………えっ？

**谷川**　あんなものプロレスとか格闘技ならしょっちゅうあるじゃないですか。でも、それが凄く感じられるっていうところに、プロモーションの凄さがありますよね。

**山本**　いや、あれはたいしたことですよぉ！　「ドーハの悲劇」をたいしたことじゃないと言うこと自体がもう、谷川の本性をまた見たよぉ！　あれは要するにさぁ、残り時間も終わってロスタイムの中でもう勝利が決まってる時に、フワッと入ってしまったという。あれをたいしたことないと言う、言うにことかいて、犯罪者だよ、谷川は！　そういうことをチョロッと無意識に言ってしまうのが、おまえなんだよね。言わないよぉ、普通そんなこと！

**谷川**　でも、僕は高校生のクラブ活動でも3回くらいありましたよ、そんなこと。残りタイムで逆転されて。

**山本**　それは誰も見てないんだからいいんだよぉ。でも、「ドーハの悲劇」はみんなが見てたんだからぁ。

**谷川**　僕が言いたいのは、格闘技とかプロレスには「ドーハの悲劇」くらいの話はいくらでもありますよってことですよ。

**山本**　ないよ、そんなもの！

**谷川**　ありますって。

**山本**　谷川の記憶装置は俺たちとは違うな。

——なんたって上流階級ですから（笑）。

**山本**　記憶の装置が上流だよぉ。記憶もないし、トラウマがない。

**谷川**　でも、今プロモーションしてる人たちっていうのは、たぶんこんな感覚なんじゃないですかぁ。

**山本**　違うよ！　全然！　論理が破綻してどうしようもないよ！

**谷川**　このくらいの話で大きくもっていこうっていう程度に考えているんじゃないですかね。僕はだけど、誰にでも分かるように伝えてる、その情報量とか扱い方のほうが凄いと思いますけどね。

——いや、だからそのポイントはみんな作り手が入り込んでるわけ。

**谷川**　ああ、適当にやってないんだ。

——適当にやってないよ、たぶん（笑）。

**小松**　……すいません。

**小松**　は？

**小松**　僕は編集長イズムに洗脳されて適当にやってると思ってました。

**谷川**　んあ〜！

——このくらいの話でって思ってないから、伝わるんじゃない？　プロレスっていうのは、これくらいの話だと思ってるから伝わらないんじゃないの。

**谷川**　ああ……それはあるなぁ。

**山本**　だから、「ドーハの悲劇」というのは、勝つ過程には雑種多様なね、もの凄く多様性があるわけ。それをつなぐものがサッカーにはあって、「ドーハの悲劇」という一点でみんなの共通項になるわけ。プロレスの記憶というのは、個人によって全部違うんだよ、記憶が。バラバラにマチマチだから、あれほどビッグにならないわけよぉ。

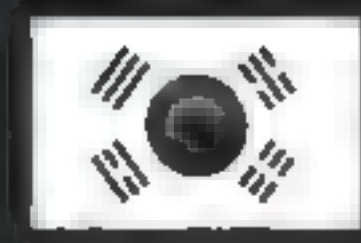
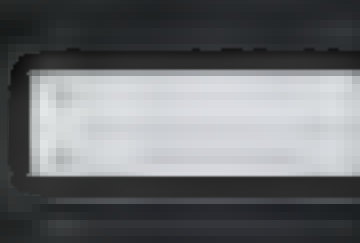
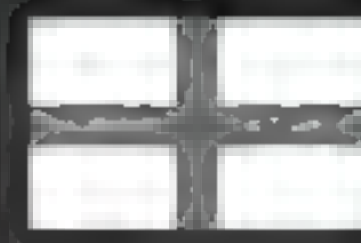
**谷川**　でも逆に言うと、その装置を一緒にすると、視聴率が取れるんじゃないですか？

——だから、それを一点に集中させることが、プロモーションの力でしょ。

**山本**　だから、サッカーのほうがしやすいんだよ、プロモーションは。

**谷川**　でも、格闘技もしやすいですよ。
**山本**　しやすいよ。グレイシーに勝てなかったとか、高田がヒクソンに負けたという記憶が延々と「プライド」に生きてるわけですよぉ。あれは「ドーハの悲劇」と一緒だから。違う？
**谷川**　でも、あれも高田が負けると思ってましたよ。
――んあ〜！
**山本**　あれは「ドーハの悲劇」と共通するプロレスファンの、全日本を好きな人も新日本を好きな人もみんなあの負けは「ドーハの悲劇」に共通するものがあったんだよね。だから、あれがなかったら「プライド」もなかったんだよぉ。
――そうですね。
**山本**　高田がヒクソンに2回負けたという記憶が重要なんですよぉ。プロモーションというのは、そういう人間の感情の落ち込みとかショックとかそういうものが、大いなる踏み台になるんだよな。逆に言えば、それにしかならないということだよぉ。
――今の現象は視聴率の問題じゃないよね。
**山本**　もの凄いコンプレックスの裏返しだと思うよぉ。
――そうでしょう。
**山本**　こんなに日本人はコンプレックスを持っていたのかという裏返し、自信のなさ、アイデンティティのなさ、根拠のなさの裏返しというか。それを空虚なもので、解放したいという巨大なエネルギーだよねぇ。
――それぐらい煮詰まってるんだと思いますよ、日本も。
**山本**　日本人っていうのは、記憶が好きなんだよね。記憶にこだわる民族みたいなね。記憶をバネにするというかさぁ。ネチっこいんだよね、意外とそういう意味で。
**小松**　そうですかねえ。
――おまえは少しも粘っこいところがないもんな（笑）。
**小松**　ええ、体質的に。
**谷川**　でも、けっこう時間が空いてるんだよね。「ドーハの悲劇」って物凄い昔の話じゃないじゃない。最近の話かと思うと、8年くらい経ってるでしょ。ちょうど、いい感じなんですかねえ。
**山本**　カズとか柱谷が悲劇を被った世代だよねぇ。たとえば自分たちの父親だとか兄貴たちだとしたら、それを自分たちの世代で回復したいという、そういうのがあるんだよぉ。同類とか同族とか親族とか兄弟とかっていう者のできなかったことをなんとか自分たちの手で彼らに返してあげたいとか、回復したいという願望が、もの凄いあるんだよなぁ。失われている家族愛みたいなものがさ、無意識のうちに出てくるわけですよぉ。誰も気付いてないし、分かってないけれども。DNAが爆発するんだよねぇ。
**谷川**　それが日本人ですかね。
**山本**　それが日本人よ。だから、サッカーでは勝てないとか、勝てっこないという前提が最初にあるから、今の状態がもの凄く浮かれてくるんだよね。
**谷川**　ほんとうに溜めに溜めたっていえば、点も取れなかったですからね。もう、引き分けることすらできなかったじゃないですか。そこがホントに溜めになってましたよね。
**山本**　だから、トルシエって凄いよね。あの、おっさんは。
**谷川**　トルシェって凄いんですかあ、あれ？　なんかスケベそうな顔したおやじだなっていう（笑）。なんか、絶対芸者ガールとか好きそうな顔してるじゃない。

## 勝てっこないという前提があるから、浮かれてくるんだよぉ

**山本**　やっぱりロングスタンスで考えて、物事やってるんだよね。今まで使ってなかった選手をポンッと出したりしたりね。ああいうチェンジの仕方なんて、あり得ないよね、あと新聞見たら。誰、あれ？　森島か？　あんなの使おうなんての、普通はね。最後の最後にとっておくというか、切り札を。あれはないもんなぁ。一番大切なところでさ、パアーッと勝負に出るというね。
――あと、さっきも言ったけど、やっぱりサッカーを扱ってるメディアや作り手がやけに入り込んでますよ。それはデカイと思いますよ。我々にサッカーはできないじゃないですか？　絶対入り込めない（笑）。でも、プロレスってそういう構造だからダメなんだなと思いますよ。高田VSヒクソンが意味があるっていうことは、やっぱりメディアの作り手がショックじゃないですか。そういうことがデカイですよね。今の「プライド」にしろK－1にしろ、マスコミの扱い方っていうのは、K－1や「プライド」を扱わなきゃいけないっていう、プロレス的感覚が全面に出てきて、なんでもいいからネタにしようっていう。全然入り込んでもいないのに、それは広報側も悪いんだけど、それを一緒になって作ってる。それはダメですよ。
**山本**　だから、はじめにプロモーションなのか、はじめにマスコミなのか。サッカーはプロモーションですよ。絶対先にあるのは。後からマスコミがついてくるというか。マスコミは何もできないよ。プロレスの場合は違うよ。マスコミは力を持ってないんだけどさ。プロレスの場合はプロモーションはないんだよね。
――ないですね、ゼロですよね。
**山本**　スカパーなんかで見ると、武藤がさ「株式上場したい」とか言っててさぁ。でも後楽園ホールの純利益が会社にとってたった2百万円しかない、と。こんな興行じゃ、とやっと言い始めたんだよね。でもそれは「おまえたちのプロモーションがなってないからだ」って言いたいんだよぉ。違う？
――そういうことです。
**山本**　プロモーションがないところにプロレスがかかわってるんだからさ、両方ともダメだよなぁ。
――今回のワールドカップを見て痛切に思うのは、プロモーションの力ですよ。
**谷川**　そうやって考えると、僕は向いてないな（笑）。のめり込むことないもんな。

だからホントに、プロレスマスコミの中でも良かったのは、井上義啓さんもそうだし、山本さんもそうだけど、のめり込んで本気になってたからね。今はそれがないですよね。

**谷川** それをできるヤツがいないよな、今。

**山本** サッカーの場合は予選があって、リーグ戦があって4年かかってさ、システムから何から全部確立されてるわけじゃない。最後まで、優勝戦まで。あんなのやられたらさ、もうどうしようもないもんね、こっちは。

**谷川** でも、本気になってのめり込めてるんじゃないですか、サッカーの評論家たちとか。

――サッカーの作り手たちはみんなのめり込んでるよね。

**山本** のめり込んでるの？

**谷川** のめり込んでる感じがしますね。

――のめり込んでなきゃ、伝わらないですよ。

**谷川** サッカー全然知らないコメンテーターにも、熱は感じますよね。

――こう言っちゃ失礼だけど、目線が一緒ですもん、素人と。技術論とかそういう次元じゃなくて、やっぱり作り手が他のプロモーションに乗らされているっていうか（笑）。俺らが『東スポ』みて「へぇー、そうなんだ。これ面白いなぁ」って思うことがないっていうね。書き方として面白いとか、ああなるほどね、「いいね、これは」っていう芸を楽しむっていう行為はあるけどども、そのネタ自体に心底興奮するっていうのがないじゃないですか。

**山本** 俺はサッカーは見ていないので何も知らないけど、でも巨人が5―0で負けてて、ホームラン4本かましてきて、最後、ヤクルトの高津が出てきて、9回裏になんとあの清原が同点ホームラン打って5―5にして、延長戦でさぁ。最後に福井がサヨナラホームランを打つ。あのほうが、よっぽど面白いけどなぁ。田舎者なんかな、俺は（笑）。

**谷川** それは凄く山本さんらしい。

――そのほうが凄いですよ。

**山本** でも、全然紙面は小さいんだよ（笑）。

**小松** あ、そういえば、そんなことがあったかな、って感じですよね。

## あんなのやられたらさ、どうしようもないもんね、こっちは

**山本** 全米オープンで丸山がホールインワンをやって、「えっ―」って思ってさ。凄いじゃないか、でも、小さいんだよね（笑）。

**小松** それも、そんなことがあったかな、って感じですよ。

――ホントだよなあ、そんなもんですよ。

**谷川** 今度の『プライド』なんかは、その一つでもあるかどうかですよね。

**山本** その清原の同点ホームランとか丸山のホールインワンが『プライド』であるかどうかだよぉ。それがあったら対抗できるけどね、今のこの流れに。

**谷川** なんかひと刺しするっていうか、一撃食らわすというか。

**山本** 一矢報いるということ。それが一個でもあれば、俺は救われるんだけどね。救われて俺たちのアイデンティティも、要するに安心するわけだよ。

**谷川** 見に行って良かったなっていう。

**山本** 誰かが清原になって、誰かが丸山になるべきだよぉ。それは要するに同点ホームランか、日本人の好きなホールインワンみたいなね、ああいうミラクルが必要ですよぉ。

**谷川** それを分かってるかどうかですよね、選手個々人がね。そのぐらいの気持ちで出てるかどうかっていうね。ほんとにワールドカップの影響でK―1も『プライド』もチケット苦戦したみたいですからね。

**山本** ホントに？

――カードの問題とかじゃないですもんね。だから、違う意味でもワールドカップは経済効果に影響があるんですよ。

**谷川** スポーツとかエンターテインメントは壊滅的状態だと思いますよ。野球にしても。

**山本** 早く、台風が去るしかないなぁ。

――ダハハハッ。でも、また去った後も怖いですよぉ。

**谷川** 怖いですよね。やっぱりあるでしょう、ポカンとする精神の空白というか、放心状態というか。あれだけ、騒いでいたら、あれ以上の刺激が出るまでか、あの興奮が醒めるまでは時間がかかりますもんね、日本人は特に。

――ある程度、焼け跡と考えて、よしそれをチャンスにしようと思ってても、やっぱりついてくるかどうか分からないですよね。

**山本** そう、深刻だねぇ、これ。

――深刻ですよ！ ワールドカップはメチャ深刻だと思いますよ、日本にとって。

**谷川** なんか、凄い地震が来るとか凄い台風が来るぐらいじゃないと、意識が戻らないと思いますよ。違うところに行かないと思います。

**山本** あ、そう。

**小松** オリンピック以上ですよね。

**谷川** オリンピックなんて、全然問題じゃないよ。だって、今年冬季オリンピックあったの知ってる？

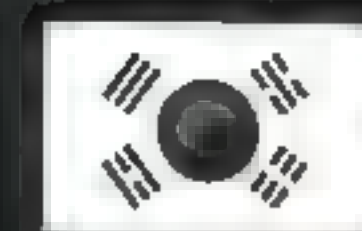
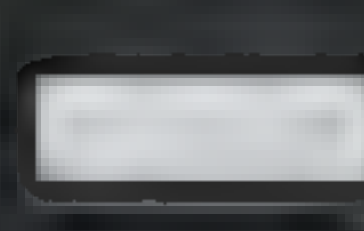
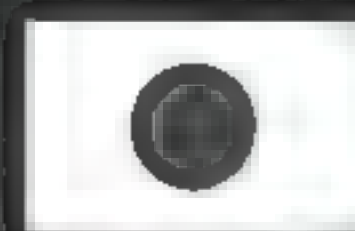
**小松** えっ？

**谷川** あったんだよ。でも、誰も記憶がないよ、そんなの。

**小松** 冬季オリンピックはあまり記憶がないですよね。

――おまえの場合は冬季オリンピックに限らないけどな（笑）。山本さん、これを関係ないとしたら、本当に関係のない世界のまんま、永久にそれで終わりですよ。プロレスや格闘技って。もう、そのレベルで永久にやってなさいって話ですよ（笑）。

**山本** 雨の日に、日本の若者がみんな国立競技場にいるんだもんなぁ。

――ビジョンで見てるだけですよ。5万

人が2200円払って、即完売なんですから。

**山本**　早く夏になってほしいね。

――そういう問題か（笑）。

**山本**　夏だけが頼りだ。夏になれ早く。一気に。猛暑に。

**谷川**　山本さん一矢報いないとダメですよ。首根っこつかまえて、プロレスのほうが凄いって言わないと。猪木さんだったらその浮かれてるヤツらを、どうにかしてプロレスに引き込めって感じでやってたじゃないですか。

――だけど、今回のワールドカップを見てると選手は意識してやってますよね。ピッチに立っている時にどうやって目立つかって。だから、中田英寿も前回の時は金髪にしたりとか、今回もみんな金髪だったり赤だったり、いろいろ目立つようにね。

**谷川**　今ね、僕の髪型もそうなの。

――はあ？

**谷川**　ショート・ベッカム。これはね、パーマ屋さんに行った時に「今回はワールドカップ・バージョンにしましょう」って言われたんですよ。

――何のバージョンなんだよ（笑）。で、これがベッカムなんだ。俺は単なる寝癖だと思ってた（笑）。

**谷川**　まあ、寝癖なんだけど。

**小松**　まあ、たしかにさっきまで寝てたから。

**谷川**　でもね、ちゃんとジェルをつけるとソフト・モヒカンになるらしいんだよ。

**小松**　そういう髪型にしたら、座談会でも会話のパスが正確に通るかもしれないですね。

**谷川**　お、おまえが言うな！

――まあ、プロレスや格闘技っていうものを「比類なきスポーツのジャンルである」っていうことを言い続けてきたのが、こうなると「日陰者根性のコンプレックス」でしかなくなっちゃう（笑）。これは弱ったって感じですね（笑）。

**山本**　そうだねぇ。

――それを巻き返さなきゃいけないから、どうしようかなって話ですよ。

**谷川**　ホント、山本さんの出番ですよ。ワールドカップの決勝戦に乱入して一発レッドカードをもらうくらいのことをしないと。

**山本**　なんで俺の出番なんだよぉ。谷川が「僕がなんとかします」とか言わなきゃならんところだろう！

**谷川**　ええ～っ！　僕なんですかぁ？

――ぷぷぷっ！

**山本**　まあ、俺がなんとかするから、それを谷川が手伝え。

**谷川**　とりあえず、僕の代わりに小松を預けますんで。

――んあ～！（笑）。■

# 6/27THU～7/11THU

## C A L E N D A R

| | |
|---|---|
| **6/27** THU | ★『SRS・DX』73号発売日<br>◆AX/チケット一斉発売⬅p47 |
| **6/28** FRI | ●フジテレビ『SRS』（26:15～26:45）⬅p69 |
| **6/29** SAT | ■修斗/大阪・堺市金岡公園体育館（16:00～）⬅p48<br>■日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49 |
| **6/30** SUN | ■新日本キック協会/東京・ディファ有明（16:00～）⬅p49<br>■MAキック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49<br>◆THE BEST/チケット一般発売⬅p46 |
| **7/1** MON | |
| **7/2** TUE | |
| **7/3** WED | |
| **7/4** THU | |
| **7/5** FRI | ●フジテレビ『SRS』（26:15～26:45）⬅p69 |
| **7/6** SAT | ■SMACK GIRL/東京・ディファ有明（18:30～）⬅p46<br>◆DEEP2001 6th IMPACT/チケット先行発売⬅p47 |
| **7/7** SUN | ■シュートボクシング協会/神奈川・横浜文化体育館（16:00～）⬅p48<br>◆DEEP2001 6th IMPACT/チケット先行発売⬅p47 |
| **7/8** MON | ■掣圏道/宮城県スポーツセンター（18:30）⬅p46 |
| **7/9** TUE | |
| **7/10** WED | |
| **7/11** THU | ★『SRS・DX』74号発売日 |

# GUIDE & TICKET
# 大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

## ドリームステージエンターテインメント

遂に第2回『THE BEST』開催決定!

### THE BEST
7月20日(土・祝) 東京・ディファ有明

◆開場/16:00 試合開始/17:00(予定)
◆入場料/全席指定・消費税込み PRIDE Official CLUBゴールド会員2,000円/一般5,000円
◆チケット発売/6月30日(日)10:00～一般発売 ※ファンクラブ受付終了後
◆チケット発売所/PRIDE Official CLUB GOLD会員加入者のみ購入可能。残席があれば一般発売を実施予定
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

**出場予定選手**
- 高瀬大樹(和術慧舟會)
- 江宗熱(和術慧舟會)
- 光岡映二(RJW/Central)

## スマックガール実行委員会

「スマックガール」がまたも新たな試みタッグトーナメント開催!

### 格闘技エンターテインメントSMACK GIRL ～最強タッグトーナメント2002～
7月6日(土) 東京・ディファ有明

◆開場/17:30 試合開始/18:30
◆入場料/指定S席6,500円 指定A席4,500円 自由席3,500円 ※当日券は500円増し、小学生以下無料
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ディファ有明、書泉ブックマート
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/スマックガール実行委員会☎03-5545-4766

**タッグトーナメント出場予定チーム**
- 石原美和子(禅道会) & 金子真理(禅道会)
- 中村珠美(禅道会) & 片桐美紀(禅道会)
- 張替美佳(GF2) & 金井広美(GF2)
- 藪下めぐみ(Jd') & 坂口一美(GF2)
- 高橋洋子(三晴塾) & 渡邊久江(LIMIT)

**出場予定選手**
- 篠原光(チーム南部)
- 照井和瑛(フリー)

K-1

## K-1ワールドシリーズ

### K-1 WORLD GP 2002 in 福岡
7月14日(日) マリンメッセ福岡

◆開場/13:30 試合開始/15:00
◆入場料/SRS席22,000円 RS席17,000円 SS席12,000円 S席8,000円 A席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット、チケットぴあ、キョードー東京☎03-3498-9999、イープラス(http://eee.eplus.co.jp)
◆会場アクセス/JR博多駅より車で5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

**PRIDE軍団出場予定選手**
- クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン(アメリカ/チーム・イハ)
- ギルバート・アイブル(オランダ/ゴールデン・グローリー)
- トレイ・テリグマン(アメリカ/ライオンズ・デン)
- ジョシー・デンプシー(アメリカ/LAボクシングジム)
- セーム・シュルト(オランダ/ゴールデン・グローリー)

**K-1軍団出場予定選手**
- ピーター・アーツ(オランダ/メジロジム)
- ミルコ・クロコップ(クロアチア/クロコップ・スクワッドジム)
- レイ・セフォー(ニュージーランド/アメリカン プレゼント ボクシングジム)
- シリル・アビディ(フランス/チャレンジ ボクシング マルセイユ)
- アレクセイ・イグナショフ(ベラルーシ/チヌックジム)
- 武蔵(正道会館)
- グラウベ・フェイトーザ(ブラジル/極真会館)
- 宮本正明(正道会館)

## 掣圏道

### 掣圏道アルティメットボクシング公式戦
7月8日(月) 宮城県スポーツセンター

◆試合開始/18:30
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/本間興業帯広支社☎0155-23-6696、ほか
◆会場アクセス/JR仙台駅より「青葉台」行きバスに乗車、「国際センター仙台市博物館前」下車、徒歩2分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

### 掣圏道対截空道全面対抗戦
7月14日(日) 京都・KBSホール

◆開場/14:00 試合開始/15:00
◆入場料/S席7,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/SDK截空道本部☎075-971-2592、KBS-TVプレイガイド☎075-441-4161、チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/地下鉄烏丸線丸太町駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788、截空道総本部☎075-971-2592

### 掣圏道アルティメットボクシング公式戦
7月21日(日) 北海道・滝川市青年体育センター

◆試合開始/14:00
◆入場料/R席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/本間興業帯広支社☎0155-23-6696、ほか
◆会場アクセス/JR函館本線滝川駅から『旭川』行き、または『深川』行きバスに乗車し、『体育センター前』下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/掣圏道協会本部☎0166-27-5788

## K-1ジャパンシリーズ

### K-1 JAPAN GP 2002
9月22日(日) 大阪城ホール

◆詳細未定
◆会場アクセス/JR大阪城公園駅、地下鉄大阪ビジネスパーク駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

**出場予定選手**
- 天田ヒロミ(TENKA510)
- 大石亨(日進会館)
- ノブ・ハヤシ(ドージョーチャクリキ)
- 富平辰文(SQUARE)
- 野地竜太(極真会館)
- 中迫剛(ZEBRA244)
- 武蔵(正道会館)
- ニコラス・ペタス(デンマーク/極真会館)

総合格闘技&ノールール系

## パンクラス

### 絶好調・謙吾への次の刺客は毒蛇男だ！

ドス・カラスJr.にリベンジ、DDTの橋本友彦にも快勝と、完全復活を遂げた謙吾の次回対戦相手が決定した。その相手は、ジェイソン・ゴドシーや、クリス・ライトルと同じI.F.アカデミーに所属するコブラだ。謙吾は「相手がコブラなので、コブラツイストにかからないよう、マングースになって仕留めます」と意気込みを語っている。2連勝の勢いに乗る謙吾が、またしても勝利してくれるか!?

謙吾vsコブラ

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日（日）・昼　東京・後楽園ホール

◆開場/12:30　試合開始/13:30
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　C席4,500円　D席3,500円　立見席3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

#### 決定対戦カード

《特別試合》
百瀬善規vs近藤有己
（禅道会）（パンクラスism）

《特別試合》
謙吾vsコブラ
（パンクラスism）（アメリカ/I.F.アカデミー）

《パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント準決勝》
大石幸史vs國奥麒樹真
（パンクラスism）（パンクラスism）

《パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント準決勝》
伊藤崇文vs長岡弘樹
（パンクラスism）（ロデオ・スタイル）

《ネオブラッド・トーナメント1回戦》
中台寛vs鈴木雅史
（パンクラスism）（U.W.F.スネークピットジャパン）

門馬秀貴vsX
（A3）

アライケンジvs小沢稔
（パンクラスism）（V-CROSS）

北岡悟vs野沢洋之
（パンクラスism）（スタンド）

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
7月28日（日）・夜　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:00
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　C席4,500円　D席3,500円　立見席3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、チャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、パンクラス、パンクラスオフィシャルサイト
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

#### 決定対戦カード

《特別試合》
ネイサン・マーコートvsX
（アメリカ/コロラド・スターズ）

《特別試合》
佐藤光芳vsKEI山宮
（パンクラスGRABAKA）（パンクラスism）

《特別試合》
渡辺大介vs山本孝夫
（パンクラスism）（禅道会）

《特別試合》
砂辺光久vs和知正仁
（ハイブリッドレスリング武限）（チームRoken）

※DAY TIMEで行われたパンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメントの決勝戦と、ネオブラッド・トーナメントの準決勝・決勝戦が行われる

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
8月25日（日）　大阪・梅田ステラホール

◆開場/15:00　試合開始/16:00　◆入場料/SS席8,500円　A席6,500円　B席5,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/P's LAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ（Pコード：594-040）、ローソンチケット（Lコード：52745）、イープラス（http://eee.eplus.co.jp）、チャンピオン大阪☎06-6645-5186、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、神戸住吉・富方☎078-811-6222、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR大阪駅中央北口より徒歩10分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

### PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR
9月29日（日）　神奈川・横浜文化体育館

◆開場/15:00　試合開始/16:30　◆入場料/SS席16,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,500円　2F-A席10,000円　2F-B席6,000円　2F-C席4,000円　3F席4,500円　※当日券は500円増し　◆チケット発売/8月4日（日）一斉発売　※7月28日（日）後楽園ホール大会会場内ロビーにて先行発売
◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード594-040）、ローソンチケット（Lコード:32966）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、ビデオショップチャンピオン、水道橋・マニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、SSSアカデミー高島平☎03-5945-7166、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER 6F☎03-5784-4900、ゴールドジムノース東京☎03-3917-9434、ゴールドジムサウス東京☎03-5460-3535、ゴールドジム行徳千葉☎047-390-3434、パンクラス
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、地下鉄伊勢佐木長者町駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

## DEEP2001

### 「club DEEP」first Challenge in club OZON
7月14日（日）　名古屋・club OZON

◆開場/14:00　試合開始/16:00
◆入場料/オールスタンディング3,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、公武堂☎052-241-2511、DEEP2001事務局
◆会場アクセス/地下鉄桜通線久屋大通駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

#### 決定対戦カード

坂田亘（EVOLUTION）・木村直生（EVOLUTION）vs土居龍晴（スリーディー）・清水優輝（翼鍛錬所）

山崎剛vs岩間朝美
（Team GRABAKA）（名古屋ブラジリアン柔術クラブ）

永井智章vs木村仁要
（直心会名古屋ファイトクラブ）（誠ジム）

吉信vs竹内敬之
（四王塾）（誠ジム）

兼定力vs稲吉啓太
（The Body Box）（P's LAB）

則次宏紀vs大川真人
（直心会名古屋ファイトクラブ）（大和ジム）

マリオ・セルジオ横山vs大野敏彦
（マリオ・セルジオ柔術アカデミー）（エスファイブ）

伊藤充裕vs高井史郎
（The Body Box）（大和ジム）

### DEEP2001 6th IMPACT
9月7日（土）　東京・大田区体育館

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/未定
◆チケット発売/7月14日（日）一斉発売
◆チケット発売所/未定
◆会場アクセス/地下鉄京急梅屋敷駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

9・7「DEEP2001 6th IMPACT」チケット先行発売
〈先行発売〉
7月6日（土）、7日（日）10:00～18:00
DEEP2001事務局　☎052-339-0303

## 女子総合格闘技・AX

### AX Vol.5
7月26日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場18:00　試合開始/19:00　◆入場料/未定　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/女子総合格闘技・AX☎03-3478-4605

#### 出場予定選手

藤井恵（GIRL FIGHT AACC）

キックボクシング

## シュートボクシング協会

### "サンボの女王" しなしさとこも参戦！

**SHOOTBOXING WORLD TOURNAMENT "S-cup 2002"**
**7月7日（日） 神奈川・横浜文化体育館**

◆開場/15:00 試合開始/16:00
◆入場料/SRS席20,000円 RS席15,000円 SS席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザKINGS☎03-3462-1001、シュートボクシング協会
◆会場アクセス/JR関内駅南口より徒歩3分、市営地下鉄伊勢佐木長者駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

**決定対戦カード**

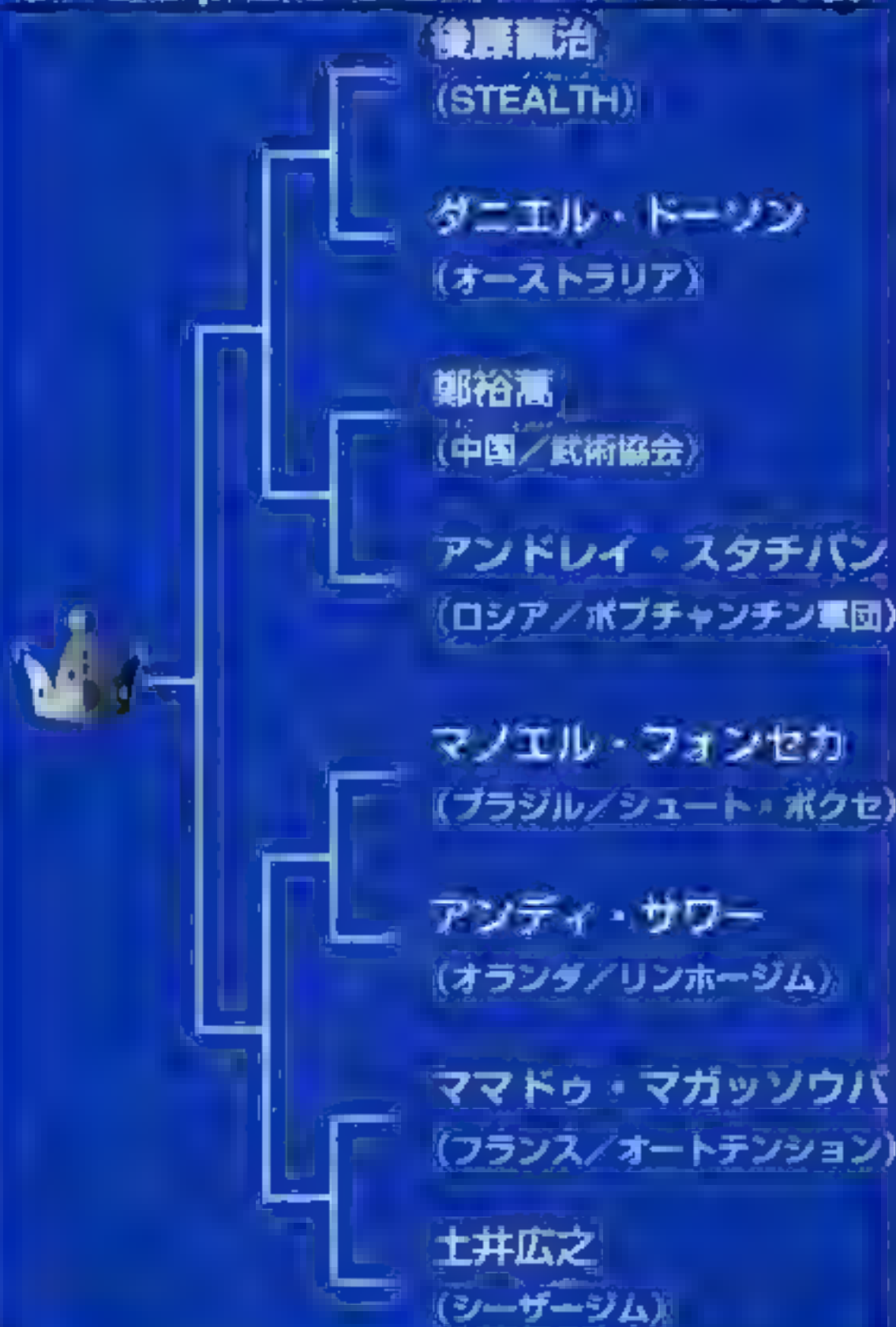
〈リングスKoKルール〉
緒形健一vsナーコウ・スパイン
（シーザージム）（オーストラリア）

〈リングスKoKルール〉
ヴォルク・アターエフvsカーロス・バヘット
（リングス・ロシア）（ブラジル）

〈シュートボクシングプロ公式戦〉
宍戸大樹vsレオン・ビルゼン
（シーザージム）（オランダ／リンホージム）

〈シュートボクシングプロ公式戦〉
雷暗暴vsネイル・スウェイルズ
（フリー）（オーストラリア）
YU IKEDAvsネイサン・コーベット
（湘南ジム）（オーストラリア）
しなしさとこvs X
（GIRL FIGHT AACC）

**S-cup2002トーナメント表**

- 後藤龍治（STEALTH）
- ダニエル・ドーソン（オーストラリア）
- 鄭裕蒿（中国／武術協会）
- アンドレイ・スタチバン（ロシア／ボブチャンチン軍団）
- マノエル・フォンセカ（ブラジル／シュート・ボクセ）
- アンディ・サワー（オランダ／リンホージム）
- ママドゥ・マガッソウバ（フランス／オートテンション）
- 土井広之（シーザージム）

## 修斗

### 修斗、夏の大一番！ 今年はどんなドラマが生まれるのか!?

昨年は、桜井"マッハ"速人のまさかの敗退で幕を閉じた、修斗大阪大会。今年のメインは、ウェルター級王者の五味隆典が務めることとなった。また、佐藤ルミナや地元・関西出身の須田匡昇、三島☆ド根性ノ助、池本誠知といった豪華なメンツが出揃った。海外の強豪選手を迎え撃つかたちとなった今大会は、年末のタイトル戦線へ向けて見逃せない大会になりそうだ。

**プロフェッショナル修斗公式戦**
**6月29日（土） 大阪・堺市金岡公園体育館**

◆開場/14:00 試合開始/16:00
◆入場料/SRS席15,000円 RS席12,000円 PS席12,000円 SS席10,000円 P席10,000円 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、eプラス（http://eee.eplus.co.jp）、ローソンチケット、CNプレイガイド、e-ticket（http://www.e-ticket.net）、リングソウル☎078-333-6690
◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線新金岡駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

**決定対戦カード**

五味隆典vsレオナルド・サントス
（木口道場レスリング教室）（ブラジル／ノヴァ・ウニオン）

須田匡昇vsクリス・ブラウン
（クラブJ）（オーストラリア／エクストリーム）

三島☆ド根性ノ助vsイラン・マスカレンニャス
（総合格闘技道場コブラ会）（ブラジル／ノヴァ・ウニオン）

佐藤ルミナvsハビエル・バスケス
（K'zファクトリー）（キューバ／ミレンニア柔術）

ディブ・ストラッサーvs池本誠知
（アメリカ/ストラッサーズ・フリースタイル・アカデミー）（ライルーツ・コナン）

〈2002年新人王決定戦トーナメントミドル級準決勝〉
徳岡靖之vs福本洋一
（パレストラ加古川）（和術慧舟會千葉支部）

辻嘉一vsザ・グレート浪速
（G-FREE）（総合格闘技夢想戦術）

**プロフェッショナル修斗公式戦**
**7月19日（金） 東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30 試合開始/18:30
◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席5,000円 A席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、書泉ブックマート、後楽園ホール、フィットネスショップ水道橋、大盛堂書店☎03-5784-4900、KEEL CAFE☎03-5725-7338
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ガッツマン・プロモーション☎03-3325-1500

**決定対戦カード**

アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラvs阿部裕幸
（ブラジル／ワールド・ファイト・センター）（AACC）

勝田哲夫vs井上和浩
（K'zファクトリー）（インプレス）

廣野剛康vs久保山誉
（和術慧舟會）（K'zファクトリー）

朴光哲vsトリコ・ジュニオール
（K'zファクトリー）（ブラジル／ワールド・ファイト・センター）

〈2002年新人王決定戦トーナメントウェルター級準決勝〉
川尻達也vs椎木努
（総合格闘技TOPS）（直心会格闘技道場）

〈2002年新人王決定戦トーナメントウェルター級準決勝〉
生駒純司vs阿部マサトシ
（直心会格闘技道場）（AACC）

高橋大児vs塩沢正人
（K'zファクトリー）（和術慧舟會）

内村世己vsドウドゥ・ギマラエス
（パレストラ東京）（ブラジル／ワールド・ファイト・センター）

## 総合格闘技&ノールール系

**TREASURE HUNT 02**
**7月27日（土） 東京・北沢タウンホール**

◆開場/17:00 試合開始/18:00
◆入場料/RS席6,000円 S席5,000円 A席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、書泉ブックマート、後楽園ホール、KEEL CAFE☎03-5725-7338、e-ticket（http://www.e-ticket.net）
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/K'zファクトリー☎042-740-5710

**決定対戦カード**

岩瀬茂樹vs菊地昭
（総合格闘技TOPS）（K'zファクトリー）

喜多浩樹vs小松晃
（パレストラ東京）（総合格闘技道場コブラ会）

大河内貴之vs小谷ヒロキ
（パレストラ東京）（K'zファクトリー）

石井俊光vs豊島孝尚
（タイガープレイス）（総合格闘技STF）

**プロフェッショナル修斗公式戦**
**8月27日（火） 東京・北沢タウンホール**

◆詳細未定
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

**プロフェッショナル修斗公式戦**
**9月16日（月・休） 神奈川・横浜文化体育館**

◆詳細未定
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

**決定対戦カード**

〈フェザー級タイトルマッチ〉
大石真丈vs池田久雄
（K'zファクトリー）（PUREBRED大宮）

## 新日本キックボクシング協会

### 勇者たちの挑戦 Part III

**6月30日（日）　東京・ディファ有明**

◆開場/15:30　試合開始/16:00
◆入場料/RS席10,000円　A席7,000円　B席5,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/協会各ジム
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車徒歩3分、りんかい線国際展示場駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/尚武会☎0426-51-5184

**主な対戦カード**

―5回戦―

鷹山眞吾 vs ナーティー・ソーカムシン
（尚武会）　（タイ）

風神和晶 vs ジャワリット・チューワッタナ
（野本塾）　（タイ）

モンチーエジマ vs スダッチ
（治政館）　（ホワイトタイガー）

### BREAK A WAY！～開拓～

**7月27日（土）　東京・後楽園ホール**

◆開場/16.45　試合開始/17 00
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席4,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/伊原道場、チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/伊原道場☎03-3461-4258

**主な対戦カード**

―5回戦―

武田幸三 vs X
（治政館）

〈日本ライト級タイトルマッチ〉

石井宏樹 vs 井場洋貴
（藤本）　（治政館）

深津飛成 vs X
（伊原）

小出智 vs 菊地剛介
（治政館）　（伊原）

松本哉朗 vs X
（藤本）

米田克盛 vs 高杉茂男
（トーエル）　（伊原）

滝谷庸志 vs 清水政和
（伊原）　（治政館）

## 全日本キックボクシング連盟

### 15周年記念大会で、3大タイトルマッチ開催！

小林聡が、海外から強豪選手を迎え、WPKC世界ムエタイ・ライト級のベルトを賭けて闘うことが決定した。また、この日は佐藤嘉洋のWKA世界ウェルター級タイトル、安川賢の全日本バンタム級タイトルの防衛戦も組まれ、3大タイトルマッチが行われることになる。そして、ライト級王者の林亜欧、ヘビー級王者の安部康博、ミドル級1位の清水貴彦のカードも組まれ、15周年記念興行はオールスター戦となった！

### CRUSH

**7月21日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17.30　◆入場料/RS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、BoutReview（http://www.boutreview.com）、全日本キック電話予約☎03-3365-1171、全日本キック公認サイト（http://www.ajkickboxing.com/）
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

**主な対戦カード**

―5回戦―

〈WPKC世界ムエタイ・ライト級タイトルマッチ〉

小林聡 vs X
（藤原）

〈WKA世界ムエタイ・ウェルター級タイトルマッチ〉

佐藤嘉洋 vs ジャン・スカボロスキー
（名古屋JKF）　（フランス）

〈全日本バンタム級タイトルマッチ〉

安川賢 vs 劉澤誠
（S.V.G.）　（作真会館）

大野崇 vs 清水貴彦
（BENEC）　（超越塾）

林亜欧 vs 大月晴明
（S.V.G.）　（REX JAPAN）

安部康博 vs X
（建武館）

Suzuki 3:26 vs 西田和嗣
（GENESIS）　（S.V.G.）

## J-NETWORK

### J-BLOODS III

**7月12日（金）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS指定席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　B席3,000円　立見席3,500円（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/J-PROMOTION☎03-3418-5248

**主な対戦カード**

―5回戦―

増田博正 vs ノッパガオ・ソーワンチャー
（ソーチタラダ）　（タイ）

五十嵐幹志 vs 木村允
（ソーチタラダ）　（MA／土浦）

尾田淳史 vs 竹村健二
（JMTC）　（全日本／JKF）

黒田英雄 vs 中村玄志
（アクティブJ）　（MA／山木）

## MA日本キックボクシング連盟

### 第5回梶原一騎杯 キックガッツ2002

**6月30日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/山木ジム☎03-3485-7060

**主な対戦カード**

5回戦

〈MA日本フライ級タイトルマッチ〉

中林勇人 vs 井上哲
（ビクトリー）　（山木）

エリック・カスタロ vs 武藤孝行
（キューバ）　（ビクトリー）

ラウル・ロッブース vs 田中信一
（キューバ）　（山木）

ラビット関 vs ヨンユット・ゲッソンリット
（山木）　（真樹ジム愛知）

山田健博 vs 天野哲成
（東金）　（マイウェイ）

荻野兼嗣 vs 俊太郎
（ビクトリー）　（士道館）

## 日本キックボクシング連盟

### 2002年破壊シリーズ

**6月29日（土）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/RS席10,000円　指定A席5,000円　指定B席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/日本キックボクシング連盟☎03-3691-4536

**主な対戦カード**

―5回戦―

〈NKBウェルター級決勝戦〉

小野瀬邦英 vs 石毛慎也
（渡辺）　（東京北星）

〈NKBバンタム級決勝戦〉

中野智則 vs 山本恭太
（パシフィック）　（大和）

海老沢朋和 vs 獅子丸修平
（平戸）　（小国）

中岡秀夫 vs 馳大輔
（大阪真門）　（JK国際）

高野洋一 vs 飯田誠一
（神武館）　（町田金子）

その他

## 日本女子ボクシング協会

### FIGHTING GIRLS PT2
**8月11日（日）　東京・北沢タウンホール**

◆開場/16:00　試合開始/16:30
◆入場料/SRS席10,000円（当日12,000円）　RS席7,000円（当日8,000円）　S席6,000円（当日7,000円）　立見席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/日本女子ボクシング協会
◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/日本女子ボクシング協会☎03-3485-7063

空手

## トライアル実行委員会

### トライアル～カラテの逆襲～
**7月6日（土）　東京・ディファ有明**

◆開場/10:00　試合開始/11:00
◆入場料/SS席7,000円　S席5,000円　自由席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/トライアル実行委員会（TOY BOX）☎0265-34-2170

**決定対戦カード**

〈空手の逆襲〉
熊谷真尚（禅道会） vs 富宅飛駈（パンクラス大阪）
滝沢嘉津哉（飛翔塾） vs 似田貝旭（WKネットワーク）
久保輝彦（禅道会） vs 大山秀人（JWA）
小林元和（飛翔塾） vs 佐藤力（SKアブソリュート）
笠原仁（笠原道場） vs 石原利生（ストライブル）
伊藤明（拳心会） vs 杉山エイジ（JWA）

〈特別試合〉
井上敦（ストライブル） vs 飯田秉人（WKネットワーク）
長谷川秀彦（SKアブソリュート） vs 鬼木貴典（TEAM ROKEN）
宮川基英（総闘館） vs 小林達也（MAC）

アマチュア

## アマチュアシュートボクシング

### 第6回ライトアマチュアシュートボクシング選手権東京大会
**7月14日（日）　東京・台東リバーサイドスポーツセンター体育館3階第1武道場**

◆試合開始/12:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/東武伊勢崎線・都営浅草線・地下鉄銀座線浅草駅より徒歩10分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

## 大道塾

### THE WARS VI
**7月17日（水）　東京・後楽園ホール**

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/SRS席13,000円　SS席9,000円　S席7,000円　A席4,000円　B席3,000円　立見席3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/大道塾総本部☎03-5953-1860

**決定対戦カード**

〈WARSルール〉
小川英樹（大道塾） vs ドゥロ・ブノワ（フランス）
山崎進（大道塾） vs フォートリー・パトリック（フランス）
藤松泰通（大道塾） vs ドゥニ・フランソワ（フランス）
飯村健一（大道塾） vs ファド・エズベリ（フランス）
八隅公平（パレストラ東京） vs ディディエ・リュッツ（フランス）
稲田卓也（大道塾） vs ボナフ・ロラン（フランス）
八島有美（大道塾） vs ティカステル・ステファニー（フランス）

〈北斗旗ルール〉
佐藤繁樹（大道塾） vs 伊賀泰司郎（大道塾）
平塚洋二郎（大道塾） vs マシュー・ハミッシュ・マクレガ（フランス）

## B-CLUB

### グラップリング-Bタッグバトル vol.2
**7月7日（日）　埼玉・パトラーツジム B-CLUB**

◆開場/13:00　試合開始/14:30
◆入場料/無料
◆会場アクセス/東武伊勢崎線越谷駅より徒歩1分
◆お問い合わせ/パトラーツジム［B-CLUB］☎048－963－7515

## アマチュア修斗

### 第2回北海道オープントーナメント
**7月7日（日）　北海道・白石区体育館柔道場**

◆開場/9:00　試合開始/10:30
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄東西線南郷7丁目駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/日本修斗協会アマチュア普及委員会☎03-5912-6455

### 第1回東北オープントーナメント
**7月14日（日）　宮城・泉総合運動公園柔道場**

◆開場/9:00　試合開始/10:30
◆入場料/無料
◆会場アクセス/市営地下鉄泉中央駅から2番バスのりば乗車、「泉総合運動場社会福祉センター前」下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/日本修斗協会アマチュア普及委員会☎03-5912-6455

キックボクシング

## ニュージャパンキックボクシング連盟

### DREAM RUSH 5
**7月14日（日）　東京・後楽園ホール**

◆開場/16:45　試合開始/17:00
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　指定A席5,000円　指定B席4,000円　指定C席3,000円　立見席2,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ほか
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング事務局☎03-5625-2371

**決定対戦カード**

-5回戦-

〈NKB統一ランキングフライ級決勝戦〉
川津真一（町田金子） vs 唐沢たくみ（八王子FSG）
オーローノー・ポームアンウボン（タイ） vs 小次郎（ウィラサクレック）

〈NKB統一ランキングバンタム級2位決定戦〉
藤原国崇（拳之会） vs 弘中史樹（ウィラサクレック）
AEK-UBON（タイ） vs HIROSHI（サシプラパージャパン）

〈NKB統一ランキングバンタム級4位決定戦〉
新美友恒（大和） vs 増倉教士（一心館）

〈NKB統一ランキング戦フェザー級〉
外山繁幸（上州松井） vs 難波博志（戦空道）
岩井伸洋（小国） vs 立嶋篤史（ASSHI-P）

〈K-U・NJKF交流戦〉
高橋卓也（拳之会） vs 山上雅留（八王子FSG）

### Ticket Present！

7・14「DREAM RUSH 5」の観戦チケットを、「SRS・DX」読者3名様にプレゼント！　希望者はハガキに氏名、年齢、職業、住所、電話番号、今号の感想を明記して、下記のあて先までご応募を。締め切りは7月9日（火）必着。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆あて先／〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12　神田NSビル8F　SRS・DX編集部「7・14ニュージャパンキックチケットプレゼント」係

## 主要チケット発売所一覧

チケットぴあ ☎03-5237-9999
ローソンチケット ☎03-3569-9900
CNプレイガイド ☎03-5802-9999
オデッセー ☎03-3408-0331
渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
チャンピオン ☎03-3221-6237
書泉ブックマート ☎03-3294-0011
フィットネスショップ水道橋 ☎03-3265-4646
後楽園ホール ☎03-5800-9999
e+（イープラス） http://eee.eplus.co.jp ☎03-5749-9911

# バックナンバー インフォメーション

これ以前の号をお求めの方は、グレート・アントニオへお越しを！（ただし、完売した号もございますので、ご確認ください）

**〈3・14　65号〉**
●大会速報/2・24『プライド19』さいたまスーパーアリーナ大会
●大会詳報/2・11『K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメント』代々木第2体育館大会、2・15リングスラストマッチ横浜文化体育館大会
●ターザン山本復活！『K-1 WORLD MAX』座談会
●SRS・DXの注目/小比類巻貴之&黒崎健時インタビュー、カーロス・ニュートンインタビュー、3・30DEEPに向け佐伯代表がメキシコ視察「これが噂のルチャ最強軍団だ！」
●大会レポート/2・11修斗神戸大会、2・15全日本キック後楽園大会、2・17パンクラス大阪大会、2・22THE BEST後楽園大会

**〈3・28　66号〉**
●特集「次は『K-1vsPRIDE』か？」/ミルコ・クロコップ、桜庭和志インタビュー
●徹底検証/WWF緊急座談会、武藤敬司、島田裕二インタビュー、石井館長、鈴木健想、村浜武洋、篠原光に聞く「あなたはWWFをどう見ましたか？」
●大会詳報/3・3『K-1 ワールドGP2002』名古屋レインボーホール大会
●3・30『DEEP2001』名古屋大会情報/和田良覚、横井宏考、エル・ソラールインタビュー
●SRS・DXの注目/ホドリゴ・グレイシーインタビュー、前田日明vs山崎一夫トークショー
●大会レポート/2・24K-1オランダ大会、3・2ZERO-ONE1周年記念両国大会、3・2SMACK GIRLディファ有明大会　ほか

**〈4・11　67号〉**
●《緊急特集K-1vs『プライド』》/K-1&『プライド』ファイターを徹底検証、セーム・シュルト、山本喧一インタビュー、ボブ・サップとは何者か？、ブッカーKが語る総合ファイターの打撃力　ほか
●大会速報/3・22『UFC36』ラスベガス大会
●SRS・DXの注目/田村潔司、女子中学生ファイター・Eikaインタビュー
●3・30『DEEP2001』最終情報/滑川康仁、渡辺大介インタビュー
●大会レポート/3・15修斗後楽園大会、3・17全日本キック後楽園大会、3・24コンバットレスリング選手権大会、3・24新日本キック後楽園大会

**〈4・25　68号〉**
●特集「『K-1vsPRIDE』ルール問題こそエンターテインメントだ！」/ミルコvsシウバ戦のルールはどうなる!?、関係者に聞く「ルール問題」、ギルバート・アイブル、ヴァンダレイ・シウバインタビュー　ほか
●大会詳報/3・30『DEEP2001』名古屋大会
●SRS・DXの注目/3・17『2H2H・SIMPLE IS THE BEST 4』オランダ大会、マルコ・ファス、ユセフ・トルコ、報道カメラマン原悦生インタビュー、PRIDE公認・BCGオープンセミナー情報
●大会レポート/3・25パンクラス後楽園大会、3・31修斗名古屋大会、3・30MAキック後楽園大会、4・7スマックガール、3・31SB後楽園大会

**〈5・9&5・23　合併号　69号〉**
●完全速報/4・21『K-1 BURNING 2002』広島大会
●SRS・DXの注目/ヴァンダレイ・シウバインタビュー、編集部トーク覆面座談会Special、郷野聡寛インタビュー、中井祐樹&主催者に聞く日本初のプロ柔術大会『G-lum』の見方
●4・28PRIDE.20横アリ大会最終情報/アレクサンダー大塚vsターザン山本対談、菊田早苗、パンクラス尾崎社長インタビュー
●5・11K-1ミドル級世界一決定戦直前情報/魔裟斗、小比類巻貴之、アルバート・クラウスインタビュー
●大会情報/4・12全日本キック後楽園大会、3・23極真パリ大会、4・14修斗下北沢大会

**〈6・13　臨時増刊号　70号〉**
●完全速報/4・28『PRIDE.20』横アリ大会
●直前情報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、黒崎健時インタビュー、ガオラン・カウイチットとは何者か？
●これからどうなる？　K-1vsPRIDE/セーム・シュルト、武蔵インタビュー
●SRS・DXの注目/5・11パンクラス直前情報…DDT橋本友彦インタビュー、ノゲイラ兄弟&マリオ・スペーヒーvsターザン山本対談
●大会レポート/4・21J-NETWORK後楽園大会、4・25木口道場下北沢大会、4・21極真全アジア空手選手権大会

**〈6・13&6・27　合併号　71号〉**
●特集/2002年マット界上半期総括座談会
●完全詳報/5・11『K-1 WORLD MAX 2002～世界一決定戦～』、初代王者アルバート・クラウスインタビュー、黒崎健時インタビュー
●直前情報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会…ボブ・サップ、中迫剛インタビュー
●GW前後の大会大特集/5・10『UFC37』ルイジアナ大会、5・11パンクラス大阪大会、5・2プロ柔術『G-lum』、5・5修斗後楽園大会、5・6プレミアム・チャレンジ、5・6スマックガール&5・4AX、5・13SB大阪大会、5・5北斗旗仙台大会、4・28MAキック後楽園大会、5・4全日本キック下北沢大会、5・12ニュージャパンキック後楽園大会、4・29女子ボクシング下北沢大会

**〈7・11　臨時増刊号　72号〉**
●大会速報/6・2『K-1 SURVIVAL 2002』富山大会
●6・23『PRIDE.21』直前情報/桜庭和志インタビュー、大山峻護インタビュー
●大会詳報/5・25『K-1 WORLD GP 2002 inパリ』
●SRS・DXの注目/6・8～9極真全日本ウェイト制選手権大会プレビュー、6・17 J-DO東京進出、東孝 大道塾塾長インタビュー、7・7 S-cup直前情報・緒形健一の総合特訓に密着
●大会レポート/5・26新日本キック後楽園大会、5・28パンクラス後楽園大会、6・1スマックガール、5・31～6・2全日本ブラジリアン柔術選手権、5・30全日本キック後楽園大会

**バックナンバー・通信販売方法**
定価／各680円　送料／1冊＝110円、以下一冊増えることに50円増し。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　「SRS・DX　バックナンバー係」まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

# 浅草キッドの底抜けアントンハイセル

©浅草キッドHP「キッドリターン」
http://www.asakusakid.com

## W杯以上にマット界も大荒れ！ 初夏の事件簿を総ざらい!!

**博士**　世間はワールドカップ一色！　過熱する報道の中で唯一対抗した格闘技系のビッグニュースは長州力の新日本プロレス離脱会見だ！

**玉袋**　長州はアニマル浜口、谷津らを率いてジャパンプロレスを旗揚げし、全日マットに殴り込みですよ！

**博士**　いつの時代の離脱劇だよ！　長州は退社にあたり、新日本プロレスの道場で50分もアントニオ猪木＆新日本プロレス批判して出ていった。

**玉袋**　文字どおり、新日本プロレスに糞ぶっかけて出てきましたね！

**博士**　しかも思いっきりだよ！　長州は我らが神様、猪木様に対して「感謝の気持ちもない」と痛烈批判！

**玉袋**　対する猪木様も長州の新日本プロレス道場での会見に対して「オイ、またぐなよ」と言ったらしいですよ！

**博士**　大仁田じゃないんだから言わないよ！　長州は、その後も怒り収まらず、藤波社長批判までも。

**玉袋**　本当はおまえが俺の噛ませ犬だったんだよ！　と。

**博士**　そんなことは言ってないだろ！　でも、それに近いことは言ってたな。

**玉袋**　さあ、これで、猪木VS長州、一気に決定ですよ。

**博士**　気が早すぎるだろ。まぁ、猪木様は冷静だから泥仕合には発展しないかもしれないけど、この展開も面白くてしょうがない！

**玉袋**　物議を醸す、波風立ててこそプロレス界ですよ！

**博士**　生臭いこと、きな臭いことは、この世界は大歓迎だよ。

**玉袋**　そう、消臭力じゃあ、困るんですよ。

**博士**　よくぞワールドカップに一石投じてくれたよ！

**玉袋**　一度は、消滅した長州VSヒクソンなんてこともまた浮上してくる可能性もありますからね。

**博士**　そいつは、いかがなものか？　どんなことしても見たいカードとは思わないけど、もう、やるなら見るよ！　むしろ、長州も今後、弟子も育てるって言ってるんだから、アントニオ猪木軍VS長州軍を「プライド」で実現させればいい。

**玉袋**　そういえば、猪木もブラジル人の隠し子がいるそうだし。

**博士**　隠し子じゃないよ、秘蔵っ子の弟子がいるんだよ。遺恨・怨念は法廷なんかに持ってかないでリングに持ち込め!!

**玉袋**　分かったか！　尾崎社長！

**博士**　誰に言ってるんだよ。そしてワールドカップ何するものぞと「プライド」がやってきた！　今回は「プライド21」展望といくぞ！　まずK―1富山大会で大暴走したボブ・サップ。

**玉袋**　一人フーリガン状態ですよ！　日本の警察ももっとしっかり警備しろ！

**博士**　警察は関係ないよ！

**玉袋**　でも、サップのあの突撃だったら、瀋陽の日本領事館も簡単に突破できましたよ！

**博士**　サップはどこに亡命する必要があるんだよ！　石井館長はあの結果を受けて、即、再戦を決定！

**玉袋**　しかし、一人じゃ勝ち目はないので、前回「プライド」で負けたヤマノリと中迫のタッグでサップ撃退に臨みます。

**博士**　勝手にハンディキャップマッチに持っていくな！　そのサップと対戦するのがなんと田村潔司！

**玉袋**　凄いカードですよ！

**博士**　あの怪物に潰されるのか？　それとも田村の怪物狩りが成功するか？

**玉袋**　体重差を気にしていた田村だけに、このカードは意外ですよ！

**博士**　リングスでヘビー級と闘って倒してきた田村だけど、今回ばかりはどうしようもないかもな！　ついに三沢率いるノアの最終兵器が「プライド」参戦！

**玉袋**　待ってました！　永源遥!!

**博士**　出るか！

**玉袋**　永源のツバ攻撃がリングサイドの百瀬さんを直撃！

**博士**　バカ野郎！　取り返しのつかない事態になるだろ！　ノアから参戦するのは杉浦だよ！　対戦相手は新参者のグレイシーのダニエル・グレイシー。

**玉袋**　どこ系列のグレイシーなんですか？

**博士**　ヘンゾ、ハイアンの従兄弟にあたり、ビクトー・ベウフォートとも従兄弟らしいぞ。

**玉袋**　分かりやすく行列ができるラーメン屋の系列で例えると、新宿の武蔵と大久保の龍の従兄弟で、中野の青葉とも従兄弟みたいなもんですね。

**博士**　余計わけが分からないよ！　とにかくグレイシーの血が脈々と流れているんだよ！

**玉袋**　彼は変わり種でファイターとしてではなくモデルとして生計を立てていたらしいですね。

**博士**　そうらしいな。

**玉袋**　ってことは筋肉番付の照瑛が参戦するみたいなもんですかね？

**博士**　そんなイージーな相手じゃないよ！　しかしノアとグレイシーが絡むとは、ここのところ、閉鎖的になっていた、ノアがいよいよ打って出たって感じだな。

**玉袋**　本田多聞も出撃してくれば、ヘビー級戦線も凄いことになりそうですよ！

**博士**　杉浦にはここで大ブレイクして第2の藤田になってもらいたい。

**玉袋**　藤田ミノルですね？

**博士**　和之だよ！　そしてロシアからはエメリヤエンコ・ヒョードルが参戦！

**玉袋**　名前が覚えづらいですよ！

**博士**　リングアナが噛み噛みになる可能性があるよ！

**玉袋**　セコンドにはサッカー日本戦に負けてモスクワの町で暴動しまくったロシア人たちがつくんですよね。

**博士**　あんな暴徒来なくていいよ！　セコンドはヴォルク・ハンとアンドレイ・コピィロフだよ！

**玉袋**　頼もしいですね！　コピィロフは何ラウンドでヘロヘロになるかですよね。

**博士**　セコンドぐらいじゃ試合みたいにヘロヘロにならないよ！　リングス最強の座にいたヒョードルの参戦は楽しみだ！

**玉袋**　ファイトマネーは前田日明に155万円！

**博士**　それは前田がパンクラスの尾崎社長と揉めて、払うことになった金額だよ！　リングスファンとして、どうかひとつヒョードルに勝ってもらいたい。

**玉袋**　そしてどうせならば、リングス・ロシアとして出場してもらって、前田日明が「プライド」の会場にやってくるのを期待するよ！

**博士**　前田が「プライド」の会場に来るだけで、大・前田コールが響くだろうな。

**玉袋**　俺も、「プライド」で前田コールしたいよ!!

**博士**　前田コールならぬ、久々のマーク・コールマンも登場だ。UFCでの因縁もあるドン・フライVSマーク・コールマンが決定。

**玉袋**　でも、コールマンは実戦久しぶりじゃないですか。

**博士**　たしかにノゲイラに負けて以来の「プライド」だ。

**玉袋**　フライはあのヒゲを守ることができるかなぁ？

**博士**　べつにヒゲを賭けた試合じゃないよ！（って書いたところで、コールマンが負傷。対戦相手は高山に変更になった）

**玉袋**　とにかくワールドカップは終わっちまえば、それまでだけど、「プライド」は年中無休のワールドカップ！

**博士**　夏に向けてでかいことが起きそうだ！　見せろ格闘魂！

**玉袋**　見せろ人間国宝！

**博士**　そんな中村雁次郎の股間なんか見たくないよ！　■

### 7·14 K−1博多大会でギルバート・アイブルと対決濃厚

# 他流試合用、K−1ファイターにレイ・セフォー浮上！

K−1VS「プライド」が今年に入って格闘技界の話題を集めているが、今度の7・14K−1博多大会（ワールドGPシリーズ）では、4名の「プライド」ファイターの参戦が濃厚。最大の注目はギルバート・アイブルのK−1初参戦だが、なんと対戦相手はミルコではなく、レイ・セフォーがここにきて浮上してきた。新たな他流試合用ファイターにレイ・セフォーは急成長するのか？その最終目標はいったい誰だ？

予想

# デンプシー、クイントン、テリグマン、そしてアイブルが参戦!
# 純K—1か? 超K—1か? 今のK—1は二度おいしい!

今年に入って、ミルコVSシウバや武蔵VSシュルト戦といった他流試合と、ハントVSミルコ、ハントVSバンナといった純K—1の2本立てで勝負してきたK—1。他流試合では緊張感と意地を見せ、純K—1ではK—1ならではのド迫力を生み、興行的にもまったくハズレがなくなっている。そのうえ、中量級という新しいソフトを生んだんだから、K—1は創立10周年を迎えて、非常に充実してきていると言っても過言ではない。

そんなK—1がW杯の余韻さめやらぬ7・14ワールドGP福岡大会で勝負に出る。福岡大会のテーマは、他流試合と純K—1の2本立てで、豪華ワンマッチ戦の数々を組むというのだ。

まず、注目の他流試合では「プライド」からギルバート・アイブルとトレイ・テリグマン、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンの3名が参戦。そして、ZERO—ONEからジョシー・デンプシーが初挑戦してくる。喧嘩屋アイブルの対戦相手には、当初、切り札のミルコ・クロコップが噂されていたが、なんとレイ・セフォーが大抜擢されることが濃厚だ。

セフォーはもともと、ミルコに匹敵するほど身体能力の優れた総合向きの選手と言われ、昨年末の猪木祭りでもゲーリー・グッドリッジとの対戦が予定されていた。

しかし、ホイス・グレイシーを特別コーチに呼んで総合の練習をしておきながら、試合10日前に腰痛を発症。あえなく出場を断念している。

しかし、今年に入ってセフォーはK—1ルールでマイク・ベルナルドを撃破し、さらにシュート・ボクセのジュリオ・セザール・サンタナを1Rで豪快KO! 名勝負製造機として再び脚光を浴びはじめている。それだけに、石井館長としては、ミルコに続く他流試合用のK—1ファイターに育てていくつもりだ。

しかも、セフォーはミルコVSシウバ戦が行われた「プライド」の会場で、シュート・ボクセ軍団にガンを飛ばされており、「シウバとやりたい!」と石井館長に直訴している選手。このアイブル戦の向こうに、セフォーVSシウバ戦が見えてくるかもしれない。それだけに、見逃せない一戦となるだろう。

オランダの喧嘩屋アイブルの暴走ファイトに対し、超テクニシャンのセフォーはどう闘うのか。もし、いい試合をすれば、昨年のミルコ同様、今年はセフォーが大ブレイクするかもしれない。

K—1ジャパンGPを控えた武蔵と中迫剛にも、他流試合が用意された。武蔵は噂どおり、拳聖ジャック・デンプシーのひ孫であるジョシー・デンプシー、中迫には佐竹雅昭、アレクサンダー大塚を破って、桜庭をも苦しめている異色のホームレスファイター、ジャクソンと対戦することが浮上した。

武蔵はシュルトとの他流試合で大きな評価を得ているし、一方の中迫はボブ・サップの暴走ファイトで大きな話題を呼んだ。今のK—1ジャパン勢と「プライド」のからみは好勝負ばかり。武蔵、中迫の両エースがどんな感情を爆発させるか見ものだ。

▲さあ、サッカーW杯の次はK—1だ。W杯のあとだけに、石井館長は刺激の強いカードを用意してきた

そして、「プライド」勢の中でも、一番やっかいなのが意外にも、ライオンズ・デンのテリグマンだ。片肺戦士テリグマンはボクシング出身の選手で、あのイゴール・ボブチャンチンを打撃だけで完封した選手。「プライド」勢の中でも、一番K—1に出場したがっていた選手である。その対戦候補に極真のグラウベ・フェイトーザの名前が挙がっているところが面白い。極真戦士が純K—1ファイターでないテリグマンとどんな試合をするかに注目したい。

そんな他流試合4カードに対し、純K—1の注目カードが2試合用意された。それがピーター・アーツVSシリル・アビディとミルコ・クロコップVSレミー・ボンヤスキー戦である。

アーツVSアビディは、アビディの出世試合として、また名勝負数え唄としてこれまで3戦行われているが、なんとアビディが2勝1敗と勝ち越している。3度目でアーツがやっと勝ったのは、一昨年のK—1ワールドGP決勝大会だったが、この時もアーツはバッティングで負傷し、準決勝を棄権しているのだ。

その当時から比べると、どこかすっきりとしないファイトが続いているアーツとアビ

# アイブルに緊急インタビュー
## 6・23『プライド21』が終わるまで K－1のことなんて考えられるか！

―アイブルさん、調子はどうですか？

アイブル　絶好調だぜ。なんてったって3カ月ぶりだしな。拳の回復を待ちながら、練習中心の毎日だ。ただし、セックスは毎日別の女とやりまくってるよ（笑）。

―ところで、今度K―1の試合に出るんですって？

アイブル　そいつは知らねぇなぁ。23日の「プライド21」が終わらなければ何も言えねぇぜ。だってよぉ、23日の試合で何かケガでもしてみろよ。それで終わりじゃねぇか。23日の試合がどんな結果に終わるかで参戦するかどうかもねぇだろう。

―でも、アイブルさんがミルコに挑戦しているという記事が日本のスポーツ紙に載ってましたが。

アイブル　なんだそりゃあ（笑）。俺は知らねぇぜ。だいいち、俺は総合のファイターだぜ。なんで俺が今さら自らキックに挑戦しなきゃならねぇんだ。俺はプロのファイターだから、オファーされれば、答はイエスかノーだ。

―ミルコについては知っているんですか？

アイブル　知らねぇなぁ。警官らしいとは聞いてるけどな。でも、警官がしょっちゅう仕事を休んで日本で仕事をやってもいいのか？（笑）。ま、これ以上、K―1のことについて聞かれても、答えようがないぜ。

―もし、K―1からオファーされたら、K―1ルールで闘いますか？

アイブル　いいじゃねぇか。キックだろ？　K―1ではK―1のルールでやるのが筋じゃねぇか。総合のルールで闘っても何も意味ないぜ。俺はK―1ルールで何も問題はないぜ。

―でも、K―1のリングでボブ・サップは反則暴走しましたけど。

アイブル　ボブ・サップ？　ああ知ってるぜ。デカイヤツだろ？　暴れた？　へぇ～、そうかい。そりゃあ面白いな。でも、やっちゃったものはしょうがないだろ。何か事情があったかもしれないし、俺には関係のない話だぜ。

―でも、あなたも日本では“反則野郎”のイメージが定着しているんですけど……。

アイブル　反則野郎？　キャハハハハハ、そりゃあいいぜ。それだけみんな、俺に注目しているということだ。だったら、期待に応えなきゃな（笑）。でも、言っとくけど、俺は故意に反則したことなんて一度もないぜ。ドン・フライとの試合だって、あれは偶然だ。フライがワセリンを顔に塗ってたからすべっただけだ。でも、レフェリーは俺の時だけイエローカードを出しておきながら、そのあとのフライの頭突きはお咎めなしだ。はっきり言って、あの時はレフェリーに負けたと言っていい。

―……。

アイブル　だったら、俺も新しいニックネームを考えるぜ。“ミスター・イエローカード”。どうだい？　そのイメージでどんどん注目を浴びたいぜ。■

▲アイブルは「プライド」の中でも、打撃のスペシャリスト。K―1でどこまで通用するか楽しみだ

## 魔裟斗復活！ 8・6ヴェルファーレで『ウルフレボリューション』開催

▲今年、格闘技界で一番ブレイクした魔裟斗

「K―1ワールドMAX」の準決勝、アルバート・クラウス戦での涙の敗北から3カ月、魔裟斗が復帰戦に臨むことになった。今度の舞台は8月6日（火）に開催される、シルバーウルフの自主興行「ウルフレボリューション」。会場は第1回大会が行われた“聖地”六本木ヴェルファーレだ（試合開始19:00）。「ウルレボ」は音楽とのコラボレーションなど実験的なイベント。K―1参戦で圧倒的な知名度を得た魔裟斗が、そこでどんな試合を繰り広げるのか？　また敗北によって何が変わり、どんな成長を遂げたのか？　興味は尽きない。またこの大会には、シルバーウルフの大宮司進も出場。対戦カードその他の詳細は、次号で紹介できる予定だ。

### 純K―1は2試合が浮上

ミルコ・クロコップ VS [illegible]
〈クロアチア／クロコップ・スクワッドジム〉　〈オランダ／メジロ・ジム〉

ピーター・アーツ VS シリル・アビディ
〈オランダ／メジロ・ジム〉　〈フランス／チャレンジボクシングマルセイユ〉

ディ。ここは、ワールドGP前に、2人にかつての野性味を取り戻してもらうために用意されたようなカードだ。

そして、今や超K―1ファイターに成長したミルコは、予想に反して純K―1戦士と対決。しかも、相手はセフォーを破ったこともあり、石井館長がハント、イグナショフに続き、第3の新星として売り出そうとしているレミー・ボンヤスキーだから厄介極まりない。

カール・ルイス似のボンヤスキーは、格闘技王国オランダのホースト、アーツに続くエース候補と期待されている選手。全身バネのような身体能力を兼ね備え、しかもアーツと同じ名門オランダ・メジロジムで鍛え上げられているだけに実力は折り紙付きだ。

はっきり言って、ミルコが危ない！　7・14ワールドGP福岡大会で大番狂わせがあるとしたら、この一戦になるだろう。桜庭戦が噂されるミルコにとって、決して楽ではない相手がボンヤスキー。もしかしたら、この一戦で、ボンヤスキーが大きく羽ばたく可能性もあるが、まだK―1の正式発表はない。■

未確認

# UFO川村社長が新日本プロレス取締役に。小川の相手にロシア柔道家の名も
# 開催か、延期か？ 8・8ドーム 鍵を握っているのはK－1か？

2カ月くらい前から浮上していた8・8UFO東京ドーム大会。すでに専門誌やスポーツ紙では様々な情報が飛び交ってきたが、やはりと言うべきか、ここにきて開催が微妙になってきたという情報が伝わってきた。

もともと、UFOの東京ドーム大会はまだ何も正式発表されていないので、決定とか中止という類の話ではない。ただし、8月8日に東京ドームは押さえられており、日本テレビの事業が乗り出して計画が進められてきたのはたしかだ。

だから、マスコミの間では小川直也VSヒクソン・グレイシーや小川VSピーター・アーツ、小川VSミルコ・クロコップの噂が上がった。猪木が「川村さんがはりきっている」と発言したり、復帰が囁かれる藤田和之に「どうせなら8月は全部（UFO、G1、K－1VS「プライド」）出ろ！」とハッパをかけたのもそのためだった。

だが、UFOにとって最大のネックとなったのは、同時期にK－1VS「プライド」のビッグイベントが浮上したことだ。やはり、現在の格闘技界を見渡すと、打撃系の一流選手はK－1、総合系の一流選手は「プライド」に集まっているため、小川ら主力選手とドーム級のカードが組めないのだ。それが、一にも二にも開催が微妙になっている理由だろう。

▲猪木は8・8UFO東京ドーム大会にいまだ強[illegible]していない。ここにきて、開催が微妙になってきたという噂もある

中でも、ポイントとなっているのがK－1の石井館長。石井館長はUFOの川村龍夫社長と旧知の間柄だが、「プライド」と先に話が進んでしまっただけに調整はまず不可能。小川の対戦相手として、アーツやミルコをオファーされたとしても、時期的に出場は難しかったのではないか。まして7・14K－1福岡大会、8・17K－1ラスベガス大会と興行ラッシュが続いているだけに、そこにアーツやミルコが出られるはずがないのだ。そこが一番のネックになったのではないだろうか。

また、この時期は新日本のG1があったり、同じ日テレ系のノアも協力はできないという方針を打ち出している。だから、藤田と安田忠夫が出陣の意志を見せたり、小川が無関心を装ったりと、統制がとれてなかったのではないだろうか。

しかし、それでも日テレを動かした川村社長の手腕は高く評価されており、6月17日に行われた新日本プロレスの株主総会で取締役として就任。猪木が言うところの「外部からの新しい血を入れる」ということで期待されている。

毎年、話題となる新日本の株主総会だが、今年大きく変わったのは長州力が正式に役員を降りて退社。新たに川村社長と新・現場責任者の蝶野正洋が取締役に就任したことだ。その結果、マスコミの間では新日本とUFOが事実上合併し、小川がビッグイベントに定期的に出場するのではと噂されるようになった。また、川村社長の政治力で、時代に則した新しいメディア戦略が展開されていくに違いない。

そうした新日本とUFOの歩み寄りで、まだまだ8・8東京ドーム大会開催の灯は完全に消滅してはいない。最近では小川の相手にロシア柔道家の名前も上がりはじめた。

現在のマット界はいかにメディアとうまく連動し、ソフト作りとともに、ビジネス戦略を立てていくのかというところにある。その意味で、UFOが「プライド」やK－1とは別のソフト（仮称・レジエンド）を作り出すチャンスは十分にある。なお、開催か、中止かは6月いっぱいまでに結論が出ると言われている。果たして、UFOドーム大会はあるのか？■

▶小川は8・8東京ドーム大会にどんな思いを抱いているのか？ 8月に復帰が噂される藤田和之はどこのリングに上がるのか？

極真

# 7・7原宿『一撃ショップ』オープン日に全貌が発表！ フィリォ来日！
# 8・10NKホールで〝一撃〟開催 グローブだけでなく総合の試合も？

▲第2回「一撃」開催の実行委員長には、フランシスコ・フィリォの名前も挙がっているという

8月のマット界は多くのビッグイベントが噂される中で、一つだけ開催が正式決定された。それが極真空手のプロ挑戦の場「一撃」である。

6月14日、東京・池袋にあるホテル・メトロポリタンで開かれたマスコミ懇親会で、松井章圭館長の口から、8月10日東京ベイNKホールで「一撃」第2弾の開催が発表。前回と同様、日本テレビが放送することがほぼ決定しているという情報のみ、打ち明けられた。

「一撃」とは、そもそも極真を中心に結成されたKネットワークが主催者となり、今年1月11日代々木第2体育館で旗揚げ。第1回大会には、武蔵VS野地竜太のメインをはじめ、ロシアの強豪セルゲイ・プレカノフと鳥人ギャリー・オニールがグローブデビュー。全日本キックボクシング連盟や新日本キックボクシング協会などのキック団体も参戦し、話題の多い大会となった。

それだけに、第2回大会はどんなコンセプトで行われるか注目されるが、全貌については、7月7日、東京・原宿にオープンする「一撃ショップ」の披露会見で明らかにされる見通しだ。

そもそも「一撃」はK―1や「プライド」といったプロ格闘技が隆盛を誇る中で、極真にもそういったプロ格闘技に挑戦したいという者が出てきている。〝地上最強のカラテ〟の遺伝子があれば、それは当然のことだろう。他流試合にしたって、打撃系格闘技では極真が専売特許だったという歴史がある。

しかし、いくら他の格闘技に挑戦しようと言っても、今のK―1や「プライド」はレベルが高くなっているため、いきなりトップファイターと激突するのはあまりにも無謀。そこでプロとアマチュアの交流の場として実験的に作られたというのが「一撃」のコンセプトだった。

では、第2回大会ではどんな実験が行われるのだろうか。中でも注目されるのが、極真の総合ルール挑戦である。すでに極真出身のビターゼ・タリエル&アミラン兄弟は、リングスで総合を体験済み。コーチキン・ユーリはかなりの実力者だ。また、「一撃」第1回大会で、百瀬竜徳を1RKOで破ったマウリシオ・ダ・シルバも柔術の黒帯で、総合でも活躍しそうな選手である。

もし、次回の「一撃」で総合の試合が行われるとしたら、こういった選手の中から試合が組まれるのではないだろうか。その場合、先にも発表されていたように、ミルコVS藤田戦のルールがベースとなるだろう。

また、極真は他の格闘技とも友好関係にあり、前田日明リングス、「プライド」、パンクラスといった総合格闘技団体ともつながりがある。そうしたパイプから、イキのいい対戦相手が選ばれるのではないだろうか。

▲松井館長は6月14日のマスコミ懇親会で、8・10「一撃」NKホール大会開催を発表した

ただし、主軸となるのは、あくまでもグローブルールに違いない。前回は武蔵VS野地というインパクトの強いカードが組まれたが、今回もK―1の石井館長をはじめ、キックボクシングの各団体がなんらかの形で協力することが予想される。残念ながら、ニコラス・ペタスは先のK―1ジャパン富山大会で右スネ骨折の重傷。野地もK―1ジャパンGPを控えているだけに、出場は微妙だ。

では、それに代わるどんな目玉が用意されるのか？ プレカノフやギャリーは再び参戦するのかに注目したい。

グローブの技術は未熟ながらも、魂あふれる闘いで盛り上がった「一撃」。今回の実行委員長は、大会タイトルの「一撃」を代名詞とするフランシスコ・フィリォが務めるという噂もある。■

▲外国人として初の全日本ウ[illegible]制王者となったロシアのグレ[illegible]レチ

サッカーのW杯で日本がロシアに歴史的勝利を収めた日、奇しくも大阪で極真がロシア人に初めてウェイト制全日本のタイトルを明け渡した。これまで、まったく勝てなかったサッカー日本代表。一方、毎年、危ないと言われながら、一度も外国人に王座を取られることがなかった、極真の全日本タイトル。

このサッカー、極真2つのジャンルにわたって繰り広げられた運命的な日露戦争は、サッカーで日本中が沸き返り、お家芸と言われていたカラテ日本が、ひっそりと歴史的屈辱を味わう結果に終わってしまった。これはハッキリ言って、歴史的大惨敗と言っていい。

しかし、この結果は興行的に見ればおいしい展開である。ただでさえW杯の時期は、他のスポーツはまったく注目されない。そこにきて、特に大物選手も出ていない極真は、波乱なしに終わったんじゃ何も記事にならない。

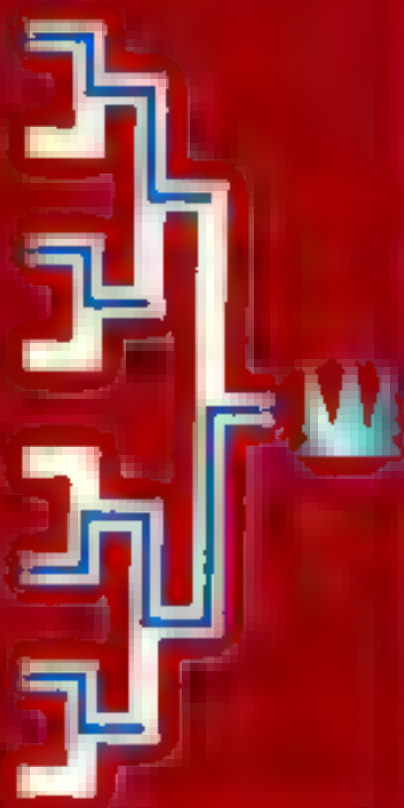
そういう意味で、これまで他流派にも外国人にも一度も王座を奪われたことのないウェイト制で、W杯で日本が勝ったロシアに完敗したというのは、決してマイナスの展開ではないのだ。極真にとっても、これは来年の世界大会に向けて、大きなドラマとなる事件となったと言ってもいいだろう。

しかし、である! その負け方があまりにもよくない。これまで、極真では日本人が外国人に王座を明け渡すことは、それこそ腹切りものの一大事だった。だから、石に齧り付いてでも、外国人をぶっ潰すんだという使命感と気迫が見ている側にまでピリピリと伝わっ

# 第19回 全日本ウェイト制空手道選手権大会

6.8～9★大阪府立体育会館

**RESULTS**
（30名出場／3回戦以降）

徳元秀樹（横浜港南支部）
高橋恒治（千葉中央支部）
藤田雅幸（石川支部）
山辺光英（東京城西支部）
瀬戸哲男（本部直轄浅草道場）
クレバノフ・レチ（西ロシア）
近藤博和（城西世田谷東支部）
小野瀬準（千葉北支部）

▲準決勝では、近藤がクレバノフの後ろ回し蹴りの蹴り足を掴んで強引に場外へ押し出すなど気迫を見せたが、強烈な後ろ回し蹴りで「技有り」を奪われ判定負け

▲「まるでバットで殴られたようだった」と徳元が唸るほど、クレバノフのローキックは強烈だった

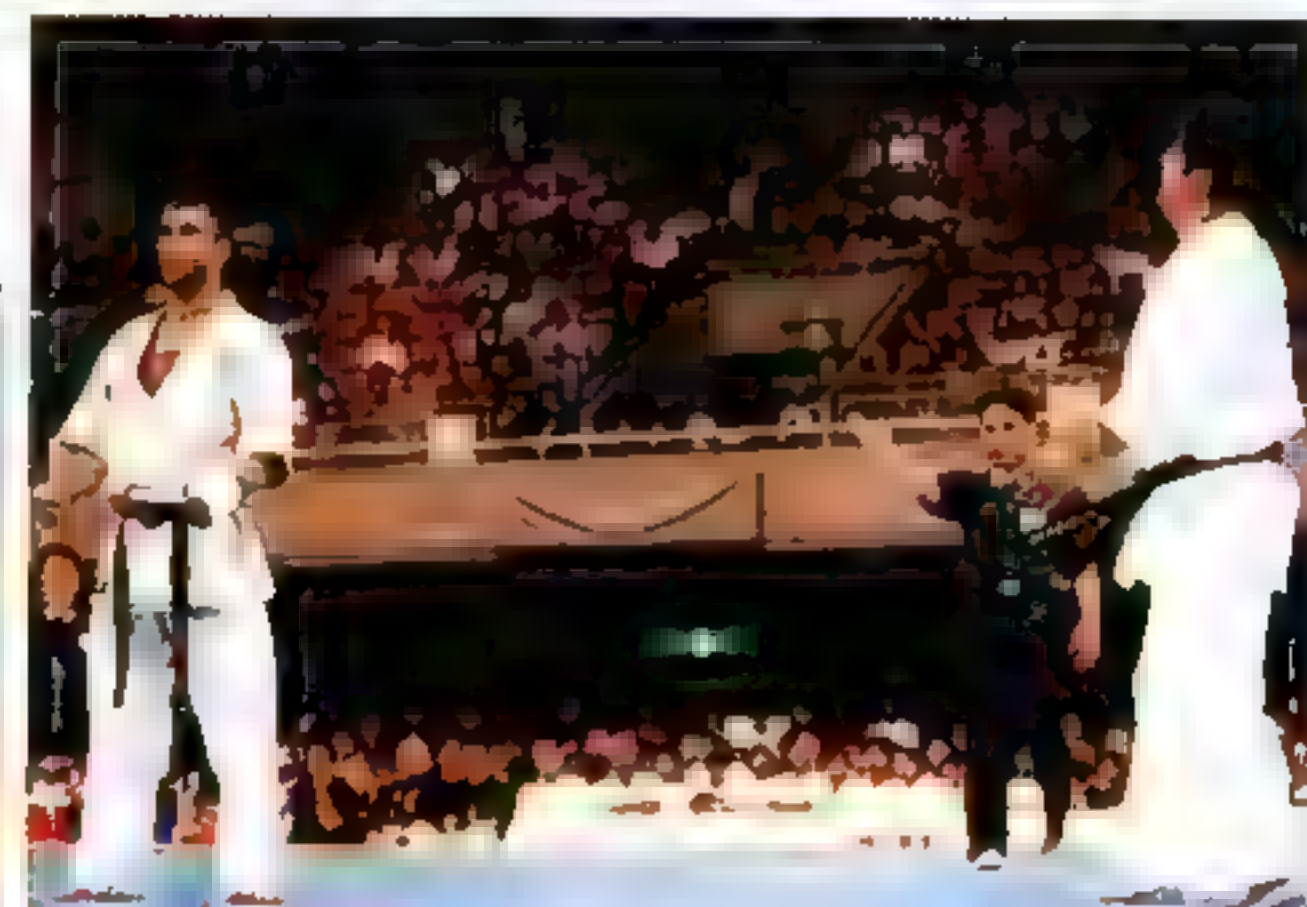
# 極真魂、サッカー日本代表に敗れる……

◀日本人よりロシア人のほうが強いと思うか？という質問に「ちょっと言いにくい」と苦笑いしたクレバノフ。世界大会でも脅威の存在と言える

▶準決勝、決勝のために初日は蹴りを温存したというクレバノフだが、この下突きは威力があった

▲松井館長は「実力もあるし、非常に強い。世界大会でも上位入賞の期待できる選手」とクレバノフを絶賛

▲左から準優勝の徳元、優勝のクレバノフ、3位の近藤、4位の藤田

▶3位決定戦。体重で30キロ上回る近藤がアグレッシブな攻めを見せる藤田をパワーで圧倒。最後は2分12秒、下段回し蹴りで一本勝ち

▲1発目の下段回し蹴り「技有り」のダメージを残す徳元に続けて下段回し蹴りをブチ込んだクレバノフ。これで完全に勝負有り

★重量級（90キロ超）決勝
○クレバノフ・レチ（合わせ一本）徳元秀樹●
〈西ロシア〉　〈横浜港南支部〉
※クレバノフは下段回し蹴りで技有り2つ

たきた。極真の会場では、いつもナショナリズムが体感できると言われ続けたのはそのためだ。

しかし、残念ながら今回のウェイト制には、ナショナリズムの高揚はまったく起こらなかった。その意味でも、ナショナリズムで80％以上の最高視聴率を出しているＷ杯に完敗。それくらい、重量級では、最初から最後まであっさりとカラテ日本は負けていったのである。

私は3年前の第7回世界大会で、数見肇がフランシスコ・フィリオに敗れて初の世界王座を逃した時も、決して悲観的な思いにはならなかった。むしろ、日本に数見という男がいることを知れただけでも良かった気がした。それほど、数見の負け様は、「石に齧り付いてでも」という必死の思いが伝わってきたのである。

ああいう負け方なら、納得できる。しかし、今回の準決勝、決勝のあまりにもあっさりとした負け方は、ホントに重傷である。極真がただの国際スポーツに成り下がってどうするんだ。そうなった時、極真はいっぺんに求心力をなくしてしまうのではないか？

格闘技において、外国人に勝つことは極真に限らず、至難の業である。けれども、極真にはこれまで何がなんでも、負けないという強烈な意地があった。そこが極真の最大の魅力だったのだ。

もう、極真はジャンルとしてもサッカーに勝てないのか。今回の敗北を選手・関係者はどう捉えているのか聞いてみたい！　我々が好きだった極真とは、こんなもんじゃなかったはずだ。　（谷川）

# 全ての照準は、来年の世界大会！ "技術"の御子柴が初制覇！

▲「そろそろ中堅という枠を飛び出してほしい。[illegible]にも肉体的にも再構築が大事」と松井館長は御子柴に期待を寄せる

## 軽重量級

優勝決定の瞬間にも表情を崩さずポーカーフェイスの御子柴。上位進出の常連ではあったが全日本のタイトルは初

大山倍達の時代、極真は4年に一度の世界大会を頂点に、年に一度の全日本大会、そしてこの夏のウェイト制をサイクルに競技が回っていた。選手層が厚い中で、これだけしか大会がないと、どうしてもひとつ一つの大会の密度が濃くなってくる。

"一つでも負ければおしまい"。ましてトーナメントは実力以上に運やコンディションが大きくものを言う。そんな中で勝ち抜いていかなければならないのだから、そこで鍛え上げられた選手には、他を寄せ付けないオーラが漂っていた。

しかし、さすがに極真と言えども、今の時代ではそのサイクルではスピードが遅すぎる。そのため、世界ウェイト制やワールドカップといった国際大会はもとより、女子の大会、壮年部や少年部の大会まで増えてきた。そうなっていくのは、やはり時代の必然性と言えるだろう。

しかし、大会の数が増えようと忘れてはならないことは、どんな大会と言えども、大会は大会ということである。大会の数が増えるということは、チャンスが増えるということだが、逆に勝ち負けに対して淡泊になる危険性があることを決して忘れてはならない。

「今回負けても、次頑張ればいい」

こう思った瞬間に、極真の大会の価値は落ちていく。しかも、そういう気持ちの選手が増えていくと、平均的に強くなっても、個性のないのっぺらぼうの良質な選手ばかりが増えてしまう。最近の極真の選手を見ていて一番思うことは、「勝利への執念」である。それ

# 第19回 全日本ウェイト制空手道選手権大会

6.8～9★大阪府立体育会館

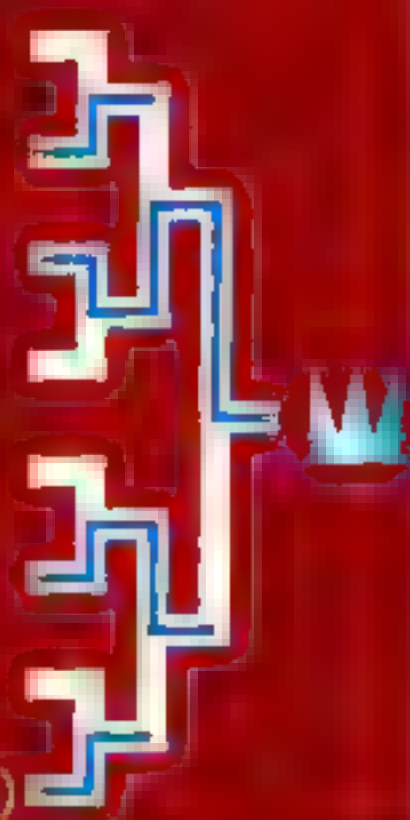
RESULTS
（47名出場／4回戦以降）

辻本　諭（総本部）
住谷　統（兵庫支部）
御子柴直司（横浜東支部）
本間　徹（京都支部）
佐藤正博（千葉北支部）
中川正士（大阪南支部）
田村隆行（城西世田谷支部）
矢島真保呂（東京城南川崎支部）

## 軽重を盛り上げたのは、中村道場の中川 伝家の宝刀"ヒザ"の封印を解いたが……

## カラテ日本よ、もっとオーラを！

▲中川のヒザ、ハイキックの攻めを巧みにさばきながら、下段などで確実にダメージを与えていった御子柴が判定をものにし、初優勝を果たした

◀▼中川得意のヒザ蹴りが御子柴の顔面にヒット。一瞬、御子柴の身体がガクンと落ちかけたが、次の瞬間にはポーカーフェイスに。恐るべし御子柴

◀3位決定戦。住谷は先手の攻撃で優位に試合を進め、本戦4－0で矢島に優勢勝ち

◀▼御子柴にとって最大の難関だったのが、過去2度負けている住谷との準決勝戦。再延長に及ぶ接戦でも勝負がつかず、試割り1枚差（御子柴22枚、住谷21枚）で薄氷の勝利

▲左から準優勝の中川、優勝の御子柴、3位の住谷、[illegible]位の矢島

★軽重量級（90キロ以下）決勝
○御子柴直司（本戦4－0優勢勝ち）中川正士●
〈横浜東支部〉　〈大阪南支部〉

が実は世界大会に向けて日本人の一番の武器になるはずなのに、技術はうまくても執念が欠落している選手が多くなっているような気がするのだ。

今回のウェイト制もまさしくそうだった。軽重量級はたしかにツブ揃いの階級である。しかし、そこで「これは！」と思う個性を持っているのは、中川正士だけ。これはたぶん、師匠の中村誠師範の豪傑ぶりが影響しているのだろう。

しかし、中川とて、その個性はウェイト制大会レベルの中で発揮している個性。中川の個性は、今度の全日本大会でどれだけ通用するかで、真価が問われるはず。

一方、その中川を破って優勝した御子柴は、競技が多くなって平均的なレベルが上がっていく中で育て上げられた、典型的なテクニシャンタイプだ。強いとか強くないというのではなく、とにかく絶対的なうまさを持っている。

しかし、その御子柴が今回優勝したのは、やはり勝利への執念の差だった。御子柴が中量級からスピードを落とさずに軽重量級に上げ、その成果を試すのが2連敗している住谷に勝って優勝することだった。そう御子柴が誓ったのも、世界大会を照準に定めたからだろう。今大会、一番勝利への執念を感じたのが、この御子柴と正道会館の村尾健司だった。

しかし、その執念のレベルも、やはりウェイト制大会レベルのものかもしれない。それを払拭できるかどうかはやはり、秋の全日本大会で問われることになる。世界大会まであと1年。王座奪回の安心感はまだ持てない……。（谷川）

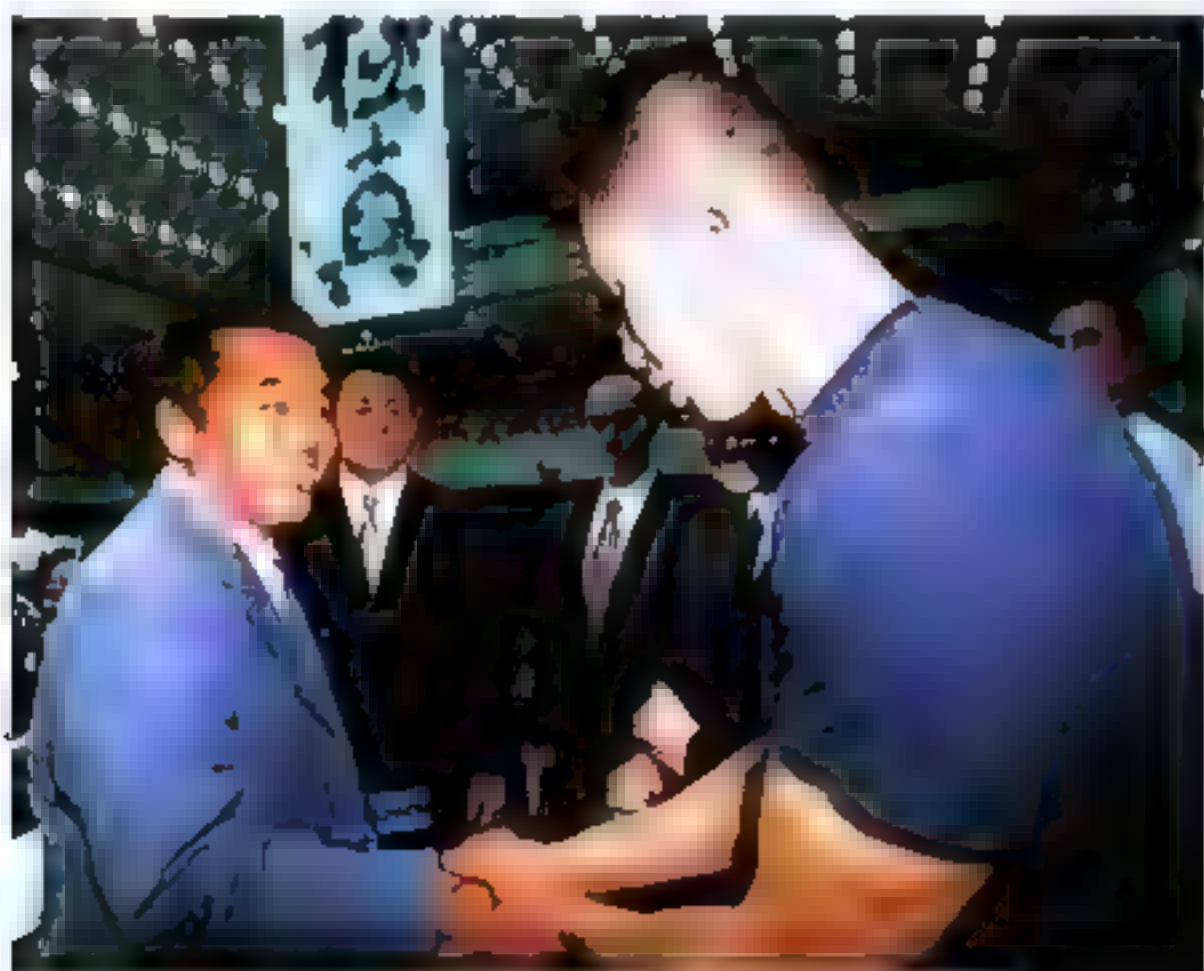
# 正道・村尾、無念……

## 伊藤を完全に追いつめるも不運な判定負け

### 中量級

▲上段回し蹴りでグラついた伊藤を追い打ちのヒザで倒した村尾。しかし、この時の攻撃が抱え込んでの攻撃と判定されてしまう

終始、優勢に試合を進めながら、抱え込みと顔面殴打で減点を取られて判定で苦汁を嘗めた村尾。師匠・[illegible]川敬介が無念に涙する村尾を[illegible]

▲終盤、村尾の鬼気迫る攻撃が伊藤を襲う。伊藤は大会後、「あの試合は負けです。力とか体力的に完全に負けてました」と村尾戦を振り返った

▲今大会上位進出が予想された正道勢。結果的には村尾のベスト8止まりだったが、石井館長は村尾の闘志あふれる闘いぶりを笑顔で称えた

★中量級（80キロ以下）準々決勝
○伊藤　慎（本戦4－0優勢勝ち）村尾健司●
〈[illegible]支部〉　〈正道会館〉
※村尾に抱え込みの注意1、顔面殴打の減点1有り

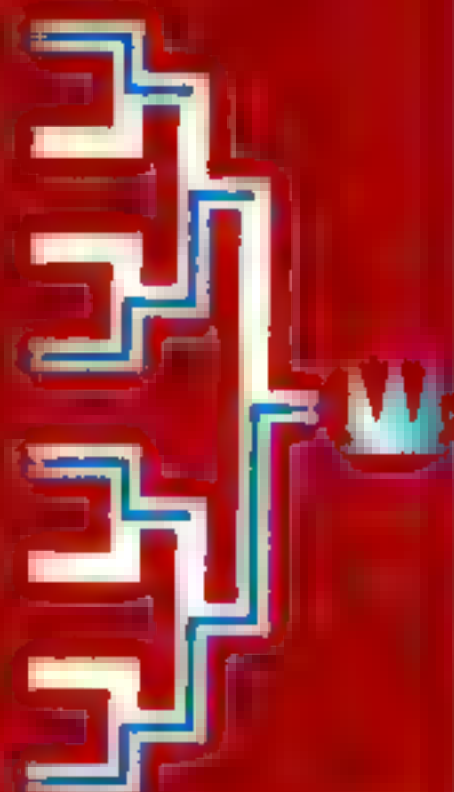
「あれは負けてました。負けです。（村尾に倒された）上段回し蹴り以前に、力とか体力的なもので負けていたんで……」

仲間に祝福され、表情を和ませる伊藤慎に、準々決勝・村尾健司戦の話を振ると、伊藤は表情を一変させ、即座に、潔くそう答えた。

松井館長も伊藤—村尾戦に関しては、「伊藤君が薄氷を踏む思いで勝利を手にしましたが、これはもう運良く勝ったと言える試合」と語っている。それほどまでに、村尾の気迫に満ちた攻めは伊藤を苦しめ、追いつめていたのだ。

本戦4—0という結果だけを見ると、伊藤があっさりと勝ったように見える。しかしこの本戦の、わずか3分の間には、当事者のみならず、それを見つめるコーチや応援団、観客の喜怒哀楽がギュッと凝縮されていた。そして、多くの人たちの感情が、これほどまでに動いたのは、この試合が〝他流試合〟だったからに他ならない。

極真にとって、他流派・正道会館の村尾は、とにかく潰したい外敵であり、上位に進出させるなんてもってのほか。そして、その外敵を迎え撃つ伊藤は、極真が誇る中量級のエースであり、今大会では優勝すべき選手。負けるわけにはいかない存在だった。

逆に正道会館・村尾にしたら、自分以外の同門選手が全員、初日で敗れてしまったこともあって、気合い入りまくり。開始早々から満身の力を込めて打ち込む一撃一打に、「極真だろうが誰だろうが絶対に勝つ。攻めて攻めて攻め抜いて、一本取ってやる！」。そんな執念がアリアリと出ていた。その気

# 伊藤、不調ながらも悲願の初優勝

優勝の瞬間、天を仰いでホッと息をつく伊藤。「苦しかったです。最初から、身体が重くて足が全然使えなくて……。なんとか優勝できて良かった」

▶トリッキーな動きから得意の蹴りで積極的な攻めを見せる野加に対し、伊藤は下段の蹴りで確実にダメージを与えていった

▲総本部道場の仲間たちに胴上げされる伊藤

▶3位決定戦。延長戦に入り、船先に手数で圧倒されていた金森だったが、終了間際、上段蹴りから強烈なヒザで逆転の一本勝ち。3位入賞を果たした

▲最後までアグレッシブな攻めを見せた野加。22歳と若く今後が大いに期待される

▲左から準優勝の野加、優勝の伊藤、3位の金森、4位の船先

迫たるやもの凄く、眉はつり上がり、形相さえも変わっていたほど。村尾の最初の上段回し蹴りは「技有り」でもおかしくなかったし、終盤のボディへのパンチも完全に効いていた。伊藤が村尾の攻撃を受け続け、ダメージをひた隠しにして反撃することができたのは、伊藤の〝極真魂〟の成せる業だろう。まさに撃ちも撃ったり、受けも受けたりである。

今大会の中で、最も面白かった試合を、この伊藤対村尾戦だと言う人は少なくないと思う。もちろん、ボクもその一人だ。立場が違えば見方も変わると思うが、ボク自身は村尾の気迫と伊藤の内に秘めた意地の激突に、ただ純粋に興奮し、判定に対する村尾の無念さに同情した。せめて、延長戦を闘わせてあげたかった。

村尾に勝った伊藤は、その後準決勝で船先雄、決勝では野加久詞という勢いのある新鋭をともに本戦4―0の判定で下して念願の初優勝を果たした。しかし、この優勝に伊藤が100％満足していないのは明らかで、冒頭のコメントをした時の伊藤の表情には、悔しさがハッキリと表れていた。というわけで、この両雄の闘いは、いつか必ず、もう一度見たいというのがボクの希望だ。

「正道会館から出場した選手は、優勝するだけの実力を持っている」と松井館長は明言する。外国人に王座を奪われた今年の極真。うかうかしていると、来年は他流派に王座を奪われることだって十分に考えられる。極真VS他流派の闘いは、これからさらにヒートアップしていきそうだ。（林）

# 安定度抜群の塩島が初タイトル！

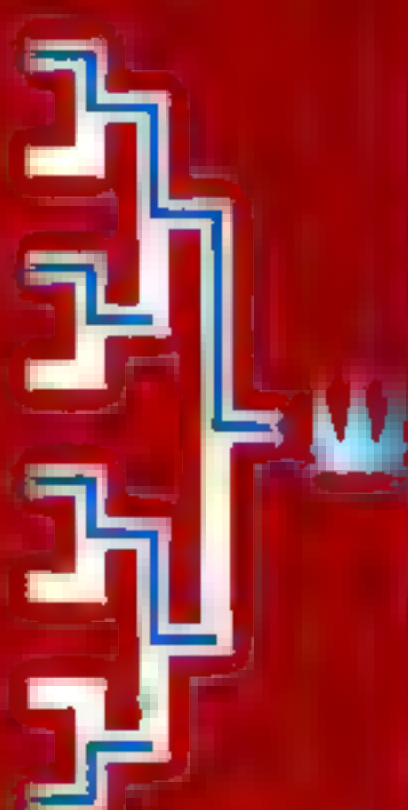
## 昨年王者・福井、緒戦で敗れる

優勝決定の瞬間、思わず雄叫びを上げた塩島

## 軽量級

★軽量級（70キロ以下）決勝
○塩島　修（延長5－0優勢勝ち）尾崎　亮●
（下総支部）　（城西世田谷東支部）
※本戦（尾崎）2－0（塩島）

RESULTS
（80名出場／4回戦以降）

塩島　修（下総支部）
森田祐一（城西世田谷東支部）
棟本泰樹（徹武館）
伊藤貫博（城西世田谷東支部）
尾崎　亮（城西世田谷東支部）
山下輝貴（城西世田谷東支部）
船曳正清（兵庫支部）
松岡朋彦（兵庫支部）

## 他流派・棟本（徹武館）が気迫の4位

◀準決勝で尾崎に敗れた松岡だが、切れ味鋭い上段蹴りで評価を上げた。2回戦で福井を破ったのもフロックとは言えない

◀3位決定戦。松岡に延長判定5－0で敗れはしたが、他流派として最高のベスト4入りを果たした徹武館の棟本。ベテランながら最後まで気迫あふれる攻めを見せた

▲左から準優勝の尾崎、優勝の塩島、3位の松岡、4位の棟本

▶本戦は、左右に動きながら上段の蹴りを出すなど優位に試合を進めた尾崎。もう一歩のところで悲願達成ならず。2度目の準優勝に甘んじることに

▶延長に入って尾崎が減速すると、塩島が下突きなどで圧倒。5－0で優勢勝ちし初のビッグタイトルを手にした

「来いっー」

どちらかと言うと、淡々と試合をする印象のある塩島修が、鬼気迫る表情で、スゴんだ。準決勝、他流派で唯一ベスト4に勝ち上がってきた棟本泰樹に対してである。「他流派に負けてたまるか」。そんな気持ちが全身からあふれ出ていた。初日の3回戦では正道会館の軽量級王者・大渡博之も破った。他流派からの挑戦者を、怖いほどの気迫で迎え撃った塩島は、今大会、優勝すべくして優勝したと言ってもいいだろう。

今大会の塩島はゼッケン1番。昨年の覇者であり、世界ウェイト制2位の福井裕樹と対極の位置にシード選手として据えられた。

軽量級には、昨年の世界ウェイト制王者の田ヶ原正文、同日本代表の八木沼史朗、安田幸治らの有力選手がいるが、今回は不参加。塩島にとっては、絶好のチャンスであると同時に、絶対に優勝しなければいけないというプレッシャーのかかる大会でもあった。初日には、実績で一歩前を歩く福井が姿を消すという波乱もあったが、塩島に動揺はなかった。それどころか福井の負けは、塩島の闘志を一層激しく燃え上がらせていた。

決勝は、本戦こそ一昨年2位のベテラン・尾崎亮に動き回られてペースを乱したが、延長に入るや力強い下突きなどで尾崎を圧倒、悲願の初栄冠を手にした。

トップクラスの実力があると言われながら、なかなか届かなかった"全日本"のタイトル。塩島の開眼のきっかけとなったのは、実は外敵に対する強烈な"意識"だったのではないだろうか。（林）

## 総括◎
## 松井章圭館長

# クレバノフの優勝を軽く考えてはダメです。選手も、指導する我々も心していかないといけない

――今大会の総括をお願いします。

**松井**　やっぱり、特筆すべきは重量級のクレバノフ選手。全日本というタイトルで外国人が王座を持っていったのは、今回が初めてということですけれども、実力もあるし、非常に強い選手で、世界大会でも上位入賞の期待のできる選手だと思います。立派だったと思います。高元君とか近藤君もよく頑張ったと思うんですけど、お互いに同じような、技術的な欠点を持っているんじゃないかと思いますね。そのあたりは、今回の結果で学んで、それを一つのテーマにしていったらいいんじゃないですかね。（外国人の初優勝は）時代は流れているから仕方ないですよ。これを受け止めて今後頑張るしかないですね。

――世界大会に向けて、ロシア勢というのはかなり脅威の存在になりそうですね。

**松井**　オシポフ選手、クレバノフ選手、あのレベルの選手がゴソッといますからね、今、ロシアは。大変ですよね。脅威ですよ。

――ロシア選手の技術的に特徴的なものというのはあるんでしょうか？

**松井**　彼は西ロシアの選手ですけど、西ロシアの選手に共通して言えるのは、至近距離からの上段の蹴りが強いですよね。ロシアの選手は身体も強いんで、フィジカルな要素は非常に高いレベルのものを兼ね備えていますし、そういうフィジカルな強さを背景にして、ああいう技を出すんで、動き自体はそんなに特別な動きじゃないと思うんですけど、まあ、あの身体であああいう形で動くのは、日本の選手では少ないんでね、よくああいうところから学んでほしいですよね。

――クレバノフ選手は、初日の試合は下突きなどのパンチ中心だったと思うんですけど、最後の2試合に関しては、強烈な下段や上段の蹴りを使ってきたり、底が見えない選手だなという気がしたんですけど？

**松井**　なんでもできますよね。また、なんでもできると同時にまだまだ足りないところがあると思うんですよ。満遍なくなんでもやりますけども、例えば、距離を作ったり、タイミングを読んだり、呼吸を計ったりっていう、そういう、相手と呼応するような本当に相手になるような技術というのはまだ身に付けていないと思うんですよ。逆に言うと、彼らがそういうことを意識し始めたら手が着けられないと思うんですよ。やっぱり身体が強いから、ひととおりのことができるから、どうしても自分の手応えを求めるだろうし。自分の力を相手に、っていう自分主体の組手ですよね。相手の動きや心理や呼吸っていうものを読みとった組手にはまだなっていないから。研究というか、手の施しようがあるんじゃないかと思いますけどね。逆に言うと、日本の選手はフィジカルな要素は海外の選手と比べて、骨格や筋力が劣る部分が明確にありますから、それを埋めるとともに、あまりにもそういうところばかりに目をやらずに、本来の組手というものはどうあるべきかということを見直して、海外の選手が気が付かないような要素を掘り下げることが大事ですよね、日本の選手たちは。

――その他の階級に関してはいかがですか？

**松井**　順当な結果と言えば結果なんですけど。正道会館の選手たちがね、僕がこういう立場で言うと語弊があるかもしれませんが、いつも非常に優秀な選手を送り込んでいただいて、我々にとってもカンフル剤的ないい刺激になっています。技術的にも精神的にも。今回は、中量級の村尾選手がある程度上位まで残ってくれたんですけども、本来の力を出し切れば、沢田選手もそうですし、村尾選手ももちろんですし、大渡選手、それから加藤選手もね、それこそ極端に言えば、優勝してもおかしくないだけの力を潜在的には持っていると思うんです。ぜひ、そういうところを高めて、正道会館の石井館長や中本本部長にはいつも、お手柔らかになんて言ってますけど（笑）、頑張って我々にまた、刺激を与えてほしいと思いますね。不運もあったと思いますし、勝負は時の運的なところで、残念な敗退もあったと思いますけど。ぜひまた、いろんな意味での刺激を与えてほしいと思います。（中略）

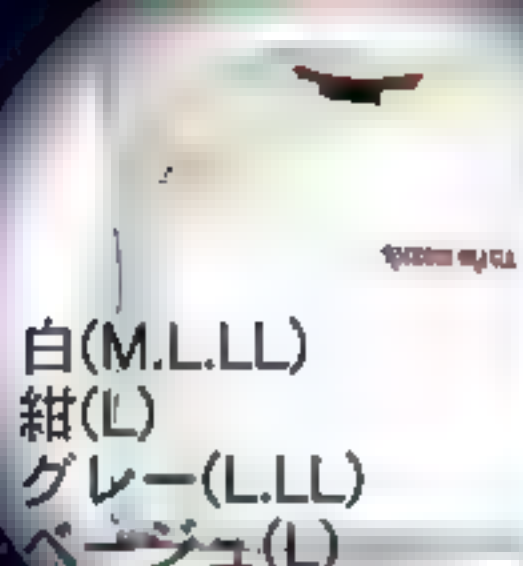
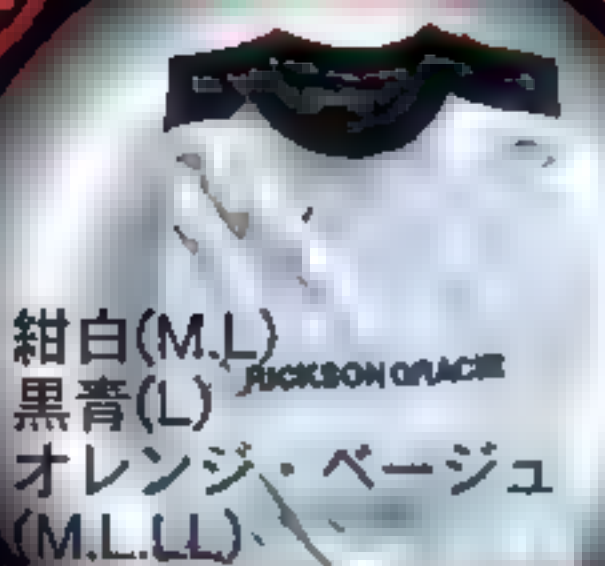
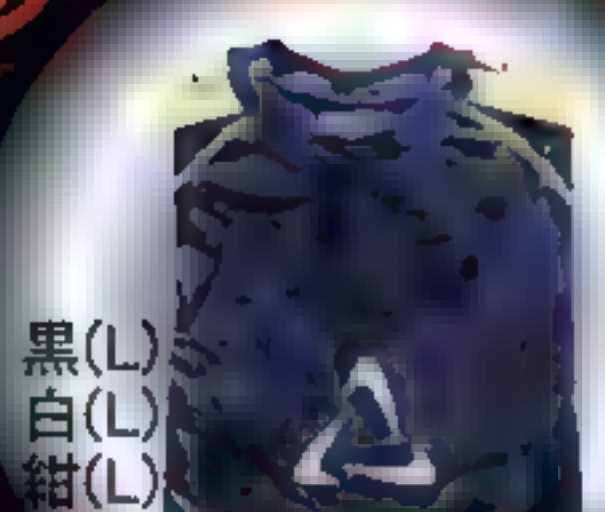
――中量級に関してはいかがですか？

**松井**　中量級は伊藤慎選手が優勝しましたが、彼は前々から実力のある選手なんで、順当な結果だったと思いますね。ただ、正道会館の村尾選手との試合というのは、本当に薄氷を踏む思いで勝利を手にした。これはもう運良く勝ったと言える試合だと思うんですよ。そのあたりを、優勝という結果は自信にしていいだろうし、今後の糧にしていいと思いますけど、逆に反省として、今後の発憤材料として、そういう試合を振り返って頑張ればいいんじゃないかと思います。（中略）

（全選手に言えることとして）再構築ということが大事なんですよ。精神的にも肉体的にもそうですけど、手にしたいものが何かということを掘り下げた時に、自分の目的意識や目標みたいなものが定まっていく。その時代時代の、空手だけじゃなくて、自分の全般的な、生活における手にしたいものというのを一つテーブルの上に載せて、優先順位を付けた一番上に、優勝というものを持ってこられれば、そこに向けて邁進するということだと思うんですよ。上位に進出するような選手はみんなが、優先順位の一番に付けているとは思いますけど、それをさらに明確に持って、いったん手にしたこと、優勝だとか、技術的にも肉体的にも、単純な話、ウエイトで何キロ上がったとか、こういう受け返し、切り返しができるようになったとか、なんか刮目することがあるわけですよ。ひとつ一つの成長段階で。それは素晴らしいんだけども、それを越えた時に、それを手放したくなくなっちゃう。一回それに成功すると、その成功体験を大事にしちゃうわけですよ。大事にすることは必要なんだけど、同時に忘れ去る、捨て去ることも大事なんですよ。身体が強い人は身体に依存する。スピードのある人はスピードに依存する。スタミナのある人はスタミナに依存する。下段が得意な人は下段に依存する、パンチの得意な人はパンチに依存する。そういう形で組み手を構築していくと、そこから抜け出せなくなる。そういう人たちは、勇気を持って一回叩き壊して、また何かを積み上げた時に、叩き壊したはずのものがさらに磨きがかかって上にポンと出てくる場合がある。だから、そういうリストラクチャリングというものを何回も繰り返して、ただいたずらに繰り返しちゃダメですよ。やっぱりキチッと構築した上で、それを踏み台にして新たなものを作らなきゃいけない。

――今回の大会を受けて、次の11月の全日本、来年の世界大会とありますけど。

**松井**　その前に、8月のワールドカップがあります。これは団体戦ですけど、ブラジルが、地元で開催する大会ということもあって、フルメンバーで、総動員してきますから、大変だと思いますよ。全日本、世界大会ももちろん大事なんですけど、日本は前回の世界大会の結果を受け、こういう状況ですから。今回も重量級を持っていかれているわけですし。どういう選手がこれから選考されてワールドカップに出ていくかは分かりませんけど、本当に心して、一戦一戦を、日本ってやっぱり凄いなと日本の選手は強いなというふうに思わせるようなそういう試合を繰り返していかないと。勢いに乗せたら大変ですよ、来年。選手個人個人は、全日本で選考されて世界大会と思っているかもしれないけど、それだけだと思っていたら大きな間違いですよ。（中略）今回、重量級を持っていかれましたけど、これも軽く考えちゃダメですね。闘った人は感じるところあるでしょうけど、そういう人たちだけじゃなくて、見ているほう、もちろん指導する我々もそうだし。心していかないといけないと思いますね。■

RICKSON GRACIE
"ヒクソン・グレイシー"グッズ通販
限定
20% OFF
サイズ・カラー・数量には限りがございますので、
商品がなくなり次第完売とさせて頂きます。
カラーは写真と異なる場合がございますので、
その際はご了承願います。
RG-033
黒(M.L)
紺(L)
赤(M.L)
¥3,120
RG-016
白(M.L.LL)
黒(ML.LL)
¥3,120
RG-014
白(M.L.LL)
黒~M.L
後図柄
¥3,120
RG-116
20% OFF
白(M.L.LL)
紺(L)
グレー(L.LL)
ベージュ(L)
¥2,320
RG-118
20% OFF
紺白(M.L)
黒青(L)
オレンジ・ベージュ
(M.L.LL)
¥1,520
RG-020
20% OFF
前図柄
白(M.L.LL)
黒(M.L)
オレンジ
(M.L.LL)
¥3,120
RG-001
20% OFF
白(M.L.LL)
黒(L.LL)
赤(M.L.LL)
¥3,120
RG-032
20% OFF
赤(M.L)
¥3,920
RG-115
20% OFF
黒白(L.LL)
紺白(L.LL)
RICKSON GRACIE
¥1,520
RG-113
20% OFF
黄(L.LL)
紺(L.LL)
白(M.L.LL)
Rickson Gracie
¥1,520
RG-142
20% OFF
黒グレー(L)
¥1,520
RG-049
20% OFF
後図柄
前図柄
白黒(M.L)
黒グレー(M.L)
¥3,120
RG-046
20% OFF
後図柄
前図柄
黒(L)
¥2,320
RG-144
20% OFF
紺(L)
赤(L)
¥2,320
RG-134
20% OFF
黒(L)
白(L)
紺(L)
¥1,520
RG-067
20% OFF
半袖半ズボン
白(M.L)
黒(M.L)
青(M.L)
黄(M.L)
¥3,120
RG-104
20% OFF
半袖半ズボン
白(L.LL)
赤(M.L)
¥3,120
RG-061
後図柄
前図柄
白(L.LL)
青(L.LL)
¥3,920
RG-117
20% OFF
黒白(M.L.LL)
紺ベージュ(L)
¥2,320
RG-138
20% OFF
白(M.L.LL)
黒(M.L.LL)
紺(L)
カーキ(L)
グレー(M.L.LL)
¥2,320
RG-127
20% OFF
黒白(L)
黒グレー(L)
¥2,320
RG-042
20% OFF
後図柄
前図柄
黒白(L)
¥2,920
RG-052
20% OFF
前図柄
後図柄
白(M.L)
¥2,320
ご注意!!
●沖縄県、北海道、及び離島の方は送料をお問合わせ下さい。
●表示の価格には送料・代引手数料・消費税は含まれておりません。
●万一、不良品があった場合は送料当社負担にてご交換致します。着品後、1週間以内に電話連絡の上ご返却下さい。
●複数ご注文頂いた場合は、基本的に商品1つにつきそれぞれ送料がかかります。ご了承下さい。
代引
TELかFAXで受け付けております。商品到着時、配達員へ商品代金+送料+代引手数料+消費税をお支払い下さい。
現金書留
TELにてお問合わせの上、商品番号、商品名、住所、氏名、電話番号を明確に書いて、
商品代金+送料+消費税を同封してご送金下さい。
〒347-0023 埼玉県加須市北辻宮前164-1 MAX CLUB係
ご注文専用ダイヤル 0120-000-902
受付時間…平日/PM12:00~PM19:00 土・日・祝日/PM12:00~PM18:00
FAX 0480-25-5541
お問合わせダイヤル 0480-25-5540
受付時間…平日/AM10:00~PM12:00 PM13:00~PM17:00

# MAX CLUB マックス・クラブ

広告有効期間　広告掲載日より1ヶ月間

50%OFF
ふくらはぎの鍛練に！
ももの鍛練に！
商品番号:LL-2000
商品名:レッグカールブーツ
1コ 定価¥5,800→¥2,900
■プレートは別売です。

商品番号:CTY-1458
商品名:マウスガード
¥980
■2ヶ入(ケース付)
■アメリカ製
熱い湯でやわらかくし、口に合わせて形成するタイプです。
65%OFF

商品番号:LFM-1
商品名:フォーアームマスター
定価¥3,500→¥1,500
■重量/1kg　■台湾製
60%OFF

商品番号:MAX-3
商品名:MAX28Φ レンチカラー
1個¥200
レンチ式のダンベルバーにご使用ください。

45%OFF
商品番号:LES-9
商品名:ストレッチマシン
定価¥28,000→¥15,000

商品番号:ASL-1
商品名:ウエイトベルト
定価¥2,800→¥980
サイズ/L:90cm~110cm
幅(前部)/15cm
素材/ポリエステル、ナイロン、中身/ラバー
65%OFF

商品番号:HRC-1
商品名:ストラップ
1組 定価¥1,500→¥500
65%OFF
■サイズ/フリー
■外部素材/[illegible]
内部素材/ウレタン使用(厚さ約2cm)

75%OFF 超特価
超超特価
商品番号:HRC-100
商品名:クロームメッキプレート

| 重量 | 定価 | 価格 |
|---|---|---|
| 1.25kg | ¥400→ | ¥100 |
| 2.5kg | ¥500→ | ¥200 |
| 7.5kg | ¥2,400→ | ¥600 |
| 10kg | ¥3,200→ | ¥800 |
| 15kg | ¥4,800→ | ¥1,200 |

●基本的にレギュラーダンベルセットにはレンチ式シャフト(スプリングカラー4ヶ付)。クローム、ラバーダンベルセットにはスクリュー式シャフトがセットされます。

## ダンベルセット

| | | | レギュラー | クロームメッキ | ラバー |
|---|---|---|---|---|---|
| 10kgセット | 片手5kg | DB2.5kg×2, P1.25×4 | [illegible]↓ ¥2,600 | [illegible]↓ ¥2,000 | [illegible]↓ ¥3,000 |
| 20kgセット | 片手10kg | DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×4 | [illegible]↓ ¥3,900 | [illegible]↓ ¥3,200 | [illegible]↓ ¥4,600 |
| 30kgセット | 片手15kg | DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×8 | ¥8,000↓ ¥5,200 | ¥11,200↓ ¥4,500 | ¥11,200↓ ¥6,600 |
| 35kgセット | 片手17.5kg | DB2.5kg×2, P1.25×8, P2.5kg×8 | ¥9,000↓ ¥5,850 | ¥12,800↓ ¥5,200 | ¥12,800↓ ¥7,600 |
| 40kgセット | 片手20kg | DB2.5kg×2, P1.25×4, P2.5kg×4, P5kg×4 | [illegible]↓ ¥6,370 | ― | [illegible]↓ ¥8,600 |

商品番号:BX-21
商品名:パームグローブ
¥1,500
60%OFF

焼付塗装
45%OFF

商品番号:HRC-200　商品名:レギュラーバーベルセット

| セット | 内容 | 定価→価格 |
|---|---|---|
| 35kgセット | B10kg×1, DB2.5kg×2, P2.5kg×4, P5kg×2 | ¥11,800→¥6,600 |
| 55kgセット | B10kg×1, DB2.5kg×2, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P7.5kg×2 | ¥15,400→¥9,600 |
| 75kgセット | 55kgセット+P10kg×2 | [illegible]→¥12,600 |
| 105kgセット | 75kgセット+P15kg×2 | [illegible]→¥16,500 |
| 145kgセット | 105kgセット+P20kg×2 | [illegible]→¥21,700 |

| 重量 | 定価 | 価格 |
|---|---|---|
| 1.25kg | ¥250→ | ¥160 |
| 2.5kg | ¥500→ | ¥330 |
| 5kg | ¥950→ | ¥650 |
| 7.5kg | ¥1,500→ | ¥980 |
| 10kg | ¥2,000→ | ¥1,300 |
| 15kg | ¥3,000→ | ¥2,000 |
| 20kg | ¥4,000→ | ¥2,600 |

45%OFF

商品番号:HRC-300　商品名:ラバーバーベルセット

| セット | 内容 | 定価→価格 |
|---|---|---|
| 35kgセット | B10kg×1, DB2.5kg×2, P2.5kg×4, P5kg×2 | ¥14,100→¥7,600 |
| 55kgセット | B10kg×1, DB2.5kg×2, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P7.5kg×2 | ¥20,500→¥11,600 |
| 75kgセット | 55kgセット+P10kg×2 | [illegible]→¥15,600 |
| 105kgセット | 75kgセット+P15kg×2 | ¥36,500→¥21,600 |
| 145kgセット | 105kgセット+P20kg×2 | ¥49,300→¥29,600 |

| 重量 | 定価 | 価格 |
|---|---|---|
| 1.25kg | ¥400→ | ¥250 |
| 2.5kg | ¥800→ | ¥500 |
| 5kg | ¥1,600→ | ¥1,000 |
| 7.5kg | ¥2,400→ | ¥1,500 |
| 10kg | ¥3,200→ | ¥2,000 |
| 15kg | ¥4,800→ | ¥3,000 |
| 20kg | ¥6,400→ | ¥4,000 |

45%OFF

商品番号:HRC-1000
商品名:50Φオリンピックバーベルセット
50Φバーベルバーの長さは218cmになります。

| セット | 内容 | 定価→価格 |
|---|---|---|
| 61kgセット | B16kg×1, P1.25kg×4, P2.5kg×4, P5kg×2, P10kg×2 | ¥29,400→¥19,100 |
| 91kgセット | 61kgセット+P15kg×2 | ¥39,000→¥25,400 |

| 重量 | 定価 | 価格 |
|---|---|---|
| 1.25kg | ¥400→ | ¥250 |
| 2.5kg | ¥800→ | ¥500 |
| 5kg | ¥1,600→ | ¥1,000 |
| 10kg | ¥3,200→ | ¥2,000 |
| 15kg | ¥4,800→ | ¥3,000 |
| 25kg | ¥8,000→ | ¥5,000 |

●バーベルセットのバーの長さは160cm、180cmのどちらかをお選び下さい。200cmの場合は900円増です。●B:バー　DB:ダンベルバー　P:プレート

商品番号:CN-10
商品名:フラットベンチ
定価¥4,980→¥2,500
■重量/5kg
■サイズ/H30×W37×D103cm(シート部/W26×D95cm)
■中国製
ウエイトトレーニング、ダンベル運動には欠かせないベンチです。
50%OFF

太陽のいらない日焼けローション
ぬって3時間後...
褐色肌の出来上がり
顔はもちろん...
OK!肌に優しくシミ...
皮むけの心配もな...
新しいタイプの日焼...

商品番号:TL-1
商品名:タンニングローション
定価¥6,000→¥3,980
■170mℓ
■日本製
35%OFF

“世界のレフェリー”島田裕二が主宰するBCG。この設備の充実ぶりと2つの新コースの開設は、サッカーの日本代表を彷彿とさせる勢いだ

## 新メニュー『シェイプアップボックス』『K−1ジャッジによる打撃コース』開設！夏にはうれしいBCGデイタイム会員募集！

W杯も終わって、日本国民の気が一気に抜けてしまいそうなこの夏。アントニオ猪木、石井和義館長推薦ジムBCGが、新たなフィットネスマシーンを設置し、勝負に出た！　まずは新メニュー、その名もシェイプアップボックスを開設。このメニューは、キックボクシング、ボクシング、エアロビクスの動きを取り入れたBCGのオリジナルプログラムで、夏ばて解消にはもってこいのコースだ。このコースは6月27日より開講されている。そして、K−1ファンにはとってもうれしいニュース。K−1でジャッジを務める大森俊範先生の打撃コースが新オープンする。このコースは毎月2回開講されるので、本格的な打撃を身に付けたい人にはおすすめだ。また、夏の暑い昼の時間帯を快適に過ごしたいあなたにピッタリなのがデイタイム会員。お昼の時間帯に安い料金設定で気軽にフィットネスできる夢のようなコースだ。月会費はズバリ3,500円。こんな価格破壊のような料金で、体をシェイプできるのは、都内広しと言えどBCGのみ！　夏の最も暑苦しい時間帯を、BCGでフィットネスしながら乗り切ろう！

**【シェイプアップボックス】**

◆時間/17:30〜、18:45〜、20:00〜の各45分間ずつ
※無料体験も実施中

**【デイタイム会員】**

◆時間/日曜、休館日以外の11:00〜17:00
◆料金/月会費・3,500円、情報管理料及び管理料・3,000円
◆有料アイテム/特別カウンセリング、完全パーソナルトレーニング、個人メニュー作成・各コース参加費etc
※詳しいお問い合わせはBCG事務局へ

**一般会員も随時募集中**

BCG（BODY CHECK GYM）
◆オープン時間/火曜日〜土曜日　11:00〜22:30　日曜日　10:00〜17:00
◆休館日/月曜日
◆場所/東京都港区東麻布3-3-1　アイザック東麻布B1F（都営大江戸線「麻布十番」駅から徒歩2分）
◆クラス/総合格闘技、レスリング、柔道、柔術、空手、キックボクシング等（クラスは基本的に夜間のみ）
◆会員種類/一般会員　学生会員　女性会員　VIP会員【月に3回マンツーマンレッスン（予約は火曜日〜土曜日の13:00〜16:00の間の45分間）、予約制にて無料でマッサージ治療、1回1,000円の鍼治療付き】　法人会員【1社につき何名でも利用可】
◆情報管理料＆登録料/法人会員　100,000円　その他　10,000円
◆月会費/一般会員　10,000円　学生・女性会員　8,000円　VIP会員　15,000円　法人会員　50,000円
◆年間一括払い/一般会員　110,000円　学生・女性会員　88,000円　VIP会員　165,000円　法人会員　550,000円
◆HPアドレス/http://www.bcgizm.com
◆Eメールアドレス/info@bcgizm.com
◆お問い合わせ/BCG事務局　☎03-3560-7911

番組インフォメーション

# 6/28、7/5の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によって放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは6月19日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

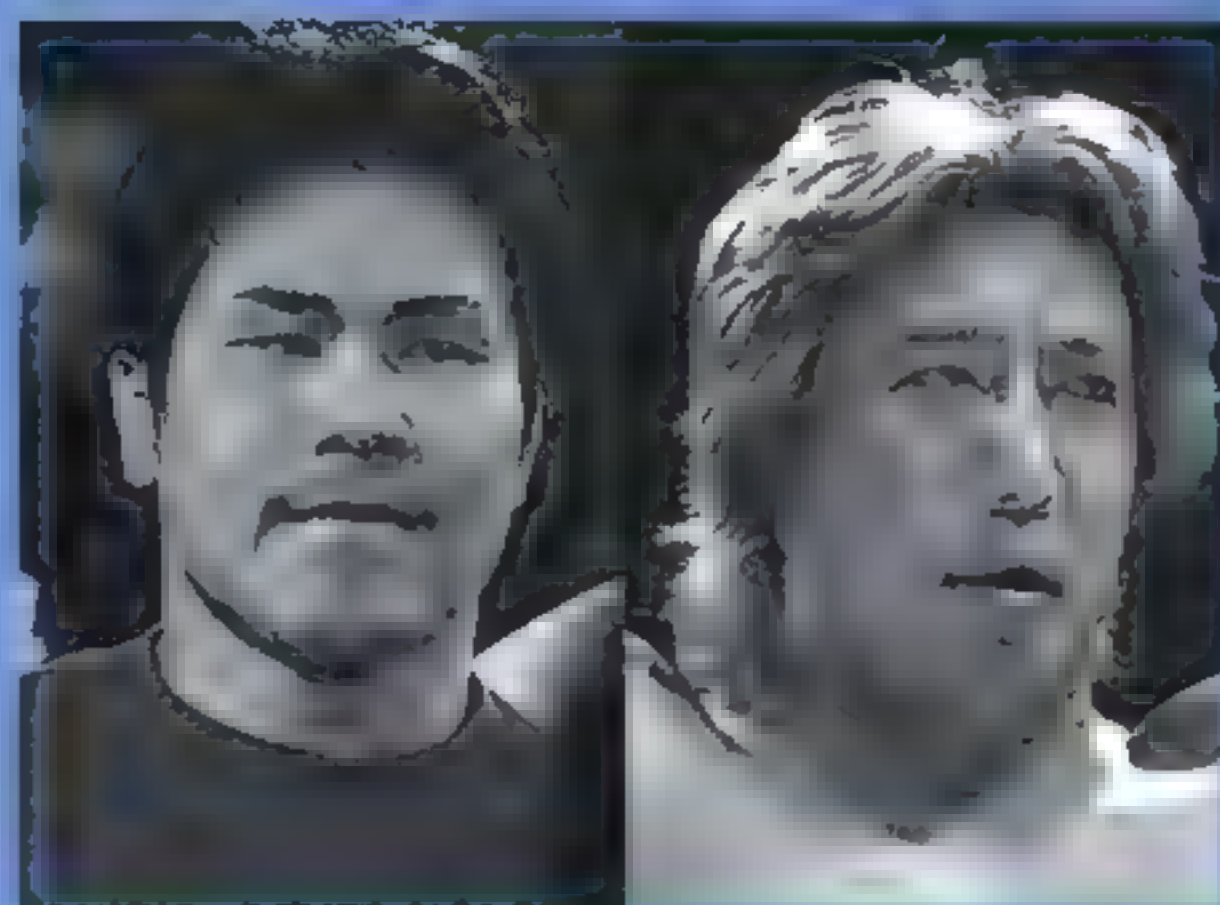
『SRS』は金曜日深夜26時15分〜26時45分（時間は変更することがあります）フジテレビ系で絶賛放映中。

6/28

日本人4選手の闘いぶりはどうだったのか!?

## 6・23 PRIDE.21速報！

6月28日（金）26:15〜26:45

6月23日（日）、さいたまスーパーアリーナで開催された『プライド21』。この日のSRSでは、6月29日に中継放送を控えながらも、出し惜しみせず、タップリお見せしちゃいます！　オープニングマッチで205センチ、160キロの怪物ボブ・サップと闘って会場をヒートアップさせた田村潔司。ケガからの復帰戦でいきなり強豪ヘンゾ・グレイシーに挑んだ大山峻護。ケガのコールマンに代わる突然のオファーを快く引き受け、ドン・フライと真っ向勝負を挑んだ漢・高山善廣。そして初参戦で、未知の強豪ダニエル・グレイシーと闘った杉浦貴。果たして、期待の日本人選手たちの闘いぶりはどうだったのか？　"美味しいとこ取り"の30分。どうぞご期待ください。

7/5

K-1、極真カラテ盛りだくさん！

## K-1福岡大会直前特集&極真アメリカズカップ

7月5日（金）26:15〜26:45

この日の放送では、10日後に控えた7・14「K-1 WORLD GP 2002福岡大会」に出場する選手たちの近況を中心に、直撃取材や海外からのホットなニュースもタップリお見せします。また、6月29日（土）にアメリカで開催される『極真アメリカズカップ』の模様も丸ごとお届けする予定。日本からは昨年の全日本準優勝の木村靖彦が出場しますが、果たして日本人初のアメリカズカップ優勝なるか？　迎え撃つ南米・ブラジルからは、サンデル・ササキ、エヴェルトン・テセイラなどの強豪が出陣。さらに、いま飛ぶ鳥も落とす勢いのロシア勢の出場もあるということで、来年の世界大会を占う意味でも重要なこの大会。必見です！

SRSホームページのアドレスはこちら → http://www.fujitv.co.jp/

SRSのホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、「ロケ現場潜入日記」など内容満載です。また、人気コーナー「SRS FIGHT CLUB」では皆さんからの原稿を募集中です。エッセイ、観戦記、プチ情報などお送りください。「はせキョーのメッセージ」もあるよっ！

### 必見！ 6・23 PRIDE.21中継

**6/29（土）14:00〜15:30**
（関東地方の放送予定です。その他の地域の放送予定に関しましては、SRSホームページをご参照ください）

今号で速報を掲載している『プライド21』。地上波での放送は、6月29日（土）の午後2時〜3時30分までとなります。会場に見に行った人も見に行かれなかった人も、これを見逃したら後悔するゾッ！　晴れてても、雨が降っていても、お出かけは『プライド』を見てからにしよう！

### フジテレビ系列の番組から

**CS 739**
7/9（火）　21:05〜23:00
「やくちゃんのただいま拳闘中」

**CS 721**
7/14（日）　15:00〜18:30
K-1 WORLD GP in 福岡　生中継（延長の可能性あり）

## TV

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 6/27（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | ワールドコンバットファイト（再） | 4：00～5：00 | [illegible] |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | WK-NETWORK、ZEPP TOKYO大会（01.7.1） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | パンクラスハイブリッドアワー | 9：30～11：30 | 5.28『PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR』後楽園ホール大会を放送。再放送7/2・14：00～ |
| | Jスカイスポーツ1 | SHOOT 3/60 | 12：30～13：30<br>19：00～20：00 | 15分のショートドキュメンタリー3本で構成する"60分3本勝負"の格闘技専門ドキュメンタリー番組。SBの土井広之、緒形健一、修斗の佐藤ルミナの特集 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 13：00～13：30 | 東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送6/29・8：30～ |
| | スカイパーフェクTV！(ch114) | 『PRIDE.21』 | 20：00～ | 6.23『PRIDE.21』の再放送。6/28・20：00～(ch114)、29・22：00～(ch120)、30・13：00～(ch120) |
| | パラダイステレビ | エロ生ガチンコ格闘ナイト | 21：00～22：55 | 通常はキャットファイトなど、お色気企画が売りの番組だが、今回は『ANGEL TORNADO』という本物の女子ボクシングの試合を放送 |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 22：00～24：00 | 船木ヒストリー15 |
| 6/28（金） | GAORA | 全日本キックボクシング | 10：00～12：00 | 5.30後楽園ホール大会 |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 14：45～15：00 | 「週刊格闘JAM」「Info@闘龍門」などGAORAのプロレス・格闘技の情報が満載 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 5.12に岐阜市メモリアルセンターで開催の極真空手（緑健児派）「第7回全日本女子空手道選手権大会」を放送予定。再放送6/30・5：00～、7/4・14：00～ |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 25：00～25：30 | 上記参照。再放送6/29・9：30～と17：30～、30・26：30～、7/1・22：30～ |
| | フジテレビ | [illegible] | 26：15～26：45 | ➲P69 |
| 6/29（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 10：00～11：00 | 海外で行われた修斗の大会を放送。内容未定 |
| | 東海テレビ | 『PRIDE.21』スペシャル | 15：40～16：55 | 6.23『PRIDE.21』さいたまスーパーアリーナ大会を放送 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 6/27を参照。再放送6/30・4：30～、7/1・8：30～と18：00～、2・23：30～、4・13：00～、6・8：30～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | [illegible] |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25：40～26：40 | 6.23長岡市厚生会館大会を放送。永田・田中vs蝶野・天山ほか |
| 6/30（日） | GAORA | 2002北斗旗全日本体力別選手権大会 | 13：00～15：00 | 5.5に宮城県スポーツセンターで大道塾が開催した同大会を放送 |
| | BS朝日 | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 6.7日本武道館大会 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | 「ch 01」 | 19：00～20：30<br>26：00～27：30 | ➲Pick Up① |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | 魔裟斗が出演しているバラエティ番組 |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：55～25：25 | 内容未定 |
| | GAORA | [illegible] | 26：00～26：30 | 「愛と涙と感動の浪花男」角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送7/1・17：00～、2・9：00～ |
| 7/1（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（00.7.29） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 6/27を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19：00～20：00 | 6/27を参照。内容未定。再放送7/2・13：00～、3・23：30～、6・10：00～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23：50～24：50 | 「格闘新世紀」／内容未定 |
| | 日本テレビ | 最強魂 | 25：30～26：00 | [illegible] |
| 7/2（火） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、代官山IPスタジアム大会（00.8.27） |
| | スポーツ・アイESPN | PRIDE REVIVAL | 21：00～24：00 | ➲Pick Up② |
| | 東海テレビ | PRIDE王 | 24：40～25：10 | 『PEIDE.21』結果詳報① |
| | テレビ東京 | 格闘Xパンクラス | 26：35～27：05 | パンクラスのレフェリー・廣戸聡一特集 |
| 7/3（水） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、タイ・ラジャ大会（00.9.3）＆平和島アールンホール大会（00.9.10） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 6.16にTOKYO FMホールで開催のWK/Network『ORG3rd』を放送予定。再放送7/4・9：30～ |
| | スカイA | パンクラスアワー | 22：00～22：30 | パンクラスのあらゆる情報が全て分かる30分。再放送7/5・17：00～ |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| | TBSテレビ | 闘魂筋肉 | 24：55～25：25 | [illegible] |
| 7/4（木） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（00.10.28） |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 6/30を参照。再放送7/6・17：30～、7・12：30～、8・17：00～、9・9：00～ |
| | [illegible] | バトルインフォメーション | 18：30～19：00 | 6/28を参照。再放送7/5・14：45～、6・9：30～、7・26：30～、8・23：00～ |
| 7/5（金） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（00.11.23） |
| | スポーツ・アイESPN | PRIDE REVIVAL | 22：00～23：00 | 7/2を参照。『PRIDE.1』① |
| | Jスカイスポーツ3 | [illegible] | 24：00～25：30 | 6/27のJスカイスポーツ1を参照。再放送7/6・9：30～、7/11・19：00～ |
| | フジテレビ | SRS | 26：15～26：45 | ➲P69 |
| 7/6（土） | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 20：30～21：00 | 6/27を参照。再放送7/7・4：30～、8・8：30～と18：00～、9・23：30～ |
| | BSジャパン | 格闘Xパンクラス | 24：30～25：00 | 7/2のテレビ東京と同内容 |
| | テレビ朝日 | ワールドプロレスリング | 25：40～26：40 | 7.4姫路兵庫県立武道館大会を放送。IWGPジュニアタッグ選手権試合、ライガー・田中vs金本・AKIRAほか |
| 7/7（日） | [illegible] | ワールドプロレスリング完全版 | 15：00～17：25 | 6.21後楽園ホール大会 |
| | スカイパーフェクTV！(ch121) | ZERO-ONE IMPOSSIBLE TO ESCAPE ～脱出不可能～ 両国大会 | 16：00～ | ZERO-ONE両国大会を当日PPV生放送。橋本真也vs小笠原和彦、小川直也vsザ・プレデターほか。再放送は、7/7・21：00～(ch122)、22：00～(ch148)、23：00～(ch149)、7/8・9・10・11・22：30～（ch122)、7/8・11・25：00～（ch121） |
| | WOWOW（191ch） | WOWOWスポーツ最強伝説 | 17：00～18：50 | ➲Pick Up③ |
| | スカイA | パンクラスハイブリッドアワー | 19：00～21：00 | 5.28後楽園ホール大会。再放送7/10・24：30～ |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | プライド侍！ | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 月1回放送の『プライド』情報満載の話題のバラエティ番組。今回の放送内容は、出場選手をゲストに招き、6.23『PRIDE.21』を徹底検証する。再放送7/9・9：30～、11・14：00～ |
| | テレビ東京 | ハマラジャ | 21：00～21：54 | [illegible] |
| | 日本テレビ | プロレスリング・ノア中継 | 24：55～25：25 | 7.5後楽園ホール大会を放送 |
| 7/8（月） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（01.3.31） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 14：00～16：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（01.11.22） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | PRIDE王 | 18：30～19：00 | 6/27を参照 |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | O REI DO SHOOTO | 19：00～20：00 | 6/27を参照。内容未定。再放送7/9・13：00～、10・14：00～と23：30～ |
| | TBSテレビ | ワンダフル | 23：50～24：50 | 「格闘新世紀」／内容未定 |
| | 日本テレビ | [illegible] | 25：30～26：00 | 内容未定 |

# ON THE AIR 6/27～7/11

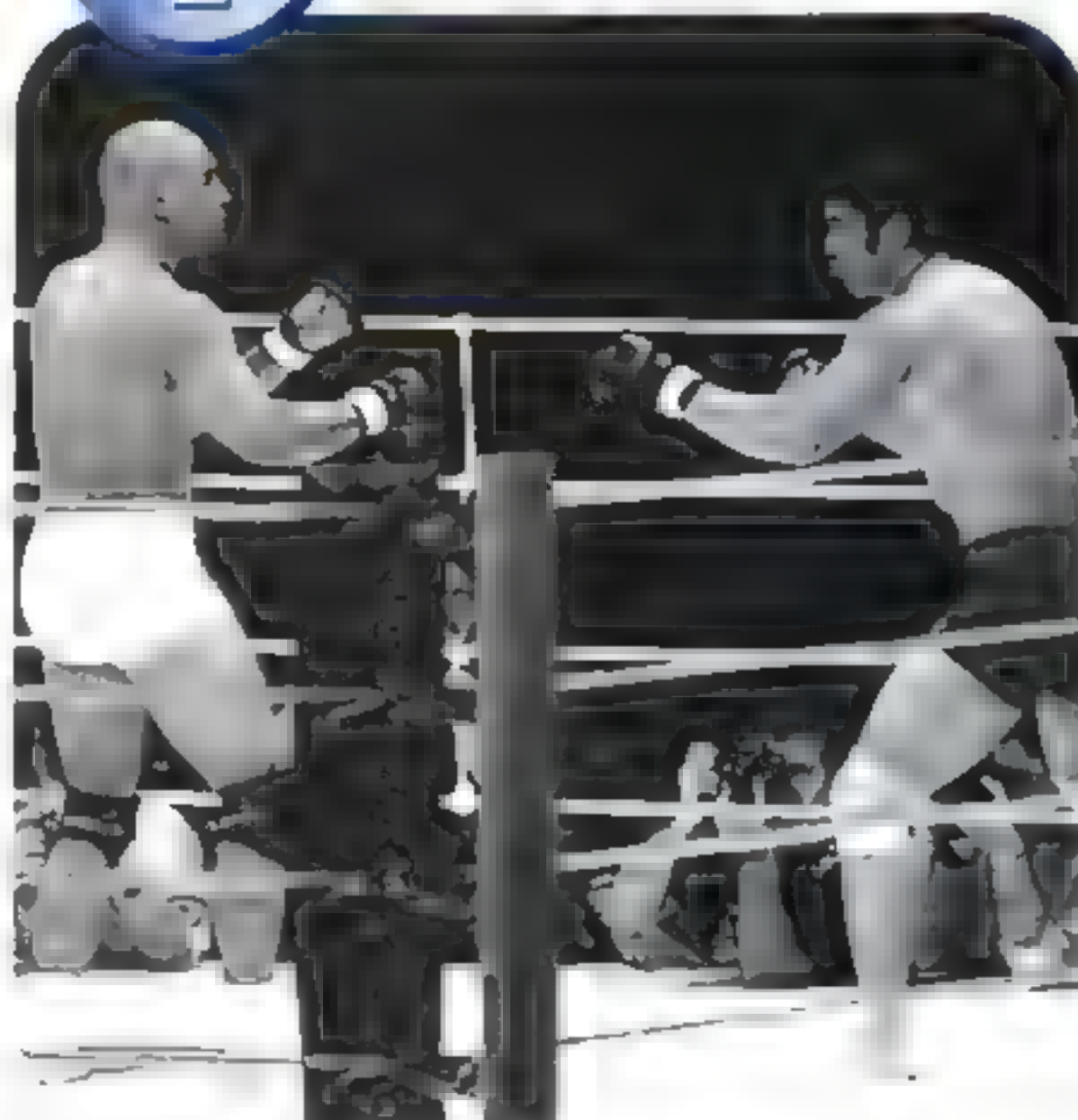
## 格闘技番組ガイド TV&RADIO

### Pick Up 1

「ch.01（チャンネルZERO-ONE）」
FIGHTING TV SAMURAI!
6月30日（日）/19:00～20:30ほか

いま巷で“最も熱いプロレス団体”として話題のZERO-ONEがお届けするバラエティ番組。富豪2（ふごふご）夢路の爆睡シーンだけを放送するコーナーなど、かなりムチャな内容でも放送してしまうのがこの番組の特徴だ。今回の橋本真也のトークコーナーのゲストには、小池栄子、三田佐代子に続いて、巨乳グラビアアイドルのMEGUMIが登場。破壊王が見せる、大人の男の会話は要チェックだ。

### Pick Up 2

「PRIDE REVIVAL」
スポーツ・アイ ESPN
7月2日（火）/21:00～24:00

1997年10月11日に東京ドームで行われた『プライド1』から始まった『プライド』シリーズを毎月3週にわたって、1大会ずつ放送していく新番組が登場。第1回放送となる今回は、今では伝説となっている高田延彦vsヒクソン・グレイシー戦が行われた『プライド1』を一挙に放送する。毎月、1大会ずつ放送されるので、『プライド』の歴史がいっぺんに分かる。『プライド』ファン必見の番組だ。

### Pick Up 3

「緊急生放送！ UFC-究極格闘技-パーフェクトガイド」
WOWOW
7月7日（日）/17:00～18:50

現在の総合格闘技の元祖と言えば、アメリカのUFC。そのUFCを人よりもちょっとでも詳しくなりたい、そんな人のために作られたのがこの番組『緊急生放送！ UFC-究極格闘技-パーフェクトガイド』。高阪剛が、7・13UFC38ロンドン大会の見どころともども、UFCのことを一から分かりやすく解説してくれるぞ。また、この日はWOWOWの無料放送の日なので、加入してない人でも見られるぞ！

## TV

| 日付 | チャンネル | 番組名 | 時間 | 内容・見所 |
|---|---|---|---|---|
| 7/9（火） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、市原市臨海体育館大会（01.5.6） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 6.29に大阪・堺市金岡公園体育館で開催の「プロフェッショナル修斗公式戦」を放送予定。再放送7/10・9：30～ |
| | 東海テレビ | [illegible] | 24：40～25：10 | 『PEIDE.21』結果詳報[illegible] |
| | テレビ東京 | 格闘スパンクラス | 26：35～27：05 | 内容未定 |
| 7/10（水） | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | 新日本キック協会、後楽園ホール大会（01.5.27） |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション | 19：00～21：00<br>26：00～28：00 | 6.29に後楽園ホールで開催の日本キック連盟「2002年破壊シリーズ」を放送予定。再放送7/11・9：30～ |
| | スカイA | パンクラスアワー | 22：00～22：30 | 7/3を参照 |
| | フジテレビ | すぽると | 23：50～24：30 | 毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる |
| 7/11（木） | TBSテレビ | [illegible] | [illegible] | [illegible] |
| | FIGHTING TV SAMURAI! | バトルステーション（再） | 5：00～7：00 | [illegible] |
| | GAORA | 角田信朗のすぽ魂 | 18：00～18：30 | 6/30を参照 |
| | GAORA | バトルインフォメーション | 18：20～19：00 | 6/28を参照 |

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00～20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

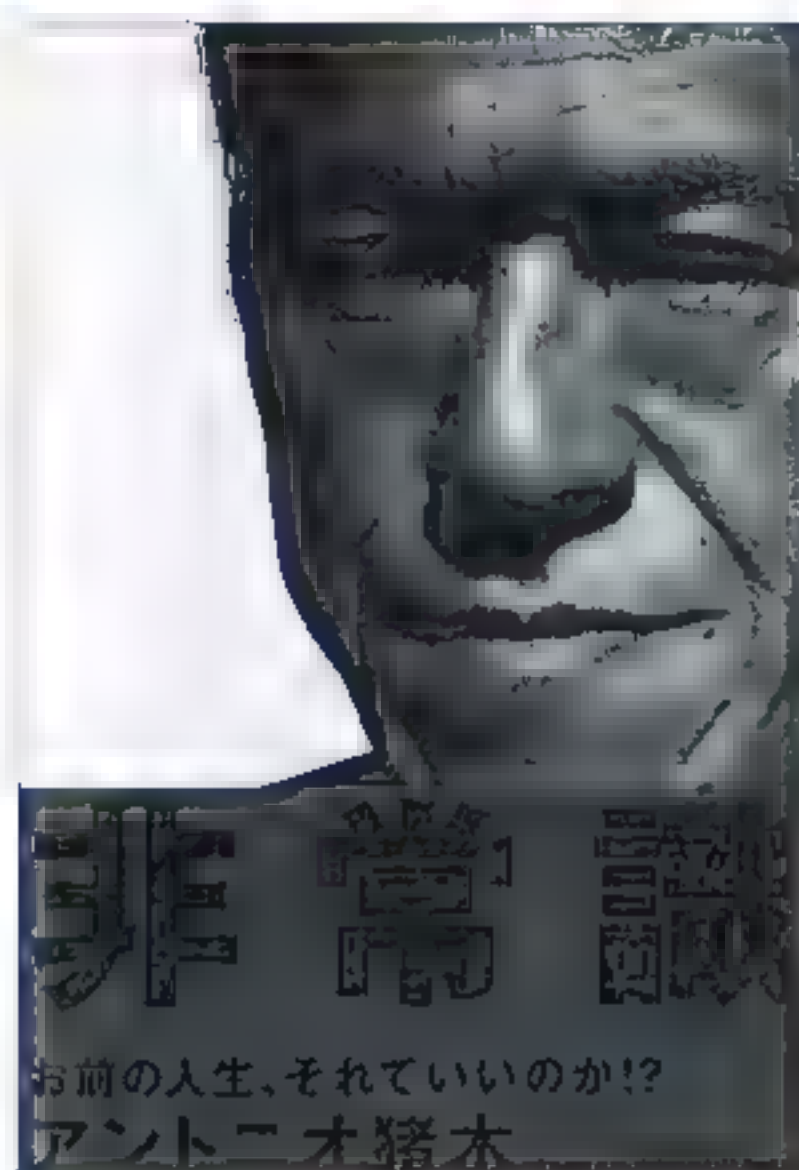
■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

■J スカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

# BOOK
話題の本&新刊情報

## 〈新刊紹介〉 It's HOT!

### 『非常識』

アントニオ猪木著/河出書房新社
本体価格1,400円/発売中

**この人には非常識こそが常識！**

6月22日に発売されたばかりのアントニオ猪木最新作は、各界の著名人との対談集だ。序文における"お前らは、所詮、「井の中の蛙」である"という現代の日本人に向けた強烈なアジテーションに始まり、電波少年の"T部長"こと土屋敏男とは旅を、天才TVプロデューサー・テリー伊藤とは若者論と教育論、女優・杉本彩とは恋愛とセックス、結婚を、そしてDSE・森下直人社長とはマット界におけるビジネス、エンターテインメント論を語り倒す。もちろん、例の永久発電機関の話も出てくるわけだが、同時に「今の若い奴はオナニーもしないんじゃないのかな？」と、そっち方面の発電状況も語ってくれるからさすがアントン。いつ何時"元気が一番"な猪木の言葉の数々に酔いしれるばかりの必読書なのである。

**《イベント情報》**

「非常識」の発売を記念したイベント（握手会）も開催される。会場、時間などは下記のとおり。元気と闘魂を注入されるべし！

◎6月28日（金） 17:45～18:45
会場/紀伊國屋書店・新宿南店（タカシマヤタイムズスクエア1F特設会場）
お問い合わせ/紀伊國屋書店・新宿南店 ☎03-5361-3301

◎6月30日（日） 14:15～15:30
会場/有隣堂・ランドマークプラザ店（ランドマークプラザ1F特設会場）
お問い合わせ/有隣堂・ランドマークプラザ店 ☎045-222-5500

**《デジタル配信もあり！》**

常に世界戦略を考える猪木だけに（？）本書はデジタル・コンテンツも同時発売されている。下記のサイトにアクセスしてみよう！

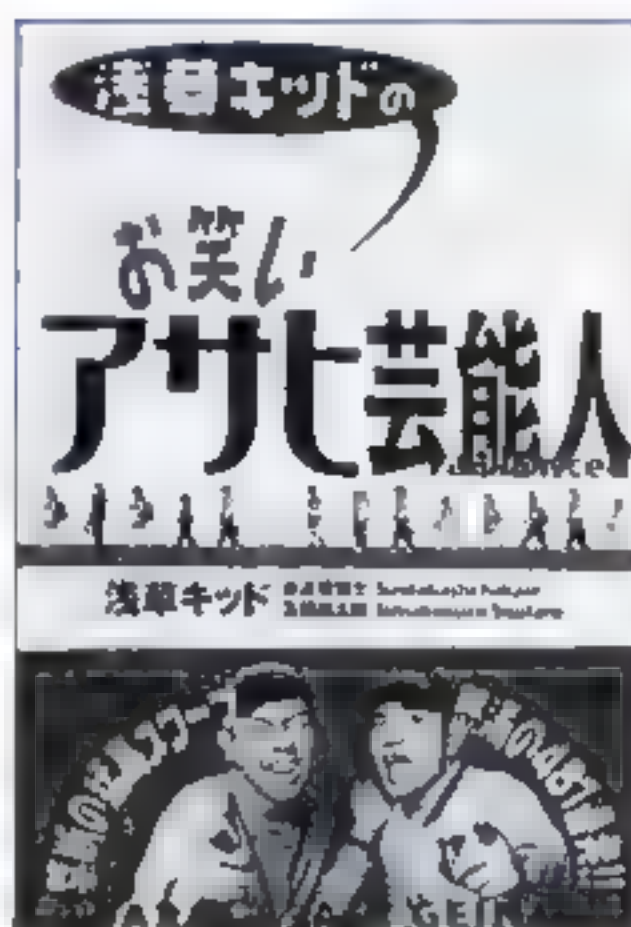
[Bitway] http://www.airbitway.com
[PDA book] http://pdabook.jp
[Sharp Space Town] http://www.spacetown.ne.jp
[電子書店パピレス] http://www.papy.co.jp

## 〈オススメの一冊❶〉 Recommend

### 『浅草キッドのお笑いアサヒ芸能人advanced』

浅草キッド著/徳間書店
本体価格1,300円/発売中

**『アサ芸』の人気連載を一冊まるごと！**

4月に発売された「発掘」も売れ行き絶好調の浅草キッドが、またも新刊を発売！ 「週刊アサヒ芸能」の人気読者投稿ページをまとめたもので、「バカ丼」、「大芸能人」に続くシリーズ最新作でもある。芸能人やスポーツ選手の恋愛騒動、金銭トラブルからヅラ疑惑まで、全てを"捏造されたスクープ"としてギャグに変換してみせるキッドイズムが満載。先日、急逝したナンシー関さんの消しゴム版画もたまらん！

## 〈オススメの一冊❷〉 Recommend

### 『武道通信　十八ノ巻』

杉山頴男事務所
本体価格1,200円/発売中

**前田&松井館長対談が実現！**
**気になる新連載もスタート**

元「週刊プロレス」、「格闘技通信」編集長の杉山頴男氏が発行、前田日明が編集長を務める「武道通信」の最新号では、前田と極真会館・松井章圭館長の対談を掲載。"武術の競技化"をテーマに、現代社会における空手とその道場の役割や生産性を存分に語っている。また新連載として、リングスのリングドクターだった野呂田秀夫医師による「前田日明の肉体解剖」もスタート。前田信者は即購入せよ！

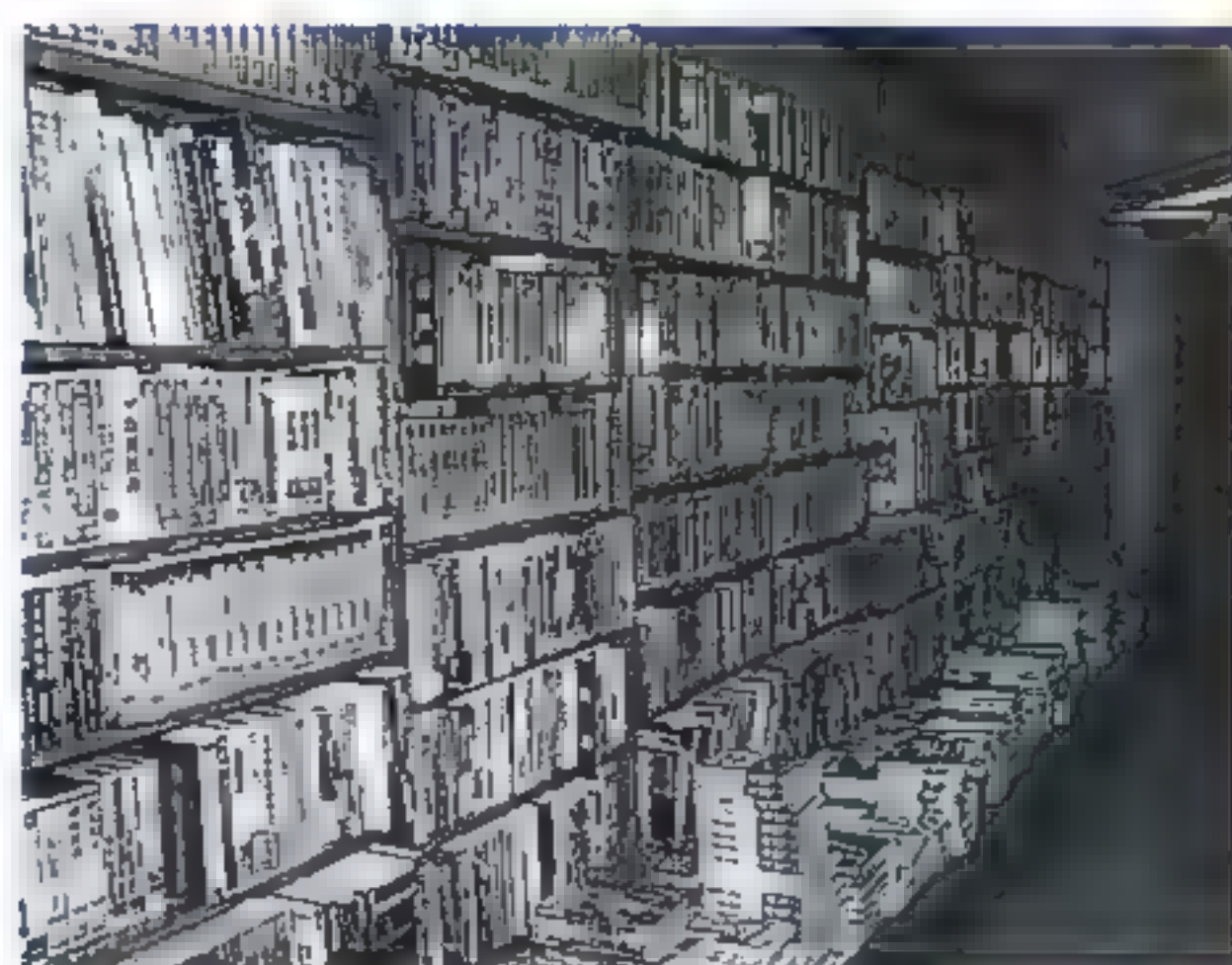
## BOOK RANKING (6/1～6/15調べ)

1. 『空手のタマゴ2　黒帯への道』
坂丘のぼる著/福昌堂
本体価格1,429円
2. 『八極拳2』
張世忠監修/福昌堂
本体価格1,800円
3. 『PRIDE大百科』
東邦出版
本体価格952円
3. 『剣道上達BOOK』
井上秀克著/成美堂出版
本体価格1,200円
3. 『武道空手の知と実践』
宇城憲治著/合気ニュース
本体価格2,300円
3. 『空手』
数見肇著/旺文社
本体価格1,100円

**1位 『空手のタマゴ2　黒帯への道』**
**マンガで空手が強くなる！**

マンガで空手が学べる「空手のタマゴ」第2弾。和道流、糸東流など様々な流派ごとの基本技術とその思想を知ることができる。特別付録として、空手道用語集付き！ 「道場に行くのはちょっと……」という人は、まずこれから始めよう。

## 書泉ブックタワー

**東京都千代田区神田佐久間町1-11-1**
**☎03-5296-0051（代）**

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！ 本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へGO！

**書泉ブックタワー 後藤 実副主任**

「今回のランキングでは、福昌堂さんの書籍が1位と2位を占めています。ベスト10まで合計すれば4つ入ってますね。全体的な売れ行きを見ても、技術モノなど"やる側"向けの本が好調のようです」

※表示価格は全て税別価格

最新&売れスジグッズをご紹介!

〈新作紹介〉 It's HOT!

『イサミ製サポートグリップ』

イサミ/サポートグリップ(サイズフリー)1,500円(税別)

ウェイトトレーニングもこれで安心

ウェイトトレーニングの必需品と言えばコレ! 素手でのトレーニングは、滑ったりして大ケガの元なので、イサミ製のサポートグリップを使って、ケガなく確実な筋力アップを!

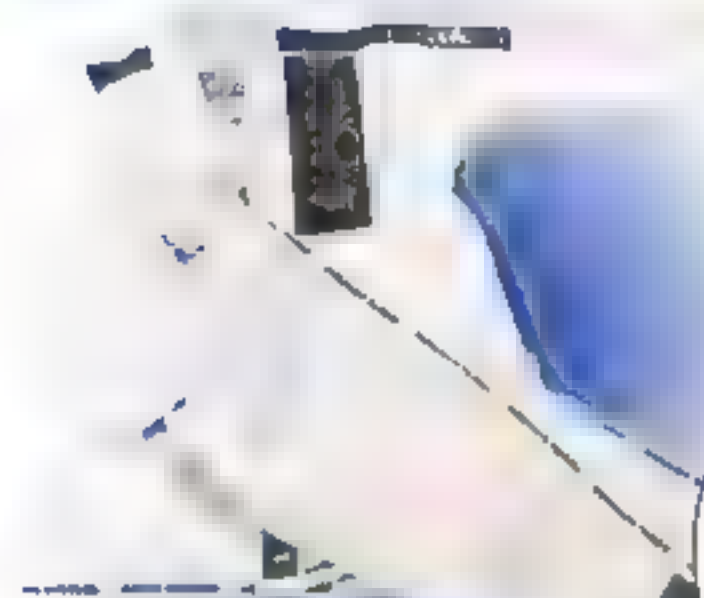
〈おすすめグッズ❶〉 Recommend

『JIU-JITSU Tシャツ』&『カレッジロゴ Tシャツ』

イサミ/各2,000円(税別)

シンプル&低価格がグッド!

夏本番に向け、イサミからNEW Tシャツが発売されたゾ。シンプルなデザインで値段も超手頃! サイズはMとLでカラーは白と黒。はっきり言ってブルーはもう古い。これからはやっぱり白か黒だっ!

〈おすすめグッズ❷〉 Recommend

『KORAL柔術衣』

KORAL JAPAN/白 22,000円、青・黒 24,000円(税別)

新しいサイズも加わりました!

いま柔術愛好家の間で人気のKORAL柔術衣に、キッズ、レディースサイズ、さらにハーフサイズが加わったゾ。自分にピッタリ合うサイズでさらに充実した柔術ライフを送ろう。スパッツ、ラッシュガードもあるヨ!【サイズ】M-3、A-0.5(キッズ、レディースサイズ)、A-1(Sサイズ)、A-1.5、A-2(Mサイズ)、A-2.5、A-3(Lサイズ)

**東京イサミ**
新田道範店長

「今まで入手困難だった『頭 柔術衣』のホレッタモデルとデラヒーバモデル」を新入荷します。あと、ミノタウロTシャツも新デザイン入荷。他にも掘り出し物タップリ。ぜひ一度、お店にお立ち寄りください」

**東京イサミ**
東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
☎03-3352-4083
HPアドレス http://www.isami.co.jp/
営業時間/11:00~19:00(火曜、祝日定休)

# Et cetra

## ターザン山本「一揆塾」、塾生募集！

ターザン山本の「一揆塾」が7月より月謝制になってスタートする！　プロライターを目指す人はもちろん、プロレスを通してものの考え方をターザンに学びたい人は集まれ！　また、6月29日（土）には第9回トークライブ『ターザン山本自画自賛の会』も同じ闘道館で行われる。
◆日時/毎週木曜19:30～21:00　※7月4日（木）～
◆場所/格闘技プロレス図書館 闘道館（JR水道橋駅より徒歩3分）
◆入会費/5,000円
◆月会費/8,000円　※体験入門として1回3,000円で受講可能。
◆休会費/月1,000円（5カ月以上休会した場合は、再度入会）
◆申し込み方法/名前、住所、電話番号、年齢を記入の上、toudoukan@livedoor.comにメールを送信。または、闘道館☎03-3512-2080まで
◆お問い合わせ/格闘技プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、http://toudoukan.hoops.livedoor.com/
【ターザン山本自画自賛の会】
◆日時/6月29日（土）19:00～
◆場所/格闘技プロレス図書館 闘道館（JR水道橋駅より徒歩3分）
◆入場料/前売り1,500円（当日2,000円）　※ワンドリンク付
◆チケット発売/闘道館
◆定員/45名
◆お問い合わせ/格闘技プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、http://toudoukan.hoops.livedoor.com/

## 髙田道場が期間限定会員募集！

最前線で活躍する選手が集う髙田道場が、7月1日から9月30日までの3ヵ月間限定会員を募集している。「夏休みだけ道場に通ってみたい」「地方に住んでいるので1週間だけ東京に来てレスリングを学びたい」など、普段なかなか道場に通えない人にぴったりのプランとなっているぞ！
◆期間/7月1日（月）～9月30日（月）　※7月1日（月）12:00から受付開始
◆料金/3回5,000円、5回8,000円　1カ月15,000円（学生12000円）
◆お問い合わせ/髙田道場☎03-5749-5030

## 船木誠勝の初主演映画『SHADOW FURY』があおもり映画祭で上映＆サイン会開催！

今回で11回目を迎える『あおもり映画祭』で、船木誠勝初主演のハリウッド映画『SHADOW FURY』が上映されることが決定した！　毎年、日本映画を中心に上映してきた『あおもり映画祭』で、新作ハリウッド映画を上映することは異例だが、今回は船木の地元ということもあり、実現されることになった。上映日には、船木誠勝によるトークショーと限定20名のサイン会も行われる。
◆日時/7月27日（土）18:30～ 青森東映シネマ
　　　7月28日（日）14:00～ 弘前駅前市民ホール
◆お問い合わせ/㈳あおもり映画祭事務局☎017-744-3011（10:00～17:00／土日祝日を除く）

## 世界初！　強くなる格闘技サイト「BUDO-RA」誕生！

『格闘Kマガジン』編集長の山田英司氏が動く格闘技サイト『武道リアルアクションBUDO-RA』をスタートさせた！　このサイトは、世界中の武道家による指導・実演映像をオンラインで配信するとういう画期的なサイト。超一流の格闘家、武道家たちが、秘伝をあますことなく披露してくれるぞ！　そして、配信する映像は全てがオリジナルで世界初公開。サイトを見ながらにして、強くなれるという、大規模な通信教育システムとなっている。サンプル映像も用意されているので、まずはサイトを覗いてみよう！
◆アドレス/武道リアルアクションBUDO-RA（http://www.nifty.com/budo-ra/）
◆料金/毎月1,000円

## 京都BJJ4出場選手募集＆大賀幹夫のスイープセミナー開催！

PUREBRED京都主催による4回目の柔術大会「京都BJJ4」が出場者を募集している。参加資格は白帯のみとなっている。また大会終了後には、ねわざワールド代表の大賀幹夫のスイープセミナーも開かれ、関西地区の人にはうれしい、柔術の奥義に触れられるチャンスだ！
【京都BJJ4出場者募集】
◆日時/7月20日（土）11:00～
◆場所/PUREBRED京都（阪急河原町駅より徒歩7分、地下鉄四条駅より徒歩6分）
◆大会参加資格/白帯のみ
◆参加費/2,500円　※試合＋セミナーは5,000円
◆申し込み方法/参加申込書に必要事項を記入の上、現金書留で7月15日（月）必着で下記の住所まで郵送
〒604-8073京都市中京区六角通柳馬場東入り大黒町72-1 アリストビル6階
◆お問い合わせ/PUREBRED京都☎075-254-7777
【大賀幹夫スイープセミナー】
◆日時/7月20日（土）15:00～（予定）
◆参加費/3,000円　※試合＋セミナーは5,000円
◆お問い合わせ/PUREBRED京都☎075-254-7777

宇月田麻裕の
Mahiro Utsukita

# 北斗占い®

## 北斗本命星早見表

| 貪狼星 | 巨門星 | 禄存星 | 文曲星 | 廉貞星 | 武曲星 | 破軍星 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1959 | 1958 | 1957 | 1956 | 1955 | 1954 |
| 1960 | 1961 | 1962 | 1963 | 1964 | 1965 | 1966 |
| | 1971 | 1970 | 1969 | 1968 | 1967 | 1978 |
| 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | |
| 1984 | 1983 | 1982 | 1981 | 1980 | 1979 | |
| | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 |
| 1996 | 1995 | 1994 | 1993 | 1992 | 1991 | |

★あなたの生まれ年で本命星が分かります
例）1972年生まれの人は貪狼星 ※節分前の生まれの人は 前年の星になります

## 6/27～7/10

**★北斗占いとは★**
古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合、そして、日本密教の1つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の1つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

## 貪狼星

**全体運**
ちょっと地味目な運気が続く時。梅雨空ということもあって、インドアでボ～っとすることが多くなりそう。ここは気持ちを切り替えて、レジャーもトレーニングもインドアで楽しめるような工夫をしていくとエネルギーがUP。

**恋愛運**
「壁に耳あり障子に目あり」で、恋人の悪い噂が入ってきたり、あなたが悪い噂を立てられたりする可能性あり。秘密はバレないように厳重に注意して。

**勝負運** エネルギーを充電し、気合いを入れ直して。
**健康運** 梅雨でなんとなく気怠い感がある時。
**金[illegible]運** 金銭トラブルを避けるために管理は慎重に。

★ラッキーカラー★ ライトピンク
★ラッキーアイテム★ 漫画
★ラッキースポット★ 室内プール

## 巨門星

**全体運**
吉兆星が輝いています。マメに営業や挨拶回りにいったり、トレーニングをしたおかげで、努力が実を結び、評価されたり、賞賛を受けたりする暗示。しかもコンビネーションプレイではなく、あなたの実力で勝ち取れる栄冠のよう。

**恋愛運**
フリーもカップルの人も、肉体より精神的な愛の絆ができる幸運期。好きな人がいたらエッチをすることばかり考えないで、あなたのハートを捧げること。

**勝負運** 親友のアドバイスを聞くと勝運アップ！
**健康運** 十分に睡眠をとることで健康キープ。
**金[illegible]運** 大きな買い物はリサーチしてからするとOK。

★ラッキーカラー★ レッド
★ラッキーアイテム★ ポスター
★ラッキースポット★ 書店

## 禄存星

**全体運**
忙しくなり先走りしそう。視野が狭くなるので、大きな決心をする時には一人で決めず、信頼できる人にアシストしてもらうとグッド。また、お金の管理がズサンになりがちなので、衝動買いや無謀なローンのプランには要注意。

**恋愛運**
ついつい相手の気持ちを無視して、エッチへと急ぎすぎていない？ 女性のハートはデリケートなので、よく感情を読み取っていくことが今のあなたには必要。

**勝負運** 待てば海路の日和あり。チャンスを待って。
**健康運** 捻挫しやすいのでテーピングでガードを。
**金[illegible]運** 油断するとお財布や携帯電話を落としそう。

★ラッキーカラー★ ブルー
★ラッキーアイテム★ ヘッドフォン
★ラッキースポット★ 地下

## 文曲星

**全体運**
社交運、人気運がUP。どこに顔を出しても評判は上々なので、こんな時は将来に繋がるネットワークを作っておこう。パーティや合コンの誘いがあったらまずは参加して！ マメに名刺交換やメルアドを交換しておくとグッド。

**恋愛運**
あなたにピッタリの恋人候補が現れる予感。梅雨だからといって家に閉じこもっていてはダメ。七夕イベントなど、どんどん人が集まるスポットにGO！

**勝負運** 試合前の十分なリサーチが勝利の秘訣。
**健康運** ゆっくりとお風呂に入って疲労回復を。
**金[illegible]運** 先輩風を吹かせて大きな出費をしそう。

★ラッキーカラー★ パープル
★ラッキーアイテム★ ハンカチ
★ラッキースポット★ コンビニ

## 廉貞星

**全体運**
「ジックリ」をモットーにすると◎。関心のあることに素早く手を出そうとすると時期が早かったり、未熟だったりで失敗を誘発しかねません。周りの状況を熟視しながら、タイミングを見極めていくことが成功のポイント。

**恋愛運**
恋人との関係がマンネリ化。こんな時は、七夕のイベントを有意義に使って、ムードいっぱいのデートを演出してみよう。フリーも七夕の夜がチャンス。

**勝負運** 勝負強い時なので堂々とした態度で挑んで。
**健康運** トレーニングの前後は十分にストレッチを。
**金[illegible]運** 買い物をした後はお釣りをチェックして。

★ラッキーカラー★ グレイ
★ラッキーアイテム★ チケット
★ラッキースポット★ 競技場

## 武曲星

**全体運**
大きな壁を乗り越えた後のように、自信が湧き上がる時。今ならどんなことでもクリアできると思えるくらい。仕事なら、過去に断られたようなところでもチャンスはあり。タイミング的にあなたが必要な存在になっている暗示。

**恋愛運**
アプローチを躊躇していた人は、夏の太陽の下で情熱的にコクってみては？ 相手は熱気で思わずうなずいてしまうかも……。カップルもラブラブ続行中！

**勝負運** 巨門の先輩がキーマン。信頼して任せてOK。
**健康運** 加速しすぎに要注意。コントロールをして。
**金[illegible]運** ボーナスに向け貯蓄プランを立てるとグッド。

★ラッキーカラー★ ブラック
★ラッキーアイテム★ パソコン
★ラッキースポット★ ミュージアム

## 破軍星

**全体運**
余裕を持った行動がツキを呼ぶ暗示。全てにギリギリで行動していくと遅刻や忘れ物をして、仕事や友情関係にヒビを入れてしまうことに。余裕を持っていけば、信頼関係がより深くなり、仕事や選手選抜等で思わぬ棚ボタあり。

**恋愛運**
浮気をしているあなた。恋人にバレる可能性大。どこで誰が見ているか分からないので、浮気をするなら徹底的にバレない作戦を練らないと大変なことに。

**勝負運** 上手な駆け引きが勝負の分かれ目に。
**健康運** 風邪をひきやすいので温度調節をマメに。
**金[illegible]運** 何かもらったり、ゴチしてもらったりしそう。

★ラッキーカラー★ ベージュ
★ラッキーアイテム★ 飲料水
★ラッキースポット★ テラス

**宇月田麻裕プロフィール** ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03 「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

私は日曜日が嫌いなのだ。どう
に言った。「君は10代でもうゴール
ート。

イラストレーション＝松本晴夫

# ザッツ・ムチャリブレ ⑤

## ピカソとマティス……猪木と馬場

山本隆司

私は日曜日が嫌いなのだ。どうも肌に合わない。性（しょう）にも合わない。極端な言い方をすると、そこには自殺を誘発させるやばい空気が充満している。

それを忘れるために私は日曜日ひたすら競馬をやる。これを私は〝サンデーシンドローム〟と勝手にそう呼んでいる。先日、日曜日の夜、テレビのチャンネルをカチャカチャ回していたら、20世紀の代表的な画家、ピカソとマティスの話をやっていた。

ＮＨＫ教育テレビ「日曜美術館」である。タイトルは「同時代を生きた天才、ピカソとマティス」となっていた。私は〝天才〟とか〝才能〟という言葉が、誰よりも大好きなのだ。

思わず番組を見てしまった。ピカソがある時、アメリカ人の有名な画商の人物画を描いた。それを見た画商は「これは自分に似ていない」と言った。それに対してピカソは「いや、それは違うよ。やがて君がこの絵に似てくるんだよ」と答えたそうである。

ピカソは正しい。プロレスラーはピカソが描いた人物像と同じなのだ。お前たちは存在がフィクションなのだ。限りなくフィクションに近付いていくしかない。

この単純な事実を「分かっているだろうな」と私は言いたくなってしまう。マティスは1869年、フランス生まれ。一方、ピカソはそれより12年遅れて1881年、スペインで生まれた。

マティスは30歳を過ぎてから初めて絵を描き始める。ピカソは少年時代にすでに早熟にして完成していた画家。そこでマティスはピカソに言った。「君は10代でもうゴールに到達したんだよね」と。

その時、ピカソは「私は小さい頃から絵画の構図、バランス、規則に伝統などをいやというほど叩き込まれた。それがいやで全てを破壊していくしかなかった。それを思うとあなた（マティス）は非常に幸せな人なんです」と言い返した。

調和と破壊。私はジャイアント馬場とアントニオ猪木。プロレスとバーリ・トゥードを連想した。

晩年、絵を描けなくなったマティスは、切り絵に没頭。マティスが切り絵で女性を表現した。それを見たピカソは「これはダメだ」と反発。形に固執していることを批判したのだ。そこでピカソは自分の彼女を描くことにした。

「まるで君は成長する植物のようだ」と言って、その言葉どおりに彼女を描いた。素晴らしい。私も最近、ある女性に「君は可憐な高山植物の花のようだ。まさか都会で高山植物を見れるとは、思ってもいなかった」と言った。

1954年、マティスは85歳で亡くなる。その19年後、ピカソは92歳で亡くなった。亡くなる時にピカソは言ったそうである。

「やっぱりマティスしかいないんだよ。彼がいなくなったことで私の中にたまったものを、外に吐き出せなくなったんだ……」

ライバルや敵は自分の存在を浄化させ、聖なるものへと導く作用を持っている。だから絶対にライバルと敵は必要なのだ。猪木さんに今、一番言ってほしい言葉は一つしかない。「やっぱり馬場さんなんだよ。どうみても俺には馬場さんしかいないんだよ」。■



はみ出し ターザン情報

ターザン山本の「一揆塾」7月からの塾生募集中――大好評の「一揆塾」が、7月4日よりリーズナブルな月謝制になってスタート。毎週木曜日の19:30～21:00、場所は水道橋の闘道館。詳しくはP74をご覧ください。

〜お客様は神様です〜

# あぶもぐ 大阪場所 十日目

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎山松モグタン

丸山ドロボー君と言っても、読者の方々の誰一人として分からないと思うが、彼はつい、3週間前までれっきとしたSRS・DX編集部の一員だった。わずか、2カ月あまりで廃業してしまったのだが、その短期間で編集部に残したインパクトは絶大なものがあった。ここで公開する文章は、ドロボー君が残した唯一の原稿である。辞める間際にサダハルンパ編集長が見せた最後の温情……、それがこの文章なのだ。心して読め！

# 残したインパクトはW杯以上！丸山ドロボー君！遂に廃業！

◀写真の左側の人物が丸山ドロボー君。隣にいるのは紙プロにいたガイ子ちゃん。ドロボー君の口元から察するに、この瞬間は至福の一時だったのだろう。いったい、2人はいずこへ？

## 中迫と自分の未来

文◎丸山ドロボー君

私は中迫という男が大好きである。

最近、その中迫の未来について考えることが多くなった。というのも、私自身、会社を辞めることになり、自分の将来を見つめ直すようになったからだ。

4年前、私は中迫がK—1デビュー戦でピア・ゲネットを敗ったあの試合を見て「コイツだ！ コイツならきっと、負けてばかりの日本を救い、佐竹（雅昭）さんの意志を受け継いでくれる!!」と大声で叫びながら喜んだ。今でも鮮明に覚えている。佐竹さん以来、強い日本人が現れず嘆いていた私にとって、中迫は太陽だったのだ。当時、誰もが中迫に期待していた。誰もが中迫を信じていた。今年に入ってからの中迫は、なんだかあの頃と重なって見える。

1月に現K—1王者マーク・ハントと闘い、4月にはK—1を3度制したアーネスト・ホーストと闘った。

かつて、中迫が経験した、佐竹雅昭、スタン・ザ・マン、アンディ・フグという3人の世界チャンピオンとの3連戦の時の状況とよく似ている。6月のボブ・サップとの試合も、サップの反則行為にキレた中迫の姿が、スタン・ザ・マンに鼻を折られ、猛烈に悔しがったあの姿と重なって見えた。これがいったい、何を意味しているか？ 答えは簡単、中迫が甦ったのである。まったく、喜ばしい限りだ。王者への道が、少しずつ開けてきた気さえ私はする。

まあ、まずはジャパン王者にならないと。全てはそれからだ。K—1世界王者になるためのワールドGP決勝戦出場も、「プライド」参戦もまだまだ語るべきではない。私は、今年こそは中迫がジャパンを制覇すると信じている。その先に、中迫がやらなければならないことが山のように存在しているからだ。それを成し遂げるのを見てみたい。今回で私の格闘技に関わる仕事は、おそらく最後だろう。それでも私は中迫を見守り続けたいと思う。

5年後、果たして中迫はどうなっているのだろう？ 現在、私は小説家を目指している。目標は「仮面ライダー」を越える変身ヒーローを、小説で書くことだ。実を言うと、作品の映像化（もちろん特撮）も考えている。かなり気が早いかもしれないが、目標は大きいほうがいいと私は思っているからいいのだ。

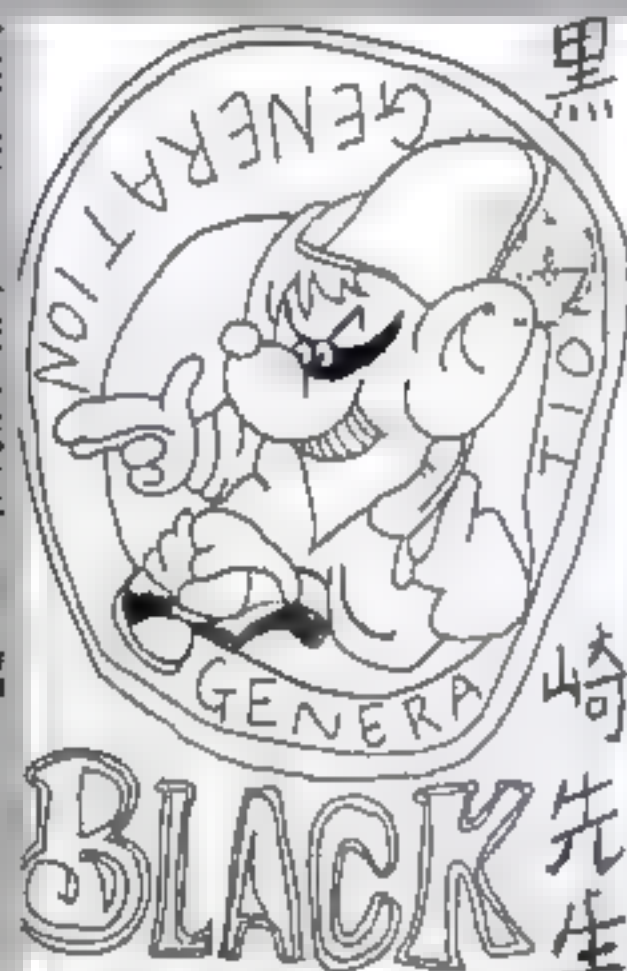
これから先、中迫はK—1世界王者になれるだろうか？ 私は小説家になれるだろうか？ 未来は誰にも分からない。なぜなら、人生は何が起きるか分からないからだ。だが、私は思うのだ。「何が起きるか分からないから、人生は面白いのだ。人生は最高だ」と。

おお、そうだ！ もし、私の作品が映像化されたら、中迫に出演をお願いしよう―■

◆文章からも分かるとおり、ドロボー君は熱狂的な中迫ファンで、特撮ファン。そして、その体格とヒゲの伸びる速度は現代人というよりも、クロマニヨン人に近い人類と推定される、まれな人材だった。しかし、その潜在能力は発揮されることなく、徹夜続きの仕事に耐えきれずに、今回の廃業に至った。ターザン山本氏より、「不景気ですよぉ！」と言われた経験あり。

▲丸山君の四股名「ドロボー君」の命名者は我らがサダハルンパ編集長。わずか半日で黒々となってしまうヒゲが、マンガによく出てくる「ドロボー」に似ているためと考えられる。この素晴らしい掛け合いも、もう我々は聞けないのだ……

## お口直しのイラスト！

（やざま優作・東京都小平市・？歳）

（長南憲司・千葉県流山市・？歳）

## 長州力様へ6つ考えました。

①リング中央でフラフラ立っているところへ、コーナー最上段からのリキラリアット　コーナー2002

②リング中央でフラフラの相手に、ロープに飛んで、2～3メートル前から飛んでラリアット、リキラリアットジャンプ

③リング中央で左右5発ずつのリキラリアットから、相手の後ろのロープを使ってリキラリアット延髄2002

④リング下の相手にコーナーから立って（片足は鉄柱）コーナーから、リング下へリキラリアット場外2002

⑤相手をロープに飛ばしながら、腕を伸ばしたまま長州力が1回転して、リキラリアット最大2002

⑥ジャイアント馬場さんのジャンピングネックブリーカーの変形でロープに飛ばして長州力もロープに走って、リキラリアット（ジャンピングネックブリーカーとどこが違う？）リキラリアットジャンピング2002

（永島満寿雄・神奈川県横浜市・？歳）

◆新日本を離脱したばかりなので、連絡先が分からず、お手紙を長州さんに送ることができませんでした。ごめんなさい。その代わり、誌面にてお手紙を公開させていただきました。きっと、長州さんの今後のプロレス人生に役立つことでしょう。次回は新日本プロレスさんへのハガキを出させていただきますので、今後もこのようなものをたくさん送ってください。

### ★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！ 質問もOK！ 強烈なぶちかましをお待ちしております。

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12神田NSビル8F
SRS-DX編集部「あぶもぐ」係

平成14年度　明治乳業カップ

全日本選抜レスリング選手権大会

6.13〜14★代々木第二体育館

# 全日本クラスのレスラー・浜中和宏登場！

## 髙田道場に第6の男！

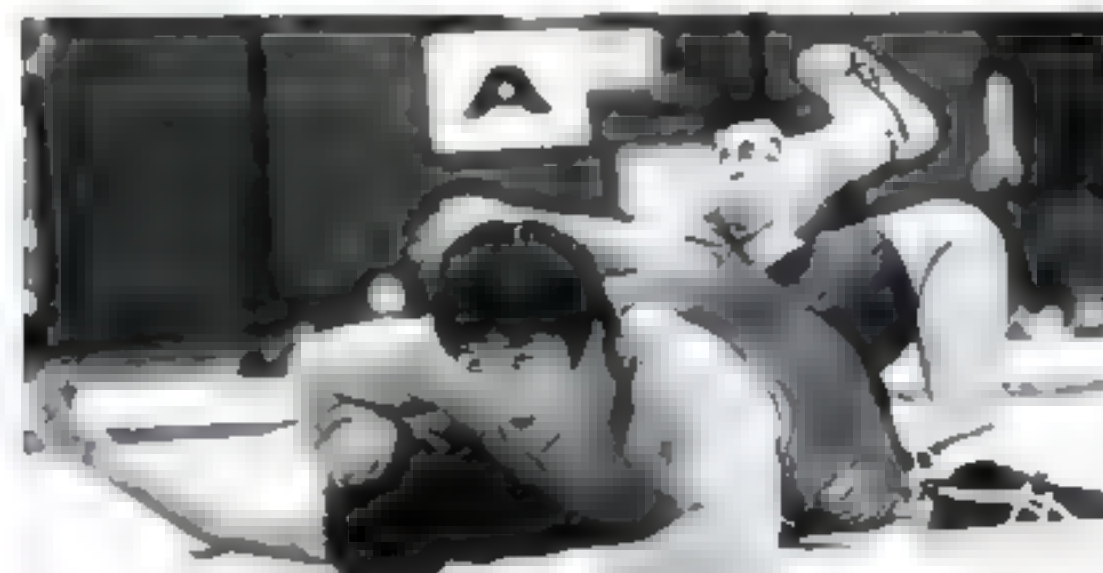
撮影◎吉澤晃

## 全日本選抜選手権、まさかの4位……

▶優勝だけを狙っていた浜中は、3位決定戦でまさかのフォール負け。茫然自失としてしまった

★3位決定戦（フリースタイル84キロ級）
○横山武典（1分06秒、フォール勝ち）浜中和宏●
〈岡山県協会〉〈髙田道場〉

◀3位決定戦に挑んだ浜中は、有利な体勢からローリングにもっていったが……

◀対戦相手の横山は見事に浜中のローリングを崩し、そのままフォールを奪った。浜中は、前日の準決勝敗退のショックが尾を引いていたようだ

◀浜中は初日の1回戦、専修大学の平澤光秀を危なげなく大差の判定で下した

▼準決勝は立命館大学の仙波■■に前半リードするものの、後半に逆転され、惜しくも決勝進出を逃した。試合後浜中は「今は何も考えられないですね」と言葉少なげに語っていた

▲浜中のセコンドには髙田道場の先輩・今村雄介が付いていた

## 木村健悟が来た！永田裕志が来た！新日本プロレス軍団来襲！

▲シドニーオリンピック銀メダリストで、新日本プロレスの永田裕志の弟・永田克彦もこの大会に出場。グレコローマンの74キロ級に出場し、見事に優勝した

▲試合後は、セコンドに付いた第31代IWGP王者の永田裕志（場内放送で紹介された）と新日本プロレススカウト部長の木村健悟も一緒に大騒ぎ。健悟はなぜか永田の階級のプレゼンターまで務めていた。ちなみに一番左にいるのは、新日本プロレスで先日デビューしたばかりの矢野通。やはりアマレス出身だ！

6月13日と14日に開催された全日本選抜レスリング選手権で分かったことなのだが、実にレスリングの大会の醸し出す雰囲気というものは面白いものがある。

試合中にW杯の日本VSロシア戦の状況を放送したり、シドニー五輪の銀メダリストの永田克彦が出てくれば、「ワールドプロレスリング」のテーマを流すなど、お堅いというアマチュア大会のイメージを見事に覆してくれた。アマレス出身の桜庭や、カシンたちが、なぜあれほどバイタリティに溢れているのかというのが、よく分かった。

ところで、この大会に髙田道場から、1人のレスラーが出場した。浜中和宏である。髙田、桜庭、ヤマノリ、松井、今村に続く髙田道場第6の男だ。浜中は、2年後のアテネ五輪を目指しており、この選抜大会では、一昨年は3位、昨年は2位と順調に成績を残している。今年は優勝して、アジア大会の代表となり、来たるアテネ五輪のステップとしたいところだった。

しかし、結果はまさかの4位。万全を期しての出場だっただけにこの結果のショックは計り知れないが、バイタリティ溢れる人材を生み出し続けるアマレス界と髙田道場でもまれているだけに、総合格闘技への出場など、今後の活躍への期待も実に大きい。髙田総帥ばりの「もう一丁」の精神で頑張れ、浜中！　（小松）

会場の渋谷・道玄坂「オンエアー・イースト」には330人の観衆が集まり、東京初上陸となったJ-DOを楽しんだ。マスコミ関係者もかなり多かった

▼試合後には選手全員が畳に正座して礼。礼に始まり礼に終わる。これぞ柔道の心だ

# 既存の総合格闘技とは違う今までにない新しい格闘技

## 初の東京大会に満員の330人 柔道選手＆関係者＆観客の評価は「なかなか面白い！」

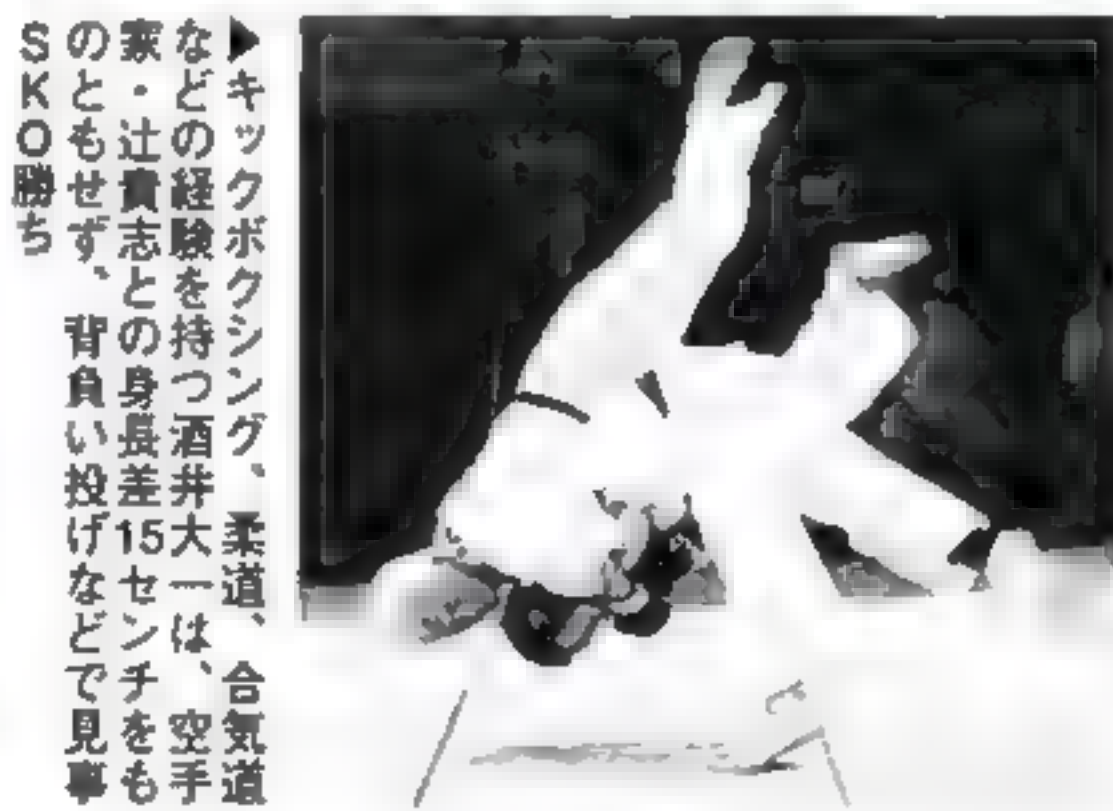
メインイベント。J-DO本部館長でありヘビー級1位の池田篤志は、2Rにキレイな内股と大外刈りで一本2つを取り、修斗の金城旭にSKO勝ち

▲メインの池田と学生時代から親交のある髙阪剛も観戦。試合後に感想を聞かれ、「かなり面白いんじゃないですか」とコメント

# J-DOとは……打撃有りの柔道！

## 池田のコメント

「J—DOは柔道をやっている人たちが入り易い競技なんですけど、柔道だけのものではなく、格闘技の壁のない、ステージ、空間を作りたいと思っているんです。大それたことは考えてなくて、柔道が楽しいということ、柔道の良さをいろんな人に知ってもらおうというのが主旨ですね。自分自身、柔道で礼儀作法とか負けない心とか養ってきて、その柔道の良さを伝えたいと。今日の自分自身の試合に関しては、SKOで勝てて満足してます」

▲サンボの全日本チャンピオン小沢幸康は腕ひしぎ十字固めで快勝。寝技は膠着したところでストップになるが、関節も絞め技もOK

▶キックボクシング、柔道、合気道などの経験を持つ酒井大一は、空手家・辻貴志との身長差15センチをものともせず、背負い投げなどで見事SKO勝ち

▲実はともに柔道がベースの選手なのだが、結果は星野啓太のパンチによるKO勝利。投げを狙いながらも、慣れない打撃で勝負が決まることもある。これが柔道とのもっとも大きな違い

まずは、ちょっと想像してみてほしい。柔道で打撃が認められたらいったいどんな試合になるのか？

相手の道衣を掴もうと思っても、打撃があったら、そう易々と組むことはできない。相手の打撃を防御しながら、あるいは打撃のフェイントを使って相手の道衣を掴み、一瞬のチャンスに投げを放つ。逆に、相手の道衣を掴み、固定しておいて打撃をブチ込むことも認められる。

6月17日、東京初お披露目となったJ—DOを見ての印象は、ズバリ「打撃のある柔道」である。いま思い浮かべてもらった攻防がそのまま柔道より少し狭い32畳の畳の上で展開されていたのだ。

裸で行われている一般的な総合格闘技とは、まず道衣を着るという点で大きく異なる。そしてもう一つの大きな違いであり、J—DOの特徴とも言えるのが「SKO」。つまり投げ技による「一本」を1R中に2つ取ると勝ちになるというルールだ。組むこと自体が困難なため、純粋な柔道以上に投げ技も決まらない。まして1R中に2本取るのは至難の業。だからこそSKOに価値があるのだ。

会場で初めてJ—DOを見た柔道家や柔道出身の格闘家は「なかなか面白いじゃないですか」と好印象を抱いたようだが、果たして今後、どのような広がりを見せていくのか？柔道好きな人は一度会場に足を運んでみてはいかがだろうか。（林）

【J-DO今後の大会予定】第2回東京大会 8/4 19:00〜於）Zepp Tokyo／第4回神戸大会 9/16 神戸チキンジョージ／第5回神戸大会 11/24 神戸チキンジョージ／第3回東京大会 2003/1/26 Zepp Tokyo
■チケット販売 http://www.j-do.jp（パソコンから）、http://www.j-do.jp/m/（携帯から） ■問い合わせ Iam（アイエーエム） ☎03-5464-5886

全日本キック

# Who's Next 02

6.16★後楽園ホール

# モンゴルの星キラリ☆ 花戸忍、こりゃホンモノだぁ!!

## 七色のキックで老練を圧倒 群雄割拠・全日本キックライト級がまた面白くなる!

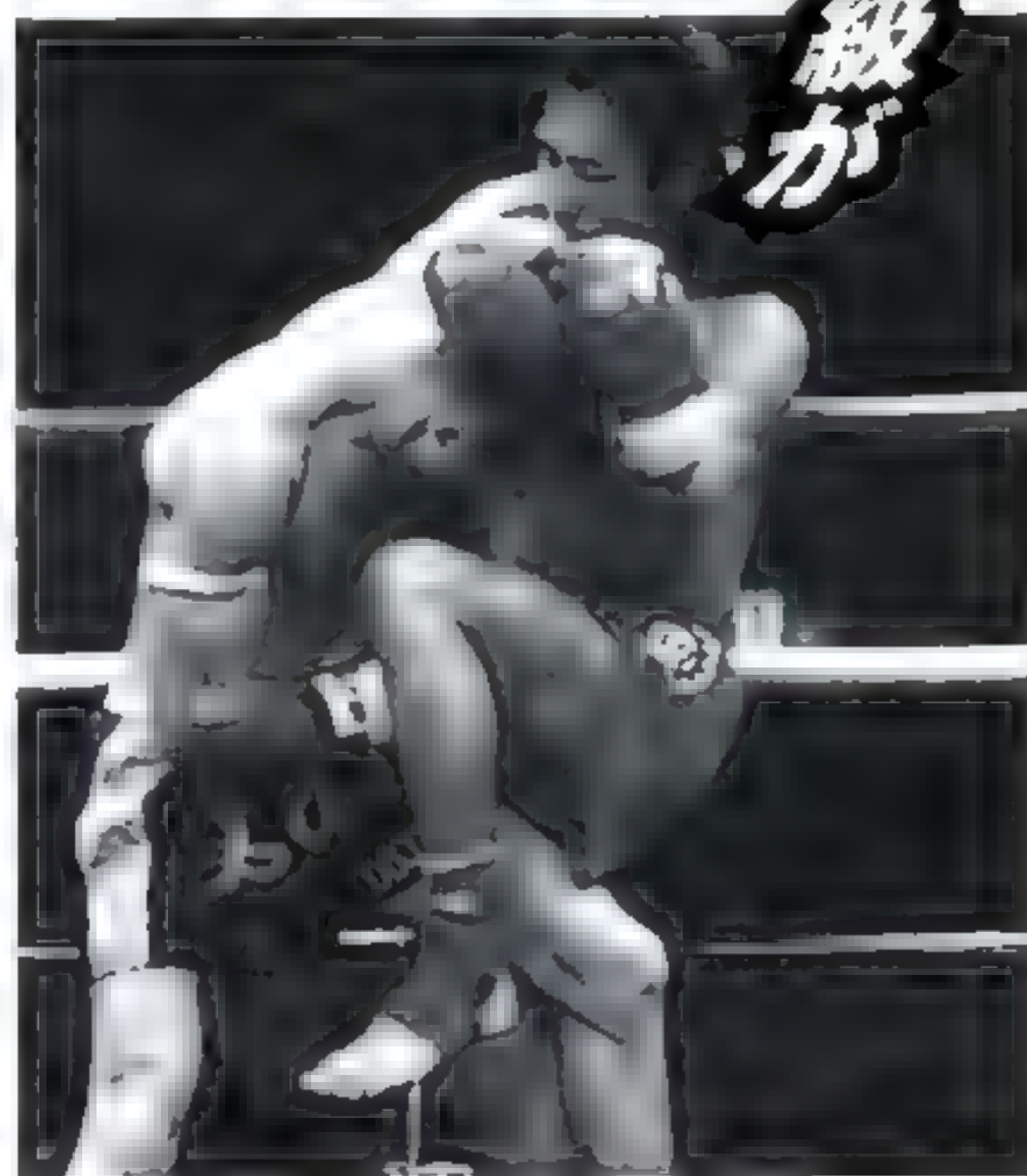
撮影◎吉澤晃

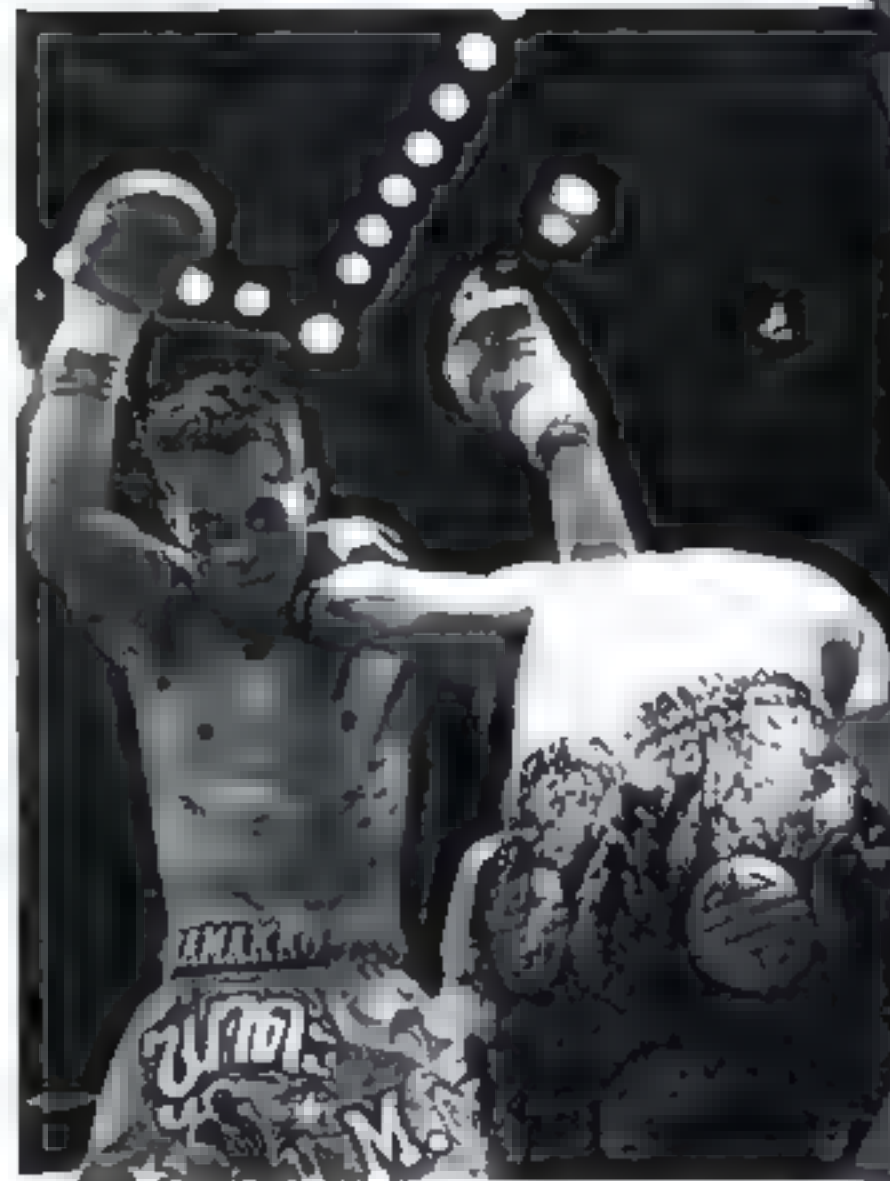
### 花戸のコメント

「初めて全日本キックの試合に出たんですが、バンデージを巻いてすぐにリングに向かうことになったせいか、あまり緊張はしなかった。相手は凄く強かった。特にヒジと首相撲が強くって、（ヒジで切られた左頬の）傷はちょっと痛いね。次の試合は7月か8月を予定してます、相手は誰でもかまわない。また頑張ります」

★第10試合/セミファイナル（3分5R）
○花戸忍（5R判定3-0）砂田将祈●
〈モンゴル/高橋道場〉 〈はまっこムエタイジム〉
※採点…50-48、50-48、50-47

極真で鍛え上げたそのキックは多彩で切れ味もよく、また華やかでもあった。試合はまさしく一方的。花戸は圧勝で全日本キック・デビューを飾った

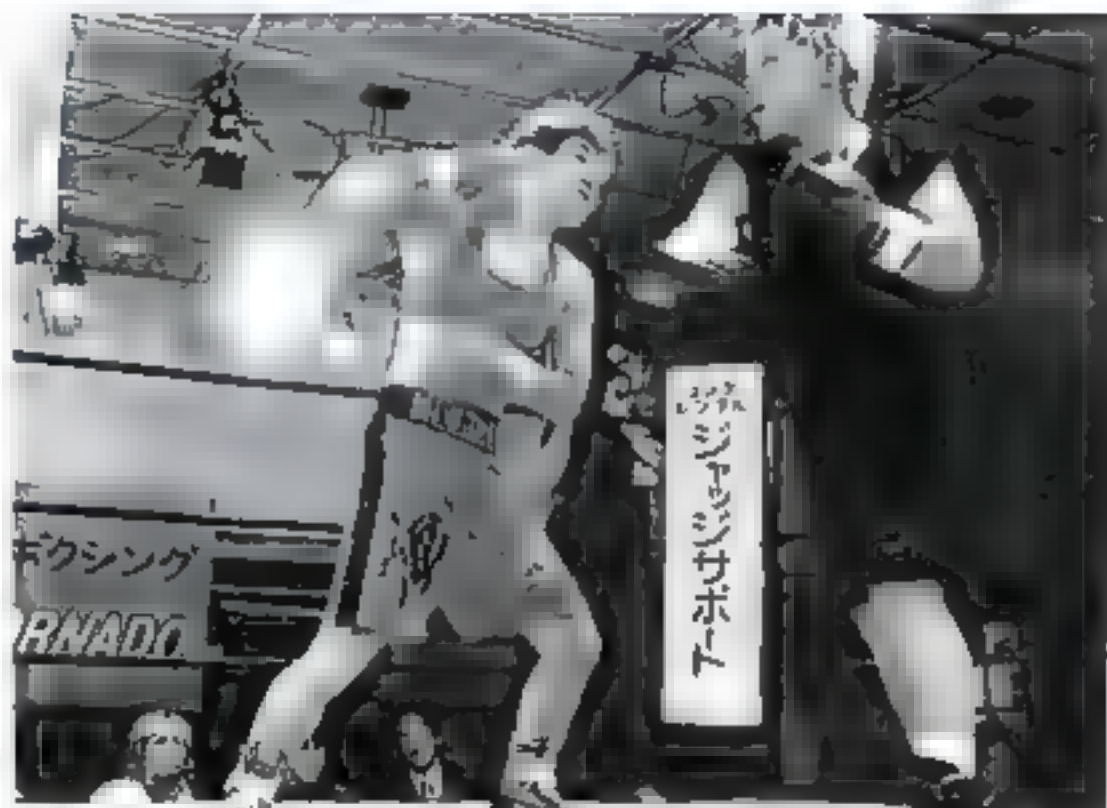
▶これで無傷の13連勝。花戸は試合後にアンディ・フグばりのカカト落しも披露した

▶メインに登場した全日本バンタム級王者・安川賢は、イタリア王者のアンドレア・モロンを、ヒザの嵐で攻め立て、2度倒した末に2R、タオル投入のTKO勝利を手にした

▲華麗なハイやミドルばかりではない。丹念に蹴りこむローも効果絶大だった

▲しぶとい技巧が売り物の砂田だったが、花戸の攻撃にまさしくお手上げ

とにかく、花戸が見事だった。モンゴルからやってきたこの新星は、ハイ、ミドル、ローからカカト落としまで、バラエティに富んだキックを、よどみなく飛ばし続けた。極真で鍛えてきただけに、その一蹴りはいずれも柔らかな曲線を描き、そして強烈に砂田の体を打ち抜いた。接近すれば、ねちっこいヒザの乱舞もある。ヒジも巧妙だ。さらにアッパーカット、左フックとパンチの軌道も正確である。「何もできへんかったから、喋ることもないです」と、MAキック王者の先輩格・砂田を、その強さですっかり沈黙させた。実際、砂田ができたのは、右ヒジで花戸の左頬を切り裂いた程度。あとはと言えば、10歳も年下の22歳の花戸にやられ放題。砂田は2Rに左フックでぐらつき、ミドルやハイで何度も顔をしかめさせられた。

それにしても、全日本キックはありがたい贈り物を手にしたものだ。3月の「COMBAT—2002」に優勝、4月には王座も手にして、キャリアわずか1年ちょっとで12の勝ち星を並べ立ててきた花戸は、今後、この新たなフィールドでも光り輝くに違いない。ここには小林聡を筆頭に、魅惑のライバルもいっぱいいる。かつて一気にユーラシアの大地を平定したチンギス・ハンのように、花戸もこの荒野を切り開いていけるのか。面白い。

（宮崎）

## 毎月第4木曜日は格闘の日！『エロ生ガチンコ格闘ナイト』を見よ！

▲メインイベントには、女子ボクシングの実力者ライカが登場。スマックガールで活躍する女子総合格闘家の張替美佳と対戦し、3R47秒、見事なKO勝ちを飾った。ところで、大会そのものは全てお色気なしの普通の試合ばかりだった……

▲これは試合前の収録風景。つかもと友希の隣にいるのはパラダイスガールの中濱実果。この大会は6月27日（木）にパラダイステレビの『エロ生ガチンコ格闘ナイト』（ch913、21：00〜22：55）という番組で放送される。毎月第4木曜日は格闘の日。ちなみに毎月第2土曜日はおしっこの日だッ！

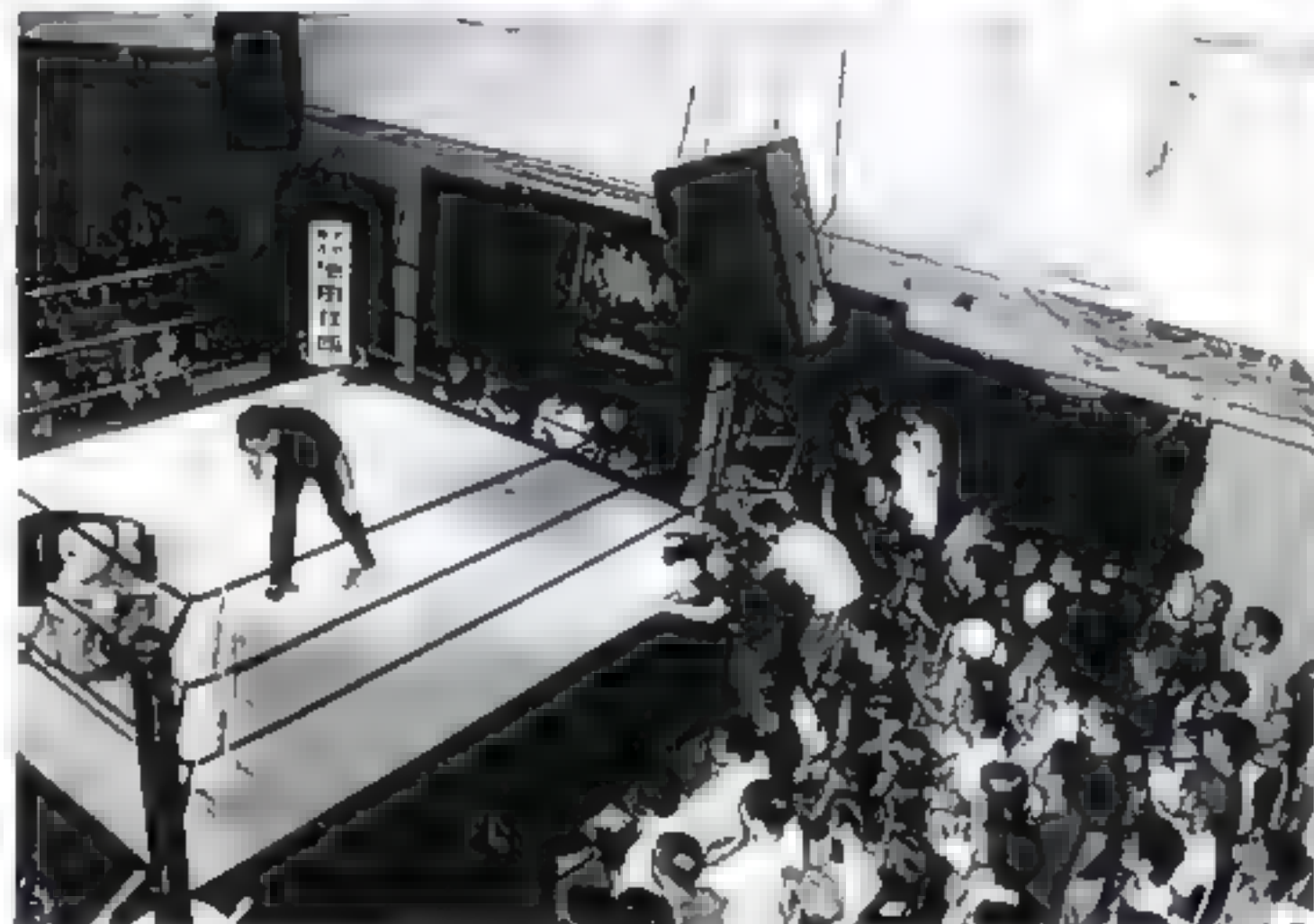
# 大興奮！AV女優がラウンドガール！CSアダルトチャンネルが格闘技に進出!?

▲6月9日(日）にパラダイステレビのスタジオで、『ANGEL TORNADO I』という大会が開催された。パラダイステレビは、スカパーのアダルトチャンネルで、ターザン山本氏も加入している。ラウンドガールはパラダイステレビでパラダイスガールとして活躍している、つかもと友希。AV女優としても有名だ！

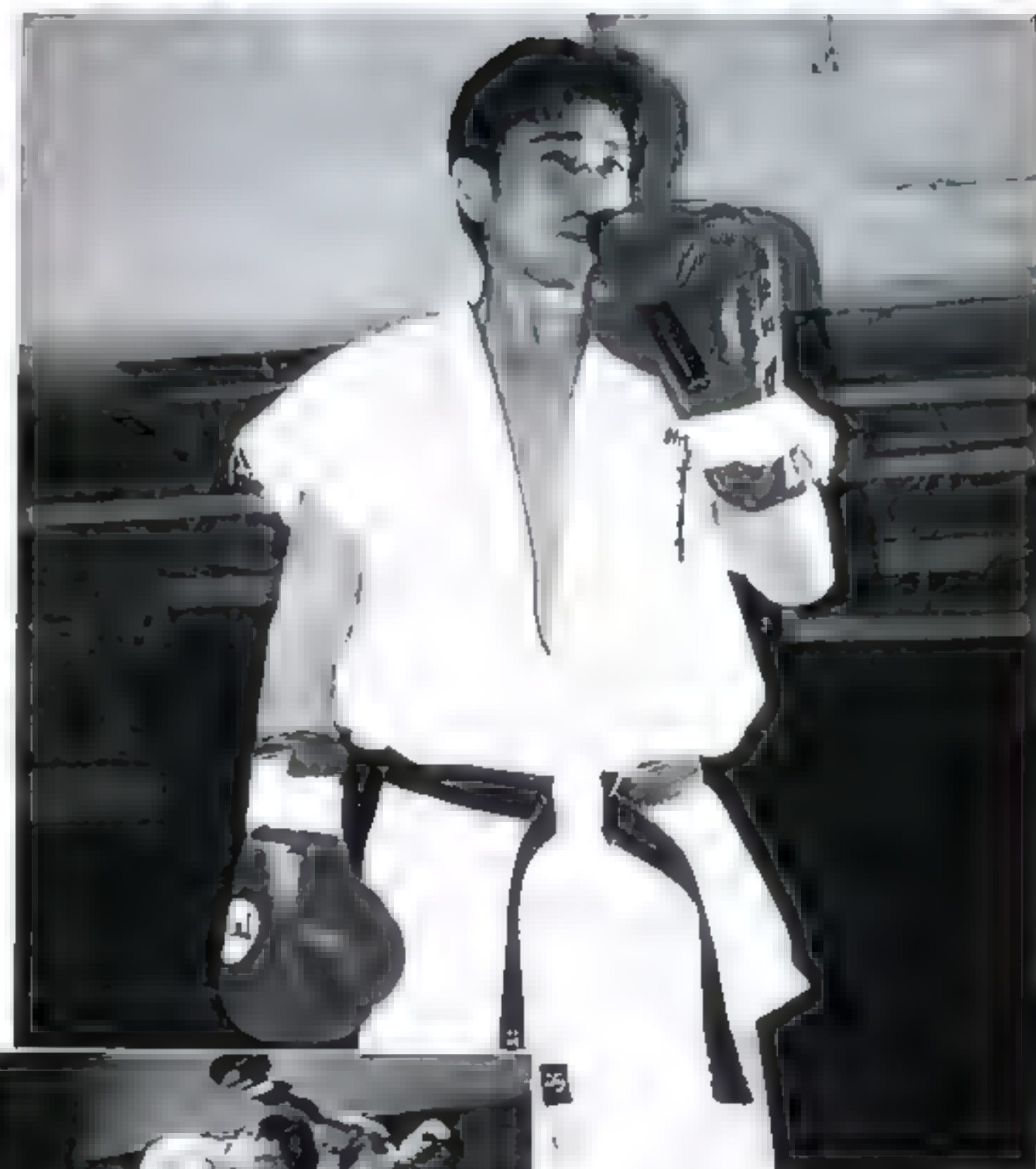
6月9日、6と9という意味深な数字が付くこの日に、スカイパーフェクTV内にあるチャンネルの一つ、パラダイステレビが女子ボクシングの大会を開催した。パラダイステレビといえば、『裸の韓国語講座』、『裸のニュースサテライト』と、あのターザン山本氏をも楽しませ、様々な趣味を持つ男たちを刺激しまくるアダルトチャンネルだ。そもそもパラダイステレビでは、毎月第4木曜日を〝格闘の日〟として、『エロ生ガチンコ格闘ナイト』でキャットファイトを放送していた。そこで、本物の女子の格闘技を放送したら、普段エロを見ている視聴者はどう反応するのかという実験的な意味を込めて、今回の大会開催に至ったのだ。そのため、期待されていたような〝オッパイポロリ〟などはなし。ラウンドガール以外はまったくエロのない大会だった。今後もエロなしでいくというものの、このパラダイステレビの進出によって、エロと女子格闘技が密接にリンクしていくことに期待したい！（小松）

**立ち技系格闘技 異色の大会2連発！**

# 新田純一VSチャモアペット!? 新キック大会『IKUSA』とは?

▶会場のクラブ『Byblos』。ほとんどがスタンディングで観戦、死角となるスペースも多かったが、リングに近いだけに臨場感は最高

▲メインではシルバーウルフの大宮司進が梅下湧曜（谷山ジム）からパンチとヒザでダウンを奪い、2ノックダウンによるKO勝ち（1R2分38秒）。大宮司は試合後、8月6日に行われる『ウルフレボリューション』をアピール

▲大会プロデューサーであり、エキシビジョンマッチにも出場した新田純一

◀元ムエタイ9冠王チャモアペットとのエキシビジョン。ヒザ蹴りがボディに入って悶絶するシーンもあったが、2Rを闘い抜いた

6月16日、麻布十番のクラブ『Byblos』でキックの大会『IKUSA』が開催された。出場メンバー的にはフリーの谷山ジム、MAキック勢といったところが中心だったこの大会。なんとプロデューサーを務めたのが往年のアイドルで現在は俳優として活躍中の新田純一だというから「なぜ？」の嵐なわけだが、実は新田は新空手の誠武館（谷山ジム）で長年練習しており、大会にも出場経験があるのだ。新田は「体を張って意気込みを伝えたい」とチャモアペットとのエキシビジョンマッチにも挑戦した。公式戦は総合、キッズマッチも含めて8試合行われ、観客は大興奮。まあ、ぶっちゃけ普通の試合なのだが、スタンディングのモッシュ状態での観戦、試合中もテクノ系の音楽で盛り上げるなど独特の臨場感とグルーヴ感で面白く見られたのだった。どうしてもマニアックになりがちなキック界だが、ファン層の新規開拓のためにも、こういった大会は重要なのである。（橋本）

した末に2R、タオル投入のTKO勝利を手にした

けるのか。面白い。（宮崎）

# SRS・DX Editor's Talk

# 編集部トーク 裏事情

## 朝日新聞に噂の国立競技場大会のことが……

**A** サッカーW杯の日本全国での熱狂ぶりは凄かったねぇ。あの国立競技場でビジョンを見るためだけに、2200円のチケットがわずか数時間で4万8千枚ソールドアウトになったのには本当に驚いた。K—1 VS「プライド」が国立で行われるんじゃないかという噂が絶えないけど、もし実現したとしたら、いったい何人の観客を集められるんだろう。国立は8万〜10万人の席数は用意できると言われているんだけど……。

**B** その国立競技場の話で面白い記事が載っていたんだよ。6月20日の朝日新聞の社会面に、なんと「格闘技大会開催のために、定時制の競技会の日程が変更！」という記事が出ていたんだよ。これはどういうことかと言うと、格闘技大会をどうしても8月11日に開きたいというので、先に国立を押さえていた定時制の陸上競技会の日程をずらしたというんだよ。国立側はその事情説明として、「国立競技場は公共の会場なんだけど、利益も上げなければならない。格闘技の大会になると、大きな利益が見込めるので、アマチュアの定時制の競技会に日程を変更できないかと相談させてもらった」と書いてあったんだ。

**A** へぇ〜、それは面白いね。それはもちろんK—1 VS「プライド」のことだろ?

**B** そうなんだ。だからまさか、そんな情報が天下の朝日新聞から出るなんて思いもよらなかった。で、結局、そのK—1 VS「プライド」の8月11日開催というのは、前日の8月10日の日程が開かなかったので変更。さすがに1日だけ会場がとれたとしても、準備はできないし、屋外なので、雨天の場合、順延日がない。だから、8月下旬に変更になったんじゃないかという噂なんだ。

**C** もう、この時期に発表されていないってことは、チケットの発売から言っても、8月下旬にならないと間に合わないですからね。

**A** もっとヤバイのが、8・8UFOの東京ドーム大会でしょう。今号の締め切り時点で、まだ発表が何もないからね。やっぱりK—1 VS「プライド」に主力選手が集まってしまうんで、カード的に調整ができなかったんじゃないかな。これは、本誌でもさんざん言ってきたことだけどね。

**B** まあ、W杯があるんで、この時期にそんなビッグイベントを発表しても、あまり大きな注目を集めないけど、格闘技界の真夏の興行戦争にとっては厳しい局面に立たされているね。7月上旬にどちらのイベントがいち早くなんらかの発表をするかに注目したい。とにかく今、噂が先行している時だから。

**C** 逆にその両イベントに関係のない「一撃」が、8月10日NKホールで大会が開かれることが決まりましたね。8・8UFOの東京ドーム大会の開催が微妙となり、8・11K—1 VS「プライド」がなくなったということで、「一撃」としては、本当にラッキーですよ。その「一撃」も日テレで放送される予定ですけど。

**A** フジテレビのほうも8・17にK—1ラスベガス大会があるからね。前回のK—1フランス大会が大成功を収めているだけに、純K—1のほうも見ものだよ。この大会では世界各地区で行われたK—1ワールドGP予選大会の優勝者が、トーナメントで10・5K—1ワールドGP開幕戦のキップを賭けて闘うことが濃厚。昨年のマーク・ハントやアレクセイ・イグナショフのような金の卵が出るかどうかに注目だね。

**B** そうなると、やっぱり夏の格闘技イベントは目白押しだね。それに加えて、新日本プロレスは金看板のG1シリーズや武道館大会、全日本プロレスも武道館大会などのビッグイベントがある。W杯の余韻もあって、プロレス・格闘技ファンが、どの大会に、どう流れるか非常に興味があるね。

**A** そうだなぁ。どの団体も大きな会場での勝負なんで、コケたら大打撃を食らうから、まさにサバイバル戦になるだろうね。■

▶まさか、天下の朝日新聞で国立競技場大会の水面下の情報が出るとは……

◎国民一丸となって驚異的な視聴率を叩き出したサッカーのW杯。その現象を見ていると、日本人は改めてプロモーション次第で、いくらでも一つの共通項を見つけ出し、バカ騒ぎできるのだなと感心した。私がW杯で興味深く見ていたのは、そのプロモーションの仕方と効果である。中でも、気になるのは、これほどW杯で盛り上がり、テレビで視聴率を稼ぎながら、専門誌はどれほど売れているのかということ。この時期、「Number」も週刊誌サイクルで雑誌が発刊され、「サッカーマガジン」のような専門誌に至っては、週2回刊の新たな実験を試みている。たしかに、W杯時期だけにバカ売れしてそうな気もするが、テレビの視聴率と専門誌の相乗効果は、意外なほどないと苦い経験を何度もしているからだ。たとえば、格闘技でも最近はK—1や「プライド」の効果もあって、テレビで頻繁に扱われるようになった。しかし、逆に専門誌に関しては、テレビがまったくなかった時代のほうが発行部数は全体的に多かったのだ。テレビという一般世間で盛り上がっているものが、専門誌を買うファンを作り出すまでにはなかなかいかない。逆に遠心力が広がれば広がるほど、コアのファンによる求心力が低下することが意外に多いのである。そのことを戦略的に理解して、一番売れたサッカー雑誌ってなんだったんだろう? それと、サッカーのW杯で日本が決勝トーナメントに進出すれば、330兆円の経済効果があると言われているが、いったいどんな業種に効果があったのだろうか。少なくとも、私にはまったくその効果はない!

（谷川）


SRS・DX

次号の発売日は7月11日(木)です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F ☎03-3295-4445

販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888

発行人：柳沢忠之 編集長：谷川貞治

DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、溝口真穂
のじ、小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON

# 意外にお調子者か？和田良覚39歳、2度目のVTに挑戦!!

▲相手はキャプチャーのニーハオことMAX宮沢

▶前回のDEEPではKO勝ちした和田レフェリーが2度目のバーリ・トゥードに挑戦！

撮影◎中島ミノル

# レフェリーのくせに試合に出る男にとうとうバチが当たる!

ゴング直後、■沢のパンチを浴びた和田はいきなりダウン。そのままパンチの連打を浴びてあわや秒殺負けかというところまで追い込まれる

見事なKO負け。39歳、本職レフェリーの和田良覚の、2度目のバーリ・トゥード戦はそういう結果に終わった。

当然だと思う。レフェリーが何度も選手に勝つことのほうがおかしな話なのだ。物事にはやはり道理というものがある。今回のKO負けは、その道理というものからキチンとした形でバチが当たったのだと思う。だが、それでいい。

Uインター、リングスという団体に所属し、選手と寝食をともにしてきた39歳の男が、自分の力を試してみたいという密やかな望みを、叶えることができたという事実こそが重要なのだ。

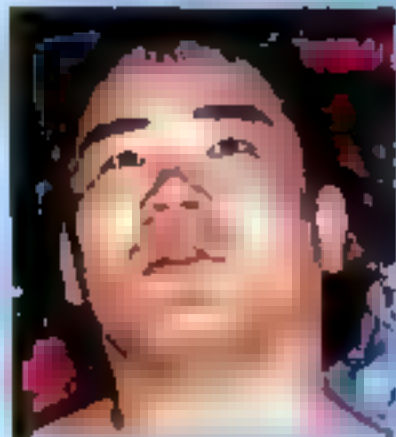
仲間といえる選手たちの協力のもと、不安と自信が入り交じった感情の中で勝利を挙げた前回。和田さんの次なるテーマは、一度上がったリングからどう幕を引くかだったのではないかと思う。

つまり、「勝ったままでは止められないよな」ということではなかったかと感じるのだ。

「選手の方たちに申し訳ない」と、ことあるごとに言っていたのは、その気持ちの表れ。選手たちは己の強さを満天下に示すため、長年苦労してきた人たち。だけど、自分は違う。腕試しがしてみたいというとても個人的な感情の中で、たまたまリングで闘うことになってしまっただけのこと。職場としてリングに上がることは一緒であっても、自分の人生を賭けて闘う場は違うというのを和田さん自身が一番よく分かっていたのではないかと思ったりするのだ。

和田さんは自分のことをトレーナーだと語る。誇りを賭けて闘う

6.9★ディファ有明

## 宮沢のコメント

「自分のペースでいけば勝てると思っていました。和田選手は強いって言われて実際強かったけど、苦労してる分、ボクのほうが強かったんでしょうね。ボクはインディーのレスラーで、もし負けたら消しゴムみたいに消されちゃうと思っていたので今日は絶対勝つ気でいました。（今後VTは？）話があれば出たいと思います。菊田選手といずれはやってみたいです」

## 和田のコメント

「これがプロの現実ですね。相手のほうが何倍もレベルが高いってことですね。パンチがいいのが入っちゃって、今でも右目の焦点が定まりませんね。やってる時にズレてるのが分かりました。落ち着いていけると思ったけど、プロは甘くないですね。レスリングでやられるかと思ってました。（今後は？）悔しいからもう1回って気持ちはありますけど分かりませんね。いい経験しました」

▲最初のダウンで頭に血が昇った和田はほとんどノーガードでパンチを振り回す

▲対する宮沢もパンチで真っ向勝負。こうなったら選手である宮沢に分があるのは当たり前だった

# 2度目のダウンに散った39歳！

▲2度目のダウンシーンは強烈！　宮沢の大振りフックがモロにテンプルに入り、和田はヒザから崩れてレフェリーストップとなった

かつて新宿ACB会館の地下ホールでボコボコの打撃戦を行い、関係者の間では評価の高かった宮沢がついに日の当たる場所で実力を示した歓喜の瞬間！

★第9試合（5分3R）
○MAX宮沢（1R3分23秒、KO勝ち）和田良覚●
<荒武者総合格闘術>　<リングス・ジャパン>
※右フック

## 結果は別として事実上のメインをキチンと締めくくる

場所はそこなのだ。選手としてリングに上がるということは、自分の人生の中で、大事にとっておいたどこか子供っぽい夢の部分。

誰にでもある夢のかけらみたいな、気恥ずかしい甘酸っぱい思いなのだ。それが仲間たちが背中を押すことによって、「ならば」とやってみたこと。

観客たちが和田さんをことのほか応援するのは、その部分を肌で理解してるからなのだと思う。

リングス休止からこの日まで、和田さんはキツイ練習を繰り返し、時には不安にさいなまれ、そして勝利の美酒を味わったりとめくるめく日々を過ごしたのではないか。

その期間は苦しくとも楽しかったはず。豊かな人生とはこういうことだと思うのだ。

そして、これから和田さんはレフェリーとして、トレーナーとして力の限り闘うことになるだろう。

人はそれぞれに闘う場所がある。サラリーマンだろうと、OLだろうと、学生だろうと、誰だって日々闘っている。その中で自分をどう表現し、喜びを掴み取るかに必死になっている。

和田さんがリングで闘えたのは、それまで本業を必死にやってきたことのご褒美なのだ。

やはり物事には道理というものがある。

人生をキチンと闘えば、それ相当の喜びが返ってくるのだ。和田良覚39歳。いたいけな中年オヤジがこのリングに残したものは、そんな甘露なものだったと痛感したわけなのである。

というわけで、いつかの日かまたもう一丁を期待ー　（ブチ）

# ミドル級トーナメント大荒れ＆大揉め！ またもDEEPで乱闘寸前!?

## 菊田激怒！ その時、尾崎社長は……？

金的蹴りによるレッドカードの減点が響いてグラバカ・石川英司が敗退。試合後、塩崎レフェリーに菊田早苗が猛抗議し、これにパンクラス尾崎社長、DEEPの佐伯代表も加わって……

どうしたって平穏無事に終わらないのがDEEPという大会なのである。しかし、まさかミドル級トーナメントがここまで荒れたものになるとは予想できなかった。

ことの発端は1回戦の第3試合、窪田VS久松戦だった。久松の蹴りが金的に入って窪田がうずくまってしまったのだが、塩崎レフェリーは見逃したのか、そのまま試合は続行。久松が倒れた窪田に攻撃を加え、思わず頭部を蹴ってしまう。ここで試合が中断し、窪田のあまりの痛がり方に場内はかなりザワついていた。結局、レフェリーの判断は「次の試合を先に行い、回復を待つ」というもの。

結局、これで大会の進行は大きくずれ込み、1回戦第4試合の石川VS長南、ワンマッチの伊藤VS日高が終わり、さらに休憩が明けたところで窪田VS久松戦が再開となった。久松は「金的攻撃十グラウンドの相手に対する頭部への蹴り」でレッドカードが提示され、減点2からのリスタート。これが響いて判定で敗れた。勝っても負けても不本意だろうなというのが伝わってくる試合だった。

続く準決勝でも、それほど不思議ではないと思われた上山VS村浜戦のドロー判定に上山のセコンド・田村潔司が不満そうな表情でレフェリーに詰め寄ったり、どうも雰囲気がおかしい。そしてもう一つの準決勝、窪田VS石川戦でまたも事件が起こった。

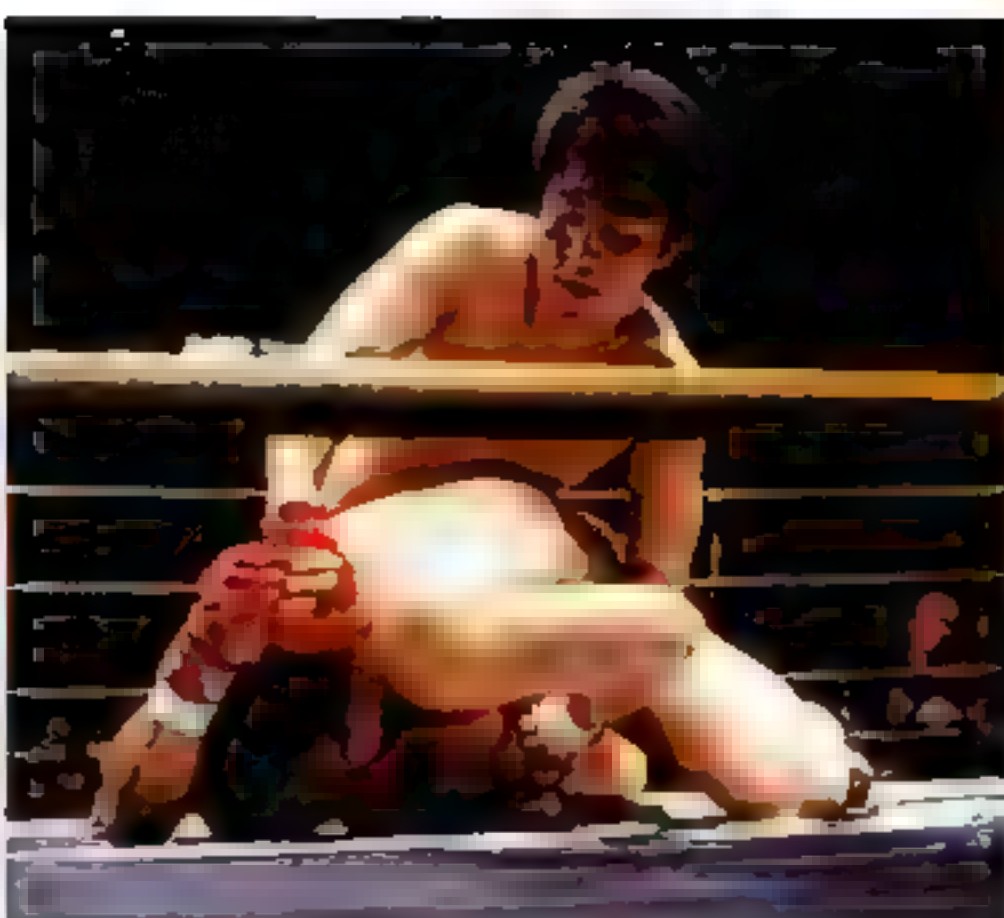
1Rの途中、今度は石川の蹴りが窪田の金的に当たってしまったのだ。前にも増して悲痛な叫び声をあげる窪田。なんとか続行の意志を示し、試合再開となったが、

6.9★ディファ有明

**DEEP JAPANミドル級 1Dayトーナメント**

- 村浜天晴（ワイルドフェニックス）
- 星野勇二（RJW/CENTRAL）
- 梁正基（スタンド）
- 上山龍紀（U-FILE CAMP）
- 久松勇二（TIGER PLACE）
- 窪田幸生（パンクラスism）
- 石川英司（パンクラスGRABAKA）
- 長南亮（U-FILE CAMP）

※石川VS窪田戦は窪田が勝利したが、負傷棄権によって石川が決勝に進出

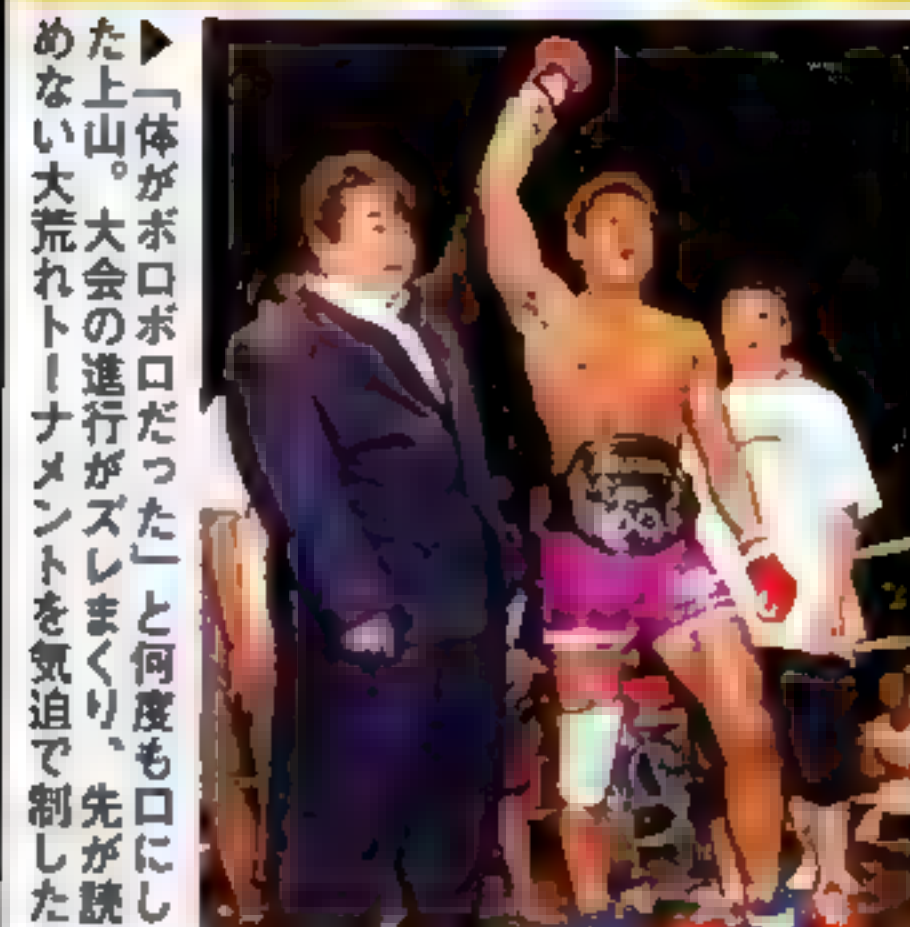
# 騒動の発端はやっぱり金的！ 一発レッドカードで試合は大混乱

▲〈準決勝〉石川VS窪田戦。石川が確実にテイクダウンを奪い、試合そのものは優勢に進めたのだが、金的でのレッドカードの減点2を取り返すことはできずに判定負け。この試合後に事態が紛糾することに

▲1回戦では久松勇二の金的蹴りとそれに続く顔面蹴りで大ダメージを負った窪田幸生。久松の減点によって勝ち上がったものの、準決勝でまたしても石川のローキックが金的に……

# 田村の一番弟子・上山が気迫の優勝！

◀〈1回戦〉昨年夏のネオブラッド・トーナメント以来、久々の試合となる梁正基。総合的に技術レベルの高い選手が多い中、ケンカ屋的な闘いぶりの梁には注目も高かったが、上山の手堅い攻撃に思うような闘いができず判定負け

◀〈準決勝〉トーナメントの裏MVPともいえる闘いを見せたのは、"最軽量の村浜天晴。1回戦では星野勇二をセンタク挟みで絞め落とし、準決勝でも上山を何度もリバーサルするなど大健闘。延長戦に入って力尽き、スリーパーで敗れたが「大きい者に向かっていく村浜家の家風を見てほしい」という言葉どおりの活躍だった

▶「体がボロボロだった」と何度も口にした上山。大会の進行がズレまくり、先が読めない大荒れトーナメントを気迫で制した

▲上山が勝った瞬間、U−FILE勢が大挙してリングになだれ込んできた。右端には上山のセコンドについた田村潔司の姿も見える

▲〈決勝戦〉一度は敗れた石川だが、窪田の棄権によって決勝進出。逆のブロックからはU−FILEの上山龍紀が勝ち上がってきた。1Rは互角の展開だった両者だが、2R開始すぐ、上山がバックを取られた状態からクルッと前転してアンクルホールドへ。「咄嗟の判断だった」というこの一発でタップを奪って優勝を決めた

★第10試合/DEEP JAPANミドル級1Dayトーナメント決勝戦（5分2R）
○上山龍紀（2R0分48秒、アンクルホールド）石川英司●
<U-FILE CAMP> <パンクラスGRABAKA>

なんと塩崎レフェリーは石川にイタリアVS韓国戦ばりの一発レッドカード。久松は金的と頭部への蹴りの2つ合計でレッドカードになったのであり、まして石川の金的蹴りはどう見ても偶然。窪田の痛がりようも、前回のダメージを引きずってのものだから石川に100%の非があるわけではないのだが……。

「あれじゃ石川が可哀想だよ」

「それなら菊田VSアレクなんてどうなる？」

「そういえば、あの試合もレフェリーは塩崎さん……」

「ソラールVSみのるもだ！」

と、いうわけで、塩崎氏は〃金的レフェリー〃という迷惑この上ない異名まで囁かれる始末。ここまで同じレフェリーで金的問題が起こるというのは、もう祟られてるとしか思えない。

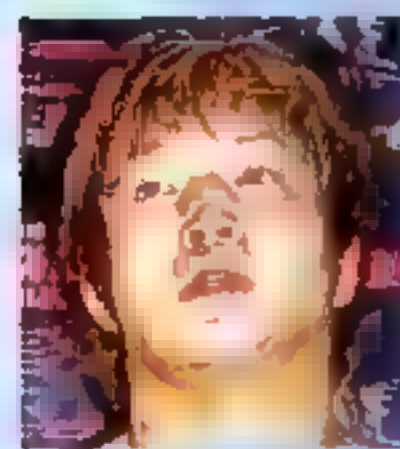
石川はその後、優位に試合を進めたのだが、減点を挽回するまでには至らず判定負け。試合後に菊田が猛抗議し、それに佐伯代表、尾崎社長も加わってリングサイドは騒動となった。協議の結果、窪田の負傷棄権で石川の決勝進出となったのだが、なんとも言えない後味の悪さが残ったし、慌ただしい状況の中で試合に出ることになった石川は無念だったろう。ただ、そんな荒れたトーナメントで2つの一本勝ちをマークして優勝した上山の活躍は称えたい。

やっぱり、DEEPは何かが起こる。ただ、騒動が起きるならこれまでのようにハラハラしたり、ドキドキするハプニングを見たいと思う。今回みたいにウンザリするようなのじゃなく。（橋本）

# 出会いから11年、伊藤と日高の友情VTが実現

## 伊藤のコメント

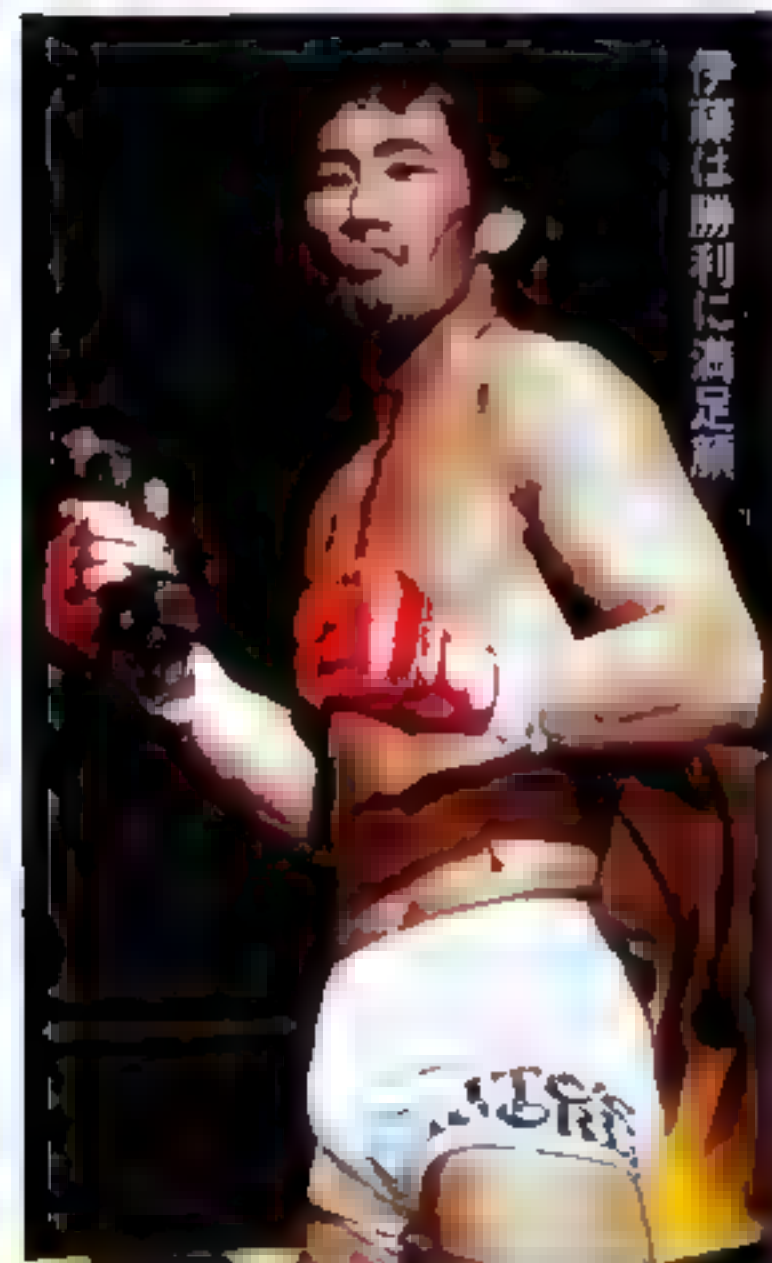
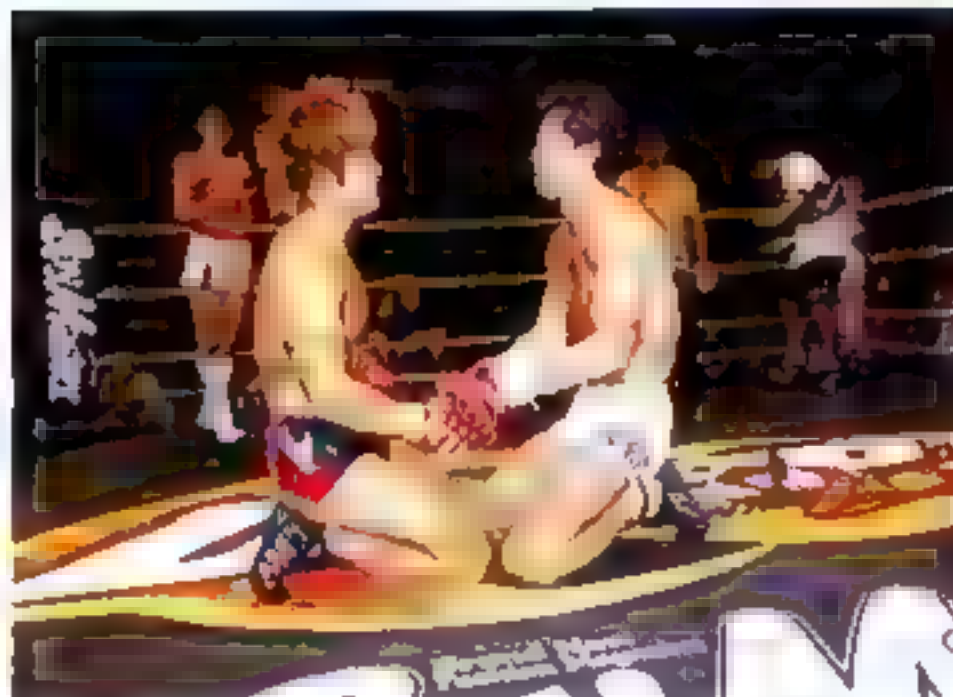
「アイツは怖くて強かった。だってアイツ、ギブアップせえへんもん。最後のタップも殴られてるかと思って。最後のあがきをやってると思って、だから離さなかった。（試合後怒っていたように見えたが）ドクターより俺のほうがアイツとの付き合いは長いから、俺が介抱してやりたいと思ったから。で、レフェリーが俺を止めるから怒ったんです」

## 日高のコメント

「悔しいです。完敗ですよね。試合に関してはまったくダメです、プロとして。男として試合にこぎつけたまでは良かったんじゃないかと思うけど、試合内容はまったくダメですね。"親友の顔を殴れるか"ということに関してはなんの躊躇もなかったですね。伊藤が言ったようにもう一度交わる時が来るかもしれないし、来ないかもしれないけど、分岐点になったことは確か。お互いの道でトップ取れるよう頑張ります」

▶試合後、2人は涙を流して抱き合った

★第5試合（5分3R）
○伊藤崇文（2R1分54秒、スリーパーホールド）日高郁人●
<パンクラスism> <フリー>

▲終始、試合をリードしていた伊藤。最後は日高をスリーパーで絞め落とした

▼親友の顔を殴れるかというのがこの試合のキモ。伊藤も日高も容赦なく殴っていた

伊藤は勝利に満足顔

足関節を取り合うなど熱い闘いが展開された

かねてから友達同士だった伊藤と日高。互いに俺、アイツと呼び合うようなそんな2人が本気で殴り合えるのかというところがこの試合の見所だったのだ。

だが、そんな2人の因縁を知っていた観客がほとんどいなかったのがとても残念でならなかったのである。最も詳しくその状況が説明されていたのが週プロ愛モードのコラムだったというのが、伝わりにくい原因の1つ。せめて会場のモニターで紹介すれば、もっと大きな感動を味わえたのではないかと思う。

さて、試合内容だが、足関節を取り合う場面もあったものの終始ペースを握っていたのは伊藤。マウントやバックを取って容赦なく殴り、日高も気を抜くスキなく殴り返す。

そんな展開が続く中、バックを取った伊藤はスリーパーで日高を絞め上げる。たまらず、タップした日高だったが、伊藤は「最後のあがき」かと思って手を離さず、落ちてしまったのであった。

そこまで冷静さがなくなるほどの闘いだったということでもあるが、だからこそ、事情がよく分からないのがもったいない。

だが、試合後、「10年後、もう一度闘おう」など、マイクアピールし合った場面では、スマックガールで活躍するナナチャンチンが思わず、涙を流したと言っていたから、伝わったところもあったのだろう。

とりあえず、10年後、さらにビッグになった2人が、さらに大きな舞台で相まみえるようになることを期待したい。（ブチ）

DEEP 2001 6.9★ディファ有明

# 強豪柔術家に惜敗も、“総合格闘家”ランバーに無限の可能性！

◀攻めても攻めても逃げてしまうランバーに、ウエノヤマはヘトヘト。むしろ試合が終わって元気なのはランバーだった

グラウンドでは常に上になったウエノヤマだが、ランバーの巧みなディフェンスに攻め切れない

これで総合3戦目となるランバー。立ち技の展開は少なかったが、鋭い蹴りでウエノヤマを圧倒する。特にインローはあと数発で倒せるんじゃないかというほど効かせていた

前回の砂辺光久戦に続いて連敗を喫してしまったランバーだが、感想はどう考えても「ランバー凄い！」となってしまう。なにせグラウンドの攻防を、なんのぎこちなさもなくやってのけるのだ。3Rを通して何度もテイクダウンを許してしまったのだが、そこからが実に鮮やかだった。巧みに足を効かせて相手を突き放し、スキあらば足関節を狙ったりオモプラッタにトライしたりと、その姿は完全な総合格闘家。それでいてスタンドになるとムエタイのトップを極めた蹴りがド迫力で放たれるのである。相手のダレン・ウエノヤマ（ハウフ・グレイシーの弟子で紫帯）は、当初出場予定だった柔術世界王者アリソン・メロの欠場を受けての急な代打出場だったわけだが、逆に体重差は5キロもあるだけに、ランバーの健闘は見事だった。試合後は「同じ55キロだったら絶対負けない」と勝負への意地を見せたランバー。今後への期待は落ちるどころか高まる一方なのである。　（橋本）

▲ワールドカップのテーマ曲、スパイダーマンのマスクと流行りものネタで入場のランバー。が、実はウエノヤマも同じマスクで入場していたのだった

★第7試合（5分3R）
○ダレン・ウエノヤマ（3R判定3-0）ランバー・ソムデート吉沢●
＜ハウフ・グレイシー柔術アカデミー＞　＜M16ジム＞
※採点…29-27、29-28、30-28。ウエノヤマは契約体重オーバーのため、イエローカードから試合スタート

## 佐伯繁代表の総括&次回大会展望 9・7大田区体育館大会にまたも隠し玉アリ！

▶大会当日はワールドカップの日本VSロシア戦もあった。閉会式の時点でキックオフまで1時間あまりということで、佐伯代表は「本日はワールドカップの忙しい中、ありがとうございます。今から走れば間に合うと思いますんで、急いでケガせずに帰ってください」と絶妙の挨拶

――トーナメントの窪田棄権の経緯は？

**佐伯**　尾崎さんも「もう窪田は無理だから、やめたい」という話で。石川選手だったらやらせられるという話だったんで。こっちもぜひそれでと。なかなか、トーナメントは難しいですね。石川選手も条件的に、休憩時間が短くて難しかったろうし。いや、勉強になりましたよ。ウチはいつも何かが起きるんで。こないだから揉めてるのばっかりですよね（笑）。今回はマジメなカードだからないと思ったのに。まあ、ちょっとまた考えて。

――和田さん、ランバーと、DEEPの核になってる選手が揃って負けたんですけども、その辺は？

**佐伯**　和田さんも打撃で勝負せずにいけばなんとかなったのかなという気もするんですけど、でも面白かったんじゃないですか、試合は。宮沢選手だって、これで負けたら上がってこれないじゃないですか。

――ランバー、和田の2選手に関してはこれからも出てもらう形ですか？

**佐伯**　またこれからですね。和田さんにもまた考えてもらって。逆に言ったら、まだ話は聞いてないですけど宮沢選手を滑川選手とか高阪選手がどう思ってるか。当てても面白いかもしれないですし。

――カタキ打ちというか。

**佐伯**　やっぱりリングスの連中は悔しがってると思うんで。滑川選手あたり、やりたいんじゃないかなぁって気がするんでね。そういった部分で、いろんなことがあって面白いんじゃないですか。

次は9月7日に大田区体育館でビッグマッチということなんですけども。まずドスJrが決定で？

**佐伯**　そうですそうです。ドスJrもやりますし。

――グラバカVSトップチームっていうのも噂になってますけど。

**佐伯**　いや、それがねぇ……。それもやっちゃうとまた13試合とかになっちゃうんですよ（笑）。それを組まなくても、全然いいカードになりそうなんで。

――というと他のメンバーは？

**佐伯**　ジョン・ホーキ。この相手も面白いですよ！　まあこれからなんですけど。ホーキが負けるかもしれない相手を考えてますから。「なんでウチに？」っていうような選手で。

――日本人ですか？

**佐伯**　ん〜、難しいなぁ。何人かなぁっていう感じですよ（笑）。でも、たぶん話題になると思いますよ。いま構想中のカードが全部決まったら、ドスJrも前座になっちゃうかもしれない（笑）。前半の試合に。

――ほぉ〜！

**佐伯**　それと大物日本人も決まったんで。これはもう、もうすぐ契約書をかわす段階なんで。凄い大物ですよ。

――まだいますか、そんな選手が!?

**佐伯**　その選手もいいんですけど、他にもまだいますから、目玉が。これがうまくいけばねぇ、ホントに凄い。もう大田区（体育館）にもお金払っちゃったから（笑）、勝負かけますんで、お願いします。■

# 男の子から、男へ。

キーワードは「無痛」「無傷」「安心」。
過去20万人の治療実績を誇る
上野クリニックの技術と安心が
一冊の本になりました。
あなたの下半身の悩みにしっかり、
まじめにお答えします。

## 第1章 日本人の3人に2人は包茎です。

包茎は病気ではありませんが、病気を起こす根源になるとともに、心理的なコンプレックスの原因にもなるのです。解決の第1歩は24時間無料相談ができる東京上野クリニックのフリーダイヤルから。

## 第2章 包茎は百害あって一利なし。

包茎で大損した男の実話集。●包茎は早漏のもと。●包茎は雑菌の溜まり場、性病の巣。
包茎治療で得した男の実話集。●ムスコが一皮むけたら人間も一皮むけた。●いつでも「気持ちいい」セックスができる。

## 第3章 最新の技術「無痛」治療法。

綿密な研究を重ね、東京上野クリニック独自の最新技術「無痛4段階麻酔システム」を開発。手術を受けた方から「痛くなかった」という声が、その成果を実証しています。●まず確実な基礎麻酔から。●深部冷却法を採用することで痛みをシャットアウト。●日本一の極細針を使用することで針を刺したことすら感じさせません。●すぐ切れてしまう局部麻酔だけではなく「背面神経ブロック」により、手術中・手術後も完全無痛を配慮します。

## 第4章 ていねいな手作業「無傷」の仕上がり。

東京上野クリニック独自の手術法により「無傷」を実現。それはひとりひとりに合わせた「複合曲線作図法」を行っているから。●東京上野クリニックでは手術跡が残りにくい特殊な高周波メスを使用しています。●東京上野クリニックでは美容形成用の特殊糸と極細針を使い、他にはない独自の方法で縫合。

## 第5章 男の性を尊重した「安心」の提供。

●東京上野クリニックは、オール男性によるプロフェッショナル集団です。
●東京上野クリニックは、男性泌尿器専門の形成外科であり、女性美容形成はいっさい行っておりません。
●東京上野クリニックでは、24時間対応のフリーダイヤルシステムを完備しています。
●東京上野クリニックでは、「生涯再診無料」という安心保証システムを導入しました。
●東京上野クリニックでは、来院すら他人にわからない完全予約制による無料診断システムを導入しています。

## 第6章 早めの対応が肝心な性病治療。

●包茎は尿道炎やコンジローム、包皮炎などの原因をつくりやすくします。●たいていの性病は早めの治療ですぐ完治。迷わずすぐに相談を。
●東京上野クリニックは、包茎治療と同じく、性病検査についても24時間受け付けております。

## 第7章 男女とも快感をアップする法。

●「余分な包皮」のカットは女性を歓喜させます。●カリに摩擦感が生まれない「余分な包皮」は、セックスの快感を大きく妨げます。

## 第8章 男をさらに磨く改造計画。

●東京上野クリニックでは、独自の方法で開発したコラーゲンによる亀頭増強法を提案いたします。
●東京上野クリニックでは、敏感な亀頭を強化して早漏を抑えます。

## 第9章 もうひとつの男を磨く道！それは育毛。

●日本人の4人に1人は薄毛に関する悩みを抱えています。●東京上野クリニックでは、その人にあった治療法をセレクトします。
●東京上野クリニックは、豊富な育毛法を提案します。

## 第10章 もうひとつの男を磨く道！それは脱毛。

●いま、スベスベ肌の男性がなぜモテる。●東京上野クリニックのレーザー脱毛なら、「無痛」「無傷」「安心」。
●東京上野クリニックのレーザー脱毛で得した男の話。

（以上：全て目次より）

「MEN'S BODY POWER UP」
定価648円（税別）判型：A5判　ページ数：80頁

発行所 株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3番28号

ご紹介できる全国の上野クリニック一覧

この本についてのお問い合わせは
TEL/03-5543-3700

泌尿器科・形成外科・性病科
東京上野クリニック

24時間無料電話相談
0120-508-550
携帯・PHSからもご利用できます。

メンズ総合テープ案内
0120-087-008
携帯・PHSからもご利用できます。

メール相談もできる男のHP　http://www.ueno.co.jp　携帯アドレス　http://www.ueno-c.com

PRIDE.21 6.23 さいたまスーパーアリーナ

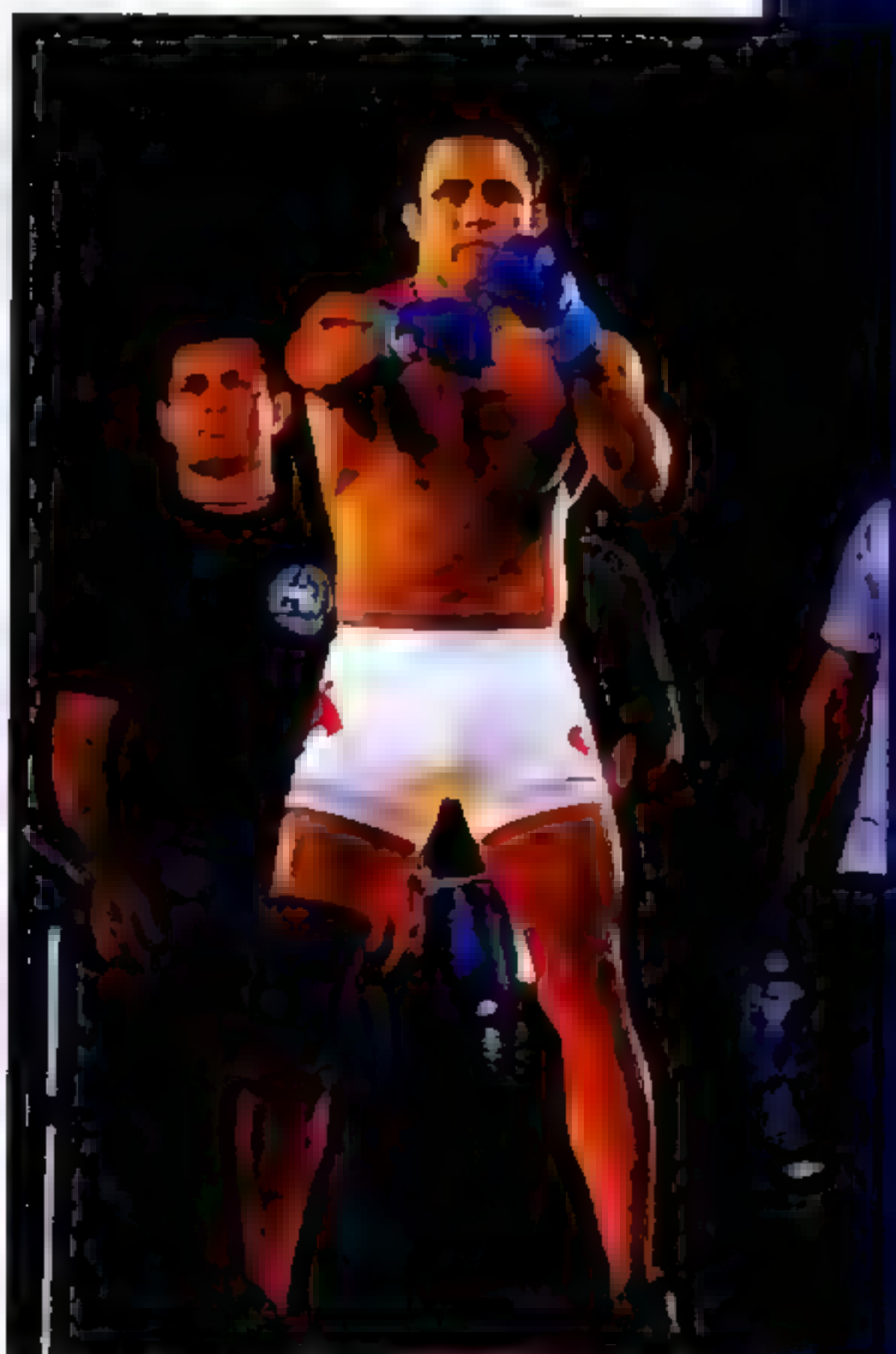
# 大山の勝利は是か非か!?

大山、ヘンゾ破る大殊勲!

されど、波紋は田村VSヘンゾ戦以上

# シウバ戦とも、イズマイウ戦とも違う表情 大山に気負いはない。今度こそっ!

ヘンゾ戦やイズマイウ戦とは違い、落ち着いた表情でヘンゾを見据える大山

▲再び「プライド」のリングに立てる喜びをかみしめるように入場する大山。今までで一番落ち着いているように思えた

▲軽くシャドウをしながら入場したヘンゾ。いかにも好調そうだ

心を鬼にして言おう。
大山は今日、完璧に男を下げてしまった。負けたシウバ戦の時より、イズマイウ戦の時よりも、ずっとずっと……。

勝ちたかったのは分かる。一生懸命練習してきたのも知っている。つらい練習をいっぱいやってきたから、結果を出したいのは当たり前だ。誰だってそうだと思う。網膜剥離からの復帰戦。怖かったと思う。不安だったと思う。再び「プライド」のリングに戻ってこれたことに関しては、手放しで喜んでいいし、ファンのみんなも嬉しかったはずだ。

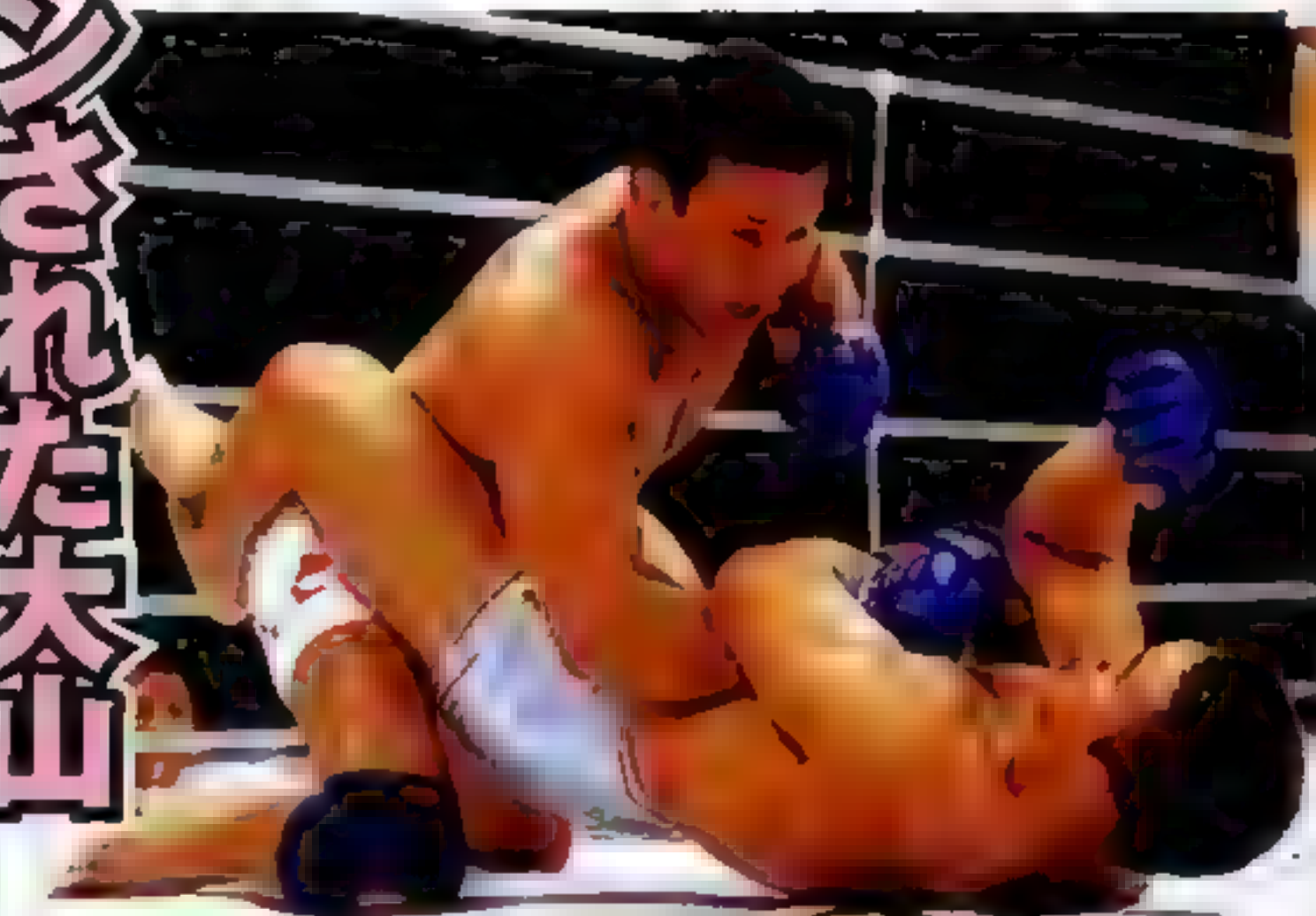
しかし、今日批判されるべきことは、それ以前の問題。大山が「プライド」というリングに上がる姿勢の問題なのだ。技術や能力が高くても、プロとしての心や気持ち、魂がなければ、「プライド」のリングでは絶対に受け入れられることはない。厳しい言い方かもしれないが、その時点で「プライド」のリングに上がる資格はないのだ。

網膜剥離で引退を勧告されたあの日からつらかったと思う。でも、その時はたくさんのファンが手紙やメールで励ましてくれた。それをパワーにして、挫けずに頑張って、ようやく「プライド」のリングに帰ってくることができた。そして、ようやく勝つことができて、これからと思ったら、今度はみんなにソッポを向かれてしまった。

なぜ? どうして? せっかく勝てたのに。これでみんな認めてくれると思ったのに……。

理由は明解。それがプロなのだ。それが「プライド」なのだ。「プライド」はアマチュアの格闘技大会

# いきなりテイクダウンされた大山 ヤバイ!! イズマイウ戦の二の舞か!?

▲最初にテイクダウンを取ったのはヘンゾ。一気に接近して組み付き、ロープ際で少しもつれた後、小外掛けで大山を倒した

▲大山自身「イズマイウ戦が彷彿とした」という1R最初の場面。「あんな惨めな思いはいやだ」。その気持ちが大山を奮い立たせた

▲インサイドガードからのヘンゾの打撃が、網膜剥離が治ったばかりの右目を襲う。大山、危うし！

▶1R終盤、大山の右のハイキックがヘンゾの頭をかすめる。ヘンゾは「もっと蹴ってこい」とアピール

◀グラウンドで膠着した両者にイエローカード。インサイドガードの状態から、スキをついて攻撃していたヘンゾは不満顔

ではない。多くのファンが、お金を払って夢や希望を見に来るところ。このリングに上がる上での、最も重大なことを忘れてしまったり、はき違えてしまったら、ファンには一気に切り捨てられる。ファンはシビアだ。

一生懸命やって、勝てばいいアマチュアとは、根本的に違うのだ。アマチュアは結果を出してナンボだが、プロは結果だけじゃない。いかに心に残る試合ができるか。どれだけ観客の心を掴むことができるか。どれだけ人の心を震わせることができるか。それこそが重要なことなのだ。

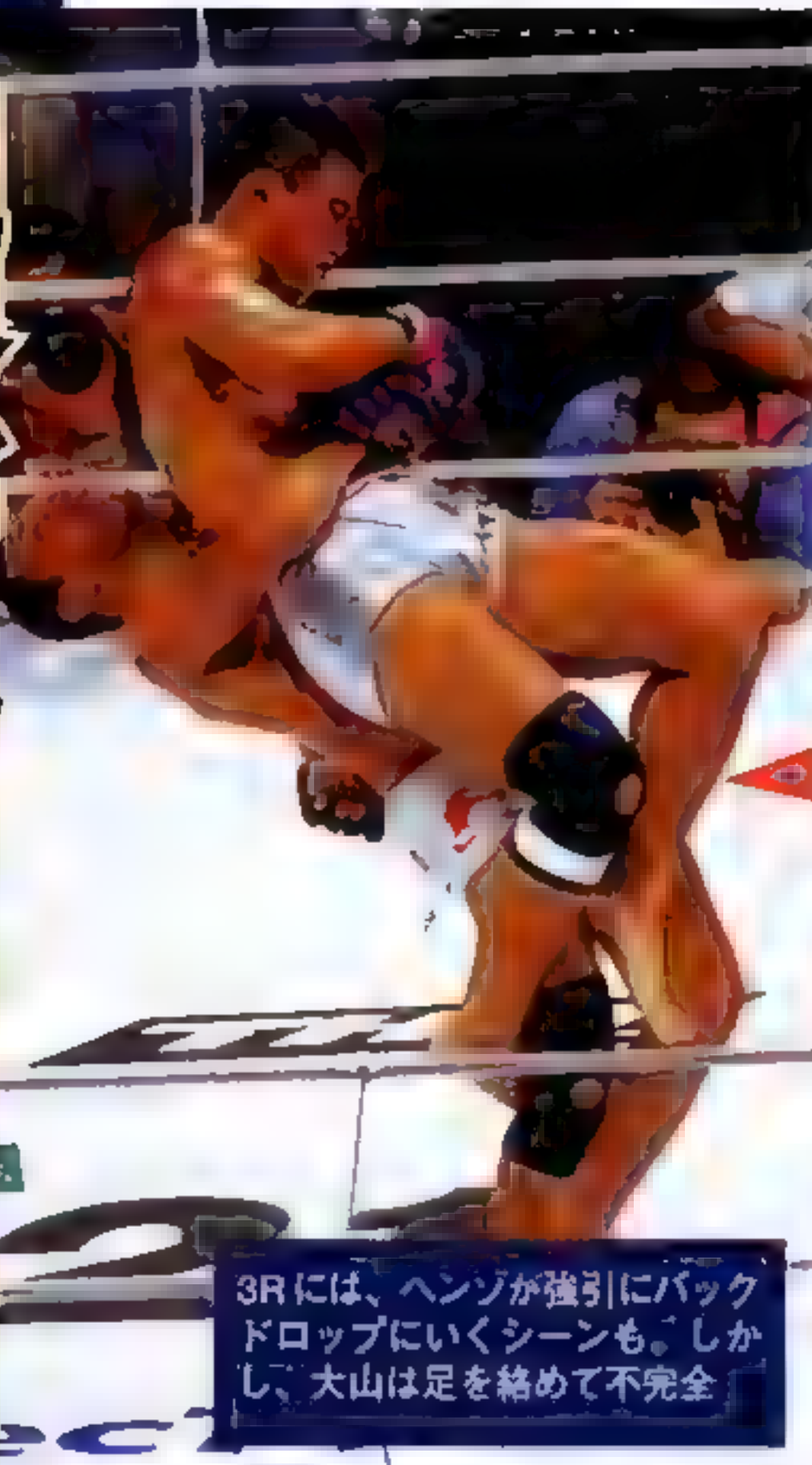
おそらく、そんなことは言われるまでもない、百も承知だと大山は言うかもしれない。でも、今日、大山が観客に見せようとしたのは、完全にはき違えたパフォーマンスだった。プロの格闘家は、格闘技を見せるのが仕事であって、鼻につく挑発やアピール、見せかけ重視の派手な技なんかでは絶対にないはずだ。

そんな挑発が腹に据えかねたヘンゾのツバ吐きのほうが、決して誉められたことではないが、ストレートにファンには届いていた。たしかに大山にとって有効な打撃はなかったかもしれないが、常に真摯にアグレッシブに技を出していたのはヘンゾだった。単に実力があるだけでなく、常に全力を出す。これがヘンゾの、日本での人気の理由なのだ。

とにかく、今日の大山はハッキリ言ってカッコ悪かった。たしかに、大山に期待し暖かい声援を送るファンもいたが、会場には寒い空気とともに、かなりのブーイン

# 観客が見たかったのは、こんな攻防であって、

断じて、アピールや

ヘンゾのタックルは公言どおり全て切った大山。しかし、そこから先が攻め切れなかった

3Rには、ヘンゾが強引にバックドロップにいくシーンも。しかし、大山は足を絡めて不完全

猪木―アリ状態ではキックや側転など試みたが、ヘンゾの固いガードは崩せなかった

大山は、「狙っていた」という柔道の技、支え釣り込み足で2度ヘンゾをブン投げた。しかし、ヘンゾはすぐにガードポジションに

グが起こっていたことも確かだ。

判定がどうのとか技術がどうのと言っているのではない。単純に技術の面で言えば、ヘンゾ・グレイシーという、VT界の強豪中の強豪を、柔道の技で完璧にテイクダウンしたり、タックルを完封したことは絶賛に値する。完璧な勝ちとまではいかないまでも歴戦の強者・ヘンゾと互角に闘う力を持つことは証明されたわけだから、やはり、その身体能力&技術に関しては十分に評価できるものを見せたと言ってもいいだろう。

ボクの目に間違いはなかったと実感できたことには素直に喜びさえ感じられた。しかし、それはあくまで技術&能力に関してのみであり、プロとしての〝仕事〟と考えると、0点を通り越してマイナスという不名誉な評価を浴びたとしても仕方ないだろう。それほどに「プライド」とはシビアな世界なのだ。

ここで、読者の皆さん、そして大山本人に問いたい。

「大山の勝利は是か非か!?」

本誌を昔から愛読している読者にとっては聞き慣れたというか、読み慣れた「是か非か!?」のフレーズだが、いつから使っているか覚えている人はいるだろうか？　実は、一昨年2月に行われたKOKのヘンゾVS田村戦掲載号の表紙で使ったのが最初なのだ。その後、格闘技やプロレス雑誌のみならず多種多様な媒体で普通に使われるようになったが、元祖というか、言い出しっぺは何を隠そう本誌の、ターザン山本さんなのである（言い出しっぺだという証拠は何もないけど……）。

©Essei Hara

# 断じて、アピールや見せかけの攻撃じゃない！ 勘違いしているんじゃないか、大山

▲大山の打撃で多かったのがこの後ろ回し蹴り。1度ならまだしも2度も3度も出すうち、あまり効きそうにない蹴りを出す大山にブーイングも起こった

## ヘンゾ怒りのツバ攻撃!!

▲2R終盤、大した攻撃もしてこないのに、挑発ばかりしてくる大山に腹を立てたヘンゾがツバを吐きかけた。実はこの行為によりジャッジがヘンゾの負けにしたという説も

ヘンゾのパンチやキックがかすめると大山は「全然効いてない。もっと打ってこいよ」とばかりにアピール。しかし、このアピールがマスコミにも観客にも大不評。こんなアピールはいらない！

★第5試合（1R10分、2・3R5分）
**○大山峻護（3R判定3－0）ヘンゾ・グレイシー●**
〈日本/フリー〉　〈ブラジル/ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉
※1Rに大山とヘンゾの両者に膠着を誘発する動きがあったとしてイエローカード

まあ、そんなことはどうでもいいのだが、あの時、田村がヘンゾに勝ったことで、ファンは騒然。当時、まだほとんど負けなしだったヘンゾを、判定ではあったが、田村が快勝。その後、トーナメント準決勝では精彩なく敗れてしまったが、グレイシー一族を破ったということで、その反響はもの凄かった。そこで編集部ではすかさず総括座談会を開きKOKを語り尽くし、表紙に「田村の勝利は是か非か」と打ち出したのだ。

今回、大山の勝利が、田村の時以上の波紋を呼んでいる。本誌のHPには、大会直後からたくさんの書き込みが寄せられ、別の格闘技BBSには、朝までに400件以上の書き込みがあったようだ。

果たして、大山の勝利は是なのか非なのか!?

ボクの個人的な心情では〝是〟と言ってあげたいところなのだが、今回に関しては、〝非〟と言わざるを得ない。完全に〝非〟である。

ケガからの復帰戦だから大目に見て、と言ったところでしょうがない。何度も言うが、ファンはシビアなのだ。

この試合、ボクは大山の師である国際武道大学の柏崎克彦先生と一緒に試合を見ていた。柏崎先生は柔道の先生ではあるが、何度か「プライド」の試合を見にきているため、その技術に関してもかなり的確だ。柔道の先生らしからぬ、柔らかい頭の持ち主で、柔術選手や総合の選手にも支持者は多い。

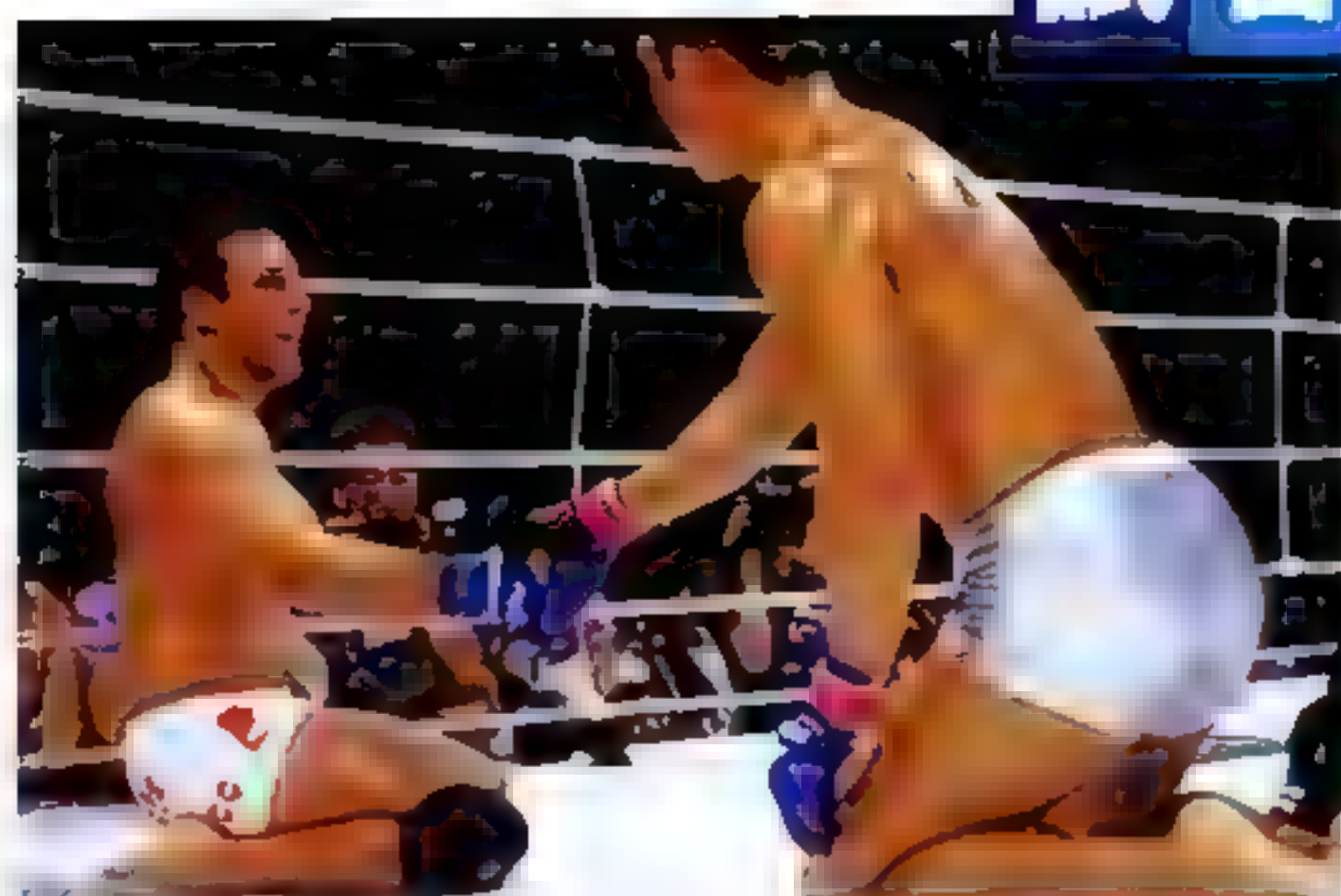
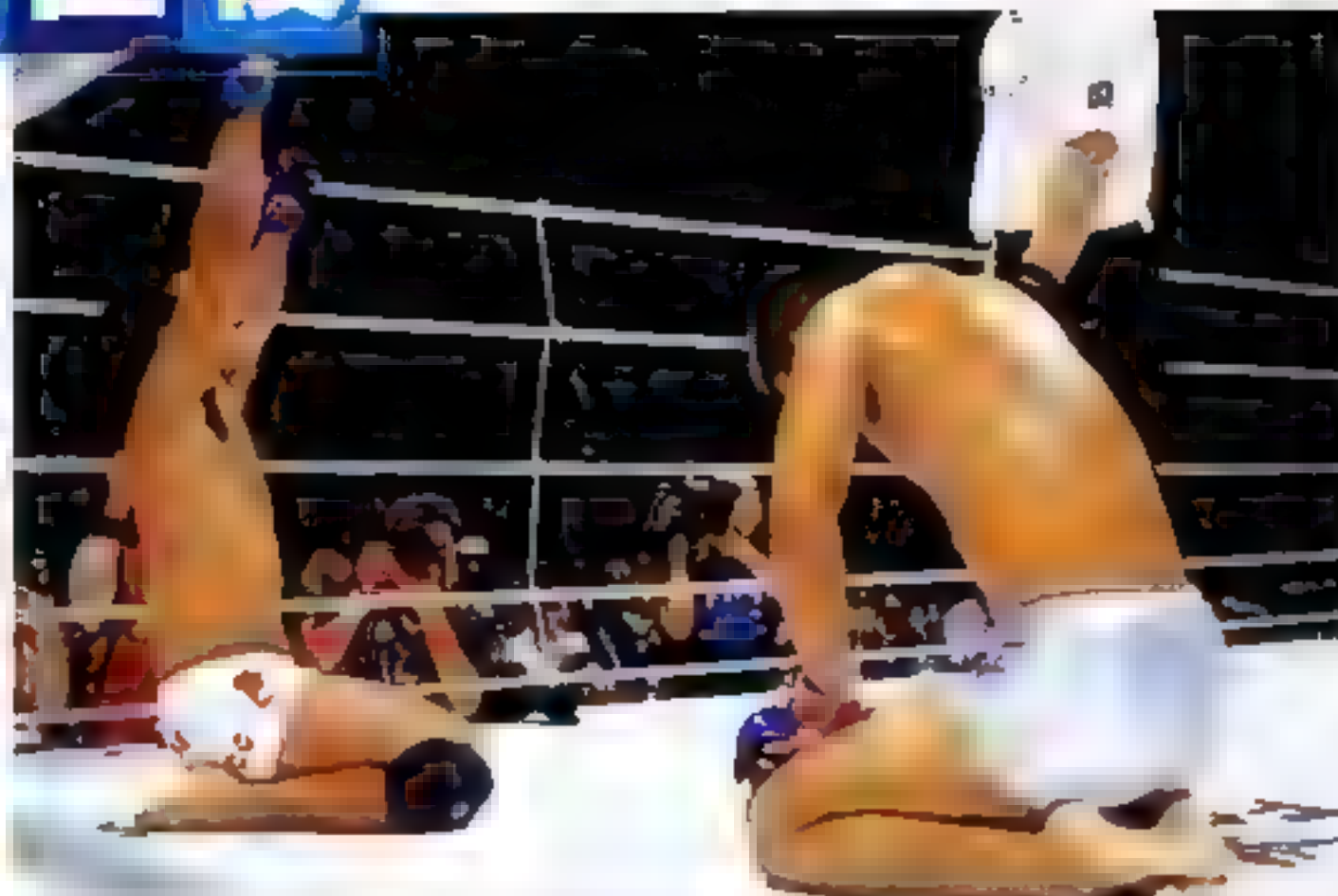
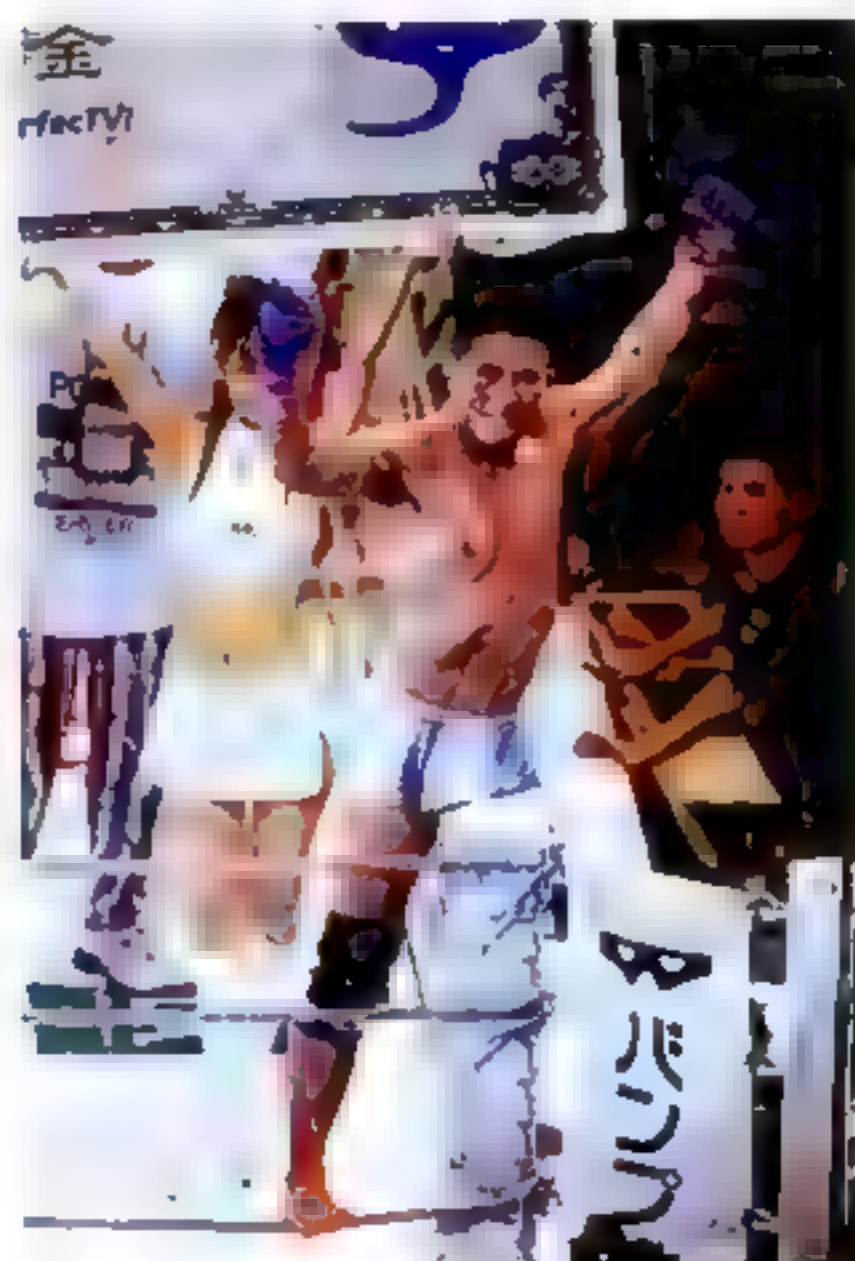
柏崎先生の、試合後の第一声は、「こんな勝ち方で、喜ぶんじゃないって言いたいよ、バカタレが」という厳しいものだった。

# 試合直後

## 大山のコメント

「最初にテイクダウンを取られた時に、イズマイウ戦が頭をよぎって、弱い自分が出てきたんですけど、それと同時にあんな惨めな思いはしたくないと思って、気持ちを取り戻して闘いました。もっとアグレッシブにとか、反省点はいっぱいあるんですけど、とにかく今の自分を精一杯出せたと思います。ただ、これでは全然満足していないんで、次は本当に強い相手にも一本勝ちできるように頑張っていきたいです。今回、自分の中の反省点が分かったので、それを修正して、上を狙っていきたいです。やっとプロとしてスタートできたと思っています。反省点はいっぱいあるんですけど、9カ月間本当に苦しかったので、今日は自分を褒めて、そのあとゆっくり反省します」

## ヘンゾのコメント

「皆さんはボクのことをよく知っていると思いますけど、ボクは自分が負けた時には潔く負けを認めていますし、勝った相手には『おめでとう』ときちんと言う人間です。でも、今回に関しては、自分が負けたとは認めていません。できれば、もう一度、オオヤマ選手と闘いたいというのが今の気持ちです。今回、自分としてはとてもアグレッシブに行って、いい試合ができていたと思うのですが、グラウンドでのブレイクが早すぎて自分の力を十分に発揮することができませんでした。そこが一番納得のいかないところです。審判が故意にやっていることではないと思うので仕方ないことだとは思いますが、自分の負けという判定には納得はできません」

▲ヘンゾは満面の笑みで大山と握手

▲試合終了の瞬間。勝ちを確信し両手を挙げるヘンゾと肩を落とす大山

▲大山は涙で顔をグチャグチャにしながら喜びをアピールした

ジャッジは、3－0で大山!?
大山喜び爆発!

# 判定後

## 『こんな勝ち方で喜ぶんじゃない!』(柏崎)

◀「こんな勝ち方で喜ぶんじゃない！ 何をやりたいのかが分からない。力はあるはずなのに、それを全然活かせてない。まだまだだなぁ」。柔道時代の恩師・柏崎克彦氏は試合後、厳しい言葉を口にした

▲喜びのあまり蹲ってしまった大山。網膜剥離で一度は医者から引退を勧告されただけに、復帰戦での勝利の喜びはひとしおだったのだろう

試合の最中も、後ろ回し蹴りや挑発のポーズを見せる大山に「なんであんなことをやっているんだ」「いったい何をやりたいんだ」と言っていた柏崎先生だが、これはおそらく会場で見ていた人も、テレビで見ていた人も同様のことを感じたことだろう。

今回、正直に言うと、大山はヘンゾに負けるかもしれないと思っていた。今大会のパンフレットへの執筆を頼まれ、「勝って完全復活の狼煙を上げる！」とは書いたものの、ヘンゾの実力は過去の試合で知っているし、経験の差でヘンゾかなぁと思っていたのだ。それでも、なんとか勝ってほしいとは思っていた。そして、ボクの予想を覆し大山は勝った。危なかったのは1Rだけ。あとは危ないと感じられる場面はほとんどなかった。かと言って大山が有利なわけでもなく、試合を通して感じたのは「何をやっているんだ」というフラストレーションだけだった。いま、思うのは負けてもいいから、小細工なしで、もっと思い切りのいい試合を見たかった。

今日、大山は「プライド」での初勝利と引き替えに、もの凄く大事なものをなくしてしまった。それは簡単には取り戻すことはできないものだ。

大山の試合の影響もあり、冷め切ってしまった「プライド21」を、一転、熱くしたのはメインの高山だった。まさにプロとはなんたるかを身を削って見せ付けた。大山にももう一度考えてほしい、プロとは何かを。それを追求していくことで、なくしたものは戻ってくるはずだ。

（林）

# アイブルの野性味を封殺……バジェレミーのバカ野郎～ッ!!

## アイブルがイエローカード0(ゼロ)のクリーンファイト!?

アイブルは入場時、自前のデカいイエローカードを高々と掲げて入場！「レフェリー・シマダにイエローを出されたら、これで出し返してやる！」と言っていたが、残念ながらレフェリーは塩崎レフェリーだった

# アイブルに反則行為をさせるスキも与えず！ 恐るべし？ ジェレミーのポジショニング地獄!!

ジェレミーの完璧なポジショニングにより、試合の大半はこの体勢が続いた。押さえ付けられては、アイブル得意の打撃も出せず

▲どうしても寝技で闘いたいジェレミー。アイブルがいくら立ち技に誘おうと、まったく付き合おうとしなかった。まったく、男じゃないわね！

▲ジェレミーのポジショニング地獄から抜け出し、ここぞとばかりにフットスタンプで攻め込むアイブル。この時ばかりは会場も大いに沸いた！

©Essei Hara

▲ゴングが鳴るや、ジェレミーが速攻でタックル→それに合わせてアイブルがヒザ蹴り→強引に持ち上げてジェレミーがテイクダウン成功！ 終始、これの繰り返しだった

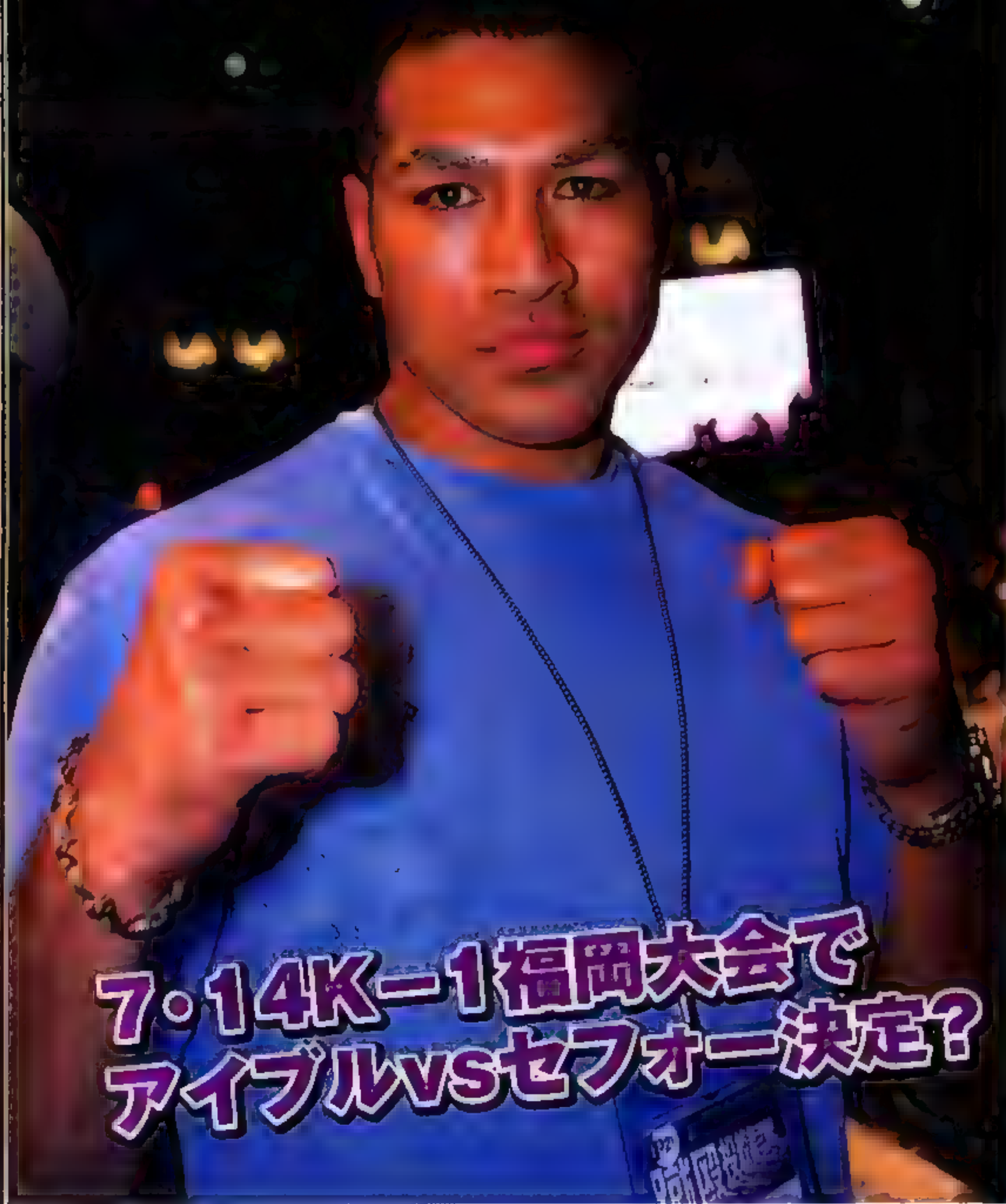
ジェレミーのバッカ野郎〜ッ！ よくも私のアイブルの光を消してくれたわね〜ッ！ 野性味を欠いたアイブルのどこに魅力を見出せっていうのよ〜ッ！

あの〝野生児〟アイブルに反則どころかまともな攻撃をするスキさえも与えなかった、〝鉄人〟ジェレミー・ホーン。草ＶＴ大会でとにかく多くの実績を積むことでのし上がってきた、希有なファイターだ。そのファイトスタイルは地味で堅実。特にアイブルのような何をしてくるか分からない選手と闘う時は、相手の土俵に踏み込むようなマネは決してしない。

ゴングが鳴るや速攻タックルに入り、アイブルのヒザ蹴りを避けながら、実にうまくテイクダウンを奪っていったジェレミー。試合前から「アイブルの打撃に付き合う気はない」という言葉どおり、アイブルがいくら誘っても打撃戦にはまったく応じなかった。優位なポジションを終始キープし続けて、肩固めやチョークを着実に極めようとして見せた。

でもね、ジェレミー……。アンタがポジショニングが上手だってことはよ〜く分かったわ。でも、私が今日一番楽しみにしていたこの試合が、アンタのお陰でまったく熱くなれなかったじゃないのッ！ せっかくのアイブルのパフォーマンスも台無しよッ！

アイブルは去年のフライ戦で反則負けになった時、「相手が先にやったから俺もやったんだ！」と言って島田レフェリーに猛抗議した。そして今回はそこから一転、反則キャラを売りにして、あのデカいイエローカードを片手に成田空港

# 結論！
# アイブルは『プライド』には不向き！
# でもK－1のロック様・セフォーなら、
# アイブルの良さを引き出せる!!

## 7・14K－1福岡大会で
## アイブルVSセフォー決定？

◀ジェレミーは肩固めやチョークに何度もトライしたが、アイブルにことごとく逃げられて極めることができない

▶結果、判定でジェレミーが勝利。でもジェレミー、アンタのおかげでどんだけ観客が退屈したと思ってるの？

### ホーンのコメント

「勝ててうれしいよ。ずっと僕がいいポジションをとっていたんだけど、アイブルはディフェンスがうまくて極められなかった。アイブルは、自分が負けそうになると反則攻撃を出そうとするらしいけど、今日のアイブルはクリーンでフェアな試合をしたよ。(今後は？）ケガをしないように試合を続けていきたいね」

### アイブルのコメント

「ジェレミーは寝技に持ち込むだけで、関節も1回くらいしか極められなかったのに、なぜ判定負けだったのか疑問だ。テイクダウンした数が多かっただけだろ？（今日はクリーンファイトだったが？）イエローをもらいたかったけど、試合に集中し過ぎてできなかった。それに、フライ戦の時はあっちが先に反則をしてきたんだ。頭突きもしてきたし、あの時のレフェリー・シマダにイエローカードを渡してぇよ！　ヤツは本当に悪徳レフェリーだ！」

★第4試合（1R10分、2・3R5分）
○ジェレミー・ホーン（3R判定3－0）ギルバート・アイブル●
〈アメリカ/ミレティッチ・マーシャルアーツ・センター〉　〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉

に降り立ち、「シマダー！」「ファック！」を連発していたのだ。あら、言葉が汚くてごめんなさい♥

アイブルはイエローカードが出るくらいの激しい試合をファンに見せたいと思っていた。しかし試合は、ジェレミーのポジショニング地獄によって、反則なんて1個も出ないようなクリーンファイトに。これは全部ジェレミーが悪い！　べつに反則技が見たいワケじゃないが、アイブルのゾクゾクするようなスタンドの攻防、予測不可能なハリケーンっぷりにはたまらなくソソられるものがある。アイブルを見習えとは言わないから、今大会のメインを務めた高山＆フライのような男らしさをジェレミーにも見せてほしかった。

それにしても相手にも勝ち星にも恵まれないアイブル。本人曰く「みんな俺の打撃にビビって打ち合わない」からかどうかはともかく、もう『プライド』にはアイブルの相手をできる選手はいないのかしら……。

ところで、今日もリングサイドで観戦したレイ・セフォー。今や男同士の殴り合いをやらせたらK－1イチ！　最近はイメチェンしてロック様ばりのセクシーな雰囲気を醸し出してる伊達男。

えっ、アイブルVSセフォー!?　この一戦が、K－1VS『プライド』が行われる7・14K－1福岡大会で決定かというニュースが入ってきた！　セフォーなら必ずやアイブルの野性味を引き出してくれるはずだ。その時は、またデカいイエローカードで入場してね、アイブルッ！　レフェリーはもちろん、島田レフェリーでねッ！　（日比）

# PRIDEの生態系が危ない！
# ブラックバス（シュート・ボクセ軍団）異常繁殖!!

## 桜井“マッハ”速人を破ったアンデウソン・シウバ、PRIDE戦慄デビュー!

「プライド」デビュー戦を戦慄のTKO勝利で飾ったアンデウソン・シウバ。セコンドにもついたヴァンダレイ・シウバは自分が勝ったみたいなハイテンションで祝福

▶次々と「プライド」マットで勢力を拡大していくブラックバス軍団ことシュート・ボクセ

ヴァンダレイ・シウバをはじめ続々と新しい強豪ファイターを送り込み、シュート・ボクセは「プライド」マットで勢力を拡大している。その貪欲さで他のファイターたちを食い荒らし〝ブラックバス軍団〟とも呼ばれているのだが、そこにまた新しい男が参入してきた。修斗で桜井〝マッハ〟速人を破ってミドル級王者にもなったアンデウソン・シウバだ。

シュート・ボクセ勢といえばベースはムエタイであり、それをVT用にアレンジしたスタイル。いかなる体勢からでも相手の顔面を執拗に狙う獰猛かつ残虐なものだ。対戦相手は必ずと言っていいほど顔を腫らすか流血してリングを降りるハメになる。しかも凄いのは、その闘い方が選手全員に浸透していること。つまり、ケンカが技術体系として確立されているのだ。そんなの世界中探してもシュート・ボクセだけだろう。

で、このアンデウソンもまた、そんなシュート・ボクセイズムが体の芯まで染み付いている男。対戦相手は自分より13キロも重いアレックス・スティーブリングだったが、まったくお構いなしで正面から殴りにいくのだ。そしてフィニッシュは左のハイキック。スティーブリングがジャブを出し、やや体が沈んだところへジャストのタイミングでヒットさせた。

スティーブリングも意地を見せ、蹴り足をキャッチして寝技に持ち込んだのだが、その顔は血で真っ赤に染まっていた。目尻、それに眉間と2カ所をハイキックでザックリと切られてしまったのだ。それも皮膚の内側の肉がめくれ上が

# 「これがシュート・ボクセの闘いだ!!」（アンデウソン）

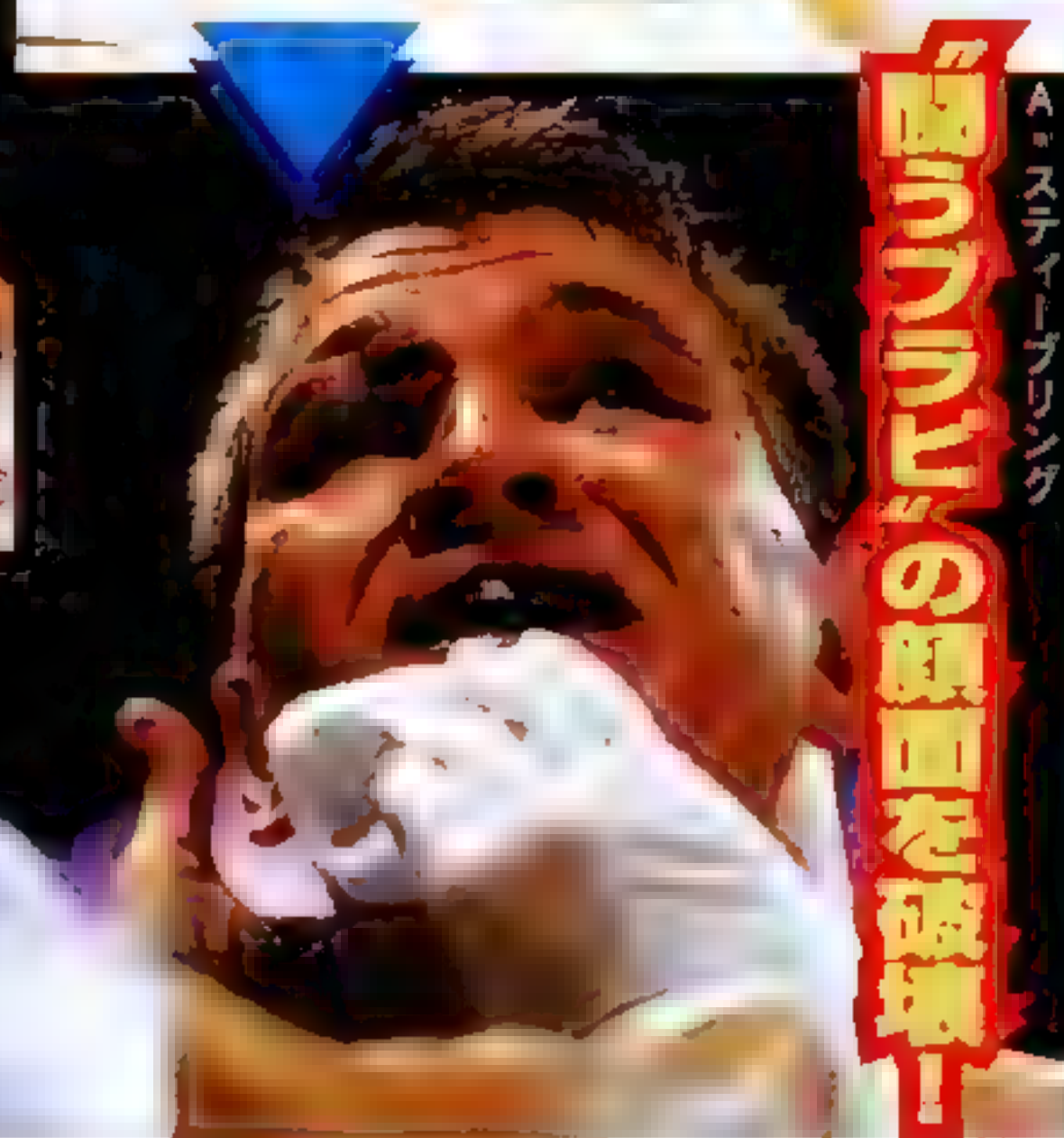
## アンデウソンのコメント

「これがシュート・ボクセだ、と言いたい。自分の思うとおりに闘えた。相手はブラジリアン・キラーと言ってるそうだが、自分はブラジル人を代表してヤツを倒すために日本に来た。口で言うんじゃなくて、リングで見せてみろって。今日の試合を見たら分かるだろ？　強いのはシュート・ボクセでありブラジル人なんだ」

## スティーブリングのコメント

「（傷の具合は？）どうなってるかちょっと分からない。試合は何が起こるか分からないけど、したいことができなくて自分に対して憤りを感じている。負けたのは自分のせいなのでしょうがない。相手は非常に強い選手だった。動きの速い選手で、自分が動く前に相手がキックを打ってきた。うまく反撃できなかったよ」

©Essei Hara

▲▶目尻と眉間の2カ所をザックリと切ったスティーブリング。〝闘うブラピ〟と呼ばれる美男子っぷりも台無し。ここまでやられては即ストップもやむなしだ

▲勝利が決まった瞬間。アンデウソンはこんな凄い表情で喜びをあらわに。とにかくシュート・ボクセ軍団はテンションが高すぎる！

▶シャープなワンツーで畳みかけるアンデウソン。そのスピードにスティーブリングも舌を巻いていた

▲ハイキックを食らいながらも、スティーブリングは蹴り足をキャッチしてテイクダウン。だがアンデウソンも足を使って突き放し、攻めさせない。実は寝技もかなりデキるのだ

★第3試合（1R10分、2・3R5分）
○アンデウソン・シウバ（1R1分23秒、ドクターストップ）アレックス・スティーブリング●
〈ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー〉　〈アメリカ/インテグレイティッド・ファイティング・アカデミー〉
※シウバの左ハイキックによって、スティーブリングの右目尻と右の眉間が出血したため

って見えるくらいに。さすがはシュート・ボクセ、アンデウソンもやはり、相手の顔面を破壊しての戦慄の勝利であった。

　試合を見ていた桜庭和志も「ああいうタイプが一番イヤなんですよね。手足が長くて、細い。凄くやりにくいんですよ」とアンデウソンを評価。修斗のベルトを持ってはいるが、今後は体重を増やして「プライド」に専念するということなので、アンデウソンも加わってブラックバスは異常繁殖状態だ。シュート・ボクセの存在は「プライド」ファイターたちにとってますます脅威となるだろう。

　試合後、アンデウソンは〝ブラジリアン・キラー〟を名乗るスティーブリングに対して「自分はブラジル人を代表してヤツを倒すために日本に来た。口で言うんじゃなくて、リングで見せてみろって」とコメント。そう、シュート・ボクセの素晴らしさは、闘い方だけでなくその精神性にもある。

　今回の試合を振り返って「これがシュート・ボクセだ」「強いのはシュート・ボクセでありブラジル人なんだ」ともアンデウソンは言っていたが、彼らにはどんな相手でも恐れることなく闘う野太い肝っ玉と、自分たちのチームに対する誇りが植え付けられている。

　シュート・ボクセ勢の徹底的に相手を叩き潰す闘いぶりと団結力を見ていると、極真魂ならぬ〝ボクセ魂〟とでも呼びたくなってくる。いずれ劣らぬ猛者ぞろい、スパーリングを素手で行うという壮絶な練習も含め、今のシュート・ボクセには初期の極真さえダブッて見えるのである。

（橋本）

# PRIDEにビンボーくささはいらん！ アフメッドよ、この時点でおまえの負けだ

★第2試合（1R10分、2・3R5分）
○ゲーリー・グッドリッジ（3R判定2−1）ラバザノフ・アフメッド●
〈トリニダード・トバゴ/フリー〉　〈ロシア/ロシアン・トップチーム〉

今大会から『プライド』参戦を果たしたロシア軍団。その先陣を切ったラバザノフ・アフメッドだったが"門番"ゲーリー・グッドリッジに判定負け。スパッツの股間が破れるという、そのビンボーくささだけで失格であろう

先日、亡くなられた消しゴム版画家で名コラムニストのナンシー関さんは、以前ある本で「日本の芸能界の課題は〝ゴージャス〟という概念をどう捉えるかだ」というようなことを書いていた。日本でゴージャスというと、どうしても日本アカデミー賞授賞式というか宝田明のタキシード姿というか、ベタで貧相な感じがつきまとう。全然ゴージャスじゃないわけだ。

で、日本の格闘技界を考えてみると〝プロ〟そして〝メジャー〟ということをどう捉えるかが大きなテーマだと思う。人に見られるというのがどういうことなのか、ということ。ファイターはファンにとって憧れの存在じゃなきゃいけないんだから、ビンボーくさいのは絶対にNGである。

大いに期待された元リングス・ロシア勢の「プライド」参戦。その先陣を切って登場したのがアフメッドだった。入場時の曲は、なんとあのヴォルク・ハンのテーマ。それだけでもかなり燃えるものがあったが、ゴングが鳴ると左右のフックをガツガツとゲーリー・グッドリッジの顔めがけて打ち込むんだからたまらない。師匠ハンには「打撃も怖がらずに積極的に攻めろ」と言われていたという。

でも、アフメッドが会場を盛り上げてくれたのもそこまでだった。あとはグッドリッジにやられっぱなし。上になっても目立った攻撃は見せられなかった。

まあ、試合内容はいいとしよう。だけど何よりマズかったのがその出で立ち。青無地に小さく、申し訳程度に〝SAMBO〟とプリントされたスパッツ。「もうちょっと

### グッドリッジのコメント

「相手のことは賞賛したいと思う。思ってたより強かった。元リングスで、もっと根性がないと思ったけど、ガッツがあったな。相手はレッグロックを狙ってたみたいだね。でも勝ったんだからモンダイナイ（日本語で）。いつも初参戦の相手が多いけど、べつに研究したりはしないよ。とにかくやっつけるだけだ」

### アフメッドのコメント

「『プライド』には非常にいい印象を受けた。プロ格闘家にとってのオリンピックみたいなものだね。今日は運が悪かっただけだと思う。対等に闘えたと思うから。最後の2、3分で力が出し切れなかった。試合に出るのが分かったのが1カ月前で、これだけ大事な試合をするにはそれでは足りなかった」

▲結局、1Rと3Rの大半をグッドリッジに抑え込まれてパンチ、ヒザを浴びたアフメッドは判定で敗れることに

▲1Rの序盤は良かった。大振りのパンチ（ロシアンフック？）をブンブンと振り回し、あわやグッドリッジをKOしてしまうかという場面も

▲試合が終わると、アフメッドの手を取って引き起こし、健闘を称えたグッドリッジ。さすがの男っぷりであった

▶下から腕を取りにいくが、惜しくも極まらず。戦場格闘技であり、多彩な関節技を持つコマンドサンボの妙技が見たかったのだが

◀アザだらけの顔でしょんぼりリングを去ったアフメッド。グラウンドの打撃に耐え続けたガッツはグッドリッジも賞賛していただけに、今後メジャー感を増しての再登場に期待したい

▲1R、テイクダウンすると得意中の得意技であるアキレス腱固めを仕掛けたアフメッドだが、グッドリッジが起き上がったため上に[illegible]られてしまった。スパッツがズリ下がってサポーターが見えちゃってるのも問題だろう

凝ってもいいんじゃない？」と言いたいところだが、さらにそのスパッツが、試合が進むうちにズルズルと下がってきてしまう。サポーターまる見え。お腹の肉がベローン。しかも、よく見ると股間の所が破れてる！　ビンボーくさいにもほどがある！　もう、この時点でアフメッドの負けでしょ。

アフメッドはリングス時代、日本で修行したことがあり、その時も新弟子用のボロボロになった練習用スパッツを借りて試合に出たらしい（リングスちょっといい話）。そういう部分は格闘技界で最高のひのき舞台「プライド」でもなんら変わってなかったのだ。

たしかに、ロシア勢は素朴さ、朴訥さが魅力でもあるんだが、それもリング上で圧倒的な技術とハートを見せてくれたからこそ。なのにアフメッドは期待されたコマンドサンボ幻想を見せられず、見せたのはパンツの穴ばかり。

「『プライド』はプロ格闘家にとってのオリンピックみたいなもの」とアフメッドは言うが、それならば相応の心構えが必要。この日闘ったグッドリッジが、なぜ「プライド」戦線で生き残ってこれたかというと〝「プライド」の門番〟という自分の役目をしっかりと把握し、それに過剰に応えてきたからに他ならない。アフメッドにも、そのことを肝に命じてほしいのだ。

驚くべきことに、アフメッドはあの風体にしてまだ23歳（！）。ロシア勢の代表パコージン氏によれば「将来性はヒョードル以上」だという。そんな無限の可能性を、パンツの穴ごときで失ってしまうのはもったいない。

（橋本）

## アントニオ猪木のコメント

**まあ、凄いねえ、あの人（＝高山）は。打たれ強いというか……**

▶メインを複雑な思いで見ていた猪木と、高山とフライに大感動した百瀬博教氏。

——最後は壮絶な試合になりましたけど。

**猪木** そうですね。今日はちょっと全部の試合が決着が長かったたですけど、最後で複雑にね、高山も頑張ってもらいたいと思ったし、ドン・フライもまあ、悔いがないんじゃないですか？ ああいう試合をすると。

——高山選手は新日本のG1が決まってるんですけど、ケガの具合は心配はないですか？

**猪木** まだ時間あるからね。まあ、凄いねえ、あの人はでも。打たれ強いというか。あんなのとやるの嫌だな。この前の藤田もそうですけどね。

——このTシャツ（この時、猪木は赤いTシャツを着ていた）は？

**猪木** このシャツを宣伝してくれって言うからさ。聞いてくれないからさ、しょうがないから。25日のバージョンを変えて、韓国の応援があるんで。ホントは青だったんですけどね。赤に変わって。25日に生で来てくれって言われて、俺はスケジュールがあってね、どうしても行けないんだよね。えらい盛り上がってるの、国立競技場？ さっきはそれでまた1、2、3ダア～ッをやってまいりましたけど。

——決勝は行くんですか？

**猪木** 決勝は行きます。明後日は予定外だったんでね。ちょっとスケジュールが崩せないんで。どうしても生で来てやってくれって言われてね。もしかしたら、今調整してるところなんだけどね。何時からですか？

——3時半じゃないですかね。

**猪木** 3時半なら間に合うかな。ちょっと地方に出てるから早めに出れば帰ってこれるかな。横浜でしょ？ 横浜じゃない。どこ？

——国立競技場ですか？

**猪木** そうそうそう。横浜は本番だ。そうそう、国立競技場。えらい成功しちゃったもんでね。予定外に。またこれで人が溢れたら凄いことになるから。どうぞ、なんでも聞いてください。

——試合前に森下社長が8月頭の国立競技場のイベントは今のところ考えてないとコメントしたんですけど、猪木さんは以前にやるとおっしゃってましたけど。

**猪木** 日程が変わるんじゃないですか？ なんかあの～、俺もよく詳しいことはそこの部分は俺からは言えないんでね。だいたいはいろいろ聞いてはいますけど。だから、まあ、ぶつかっていたいろんな日程はうまくというか、解消できるので。あとはUFOのほうも二転三転しているようですけど、方向としては。なんかもう、案内は行きましたか？ まあ、いろんなことがあってもいいじゃない。結果が良ければ、うまく進めばね。いいですか？ どうもありがとうございました。■

### 休憩後のアントニオ猪木のコメント

**サッカー終われば“苦”だけ残る。錯覚っ！**

▶珍しくサングラスをかけて登場した猪木。これはなんの意味があったんだろうか……？

「元気ですかぁぁぁぁ！　元気があればなんでもできる。今日は1時間くらいしゃべってやろうと思っていろいろ考えてきました。今、歩いてくる途中に忘れてしまった。連日サッカーのニュースで賑わっていますが、今ちょっと考えました。ワールドカップの水もれて、日本は残念ながら負けてしまいました。その分韓国が頑張ってますが、サッカー終われば“苦”だけ残る。錯覚っ！（場内大爆笑）。今、いろいろ考えてるんだよ（再び場内爆笑）。夢と元気を忘れないように一つこの「プライド」のリングから猪木が元気を発信します。ご唱和ください。行くぞぉぉぉぉぉぉ～、1、2、3ダァァァァァァァァ!」

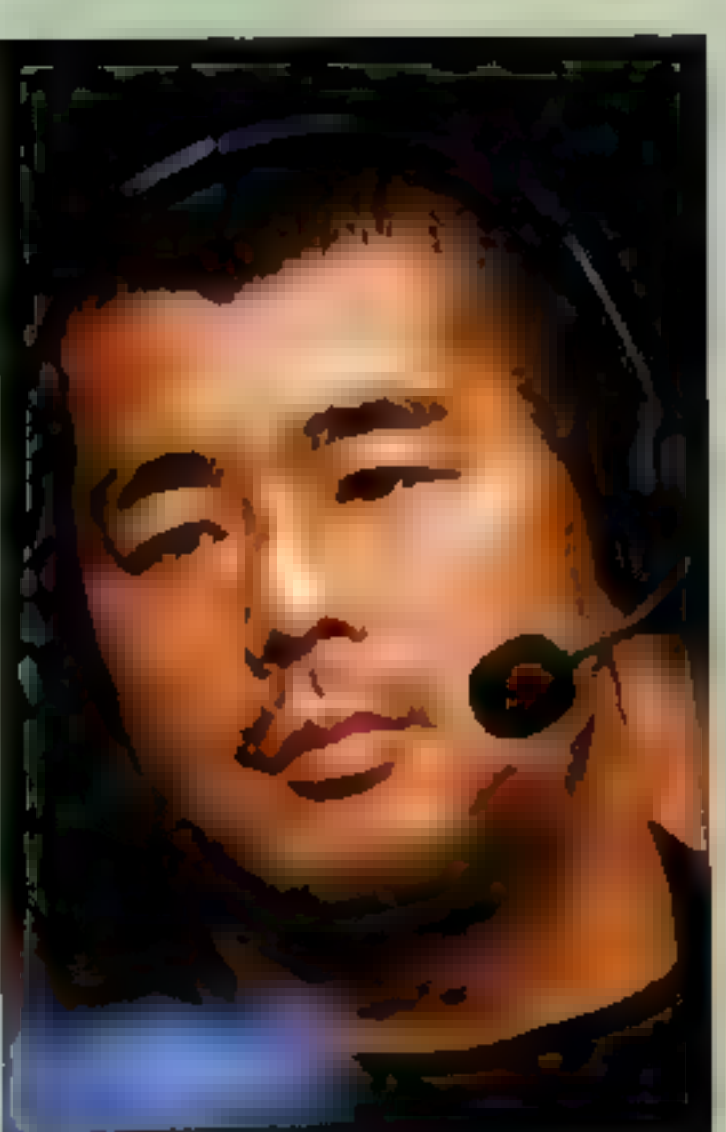
## 石井和義館長のコメント

「ボブ・サップはもっと苦戦するかと思ったけど、考えてた以上に強かったね。田村選手は危なかったんじゃない？　でも、こういう試合をやるだけで勇気があるよね。アイブルに関しては、身体能力は凄いんだけど、『プライド』ルールに向いてないんじゃない？　彼は意外とK－1ルールのほうが花開くかも。ぜひ、見てみたいね。それにしても高山選手は凄い！　あれこそプロの中のプロでしょう。K－1ジャパンGPに出てくれないかなぁ（笑）。彼なら、ニコラス・ペタスの代役に十分ふさわしいでしょう」

## 桜庭和志のコメント

▶高田と共に第1試合から解説していた桜庭和志。今日の闘いを見て復帰心に火がついたか……？

「言葉にならないほど凄い試合でしたね。高山さんの試合を見ていて、僕も早くリングに復帰したくなりましたし、勇気がわいてきました。今日は全体的に面白い試合が多かったですね」

## 高田延彦のコメント

▶第1試合の田村VSサップ戦からきっちり解説を努めた高田延彦

「メインの試合については言葉にするだけで汚れるような、そんな試合だった。解説することは何もないよ。本当に素晴らしいものを見せてもらったね」

◀メインに大感動して涙した森下社長。「今日は誰も救急車で運ばれなく無事に終わってホッとしています」と試合後に語った。なお、森下社長は試合前にも会見を開いた。「今回はブッキングに苦労しましたけど、最終的に面白くなりそうです。これも皆さんのお陰です。ありがとうございます。今後の試合ですが、7月20日にディファ有明で「THE・BEST」を開催します。出場予定選手は江宗勲選手、高瀬大樹選手、光岡映二選手、U－FILEの若手を予定してます。外人勢はボブ・シュライバー、ニーノ・シェンブリ、アリスター・オーフレイムです。それと、『プライド22』を9月29日、名古屋レインボーホールで開催することが決定いたしました。出場選手は未定です。あとは、8月に国立競技場でやるとかそんな話があるようですが、DSEとしては正式に何も聞いておりません。ですので、今のところDSEとしての動きはないです」（森下社長）

# 長時間に及んだ『プライド21』だったけど、22586人が高山とフライにシビレたっ！

…ン井上も高山とフライの…合いにビックリしていた

リングサイドになんと安田忠夫を発見！売り込みにきたのかな？

『プライド』の聖地、さいたまスーパーアリーナには22586人（満員）の観客が集結した

◀ノゲイラが大好きな小池栄子ちゃんも高田&桜庭と一緒にコメンテーターを務めた

アメリカPPVのゲスト解説はUFCヘビー級チャンピオンのジョシュ・バーネット。『プライド』参戦はあるか？

『プライド20』でシュート・ボクセ軍団との抗争が勃発したレイ・セフォーも観戦

▲大山峻護のセコンドにはチーム・ドラゴンの前田憲作がついた

▶どう猛ファイトを見せるシウバも、メインの試合は口があんぐりとなっていたようだ

はせキョーはどの試合が一番面白かったのかな？

▶ざっくりと瞼を切られたアレックス・スティーブリングのセコンドにはパンクラスの高橋義生と石井大輔がついた

『プライド』ゲームでちょっとした選手気分。試合後にはみんなドン・フライを選んでいたとか……

いつものことながら、凝った演出をする『プライド』

# 総評

文◎谷川貞治

## 世界の一流選手が口あんぐり……『プライド』とは、ここまで観客が要求するリングなのか――

『プライド21』のパンフレットで、私は大会の見所について、次のようなことを書いた。

「今回の『プライド』のテーマはズバリ、W杯で浮かれる世間に対し、一撃を加えられるかどうかだ。W杯に勝てとか、超えろ！とは言わない。けれども、そんな世間のムードを読まずして、『プライド21』の成功はない」と。

たしかに我々はW杯をナメすぎていた。サッカーと格闘技ファンはもちろんクロスしないが、K―1や『プライド』のような何か盛り上がっているものに集まりたがるファンと、W杯ファンはどこか似ているところがある。そのため、純然たる『プライド』ファン以外は、6・23さいたま大会はほとんど視界に入っていなかったと思う。

「今度の『プライド』は見に行くの？」

そう何人かの知人に尋ねてみると、「それはいつあるの？」という答えが必ず返ってきた。それほど、W杯の時期は何をやってもダメなのだ。

そんなテーマのもとで行われた、W杯真っ只中の6・23『プライド21』。やはりと言うべきか、いつもに比べて客足は鈍った。しかも、対世間を引き付けるような強烈なカードも組めない。こうなると、もう試合に頼るしかなかった。

しかし、悪いことは重なるもので、こんな時に限って、客の熱も伝わらなければ試合も良くない。どの試合も"膠着"が続いて、KOがないし、一本が取れない。ポジションの奪い合いによる判定試合に終始するのみ。いったい、この日の『プライド』の意味をファイターたちはなんと心得ているのか。そう問いたくなる試合ばかりだった。

そんな試合がセミファイナルの第7試合まで続いた。その壊滅的な状況を救ってくれたのが、メインの高山善廣VSドン・フライの一戦だった。

試合前、フライはインタビューで「W杯が子供の戯れ言だと思わせるような試合をしたいね」と意気込みを語っている。つまり、フライだけにはW杯がちゃんと視界に入っていたのだ。単なる勝負論や技術論を超えて、フライは観客とか、世間と勝負しようとしていた。もし、プロモーターの立場だったら、フライほど頼りになる男はいないだろう。

いい試合をするかどうかの最大のポイントは、観客に何を見せるかという意識があり、それを体現できるかどうかにかかっている。観客を意識するということは、他者の評価を受け入れる意識を持つことだから、これがなければいい試合になるはずがない。『プライド』のリングに上がる資格は何かと言ったら、その一点に尽きるだろう。

だから、『プライド』は単なるVTの競技会にはならないのだ。この日の試合で言えば、ジェレミー・ホーンなんかはいい選手だが、『プライド』の常連選手にはなり得ないタイプである。逆にボブ・サップは経験、技術力ともにまだまだかもしれないが、合格の選手と言えよう。また、ホーンのようなタイプが何[illegible]するよりも、サップのようなタイプのほうが必ず強くなるというのが私の持論である。

結局、『プライド』はなんでも有りの大会である。なんでも有りというのは、どんな肉体の武器を使って勝ってもいいという意味だけではない。観客を引き付けるためには、どんな闘いをするのも自由だと考えられるかどうか。この意識を持っているかどうかが、『プライド』に上がる条件なのだ。

グレイシー柔術はこのなんでも有りを世に提示した最大の立役者だが、彼らはどんな武器を使ってもいいと言いながら、なんでも有りの闘いで勝つには、あまり自由に武器を使えないことも証明した。なんでも有りで勝つには、そのための効率のいい闘い方があるからだ。

そのため、なんでも有りと言いながら、世界中のほとんどのファイターは、グレイシー柔術の技術に近付いていた。なんでも有りと言いながら、どんどん発想が制限されていってしまったのだ。

これでは、たとえグレイシーに勝ったとしても、真の勝利とは言えない。グレイシーに勝つということは、グレイシー以上にうまい柔術家になるだけの話だからだ。観客論から言ったら、VTにはグレイシー以上に面白い闘いがないことを証明しているだけの話である。

しかし、フライはその発想をいつも持っていない。なんでも有りだからと言って、グレイシーのように効率のいい闘いをするんじゃなく、「なんでも有りだからこそ俺は男と男の闘いを見せる！」その

モチベーションで、フライはいつも闘っているのだ。

しかし難しいのは、格闘技とは相手があって初めて成立するジャンルだということである。フライが男と男の闘いがしたいと思っても、相手がそれをスカしたり、効率の良い勝ち方を狙ってきたら、フライが観客に見せようとしている男と男の闘いにはならない。その意味で、今回メインがこれまで見たこともないような壮絶な殴り合いになったのは、高山というプロレスラーが相手だったからだ。真のMVPは高山である。

W杯に負けない試合をするために、フライが顔面のどつき合いに挑んだ時、高山は見事これに応えた。しかも、いくらプロレスラーと言っても、鍛えようのない顔面を無条件で差し出し、ノーガードで互いに打ちまくったのだ。こんなことができるのは、プロレスラー多しと言えども、高山だけだろう。

さすがにこのフライと高山が殴り合いを始めた時、リングサイドで見ていた世界一流の格闘家たちも口をあんぐりさせていた。シウバもアイブルもセフォーもサップもスティーブリングも、みんなポカ～ンとしながら、「こいつら、いったい何やってんだ!?」という顔をしていた。

試合後、今回初めて「プライド」のリングに上がったロシアン・トップチームの代表ウラジミール・パコージン氏は「ハッキリ言って「プライド」の観客がここまでのことをファイターに求めるとは思わなかった。プロとしての認識が甘すぎたかもしれない」と言っていた。これは印象深い言葉である。高山VSフライ戦から比べたら、ロシアの怪物ヒョードルさえもアマチュアと言わざるを得ないだろう。

高山VSフライの試合は、観客だけでなく、ファイターの意識を大きく変える試合になったと思う。この試合が成立したおかげで、ファンがファイターに要求するハードルの高さは一気にハネ上がったのだ。少なくとも、ただ勝つだけの意識では「プライド」には呼んでもらえないと、感じたのではないだろうか。

以前、高田延彦がヒクソン・グレイシーに敗れ、プロレス界の地盤沈下が叫ばれた時、その翌日にA・猪木は藤原喜明と佐山聡に馬乗りになってボコボコの殴り合いの試合をさせたことがあった。プロレスラーは打たれ強さを売り物にする商売である。高田がヒクソンに敗れた時、猪木は「グレイシーにこんな試合ができるのか!」というのを見せつけるために、プロレスラーと言えども鍛えられない顔面をお互いノーガードで殴り合わせた。

今回の高山VSフライの試合の壮絶な殴り合いは、まさにそれを彷彿とさせる試合だった。W杯で浮かれている世間に対して、せめてハチの一刺しを加えるために、高山とフライは身を削って最もエゲツない試合を見せた。それが彼ら2人の答えだったのだ。

もちろん、これはプロレスラー同士じゃなかったらできないVTだ。顔面をむき出しにして根性比べをするなんて、勝負論や技術論ではとても語られるべき試合じゃない。しかし、だからこそグレイシーが提示したなんでも有りの闘いに対して唯一対抗できる、VTの一つの表現方法になったと言えよう。猪木が藤原と佐山にやらせた理由も、それを見せたかったからだ。

さすがはプロレスラー。「プライド21」は高山とフライの2人の闘いによって救われることができた。■

# 究極の立ち技他流試合！SB（シュートボクシング）15年の集大成！ 7・7『S―cup』を絶対見ろ!!

聞き手◎橋本宗洋

**昨年、創設15周年を迎えたシュートボクシングが"立ち技総合格闘技"の集大成として開催するのが7・7「S－cup」（横浜文化体育館）だ。過去「S－cup」は2度開催されているが、その時のメンバーはキックボクサーが中心。しかし、今回は散打、シュート・ボクセ、ケージファイト王者のサバット使いなど多彩なメンツが揃った究極の立ち技他流試合トーナメントとなっている。団体の命運を賭けたビッグイベントに踏み切ったシーザー武志・SB協会会長の意気込みを聞け！**

――いよいよ大会も間近になってきたんですが、チケットのほうもかなり売れ行きが好調みたいですね。

**シーザー** もう完売の席も出てきてね。高いほうから。SRSとRSかな。本当にありがたいことだよねぇ。

――それだけ、SBがこの大会に力を入れてるっていうのも感じますし。「いいメンバーが揃ったなぁ」と。

**シーザー** これ、どうなるか予想つかないでしょ？

――そうなんですよ。

**シーザー** それが見る人にとって一番面白いんじゃないかって思うんだよね。そうじゃなかったら、家でテレビ見てるほうがいいじゃない（笑）。

――これまでSBは〝立ち技総合〟を旗印にやってきたんですが、ここにきてその同志というか、ルールに対応できる他の流派がかなり増えたっていうのも面白いですね。散打とかドラッカとか。

**シーザー** ただムエタイとかキックっていうんじゃなくね。立ち技の全ての技が許される。で、なんで立ち技かっていったら、闘いって絶対にそこから始まるんだよね。それを飛び越えて寝技に行くわけにはいかないでしょ。そう考える人が世界中にたくさんいるんだな、と。

――会長が最初にその発想を持ったのは何がきっかけだったんですか？ やっぱり路上の経験というか（笑）。

**シーザー** それもなくはないよ（笑）。でも大きかったのはUWFだよね。彼らと交流する中で、カール・ゴッチさんと出会ってね。ゴッチさんが言うわけよ。「キミはキックのチャンピオンなのか。でも立ち技はキックやムエタイだけじゃないんだ。サバットでもなんでも他にいろいろあるから、キックってものにこだわる必要はない」って。そこで〝より実戦的なものはなんだろう？〟って考えたのが「S―cup」の大本になってる。

――じゃあ、ある意味SBの源流にはゴッチイズムもあるんですね。

**シーザー** ゴッチさんの言葉が布石になったのは確かだね。そして、それを広める場所を与えてくれたのがUWFでね。彼らに打撃を教える中で、彼らの言葉が〝シーザーイズム〟を作ってくれたってこともあるし。「シーザーってのは凄い」みたいなことをね。そういう意味では物凄く感謝してるよね。

――今、このタイミングで3回目の「S―cup」をやろうって思ったのはどういうきっかけだったんですか？

**シーザー** まず吉鷹の時代からしばらくたって、それに続く選手が育ってきたっていうのはあるね。それは土井にしても後藤にしても。世界と闘って勝てる選手になってるから。それと、やっぱりK―1のミドル級。あれが刺激になったことも確かでね。

――そこはやっぱりあるんですね。

**シーザー** ないって言ったら嘘になるもんね。K―1が中量級のトーナメントをやるってなった時に「な〜に言ってんだ」と（笑）。「そんなの前からオレが「S―cup」でやってきたじゃねぇか。なんなら勝負しようか？」って。

――アハハハハ！ そのとおりとはいえ、会長、正直ですねぇ（笑）。

**シーザー** 95年からやってんだから。「みんなオレのこと忘れてねぇか？ だったらオレの手腕を見せてやるよ」と（笑）。K―1がオレの心に火を付けたね。そういう意味では感謝してるよ。

――いや実際、メンバーを見るとレベル的にも高いし、バラエティに富んでますよ。第1回の「S―cup」からそうですけど、日本人のリスクが高すぎるというか（笑）。

**シーザー** それはまあ、いい選手を集めると自然にそうなっちゃうんだよね。昔っからそうなのよ。たとえばダニエル・ドーソンにしてもK―1に出たシェイン・チャップマンと3回やって3回勝ってるっていうからね。しかも、今キックだけじゃなくて投げの練習もかなりやってるから。

――それとアンディ・サワーもいいですよ。アルバート・クラウスの兄弟子という。「よく見つけてきたなぁ！」と思い

## 究極の立ち技他流試合
# 7・7『S-cup』最終情報！

ました。

**シーザー**　いいでしょ（笑）。最初はサワーがK－1に出るはずだったらしいんだよね。また散打もね、K－1でやられてるからメンツがかかってるんだよ。だから本命中の本命というか、奥の手みたいな選手を出してきた。

――ムエタイともバンバンやってる選手らしいですからね。

**シーザー**　かなり強いし、気合いも入れてくるだろうね。ということは、ウチの選手にとっては損なのか（笑）。

――そうですね（笑）。

**シーザー**　まあ、でもいいじゃない。そこで闘って勝つのが、本当のトップ決定戦ってことだから。

――それにフランスのチャンピオンがいて、ボブチャンチン軍団がいて、シュート・ボクセがいて。まさに他流試合トーナメントですよ。

**シーザー**　こっちが困っちゃうくらい予測がつかないんだよ（笑）。

――一応、打撃と投げが主体になるんですけど、そこに至るプロセスというか、戦法がてんで違いますから（笑）。

**シーザー**　だから何が起こっても不思議じゃない。ハプニング性も含めてね。ルールの幅もキックより広いし。

――逆に日本勢にかかる重圧は大きいでしょうね。

**シーザー**　今、日本人が勝ててないじゃない。こないだの武田幸三にしても、小林聡にしても。あとK－1もそうだけど、みんな日本人が負けちゃってる。だから土井にもよく言うんだけど「このままじゃ日本がナメられるぞ」って。日本のために、日本の格闘技界のために頑張ってほしいね。このままだと日本が危ないんだと、そういう気持ちで。

――今回、土井選手と後藤選手にもインタビューしたんですけど、2人とも凄く責任感が強い感じがしました。

**シーザー**　2人とも、命賭けてやろうっていう覚悟を感じるよね。キックがどうとかK－1がどうとかね、そういう小さいことじゃなくて、日本の格闘技界全体を引っぱるつもりで。もう、今やんなきゃ後がないんだよ。

――「日本人が勝てる階級」と言われた中量級でも魔裟斗と小比類巻が負けたということで、その後だけに重要ですよね。でも会長としては、土井、後藤の2人はそういう状況でも自信を持って出せるという感じもありますよね？

**シーザー**　オレがっていうより、日本の格闘技界が自信を持って送り出せる2人じゃない？　最近いいなぁと思うのは、人間的にも成長したのを感じるね、2人とも。テクニックだとかそういうことよりも、人間としてどうか。厳しい練習っていうのはそういう意味があるんだね。また人間的に成長すると強くもなるんだよ、本当に。まあ今回は厳しい闘いだけれども、2人には期待してるし、それだけのことができると思ってるから。できればね、2人で決勝をやってほしいなと。オレとしては、知ってる者同士が闘うのは見てて辛いんだけどね。■

## 他流試合ゆえに波乱必至、誰もが本命！ "S-cup"ワールド・トーナメント

"立ち技バーリ・トゥーダー"
**後藤龍治**
（日本/STEALTH）

元MAキック王者であり、K－1ミドル級での魔裟斗との激闘も記憶に新しい後藤。と同時に空手の大会に出たり「グラン・トロフィー」に出たり、SBでは史上初めて立ち関節技で勝つなど、その闘いの幅は無限大。今回も「打撃では勝負しない」と公言し、SBルールならではの危険な闘いを目論む。狙いは投げでのKOだ－

"豪州キック界の第一人者"
**ダニエル・ドーソン**
（オーストラリア/ブンチュウジム）

かつて小比類巻貴之、緒形健一に勝利し、K－1ワールドMAXの豪州代表シェイン・チャップマンに3戦3勝、タイのランキングに入ったこともあるという強豪中の強豪。強靭な肉体からくる打たれ強さとパワーはオージー特有といった感じだが、加えてムエタイ仕込みのヒザ地獄も大の得意。『S－cup』に備えて投げも特訓中とか。

"散打が誇る他流試合要員"
**鄭裕蒿**
（中国武術協会）

2008年の北京五輪で公開競技となる散打は、現在アジアを中心に様々な格闘技と接触して普及を図り、他流試合を行っているのだが、中でもこの男はVSムエタイ路線のエースと言われているらしい。ボディスラムでムエタイ戦士をリング外に放り投げたという逸話も持つ。どこからイナズマが出るのかは現在調査中！

"中量級のボブチャンチン"
**アンドレイ・スタチバン**
（ウクライナ/ボブチャンチン軍団）

あのオバチャンチン・マネージャーが「中量級のボブチャンチン」と言うのが、このスタチバン。一撃KOの破壊力を持つロシアンフックはもちろん、投げが相当に強いとの噂あり。路上の実戦を想定したロシアの格闘技ドラッカのチャンピオンだ。打撃プラス投げというSB同様のルールでもあり、今回の参戦にも一切の不安はない。

"シュート・ボクセ中量級最強の男"
**マヌエル・フォンセカ**
（ブラジル/シュート・ボクセ）

昨年11月の3VS3対抗戦でSBに惨敗したシュート・ボクセ。雪辱を狙うフジマール会長が「前回のヤツらはBクラス。今度のが最強だ！」と送り込むのがフォンセカである。ボクセ主催の大会「ストーム・ムエタイ」の王者でもあり、残酷なファイトはシウバ、ニンジャ同様。ブラックバス軍団が立ち技の生態系も食い荒らすか!?

"A・クラウスの兄弟子"
**アンディ・サワー**
（オランダ/リンホージム）

K－1ワールドMAXで優勝したアルバート・クラウスの兄弟子で、少年時代からキックに打ち込み、20歳にして86戦85勝という恐るべき戦績を誇る。K－1の予選試合では相手に対戦を避けられて出場を逃した（代わりに出たのがクラウス）というから実力は文句なしだ。格闘技王国オランダが"立ち技総合"も席巻！

"フランス版・金網の鬼"
**ママドゥ・マガッソウバ**
（フランス/オートテンション）

出場予定だったサミー・スチアボがケガで欠場となったが、代わりにやって来るママドゥもメチャ強い！　キック、ボクシング、サバットで活躍、さらに最近はVTにも挑戦し、2月に行われた金網ファイト『ケージ・ウォーズ』でもチャンピオンになっている。1回戦、土井とのキック合戦は壮絶なものになりそうだ。

"I am シュートボクサー"
**土井広之**
（日本/シーザージム）

日本代表として、また出場選手中唯一のSB所属選手として、絶対に負けられない立場にある土井。数々の強豪を沈めてきたローキックは"キラーロー"と呼ばれ、キックボクシングのリングでも圧倒的な強さを発揮してきた。立ち技格闘技で、いま最も安定感のある選手だけに、この大会で改めてその実力が知れ渡るだろう。

究極の立ち技他流試合

## 7·7『S-cup』最終情報！

# 日本の意地、見せたれ！ S-cup日本代表かく語りき

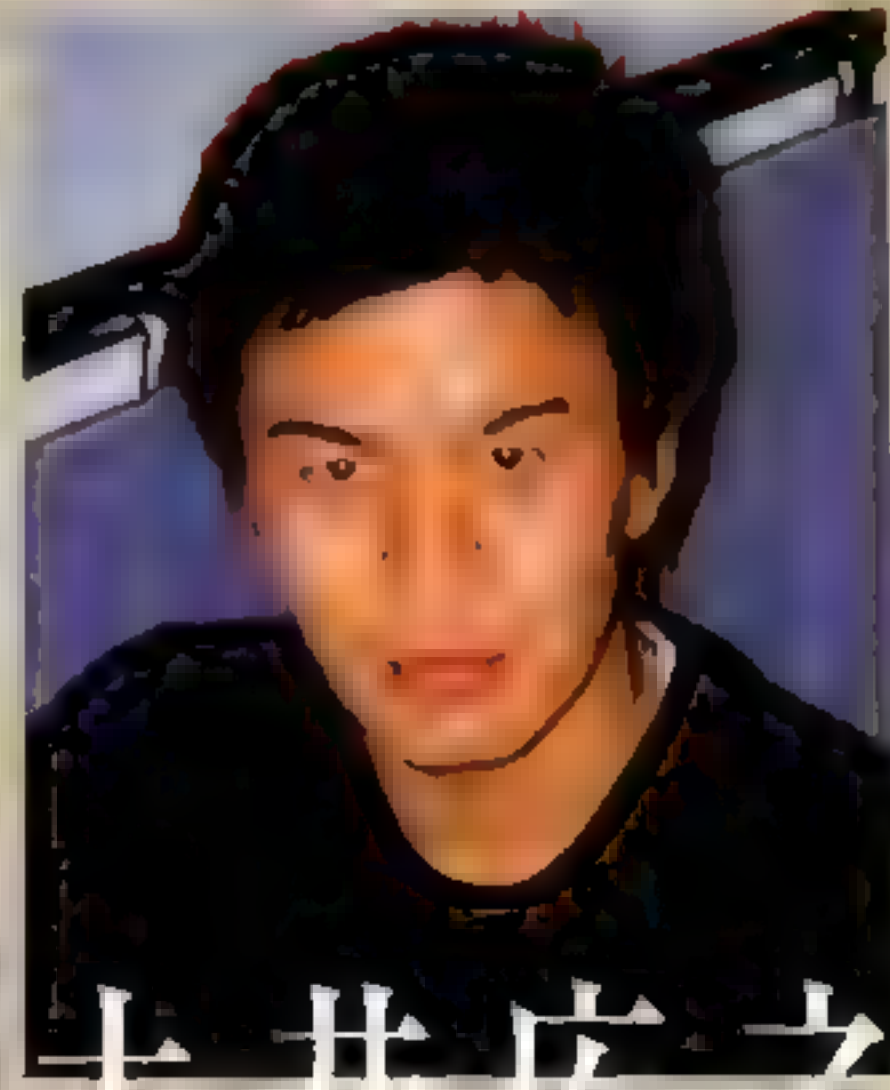
### 「立ち関節になったら、迷わず折る！」

「今回は打撃にこだわりたくないですね。シュートボクシングを見せたいんで。投げですね、見せたいのは。ぶっちゃけて言うと、リフト系の技を狙ってるんですよ。持ち上げて、叩き落とす。リフトしてマットに鎖骨を叩き付けるとか、あるいは手を着かせるとか。SBルールの怖さを見せてやろうかなと。立ち関節も、極めて勝とうとは思いません。取った瞬間に迷わず折ります。それと、吉鷹（弘）さんにも会って練習したんですよ。初代の「S-cup」覇者に会っておきたいなと思って。ゲンを担ぐってのもあったんですけど（笑）、1回取った（優勝した）経験と、1回取り逃した悔しさっていうのを聞きたかったんですよ。いろんな話を聞くことができたんで、本当に良かった。今回はシュートボクシングそのもの、集大成を見せなきゃいけない。土井さんは"生っ粋のシュートボクサー"って言いますけど、僕はそこから進化した"新星シュートボクサー"の姿を見せて勝ちます。トーナメント表を見てみたら、僕だけ世界タイトル持ってないんですよ。それでもシーザー会長がメンバーに選んでくれたのは、僕にしかできない役目があるってことですからね。その使命を果たしたいです」

### 「オレの左足でSBを守ります！」

「過去2回「S-cup」がありましたけど、今回は初めて、本当の意味でのSB、立ち技総合のトーナメントだと思うんですよ。だから"俺が優勝しないで誰が優勝するんだ？"って気持ちですね。出場メンバーの中で、生っ粋のシュートボクサーは僕だけ。僕がやることがシュートボクシングですからね。I am シュートボクサーですよ（笑）。今回の組み合わせは……。これ難しいですねぇ（笑）。どんな展開になるか分からないし、みんなどんな闘い方をしてくるのかも分からない。まあでも、1回戦に勝たなきゃ展開も何もないんで。珍しく地道に考えて（笑）。K-1ミドル級のことは一応、意識はしますよね。同じ階級だし。あと向こうは日本代表だった魔裟斗くんが準決勝で負けちゃったんで、そこは。僕もやっぱり日本代表として出るわけなんで。今、立ち技で日本勢は勝てないってことになってますけど"オレが止めてやる"って気持ちはありますよね。絶対止めるし、絶対勝ちますよ。見てほしいのはローキック。それしかないでしょ（笑）。後藤は"ローキックだけでは勝てない"って言ってましたけど、この左足一本でSBを守ってきたって自負もあるし。これで全員倒しますよ」

---

## リングスKOKマッチ、カード決定 アターエフの相手はクモ男バヘット！

トーナメントに続き、ワンマッチのカードもほぼ全てが決定。"リングス一夜限りの復活"として行われるKOKマッチでは、ヴォルク・アターエフとカーロス・バヘットの対戦が決定。リングス無敗のストライカーとブラジリアン柔術の危険な初遭遇だ。総合ルールへのリベンジを誓う緒形健一はナーコウ・スパインと対戦。未知の強豪でデータがないだけに怖い相手だが、ここまできたら自分の力を信じるしかないだろう。また修斗の雷暗暴はSBルールに挑戦、本職のキックボクサー相手にどう闘う？　SBのホープ・宍戸はA・クラウスと同じリンホージムのレオン・ビルゼンを迎え撃つ。バチバチの殴り合いは必至！　そして今回新たに、しなしさとこの出場も決定、第1試合で総合マッチを行う。7・7『S-cup』は最初から最後まで見どころだらけの大会となりそうだ。

KOKルール

緒形健一（シーザージム）VS ナーコウ・スパイン（オーストラリア）

KOKルール

ヴォルク・アターエフ（リングス・ロシア） VS カーロス・バヘット（ブラジリアン・トップチーム）

女子総合マッチ

しなしさとこ（AACC）VS X

SBルール

宍戸大樹（シーザージム）VS レオン・ビルゼン（リンホージム）

SBルール

雷暗暴（フリー）VS ネイル・スウェイルズ（オーストラリア）

私共にお任せ下さい。
本日中に
壱百萬円ご融資
させて頂きます。
貴方の生活癒します。
キャッシングのやわらぎ
お申し込みフリーダイヤル
0120-530-851
携帯電話からは、直通ダイヤルでどうぞ！
03-3975-7727
返済例
30万円 月々 7,460円×48回
50万円 月々 12,450円×48回
100万円 月々 19,910円×60回

# ¥ラクラクキャッシング¥

あなたの夢
ライラックが叶えます！
1本の電話で 100万円
が、あなたのお手元に
お電話頂ければ
きっと、あなたの
お役に立ちます！
保証人→不要です
御来店→不要です
借入状況→問題ないです
大切なのは…
信用・人柄・誠意です
10年120回まで自由返済
実質年率／10.5%～22.0%（週同）
元金均等払い
必要書類【身分証1点】
返済プラン例
50万円以上要担保
10万円 2,000円×60回
50万円 9,000円×60回
100万円 17,800円×60回
テレフォンキャッシング
ライラック
千代田区神田佐久間町3 21 都(1)21454 営業時間／年中無休AM8:00～PM6:00
お申し込みは全国フリーダイヤル
0120-323-215
携帯・PHSの方 03-3866-3644

選んで正解！
100万円
低金利の切換を考えてる方
急な出費でお困りの方
忙しくて時間がない方
家族、会社に内緒の方
審査が不安な方
他社借入が多い方
ハッピーフェアー開催中！
ライフプラン2002をご用意しました！
プランA 30万円 7,500円×48回
プランB 50万円 8,900円×60回
プランC 100万円 17,500円×60回
その他のプランもございますので
お気軽にご相談下さい。
10年120回まで自由返済
無料相談.お申込みダイヤル
0120-832-850
携帯電話.PHS 03-3364-6918
新宿区北新宿1-17
東京都知事(1)24333

今ならチャンスがいっぱいです！
チャンス!!
100万円ご融資中！
借入件数が多い方もご利用中です！
日本全国100店舗目標!!
返済例
10万円 3,500円×30回
30万円 10,500円×30回
50万円 8,700円×60回
100万円 10,500円×100回
0120-287-140
FreeDial 携帯電話.PHS 03-3319-8796 年中無休
都(1)21321 中野区中野5-36 実質年率：5.0%～22.0%（週同）必要書類：身分証1点 営業時間：朝8：00～夜6：00

100万円
即決！即振！即GET!
1つでもあてはまる人
忙しくて出かける暇がない
めんどうな事はきらい！
身内には内緒にしたい
安くお金を借りたい
返済も簡単にしたい
すぐにお金が必要
審査に自信がない
注目！
電話1本で全国どこからでもOKです！
365日、年中無休で受付中！
予備審査だけ！
お客様の指定口座にお振込。
年率4.0%と低金利！
コンビニ、銀行、郵便局から24時間返済OK！
返済例
50万円以上要担保
30万円 5,200円×60回
50万円 8,666円×60回
100万円 17,333円×60回
10年120回まで自由返済
必要書類／身分証1点
実質年率／4.0%～22.5%（週同）
営業時間／AM8：00～PM6：00
チャンプリース 0120-725-081
携帯電話.PHS 03-3903-1205
東京都知事(1)24204 北区 赤羽2-53

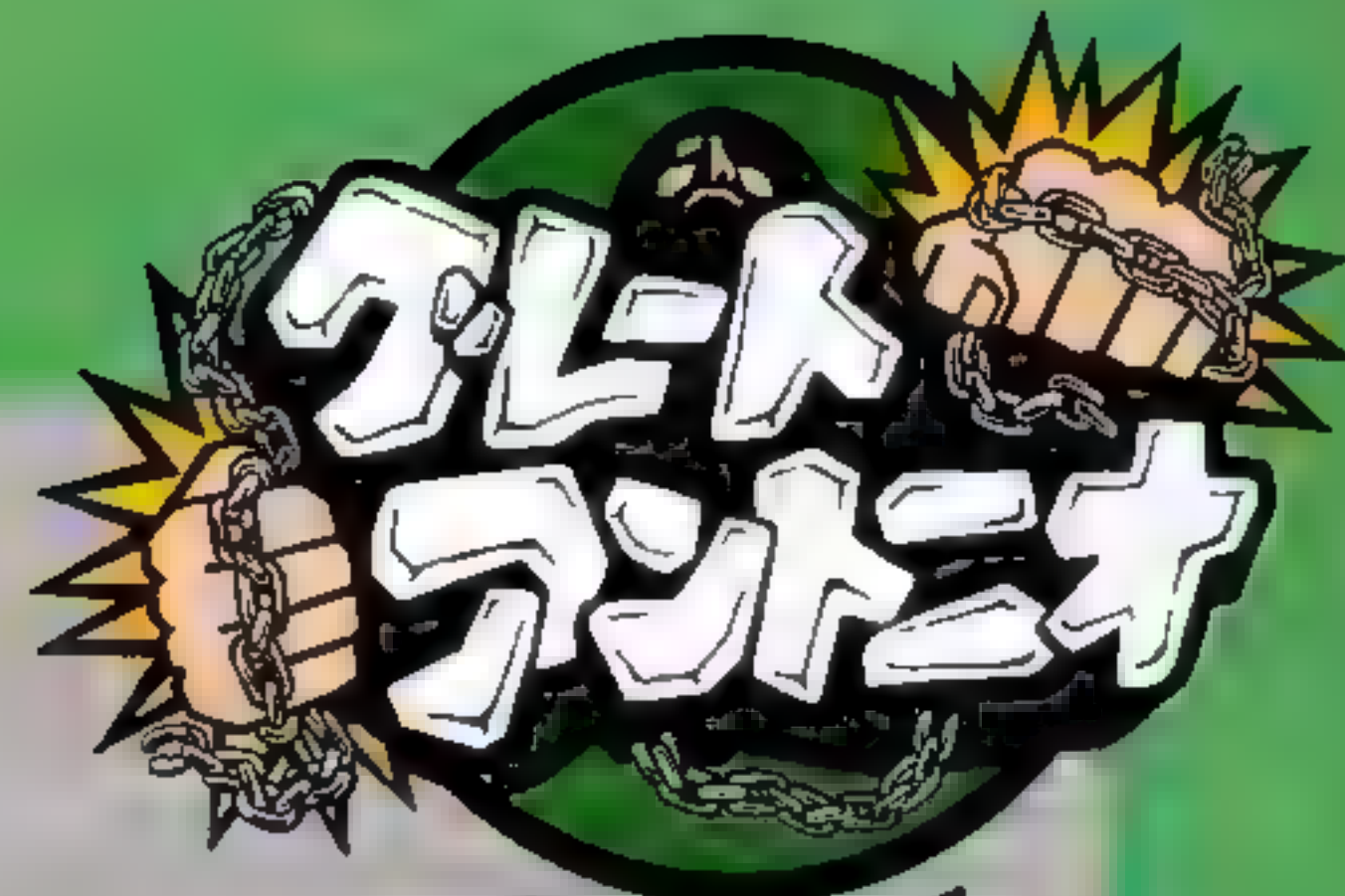
# ファイナンスインフォメーション

Mineral & Herb

# Fasting Diet

グレート・アントニオ
誌上通販

## 大ブーム！

グイエット＆体質改善＆肉体改造の最終兵器。
いつ何時、誰の挑戦でも受ける!!

| ファスティング・ダイエット（360ml×3本入り） |
|---|
| **Fasting Diet　18,000円（税別）** |
| 販売元／グレート・アントニオ　開発研究／杏林予防医学研究所 |

●ファスティング・ダイエット　¥18,000（税別）
ファスティングに関する詳しい内容は、グレート・アントニオHP（http://www.great-antonio.jp）をご覧ください。

●浅草キッドTシャツ2002
（カラー白／サイズXS・S・M・L）
¥3,500（税別）
©OFFICE KITANO

●矢野卓見フィギュア
¥4,800（税別）
©TAKUMI YANO
※全長約19cm、
両腕・腰部分可動

●TPG Tシャツ
（カラー白・ブルー／サイズXS・S・M・L・XL）
¥3,500（税別）

http://www.great-antonio.jp

グレート・アントニオmeets新日本プロレス!
つぎはマサ斎藤ヘアが流行る!
発表!
これが2006年ワールドカップの代表候補メンバー!!
What's CHAMPIONS CLUB?
チャンピオンズ・クラブとは、新日本プロレス創立30周年を迎えるにあたり、新日本プロレスまたプロレス界の繁栄に絶大なる貢献と実績を残した選手のみにメンバー資格が与えられるクラブである。©NJPW
CHAMPIONS CLUB
●木戸修Tシャツ
(カラー白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)
FRONT
WRESTLING ALL STARS
SPECIAL FEATURE: Mr. Saito
BACK
●マサ斎藤 Tシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)
FRONT
ARAWASHI BIG SAKA WRESTLING
KOS
BACK
●坂口征二 ビッグサカTシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)
FRONT
YAMAHA brothers
BACK
●ヤマハブラザースTシャツ
(カラー白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)
ご注文方法
ご注文は電話受付のみです
『グレート・アントニオ』通販専用NAVIダイヤル
☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
[受付曜日・時間] 月曜日~土曜日 AM10:00~PM6:00
商品お渡し方法
代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)
ご注意
◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。
ACCESS MAP
グレート・アントニオ
○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分
OPEN 11:00~20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550
http://www.great-antonio.jp

# たっつぁん万座ビーチ

明けない梅雨はないんだ！もう少しの辛抱です!!

【ドリームステージエンターテインメント提供】

新作の「プライド」グッズ続々登場！

選手ウォッチ 各1名様

ボブチャンチンクッション 2名様

※ボブチャンチンクッションは価格4,500円。選手ウォッチは各4,000円。左から猪木ウォッチ、藤田ウォッチ、ボブチャンチンウォッチ、シウバウォッチver2、シウバウォッチver1。PRIDEグッズの購入は、PRIDE GOODSナビダイヤル☎03-5775-5852、またはhttp://www.so-net.ne.jp/prideまで

【シュートボクシング協会提供】

7・7「S-cup」いよいよ開催間近！
世界の強豪が横浜に集う！

シュートボクシングTシャツ

各2名様

【アイビーブックス提供】

梶原一騎ワールドが、いまTシャツで蘇る！

巨人の星「GO GO HYUMA」Tシャツ

1名様

巨人の星Tシャツ

1名様

あしたのジョーTシャツ

1名様

※これらの商品に関するお問い合わせは、アイビーブックス☎052-459-7122まで

### 応募方法

**ハガキには必ず応募券を貼ろう！**

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想
を書いて、ビシバシ応募してください！

あて先は
〒101-0054　東京都千代田区
神田錦町3-14-12　神田NSビル8F
SRS・DX編集部「たっつぁん万座ビーチ⑬」係まで

締め切り…2002年7月11日（木）当日消印有効。

【本誌オフィシャルサイト提供】

たつ万初のオフィシャルサイトとの連動企画！

レイ・セフォー直筆サイン入りフォト

3名様

※このサイン入りフォトは、レイ・セフォーが編集部の近くのSRS鍼灸接骨院を訪れた際にもらったもの。サインと共にコメントをビデオで収録。その模様はhttp://www.so-net.ne.jp/srs-dxで配信中！

SRS-DX 7・11 No.73
6.23 PRIDE.21 さいたま大会速報
6.9 DEEP ディファ有明大会詳報

平成12年4月25日第3種郵便物認可 平成14年7月11日発行 第4巻・14号・通算73号
編集人・谷川貞治 発行人・柳沢忠之 発行所・(株)フジテレビ出版/
(株)ローデス 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F 電話/03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1丁目15番1号
定価680円 本体648円
雑誌21582-7/11 T1121582070683 Printed in Japan